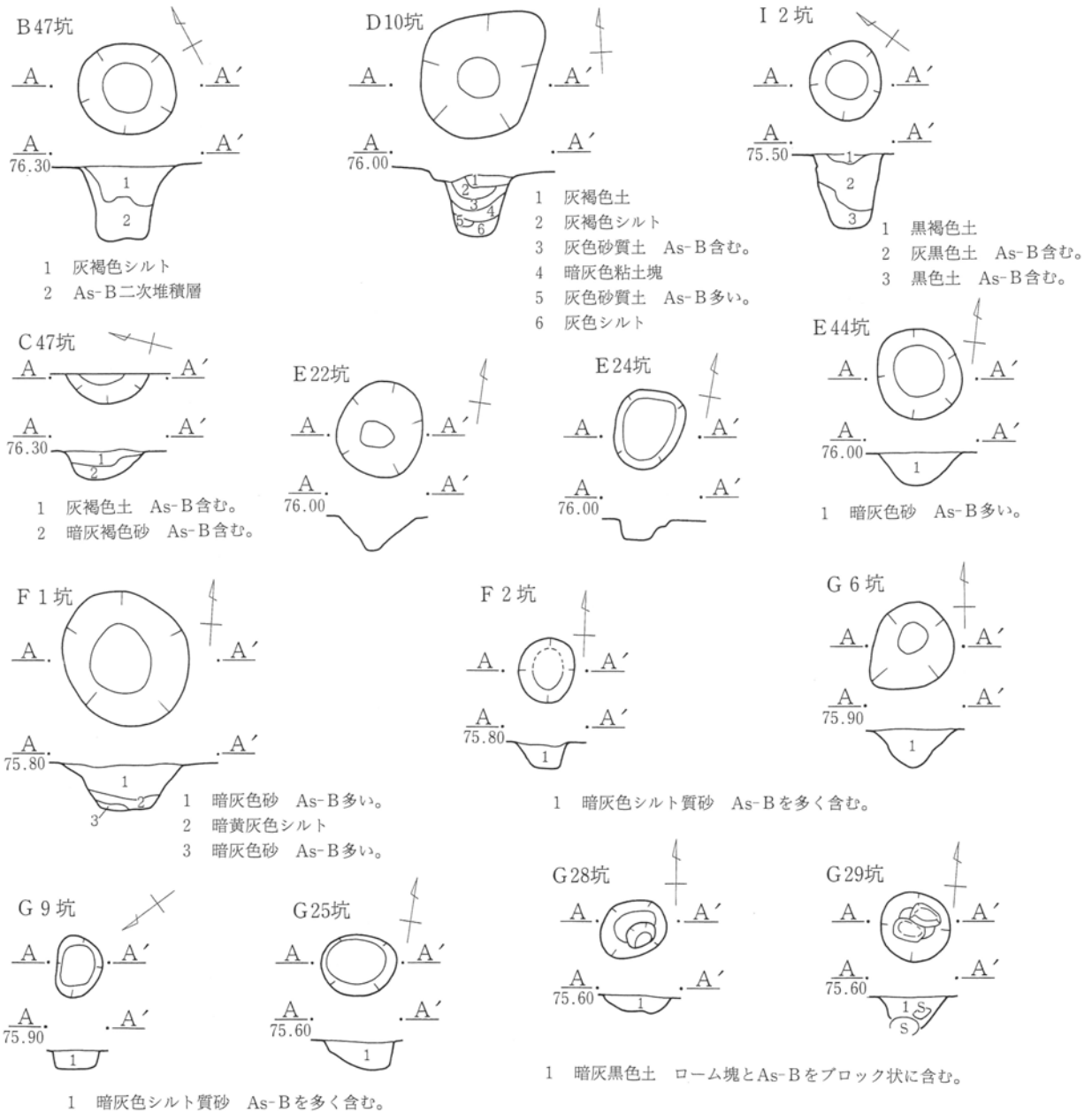


(5) 土坑 (第272~274図 PL.119~123)

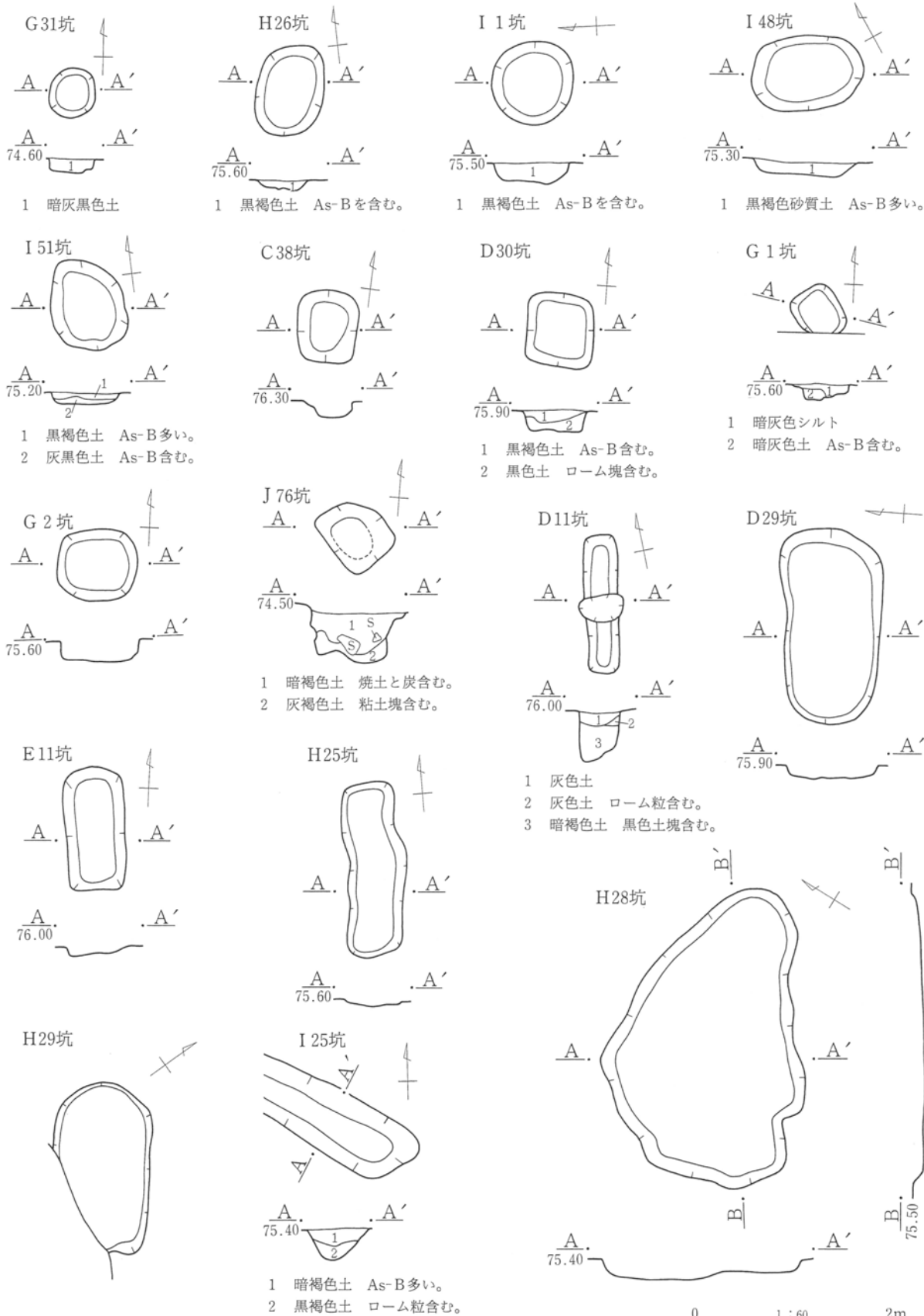
ここに掲げた土坑は、埋土にAs-Bを多く含むもので、As-B降下(1108年)より新しいことが明らかである。特に、**B区47号土坑**はAs-B降下から間もないと思われる二次堆積層が認められた。他は、As-B堆積後に水田や畠の耕土として形成されたと思われるAs-B混土中に遺構が掘りこまれたものである。従って下限時期については不明といわざるを

得ない。

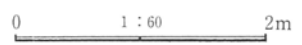
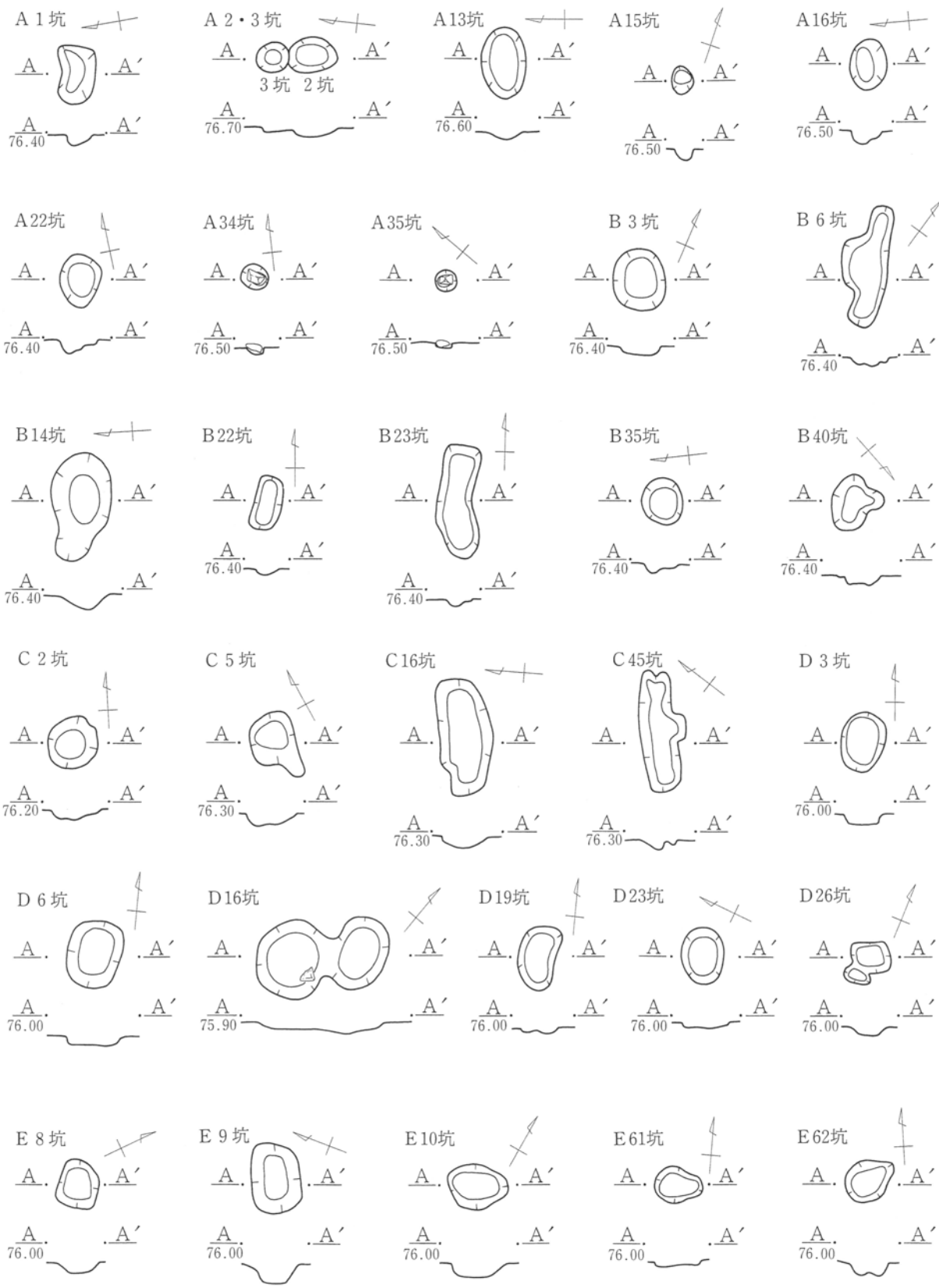
平面形から、円~楕円形(第272図)、方~長方形(第273図)、小規模で浅いピット状(第274図)と分けた。このうち、**B区47・D区10・I区2号土坑**は筒状で、確認面からの深さ50cmを越えるため井戸の可能性もあろう。**A区34・35号土坑**は礫を据えた小ピットで、柱の礎石と考えられる。ただしこれから構成される建物跡は検出されなかった。各土坑の詳細については、第8表に記したので参照されたい。



第272図 中・近世の土坑(1)



第273図 中・近世の土坑 (2)



第274図 中・近世の土坑 (3)

第8表 中・近世の土坑一覧

遺構番号	グリッド	平面形	規模 (m) 長軸×短軸 深さ	備考
B区47号土坑	025 - 895	円形	0.90 × 0.82 0.66	井戸か
D区10号土坑	095 - 650	円形	1.10 × 1.00 0.50	井戸か
I区2号土坑	190 - 180	円形	0.69 × 0.65 0.66	井戸か
C区47号土坑	025 - 785	(円形)	0.74 × - 0.28	
E区22号土坑	095 - 580	楕円形	0.88 × 0.76 0.30	
E区24号土坑	095 - 575・580	楕円形	0.70 × 0.62 0.18	
E区44号土坑	120 - 560	円形	0.82 × 0.75 0.30	
F区1号土坑	120・125 - 460	円形	1.18 × 1.10 0.42	
F区2号土坑	430 - 120	楕円形	0.58 × 0.50 0.24	
G区6号土坑	160 - 385	円形	0.75 × 0.75 0.35	
G区9号土坑	155 - 395	楕円形	0.55 × 0.42 0.18	
G区25号土坑	160 - 365	楕円形	0.66 × 0.56 0.24	
G区28号土坑	125 - 350	楕円形	0.62 × 0.50 0.15	柱穴か
G区29号土坑	165 - 365	円形	0.63 × 0.63 0.30	柱穴か
G区31号土坑	155・160 - 315	円形	0.52 × 0.48 0.14	
H区26号土坑	190 - 220	楕円形	0.91 × 0.78 0.10	
I区1号土坑	190・195 - 190	円形	0.86 × 0.84 0.22	
I区48号土坑	155 - 165・170	楕円形	1.16 × 0.78 0.18	
I区51号土坑	160 - 120	楕円形	1.00 × 0.78 0.12	
C区38号土坑	050 - 765	方形	0.72 × 0.63 0.17	
D区30号土坑	100 - 675・680	方形	0.75 × 0.70 0.23	
G区1号土坑	120 - 380	方形	0.55 × 0.47 0.17	
G区2号土坑	125 - 375	方形	0.84 × 0.74 0.23	
J区76号土坑	200 - 010	不整形	0.74 × 0.63 0.54	
D区11号土坑	085 - 630	長方形	1.42 × 0.36 0.52	
D区29号土坑	070 - 675	長方形	2.00 × 0.95 0.16	
E区11号土坑	090 - 595	長方形	1.25 × 0.60 0.12	
H区25号土坑	150 - 240・245	長方形	1.80 × 0.60 0.06	
H区29号土坑	190 - 210	長方形	1.75 × 1.00 0.12	
I区25号土坑	195 - 195	(長方形)	- × 0.65 0.32	
H区28号土坑	195 - 210	不定形	3.05 × 2.04 0.22	
A区1号土坑	000 - 950	長方形	0.59 × 0.35 0.10	
A区2号土坑	025 - 990	楕円形	0.50 × 0.36 0.09	
A区3号土坑	025 - 990	円形	0.32 × 0.32 0.05	
A区13号土坑	040 - 960	楕円形	0.76 × 0.45 0.09	
A区15号土坑	040 - 955	楕円形	0.30 × 0.23 0.15	
A区16号土坑	040 - 955	楕円形	0.52 × 0.38 0.14	
A区22号土坑	010 - 955	楕円形	0.48 × 0.40 0.14	
A区34号土坑	955 - 950	円形	0.28 × 0.24 0.07	礎石あり・柱穴か
A区35号土坑	995 - 955	円形	0.22 × 0.22 0.04	礎石あり・柱穴か
B区3号土坑	060 - 875	円形	0.60 × 0.54 0.10	
B区6号土坑	050 - 855	不定形	1.24 × 0.46 0.08	
B区14号土坑	025 - 985	楕円形	1.10 × 0.60 0.15	
B区22号土坑	025 - 840	長方形	0.54 × 0.28 0.06	
B区23号土坑	025 - 840	長方形	1.16 × 0.34 0.08	
B区35号土坑	050 - 860	円形	0.48 × 0.42 0.10	
B区40号土坑	040 - 875	不定形	0.57 × 0.52 0.08	
C区2号土坑	080 - 735	円形	0.52 × 0.52 0.10	
C区5号土坑	080 - 760	不定形	0.70 × 0.46 0.13	
C区16号土坑	820 - 030	長方形	1.20 × 0.52 0.12	
C区45号土坑	045 - 780	長方形	1.20 × 0.46 0.10	
D区3号土坑	095 - 640	楕円形	0.60 × 0.46 0.10	
D区6号土坑	075 - 635	楕円形	0.70 × 0.54 0.10	
D区16号土坑	065 - 655	不定形	1.32 × 0.82 0.13	
D区19号土坑	065 - 670	楕円形	0.64 × 0.38 0.06	
D区23号土坑	075 - 700	楕円形	0.58 × 0.43 0.07	
D区26号土坑	095 - 640	不定形	0.43 × 0.40 0.08	
E区8号土坑	110 - 600	方形	0.48 × 0.42 0.10	
E区9号土坑	105・110 - 600	長方形	0.70 × 0.50 0.20	
E区10号土坑	095 - 600	楕円形	0.60 × 0.46 0.14	
E区61号土坑	100 - 600	楕円形	0.48 × 0.38 0.05	
E区62号土坑	105 - 595	楕円形	0.54 × 0.42 0.14	

(6) 近世・近代墓墳 (P.L.117・118)

J区に集中して18基、G区で1基が検出された。旧藤川左岸にあたる。平面は正方形ないし円形で、前者は箱式木棺、後者は桶形木棺を用いており、G32号土坑・J71・J96号土坑では棺の一部が残る。J区では東西方向に6基が連続して掘削されており、一連の家族墓と考えられる。藤川河川改修工事時に改葬され人骨はのこっていない。副葬品は「六道銭」と煙管である。上限は18世紀半ばまで遡るが、下限は昭和10年代まで下る。

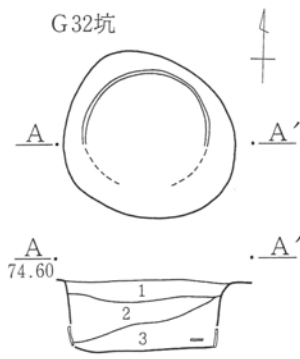
出土銭貨について

10基の墓墳から合計87枚の銭貨が出土している。その内訳は第10表に記した。このうち、60・62・101号土坑は大正5～昭和13年に発行された「桐一銭銅貨」のみ、他は「寛永通宝」「文久永宝」で構成される。77号土坑は寛永鉄銭9枚のみで、102・150号土坑は古寛永を含まない。いわゆる「六道銭」として副葬されたものだが、1墓墳で6枚一組を示すもの

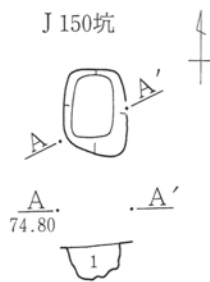
はない。77号土坑では6枚組で錆化癒着した状態の鉄銭(第277図-4)があるが、他の鉄銭3枚が別であるとの証拠はない。80号土坑では、第277図13～17の6枚が、85号土坑では第278図18～26の9枚、同図27～31の5枚、同図33～38の6枚、102号土坑の第279図44～49の6枚が癒着した状態で出土している。このうち、102号土坑は5枚の四文銭に1枚の一文銭の組み合わせをもつ例である。また、J区32号住内の173・174号土坑のうち、出土銭24枚がいずれに伴うのか不明である。近代と思われる60・62・101号土坑以外の土坑はいずれも寛永鉄銭か四文銭、文久銭を含むので、18世紀半ばを上限とする時期に位置づけられようが、継続的に埋葬されたと思われる85・101・102号土坑のうち、101号土坑が大正5年を上限とする桐一銭銅貨を出土したことから、江戸後期の銭貨のみを出土した85・102号土坑が必ずしも江戸時代後期とはいえない。

第9表 近世・近代の墓墳一覧

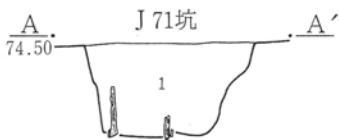
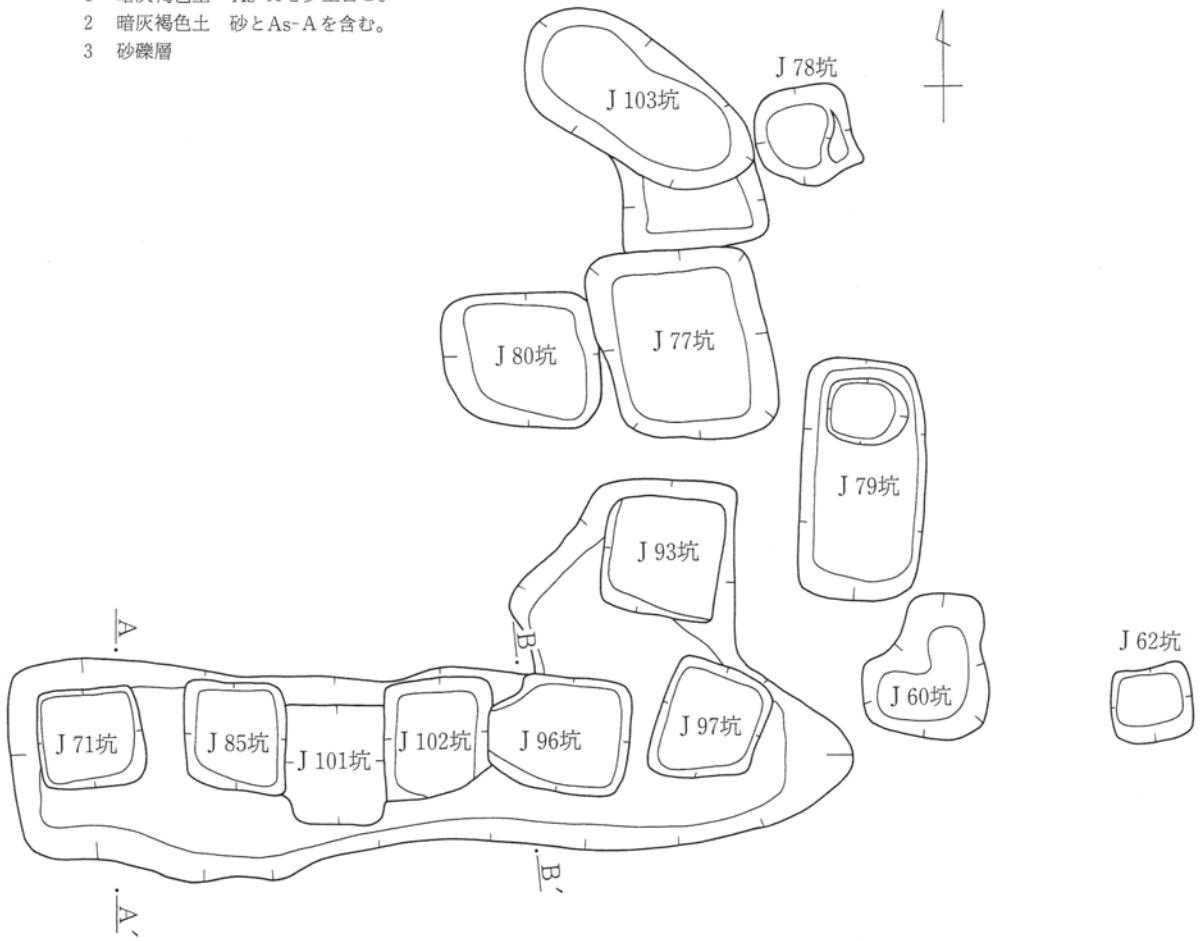
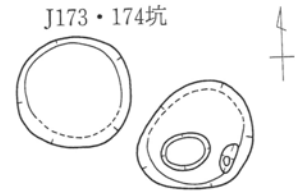
遺構番号	グリッド	平面形	規模 (m) 長軸×短軸 深さ	出土遺物
G区32号土坑	150-310	円形	1.18×1.10 0.47	方形木柩
J区173号土坑	215-010	円形	0.75×0.73 0.24	銭貨
J区174号土坑	215-010	円形	0.77×0.70 0.51	銭貨
J区60号土坑	210-010	L字形	0.98×0.85 0.17	土器片・銭貨
J区62号土坑	210-010	方形	0.56×0.48 0.21	銭貨・木片
J区71号土坑	210-015	方形	0.70×0.62 0.60	方形木柩
J区77号土坑	210-010	方形	1.25×1.10 0.78	木柩・銭貨
J区78号土坑	210・215-010	方形	0.66×0.64 0.52	煙管
J区79号土坑	210-010	円形	0.52×0.45 0.83	棺底板
J区79号土坑	210-010	長方形	1.58×0.84 0.63	
J区80号土坑	210-010・015	方形	1.05×0.90 0.59	銭貨
J区85号土坑	210-015	方形	0.70×0.68 0.94	銭貨・方形木柩
J区93号土坑	210-010	方形	0.80×0.78 0.89	
J区96号土坑	210-010	方形	0.82×0.78 0.92	方形木柩
J区97号土坑	210-010	方形	0.75×0.70 0.97	
J区101号土坑	210-015	方形	0.77×0.65 0.91	木柩・眼鏡・銭貨
J区102号土坑	210-015	方形	0.76×0.70 1.16	木柩・煙管・銭貨
J区103号土坑	210・215-010	楕円形	1.65×0.80 0.76	桶棺底板
J区150号土坑	210-015	長方形	0.54×0.42 0.23	銭貨



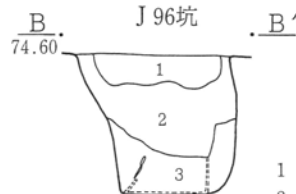
- 1 暗灰褐色土 As-Aを少量含む。
- 2 暗灰褐色土 砂とAs-Aを含む。
- 3 砂礫層



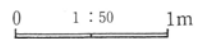
- 1 灰黒色シルト質砂 焼土を含む。



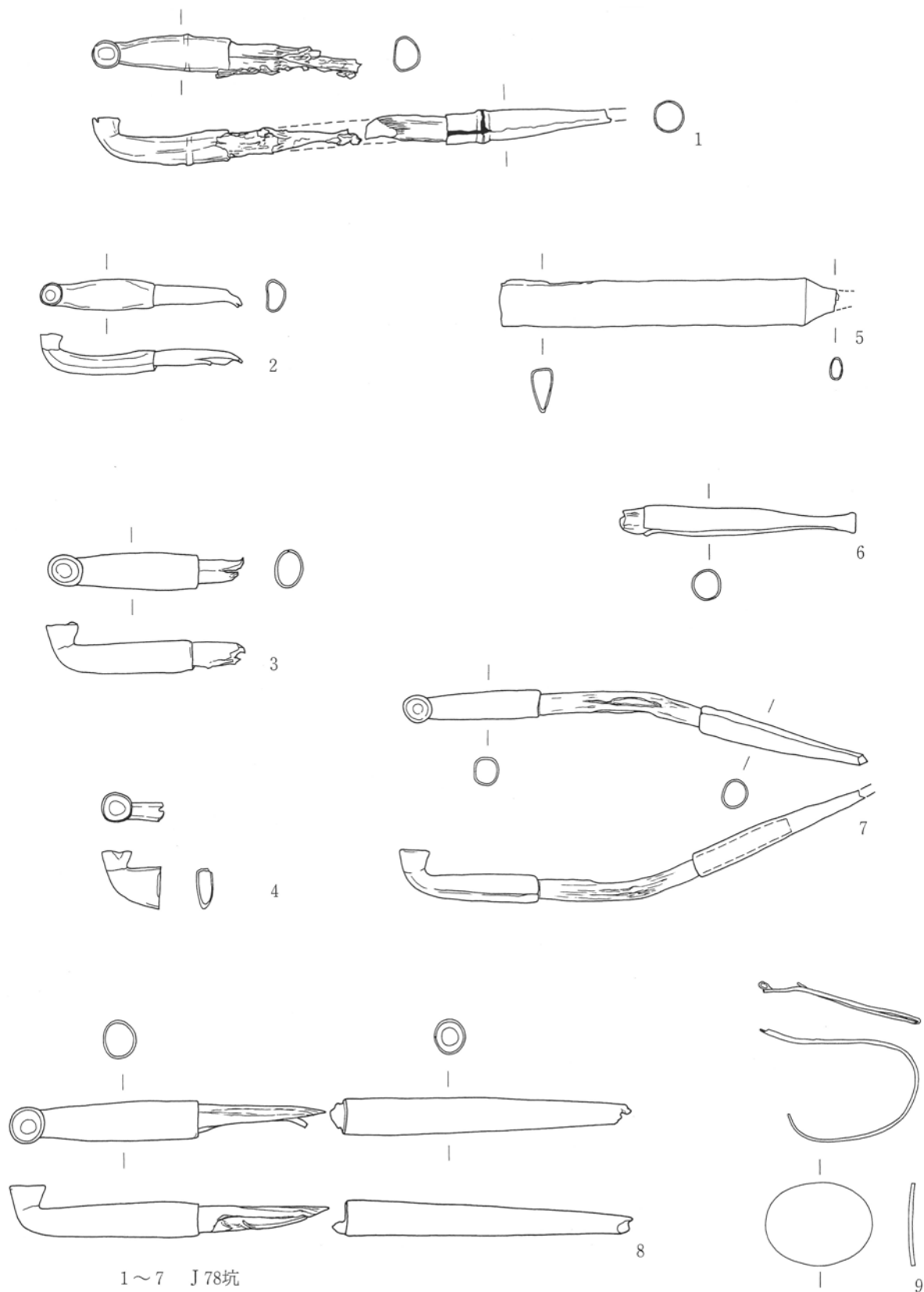
- 1 灰褐色シルト質砂 人為的埋土。



- 1 灰色シルト質土
- 2 灰褐色土 人為的埋土。
- 3 灰褐色シルト

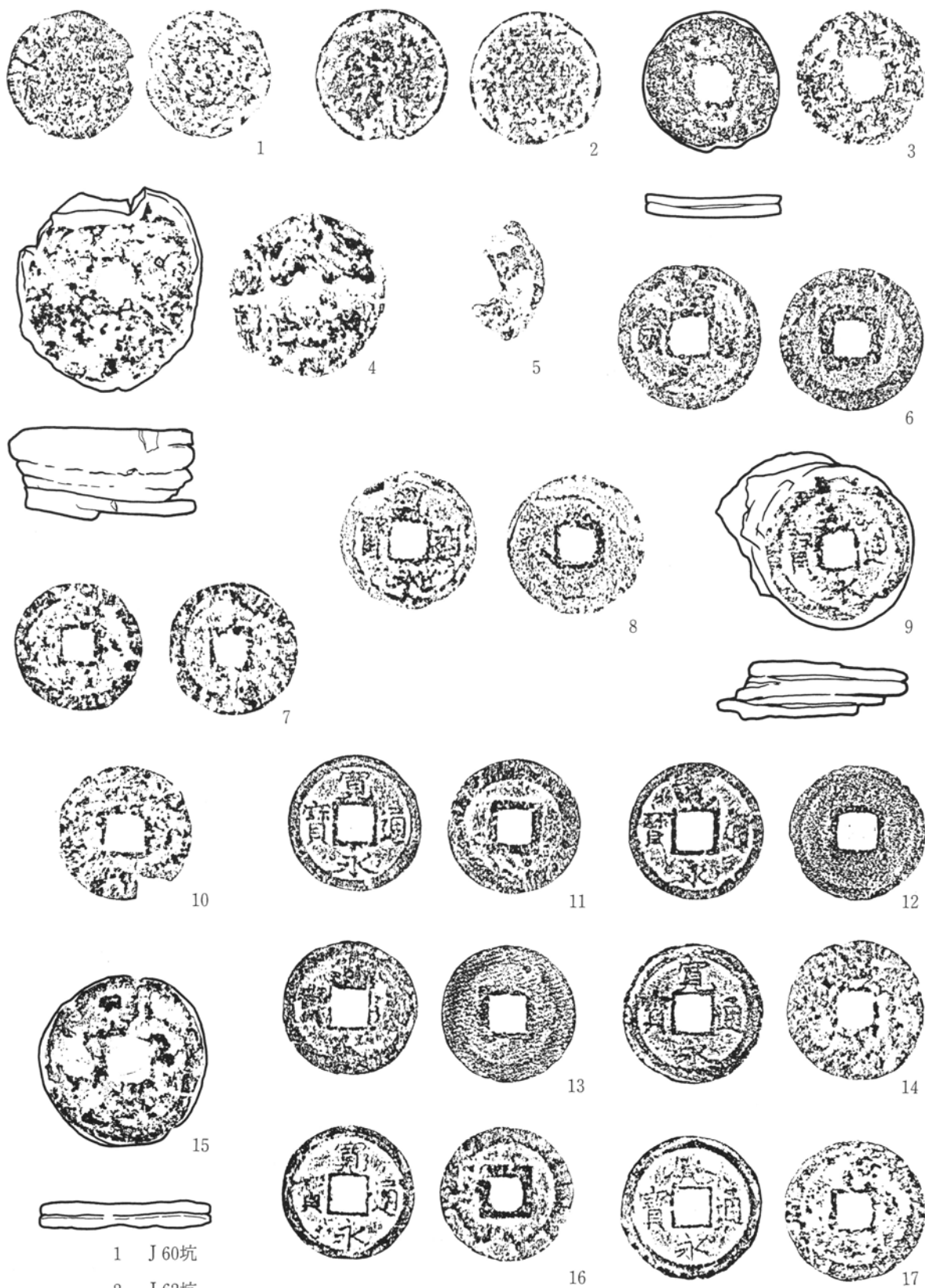


第275図 近世・近代の墓墳



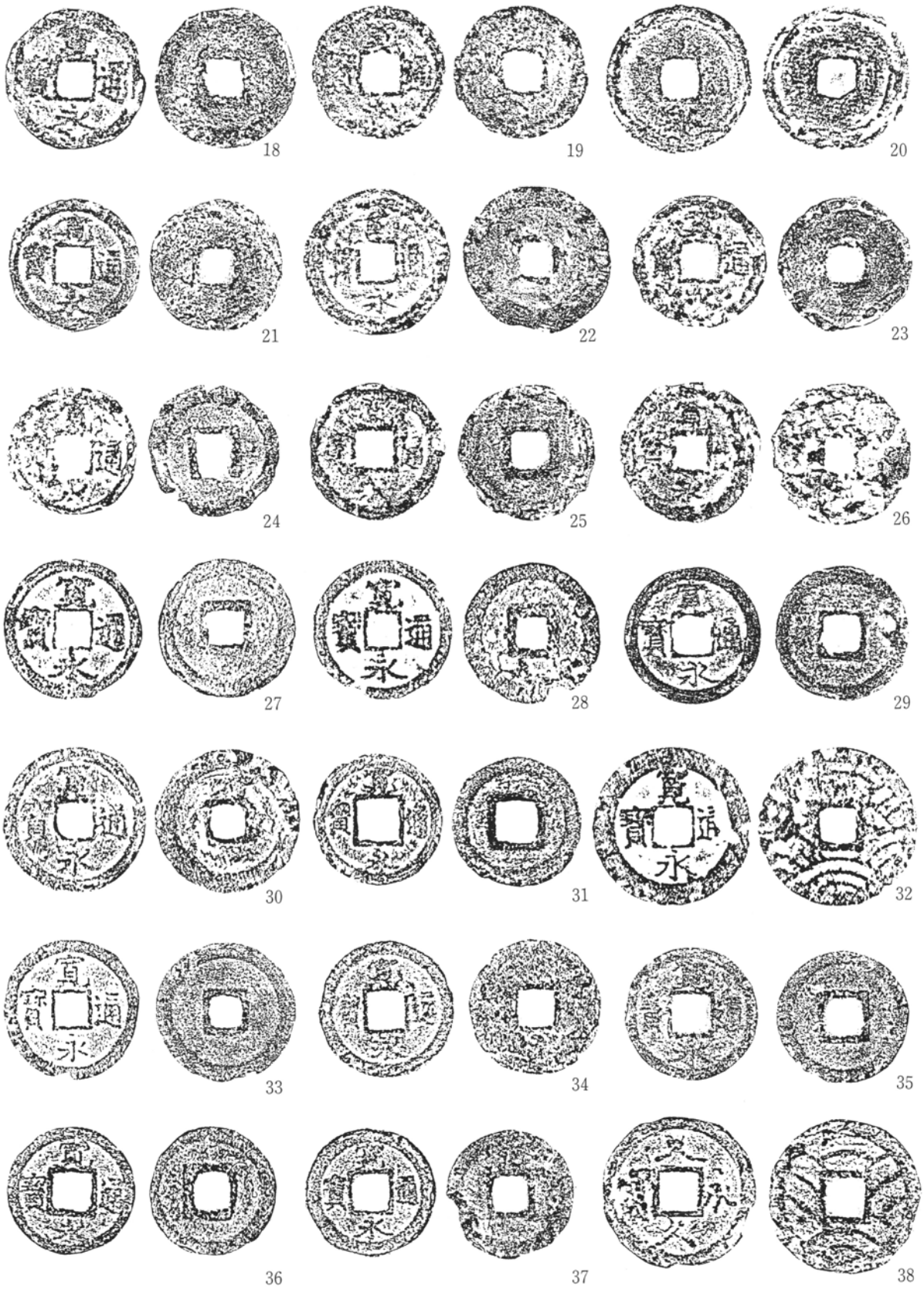
- 1~7 J 78坑
- 8 J 102坑
- 9 J 101坑

第276图 近世・近代墓壙出土煙管・眼鏡



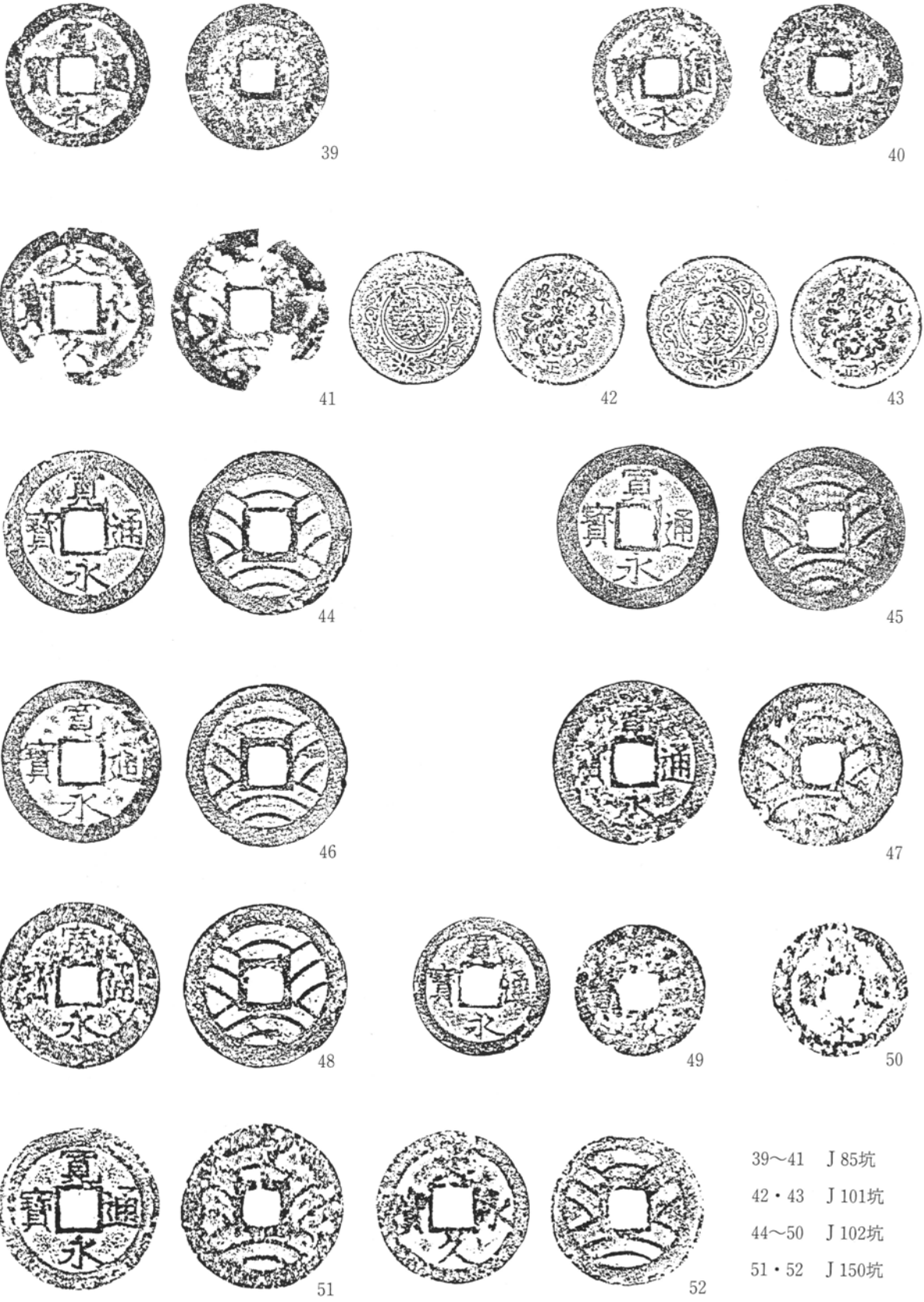
- 1 J 60坑
- 2 J 62坑
- 3~5 J 77坑
- 6~17 J 80坑

第277图 近世・近代墓壙出土錢貨（1）

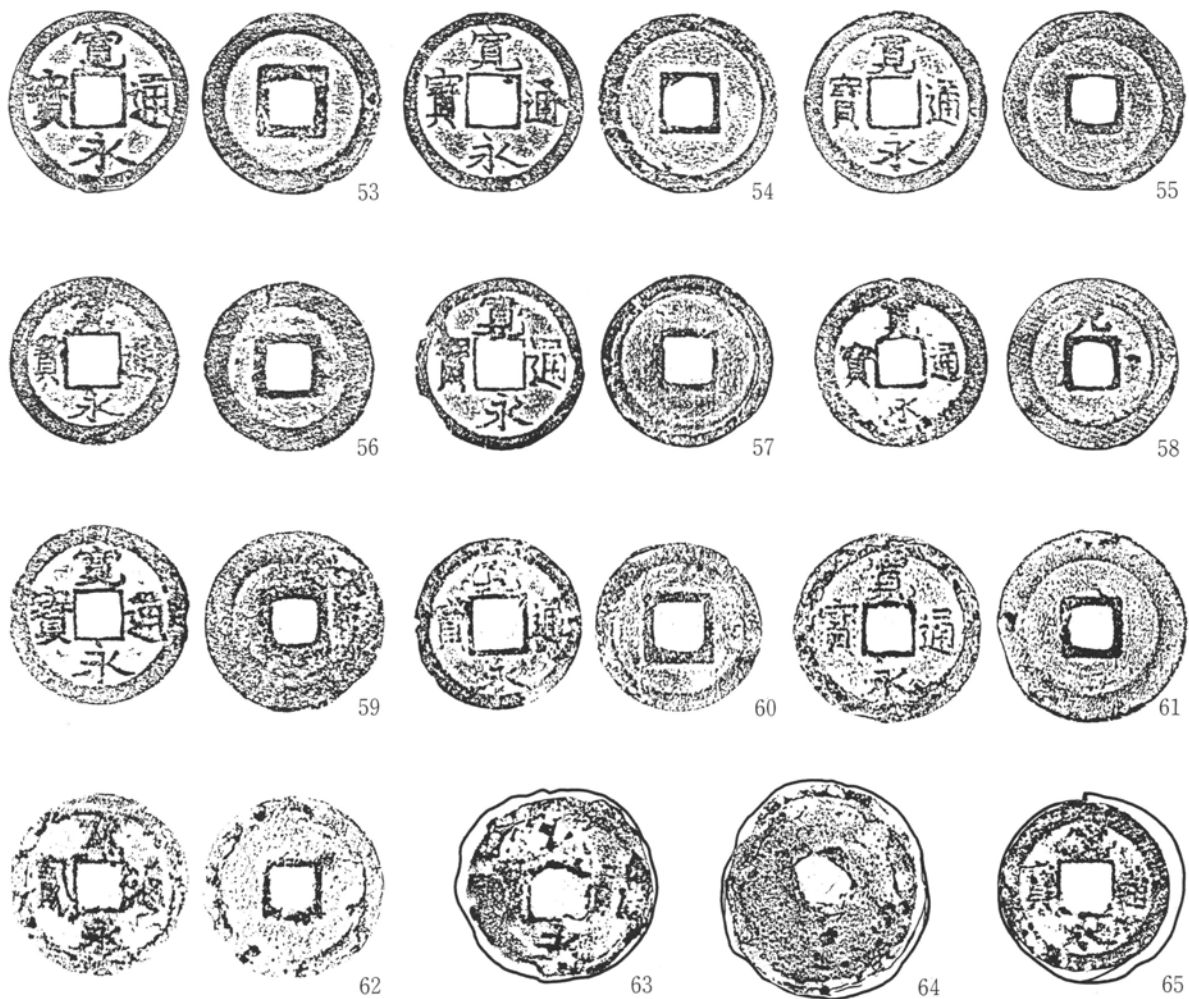


18~38 J 85坑

第278圖 近世・近代墓壙出土錢貨（2）



第279図 近世・近代墓壙出土銭貨（3）



53~65 J区173・174土坑



第280図 近世・近代墓壙出土銭貨(4)

第10表 墓壙出土銭貨の組み合わせ

墓壙番号	古寛永	新寛永	寛永鉄	寛永四文	文久	桐一銭	その他	計
60土坑						1		1
62土坑						(1)		1
77土坑			9					9
80土坑	1	10	6					17
85土坑	5	16		1	2			24
101土坑						2		2
102土坑		2		5				7
150土坑				1	1			2
173・174土坑	2	11	11					24

5 時期不明の遺構

ここで扱う遺構は、出土遺物がなく、遺構重複関係が不明瞭、更に埋土に時期を推測する手がかりとなるテフラが見られない、との理由で時期不明としたものである。

(1) 掘立柱建物跡・柱列

I区4号掘立柱建物跡 (第282図 PL.128)

位置 190-175・180グリッド

規模 不明 主軸方位 N-38°-E

柱間寸法

P1-P2 1.80m P2-P3 1.55m

P3-P4 1.22m

柱穴 P1のみが深く、他はほぼ同規模。ローム粒を含む黒色土で埋まるが、テフラが不明瞭なため時期の限定が困難。

I区1号柱列 (第282図)

位置 190-170グリッド

規模 2.65m 主軸方位 N-54°-E

柱間寸法

P1-P2 1.30m P2-P3 1.35m

柱穴 P1のみが浅く、他はほぼ同規模。P2とP3は柱痕跡と思われる底部のくぼみがわずかに残る。

J区3号掘立柱建物跡 (第282図 PL.128)

位置 195・200-020グリッド

規模 2×2間 4.52×3.25m

主軸方位 N-1°-W

柱間寸法

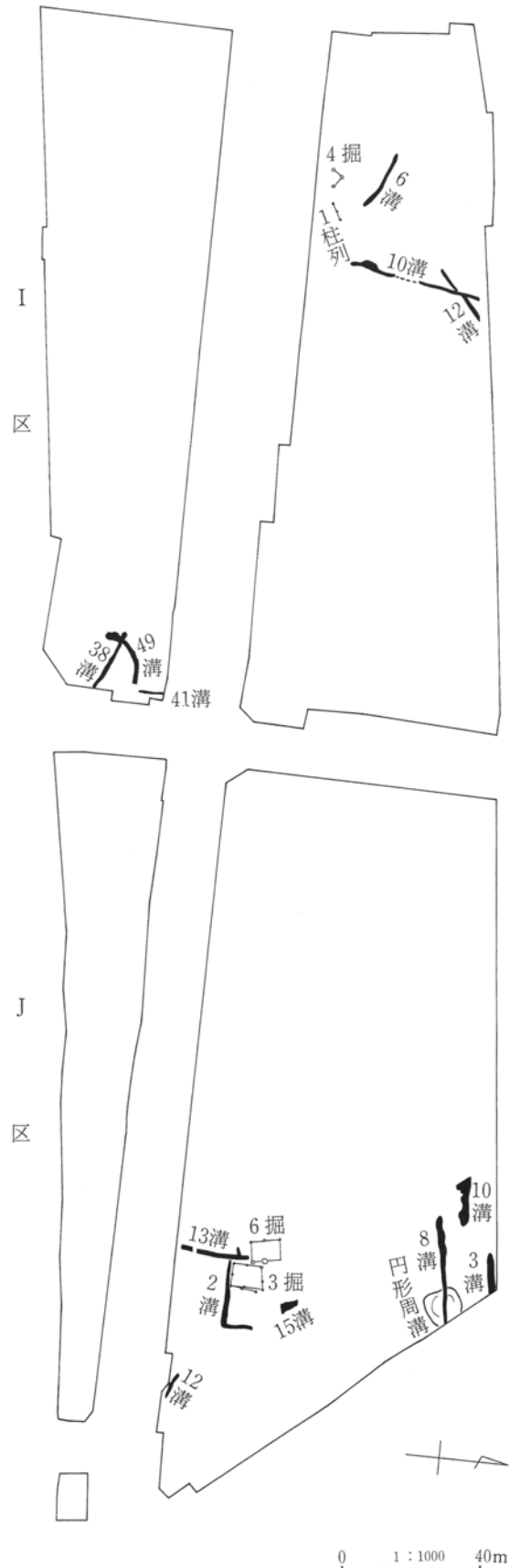
P1-P2 2.06m P2-P3 1.15m

P3-P4 2.46m P4-P5 2.06m

P5-P6 1.40m P6-P7 1.85m

P7-P8 2.00m P1-P8 2.25m

柱穴 掘方は円形で規模はほぼ均一。柱痕跡は不明瞭。東辺の柱列からやや東に傾いてP9・P10が

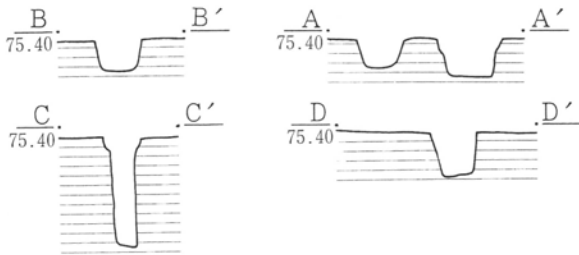
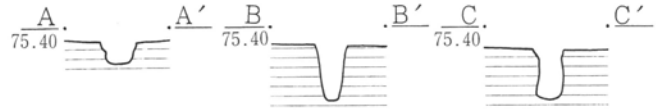
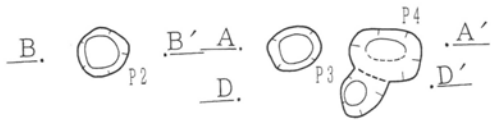
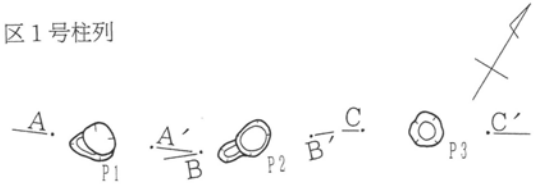


第281図 時期不明の遺構分布図

I 区 4 号掘立柱建物



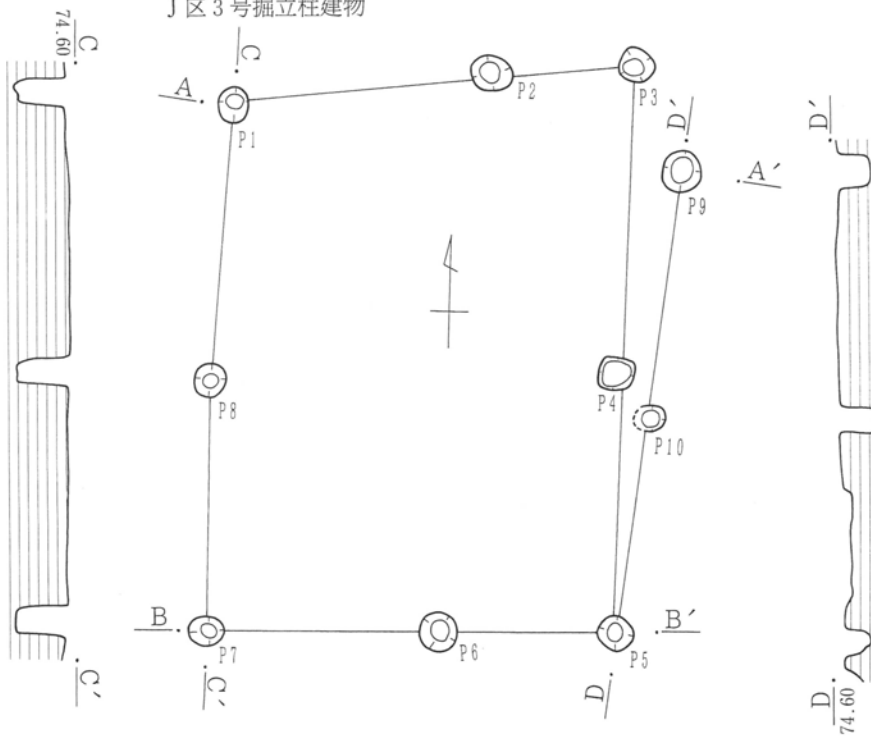
I 区 1 号柱列



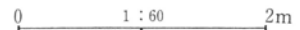
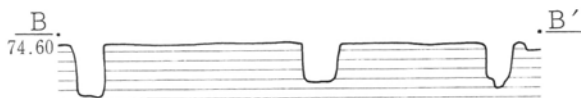
1 柱列	径 (cm)	深 (cm)		径 (cm)	深 (cm)
P 1	37×30	20	P 3	28×26	40
P 2	29×24	45			

4 掘立	径 (cm)	深 (cm)		径 (cm)	深 (cm)
P 1	30×26	86	P 3	42×34	24
P 2	42×39	25	P 4	58×42	30

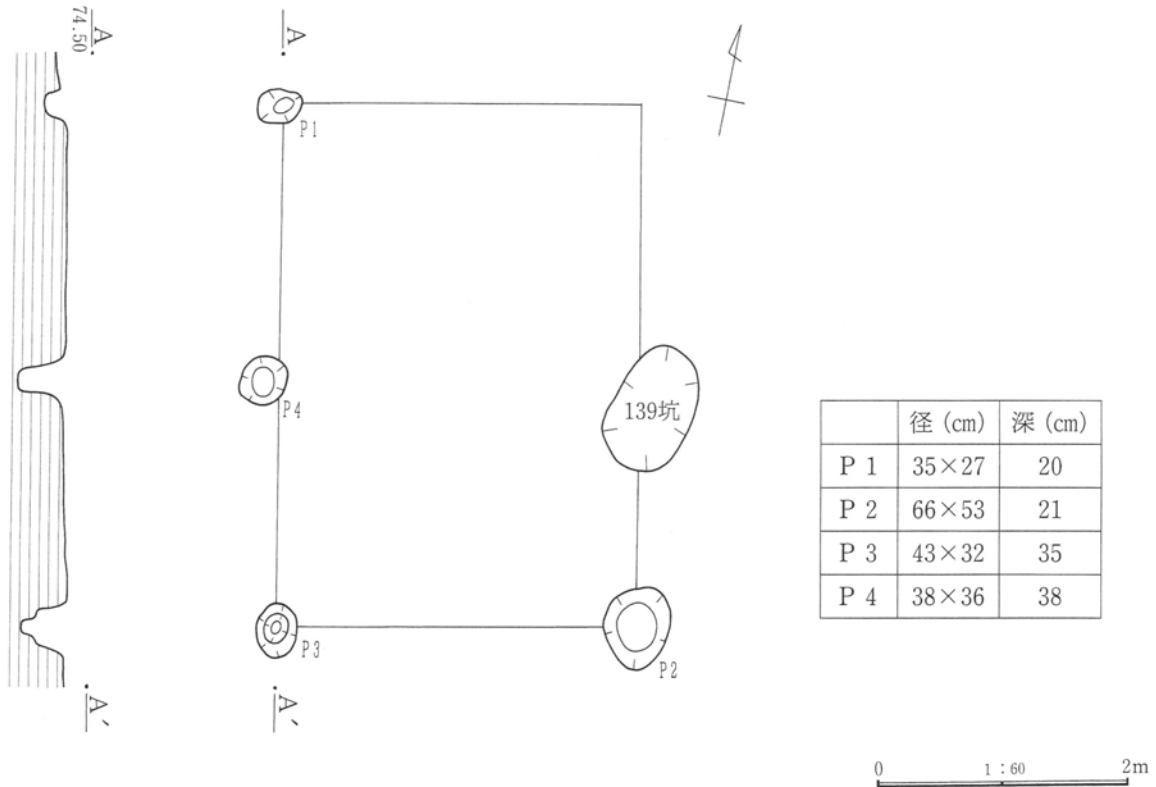
J 区 3 号掘立柱建物



	径 (cm)	深 (cm)
P 1	28×24	42
P 2	33×28	42
P 3	29×26	24
P 4	30×26	28
P 5	29×28	34
P 6	32×30	31
P 7	30×23	40
P 8	26×26	43
P 9	33×32	26
P 10	(26×22)	28



第282图 I 区 4 号・J 区 3 号掘立柱建物跡と I 区 1 号柱列跡



第283図 J区6号掘立柱建物跡

並ぶ。建て替えとも思えるが、これに対応する柱列は確認できない。

重複遺構 J区20号住居跡と重複するが、新旧関係は不明。

J区6号掘立柱建物跡 (第283図)

位置 195・200-020・025グリッド

規模 (1×2)間 4.15×2.92m

主軸方位 N-21°-W

柱間寸法

P 1 - P 4 2.20m P 2 - P 3 2.92m

P 3 - P 4 1.95m

柱穴 P 1とP 2は浅く、P 3は柱痕跡を残す。

柱痕跡は円形で径8cmを測る。東側柱の位置にはピットが検出できなかったが139号土坑がこれに替わるものかも知れない。

重複遺構 1号溝との新旧関係不明。北東部は攪乱により不明。

(2) 円形周溝遺構

I区49号溝 (第284図)

位置 170-105グリッド

形状 弧状の溝、断面は蒲鉾形

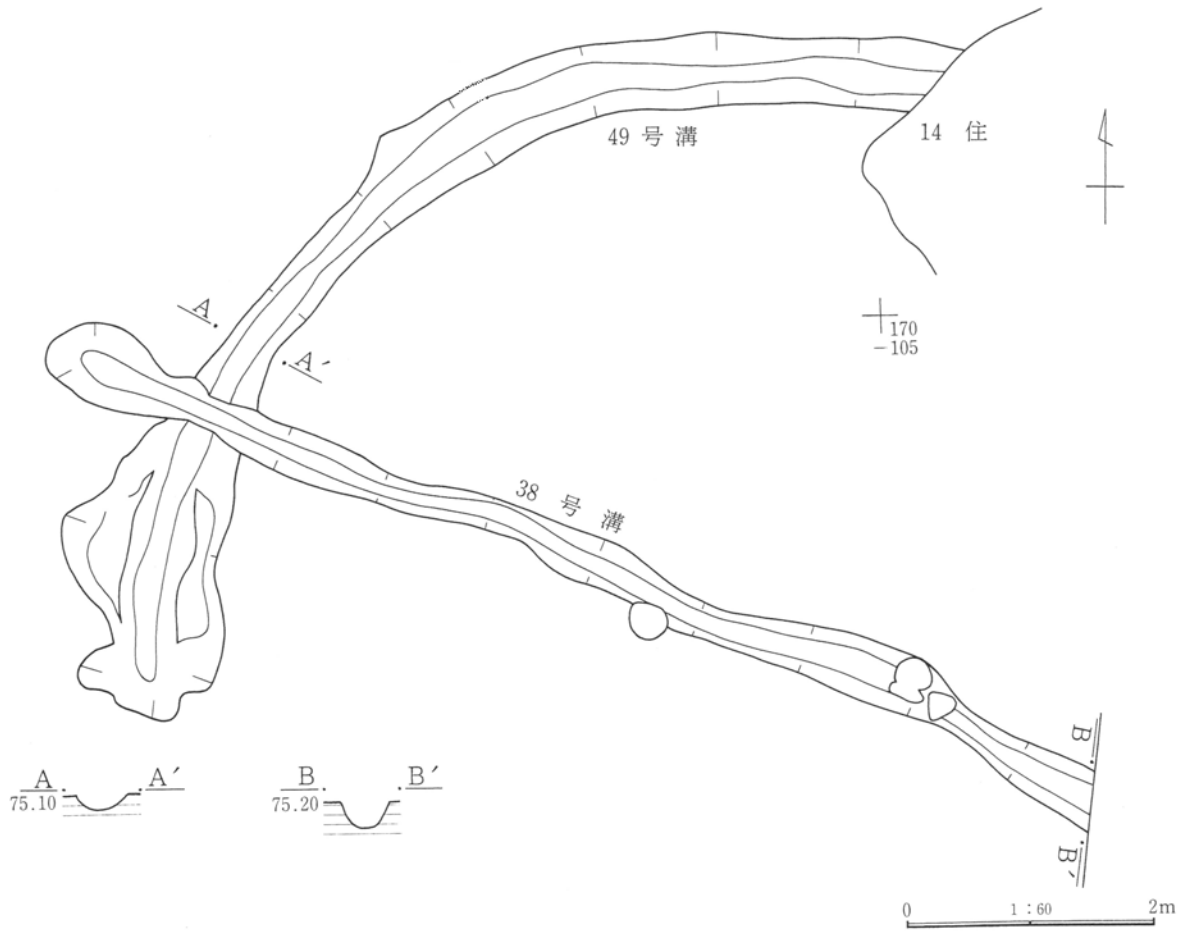
規模 内径で直径約8.5mの弧を描き、全周して円形になるかは不明。溝幅は60~38cm、深さ23~15cmを測る。

埋土の特徴 ローム粒や榛名二ツ岳パミスを含む砂質土で埋没している。

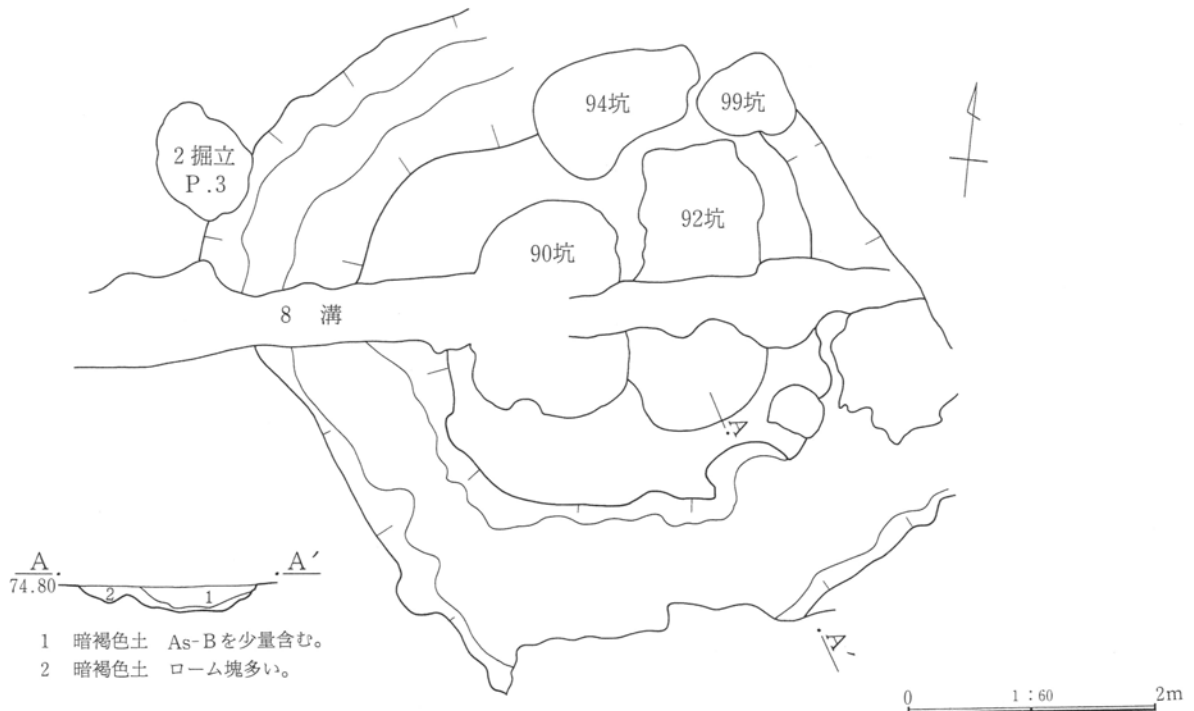
出土遺物 古墳前期~中世の土器小片が出土。

重複遺構 9・14号住居跡を切り、38号溝に切られる。

所見 埋土と重複関係から、上限時期は古墳時代後期の6世紀に求められる。当初、古墳の周堀かとも思われたが、周辺で古墳の存在が全く知られていないこと、出土遺物が中世陶器片まで含むことから、古墳とは考えにくい。



第284図 I区38・49号溝



- 1 暗褐色土 As-Bを少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム塊多い。

第285図 J区円形周溝遺構

I区38号溝（第284図）

位置 165-105グリッド

形状 直線状の溝、断面は蒲鉾形

規模 長さ9m分が検出され、東側は調査区外で不明。幅64~28cm、最大深38cmを測る。

埋土の特徴 ローム粒や榛名二ツ岳パミスを含む砂質土で埋没している。

重複遺構 9号住居跡・49号溝を切る。

所見 上限時期は古墳時代後期だろう。

J区円形周溝遺構（第285図 PL.127）

位置 225-020グリッド

形状 隅丸形状にめぐる溝、断面は弧状。

規模 外径5.68m、内径3m前後。溝幅は、100~120cm、深さ25cm前後を測る。

埋土の特徴 ローム粒が多くAs-Bを含む砂質土で埋没している。

重複遺構 8号溝・2号掘立柱建物跡・90号坑・92号坑・94号坑・99号坑などと重複するが、明確な新旧関係は確認できなかった。

所見 旧藤川左岸にあたる本地域では、東方に隣接する西善尺司遺跡で方形周溝墓が検出されているが、本溝とは埋土が異なる。中世以降の塚の可能性を考えるべきかも知れない。

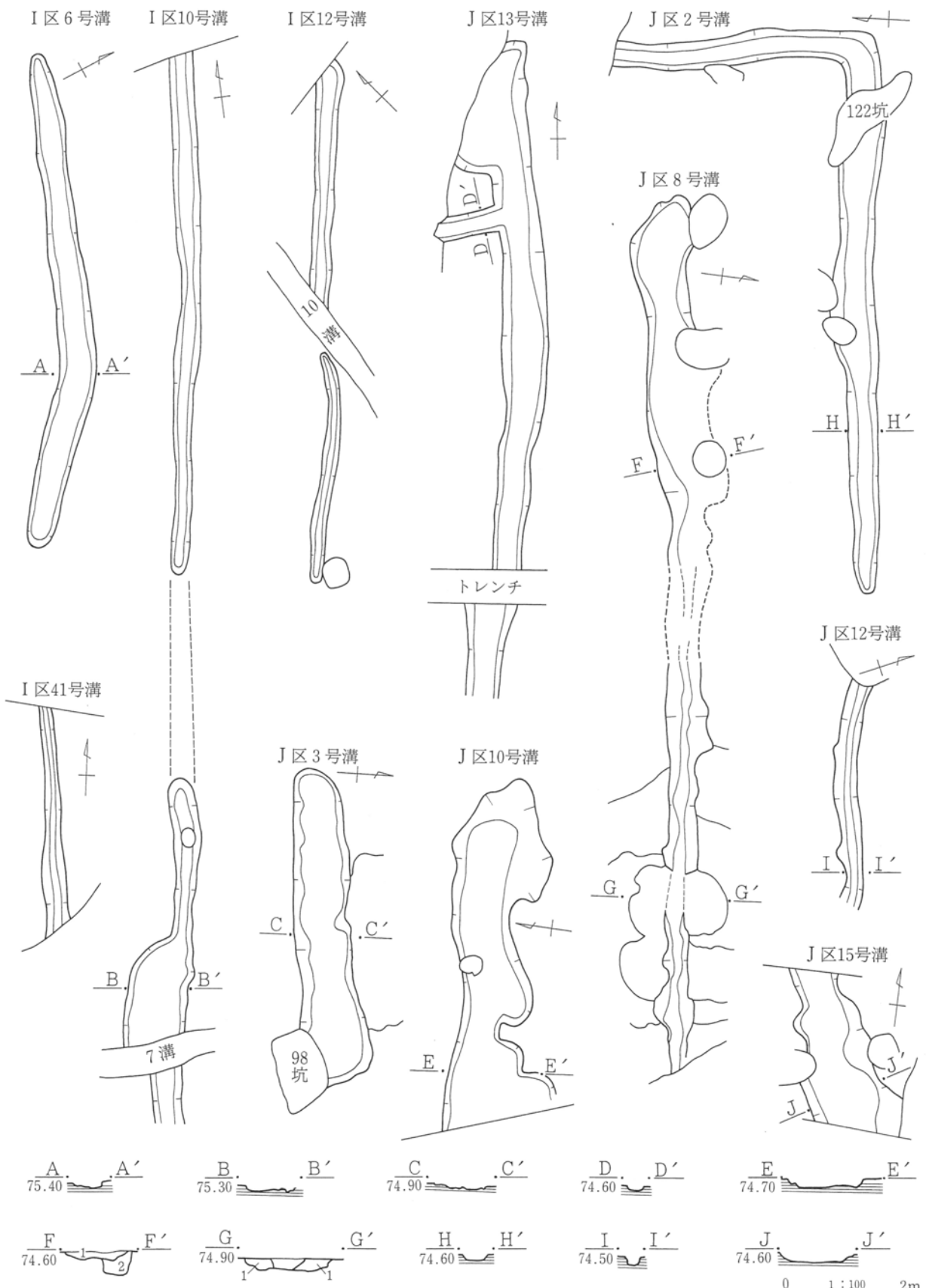
（3）溝（第286図）

I区及びJ区の溝は、埋土に時期推定の根拠となるテフラの堆積が不明瞭で、他の遺構との重複関係も不明瞭なものが多い。かろうじて上限時期あるいは下限時期のわかるものもあるが、縄文・弥生時代、古墳時代、古代、中世・近世の時代区分にそぐわない例をここに掲げた。

I区では、6号溝・10号溝・12号溝・41号溝の四条を第286図に示した。6号溝はやや屈曲して南東方向に延びる9m弱の浅い溝で、古代と思われる5号溝を切っているため、それ以降であるのは間違いない。溝底面のみの検出で本来は西から南東へと延びると想定される。10号溝は南北に調査区を縦断する

溝で、屋敷堀の11号溝や7号溝と重複するが、新旧関係は確認できない。12号溝は東に隣接する古墳時代の畠跡と同一走向を示すが、埋土にAs-Cを含まないため、異なる時期のものと考えたい。

J区では2・3・8・10・12・13・15号溝の七条を掲げた。このうち、3号・8号・10号溝は、J区北端で東西に平行して走る溝群としてとらえられる。特に、3号溝と8号溝は溝間の距離が内幅で6m前後を測り、道路の側溝の可能性があろう。ただしその場合、「元禄絵図」及び昭和43年測量地形図では幅の広い東西道路は見られないことから、古代~中世に遡ると考えるべきだろう。なお8号溝は円形周溝遺構や1号掘立柱建物跡を切っていると判断されたが、必ずしも明瞭ではない。2号・13号溝は、J区の中央付近にあって、互いに組み合せて東西南北の方形区画を構成するようである（第281図）。13号溝は北端で西に直角に折れ、また中途から分岐して西側に延びる溝が見られる。2号溝も方形の区画の南東部を画する溝と捉えられ、このことから、北西側に主体をもつ方形区画溝と考えられよう。13号溝の西側は旧藤川で侵食されているため確認できないので、その主体については不明である。これらは、古代の竪穴住居群や溝、掘立柱建物跡等と複雑に重複するが、溝自体が浅く埋土の重複関係が非常にわかりにくい状況であった。なお、12号・15号溝は、北西から湾曲して東方へ流れる走向を示す。これは、古代と思われる11号溝と平行し、砂が堆積することから、水路と考えたい。調査では底面のみの検出で本来の形状が不明のため、人為的か否かは判断が難しい。なお、15号溝は11号溝より古いとの調査所見があり、これに従えば、古代以前のものであり、しかも河川跡が埋没した古墳時代後期以降ということになる。



- 1 暗灰色シルト質砂
- 2 1号掘立柱建物跡P1埋土

第286図 時期不明の溝

第3章 遺物一覧表

徳丸仲田遺跡出土遺物のうち、縄文時代及び弥生時代の遺物については、第2章-1で述べた。ここでは、古墳時代から近世の出土遺物について、概要を述べ、あわせて一覧表を掲げる。

古墳時代

住居跡・溝・井戸・河川跡・水田耕土から、土器と木製品、玉類が出土している。土器の主体は前期のものが占める。壺は、折り返し口縁・有段口縁・単口縁に強い頸部での屈曲と球形胴をもつ型式が主体。甕はS字状口縁台付甕（以下、S字甕と略す）が主体で、単口縁平底甕がこれに続く。脚台部の形態から単口縁台付甕も存在するが、全形の判明する例はない。高杯は、円錐形か大きく裾を広げる脚部と柱状脚部に大きく二分され、後者が圧倒的に主体を占める。柱状脚部の型式も主に時期的変化を示す形式的細分が可能である。埴及び小型壺は大きく開く長い口縁と半球形胴をもつものと、短い口縁に球形胴をもつものに大きく二分される。底部はそれぞれに丸底・小さなくぼみ底・平底の三種がある。器台は口縁形状で単口縁・S字状・有段などに細分される。以上の主要器種のほかに杯、鉢、有孔鉢、手捏ね土器が器種組成として加わる。S字甕は組列のなかで後半から末期段階のものに限られ、高杯は円柱状脚部が大部分を占めることなどから、これらの編年の位置づけは、前期でも後半部分にほぼ限られ、暦年代では4世紀後半を中心とし、最も新しい部類は5世紀前半まで下ると考えられる。器種組成では、最もまとまった量の見られたJ区河川跡（掲載遺物）では、S字甕30%、壺22%、高杯16%、単口縁甕10%、埴6%、有孔鉢・器台・ミニチュア各4%、杯3%、片口鉢・鉢各1%となり、S字甕の多さが目立つ。この傾向は掲載しない破片数で数量比較してみても同様である。なお、本河川跡出土遺物には玉類や桃・ヒョウタンなどの種実が見られた

ため、水場祭祀的な意味合いも加味すれば、住居跡出土の器種組成とは若干の相違も想定されるのだが、住居跡からは比較できるような良好な器種組成が得られなかったため、組成の対比検討はしていない。なお、主体を占める前期土器群に、明らかに異系統の土器が見られる。ひとつは「赤井戸・吉ヶ谷式」（第109図-90～97）で、他は東海西部系の壺（第125図6～9など）である。これらは、大部分が小破片であって交差編年を試みるのは困難である。また、弥生土器の樽式（第115図-18）もみられたが、共伴関係については明確でない。ただし、4世紀後半代においても県内に樽式土器勢力が存在し、それとの交流があったことを否定するものではない。

木製品は、農具・工具・建築材・杭・丸太材などで、井戸からは井戸側に使用されたと思われる板材や杭が出土した。農工具は大部分が破損ないし腐食しているが、未製品はない。注目されるのはG区6号溝出土の「筒形木製品」（第97図-1）で、管見では全国7遺跡12例を知る（松本博幸・高谷和生2001「柳町遺跡出土木製品について」『柳町遺跡1』熊本県教育委員会、2002『波志江中屋敷東遺跡』群埋文）。用途は不明だが、器形のほかに、材がイヌガヤに限られること、漆を塗ることが共通する。類例は朝鮮半島にもあり（国立光州博物館2002『光州新昌洞低湿地遺蹟IV』）渡来系文物として注目する必要がある。

古代

主にH～J区の住居跡から出土する遺物群で、土師器・須恵器・灰釉陶器などの土器のほかに、鉄器、紡錘車出土した。杯と甕に見る特徴から7世紀後半から存在し、土釜や小型杯で構成される11世紀代が最新と思われる。灰釉陶器は光ヶ丘1期から丸石2期まで見られる。また、緑釉陶器は段皿と思われる小破片1点（第167図-2）が注目される。

中・近世

屋敷跡を検出したが、出土遺物は意外に少ない。中世と考えられるのは、内耳土器や石臼、板碑などで、いずれも小破片のため、時期限定が困難である。近世墓からは銭貨、煙管、眼鏡が出土した。

一 覧 表 凡 例

1 番 号 基本的に各遺構毎の通番とし、井戸・土坑・溝・墓墳で一括して図示したものは図中の連番で示した。この番号は挿図及び写真図版の遺物番号と一致している。

2 器 種 土器・木製品・玉類・紡錘車については、一般的に用いられている器種名称を記した。「小型甕」については、概ね口径14cm以下で器高の低いものをあてた。「埴」と「小型壺」は混同しやすいが、ここでは口径が大きく開き、頸部が「く」字状に屈曲して球胴をもつ器形を「埴」とし、それ以外の容量の小さな壺については「小型壺」とした。なお、「甗」については、古墳時代後期以降のものに限って用い、古墳前期の浅い鉢形に底部穿孔のある器種は「有孔鉢」と称する。これは佐原真氏の指摘(1976『日本の美術10 弥生土器』)に従ったもので、この種の器形が必ずしも「蒸し器」としての機能に限定できるものではなく、むしろ「濾過器」のほうが相応しいと思われる例もあり、「甗」ではなく「有孔鉢」とした。

また、破片のため推定の域を出ないものは()で示した。個別型式名や窯期名については、器種名のあとに()を付して記載した。

3 法 量 土器については、口(口径)、高(器高)、底(底径)、孔(孔径)をcm単位で小数点以下1位までの数値で示した。不明の場合は-で示した。土器以外の遺物については、長(長さ)、幅、厚(器厚)、径(直径)等について土器と同様に数値で示した。()は推定値であり、推測不可能なものについては現存する大きさについて記した。なお、紡錘車と銭貨については重量をg単位で数値を示してある。

4 胎土・質 土器胎土については、10倍ルーペ観察による以下の分類に従い、A～Gのアルファベットで表記した。

A-輝石が目立ち、ほかに白色・黒色の鉱物や岩片の粗～細砂を含む

B-大小の赤色鉄化合物粒が目立ち、ほかに白色・黒色の鉱物や岩片の粗～細砂を含む

C-片岩の細礫～細砂を含む

D-黒色鉄化合物が目立ち、白色岩片や長石の細礫を含む

E-白色岩片と長石の細礫～粗砂を多く含む

F-チャートの細礫と白色・黒色の鉱物や岩片の粗～細砂を含む

G-テフラ起源と思われるガラス、輝石、白色岩片を含む

以上の分類の範疇以外のものについては「+～」等で個別に記した。また、木製品については、(株)パレオ・ラボの同定結果に従って樹種を記した。石製品・玉類については、素材となった石材を記した。

5 遺存度 遺物の遺存状態について、完形及び欠損部や遺存部の程度を記した。

6 出土位置 遺構内での出土位置、及び出土遺構名を示した。

7 整理番号 本遺跡出土遺物(木製品を除く)を通番6桁の算用数字で示してある。これは、群馬県埋蔵文化財センター収蔵のコード番号と一致している。なお、木製品については樹種同定の試料番号を示している。

8 その他 銭貨については別表(291～292頁)とし、銭名と部位に応じた計測値を示してある。

整形技法については、本一覧表に記載していないが、挿図でできる限り判別しやすく表現したつもりである。ちなみに、「ヘラケズリ」は方向の明確なものについて邪魔にならない程度に→を付した。図が煩雑になるのを避けるため、「ナデ」や「指オサエ」は極力省いたが、必要と思われる部分には細線や破線で表現してある。

文様は、図中に描画及び拓影で示したが、わかりにくいものは一覧表に略記してある。

赤彩や黒色処理、釉の部位については、図中に網点などの表現をしており、必要に応じて器種名の後に()で記した。

I区1号住居跡出土遺物 (第34図 P L.137)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	甌	□ - 高 - 底 5.0	E	体下~底1/2	竈内	200200
2	小型甕	□ 14.3 高 13.0 底 5.5	E	□~底4/5	竈内	200201
3	甌	□ 18.8 高 - 底 -	E	□~体上半部	埋土下層	200202
4	杯	□ 12.3 高 4.8 底 -	B	□1/3欠	埋土下層	200203
5	(鉢)	□(17.0) 高 - 底 -	C	□縁1/3	埋土	200204
6	甌	□ 22.6 高 27.6 底 9.5	A+白粘土	□、体一部欠	西隅	200205

I区7号住居跡出土遺物 (第36図 P L.137)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	壺	□ 17.3 高 - 底 -	G	□縁1/4	埋土	200206
2	高杯	□(17.0) 高 - 底 -	E	杯部1/4	埋土	200207
3	(小型甕)	□ 10.7 高 - 底 -	B	□~体中位	埋土	200208
4	壺	□ - 高 - 底 6.7	E	体下半~底部片	埋土	200209
5	有孔鉢	□(13.8) 高 9.4 底 3.8 孔径 2.2	G	□~底1/2	埋土	200210
6	埴	□ - 高 - 底 -	G	下半2/3	埋土	200211
7	有孔鉢	□ - 高 - 底(4.3) 孔径(2.0)	G	底部1/4	埋土	200212

I区8号住居跡出土遺物 (第37図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	高杯(赤彩)	□ - 高 - 底(11.5)	G	脚部1/2	(掘方)埋土	200213

I区9号住居跡出土遺物 (第38図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	埴	□(11.0) 高 - 底 -	A	□縁破片	埋土	200214
2	高杯	□ - 高 - 底(11.0)	E	脚部1/3	1号貯蔵穴	200215
3	壺	□ - 高 - 底 5.9	E	底部片	埋土	200216

I区12号住居跡出土遺物 (第40図 P L.137)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	壺	□ - 高 - 底 -	G	体部片	貯蔵穴	200217
2	小型甕	□ 11.2 高 16.1 底 4.6	G	□~底1/2	貯蔵穴	200218
3	埴	□ 8.5 高 8.2 底 -	E	完形	貯蔵穴	200219
4	埴	□ 8.1 高 8.2 底 -	E	完形	貯蔵穴	200220
5	埴	□ 7.2 高 8.3 底 -	E	□1/2欠	貯蔵穴	200221
6	埴	□ 10.4 高 7.5 底 2.0	E	完形	貯蔵穴	200222
7	鉢形手捏ね	□ (5.1) 高 3.0 底 (3.2)	E	1/3	埋土~掘方	200223
8	高杯	□ - 高 - 底 -	E	杯部~脚	貯蔵穴	200224

I区13号住居跡出土遺物 (第41図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	埴	□(11.0) 高 - 底 -	A	□縁破片	貯蔵穴	200225

I区14号住居跡出土遺物 (第42図 P L.137・138)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	小型甕	□ 13.0 高 15.3 底 -	B	体1/2欠	南隅床面	200226
2	小型甕	□ 12.1 高 14.5 底 -	E	完形	西隅床面	200227
3	小型壺	□ 11.3 高 12.8 底 -	G	ほぼ完形	北隅	200228
4	小型壺(胴穿孔)	□ 11.5 高 13.1 底 3.0	E	□~体一部欠	西隅床面	200229
5	壺	□ - 高 - 底 6.0	G	体下部~底	西隅床面	200230
6	小型甕	□ 9.0 高 8.5 底 5.0	B	上半1/2欠	西隅床面	200231
7	高杯	□ - 高 - 底 -	B	脚のみ	床面	200232

I区16号住居跡出土遺物(第43図 P L.138)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	罎	□ - 高 - 底 3.0	E	□縁欠	掘方埋土	200233
2	甕	□(15.8) 高 - 底 -	B	□縁 1 / 3	貯蔵穴	200234

I区20号住居跡出土遺物(第49図 P L.138)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	S字状口縁台付甕	□(15.6) 高 - 底 -	E	□~体 1 / 3	貯蔵穴	200235
2	高杯	□(12.6) 高 - 底 -	B	杯部破片	掘方埋土	200236

I区21号住居跡出土遺物(第50図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	直口壺	□ - 高 - 底 -	E	体下半	貯蔵穴上層	200237
2	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 9.0	E	脚のみ	貯蔵穴埋土	200238

I区22号住居跡出土遺物(第52図 P L.138)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	結合器台	□ 17.8 高 - 底 -	A + E	器受部のみ	貯蔵穴	200239
2	鉢	□ 9.8 高 3.4 底 4.2	G	□縁 1 / 2	貯蔵穴	200240
3	高杯	□ - 高 - 底 13.0	G	脚部のみ	貯蔵穴	200241
4	高杯	□ - 高 - 底(14.0)	G	脚部のみ	貯蔵穴	200242
5	甕	□(14.2) 高 - 底 -	B	□~体下 2 / 3	貯蔵穴	200243

I区2号掘立柱建物跡出土遺物(第54図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	台付甕	□ - 高 - 底 -	E	脚接合部破片	柱穴	200244

I区2号柵列跡出土遺物(第60図 P L.138)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	小型甕	□ 13.6 高 13.5 底 4.0	B	完形	P 5 内	200245

I区3号柵列跡出土遺物(第61図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	S字状口縁台付甕	□(18.0) 高 - 底 -	C	□~肩 1 / 4	P 3 内	200246

H・I・J区井戸跡出土遺物(第65~69図 P L.139~142)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	S字状口縁台付甕	□(15.0) 高 - 底 -	G	□~体上部片	H区1号井戸	200247
2	S字状口縁台付甕	□(15.0) 高 - 底 -	F	□~肩部片	H区1号井戸	200248
3	(器台)	□ - 高 - 底 12.8	C	脚部片	H区1号井戸	200249
4	壺(絵画)	□ - 高 - 底 7.2	B	体~底部	I区1号井戸	200250
5	S字状口縁台付甕	□ 10.5 高 - 底 -	B	□~体上半	I区1号井戸	200251
6	S字状口縁台付甕	□ 14.9 高 - 底 -	E	□と脚一部欠	I区1号井戸	200252
7	魚形土製品	頭部現長 8.5	G	頭・腹部	I区1号井戸	200253
8	大型壺	□ - 高 - 底 9.0	B + E	体~底部	I区1号井戸	200254
9	甕	□ - 高 - 底 5.0	G	体~底部	I区1号井戸	200255
10	壺(東海型櫛描文)	□ - 高 - 底 -	A	肩部片	I区1号井戸	200256
11	壺(東海型櫛描文)	□ - 高 - 底 -	G	破片	I区1号井戸	200257
12	鉢(有孔鉢)	□(25.5) 高 - 底 -	B	□縁破片	I区1号井戸	200258
13	罎	□ 11.0 高 7.1 底 -	E	□ 1 / 2 欠	I区1号井戸	200259
14	器台	□ 7.6 高 - 底 -	B	器受部破片	I区1号井戸	200260
15	高杯	□ - 高 - 底 -	B	脚部 1 / 3	I区1号井戸	200261
16	壺	□ - 高 - 底 7.3	G	体下半~底	I区2号井戸	200262

17	甕	□(15.0) 高 - 底 -	B	□~肩 1/4	I区4号井戸	200263
18	高杯	□ - 高 - 底(14.5)	A	脚のみ 1/5	I区4号井戸	200264
19	埴(底部穿孔)	□ - 高 - 底 3.1 穿孔 0.6×0.7	A	□縁欠	I区4号井戸	200265
20	壺	□(11.7) 高 - 底 -	B	□縁 1/2	I区5号井戸	200266
21	広口壺	□(11.2) 高 - 底 -	G	□~体破片	I区5号井戸	200267
22	壺	□ - 高 - 底 8.4	A+G	体~底	I区5号井戸	200268
23	器台	□(8.7) 高 - 底 -	A+E	器受部 1/4	I区5号井戸	200269
24	S字状口縁台付甕	□ 13.6 高 - 底 -	B	脚部欠	I区6号井戸	200270
25	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 7.7	A	脚のみ	I区6号井戸	200271
26	S字状口縁台付甕	□(12.3) 高 - 底 -	B	□~肩破片	I区7号井戸	200272
27	S字状口縁台付甕	□(14.0) 高 - 底 -	G	□~肩破片	I区7号井戸	200273
28	小型甕	□(12.0) 高 - 底 -	E	□縁小片	I区7号井戸	200274
29	紡錘車	径(6.5) 高(1.5) 重 23	G	1/3	I区7号井戸	200275
30	S字状口縁台付甕	□(16.0) 高 - 底 -	B	□~肩片	I区9号井戸	200276
31	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 -	G	脚接合部	I区9号井戸	200277
32	甕	□(28.0) 高 - 底 -	B	□縁破片	I区11号井戸	200278
33	S字状口縁台付甕	□(16.0) 高 - 底 -	B	□~肩部片	I区11号井戸	200279
34	高杯	□ - 高 - 底 -	B	杯部 1/4	I区11号井戸	200280
35	裝飾器台	□ - 高 - 底 -	B	器受部破片	I区11号井戸	200281
36	壺	□ - 高 - 底(7.2)	G	底部片	I区11号井戸	200282
37	壺	□(16.0) 高 - 底 -	B	□縁 1/3	I区13号井戸	200283
38	甕	□(16.4) 高 - 底 -	G	□縁 1/3	I区13号井戸	200284
39	S字状口縁台付甕	□(15.8) 高 - 底 -	A	□~肩 1/2	I区13号井戸	200285
40	S字状口縁台付甕	□(15.5) 高 - 底 -	A	□~肩	I区13号井戸	200286
41	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 10.2	C	脚のみ	I区13号井戸	200287
42	壺	□(15.3) 高 - 底 7.6	B	体部欠	I区12号井戸	200288
43	(甕)	□ - 高 - 底 -	B	体部 1/3	I区12号井戸	200289
44	甕	□(26.0) 高 - 底 -	G	□縁片	I区12号井戸	200290
45	壺	□ 10.5 高 - 底 -	E	□~頸部片	I区12号井戸	200291
46	甕	□ 17.5 高 - 底 -	F	□縁のみ	I区12号井戸	200292
47	埴	□(14.0) 高 - 底 -	A	□~体破片	I区12号井戸	200293
48	壺	□(12.8) 高 - 底 -	A	□~頸部	I区12号井戸	200294
49	甕	□(17.2) 高 - 底 -	B	□~肩部	I区12号井戸	200295
50	甕	□ 16.4 高 - 底 -	E+白粘土	□~体上 1/3	I区12号井戸	200296
51	壺	□(18.5) 高 - 底 -	E	□縁片	I区12号井戸	200297
52	(埴)	□(10.6) 高 - 底 -	A	□縁 1/4	I区12号井戸	200298
53	埴	□ 9.6 高 - 底 -	E	□~体上 1/2	I区12号井戸	200299
54	高杯	□ 15.0 高 13.4 底 11.6	B	□~脚 1/2	I区12号井戸	200300
55	高杯	□ - 高 - 底 -	A	脚部	I区12号井戸	200301
56	高杯	□(11.0) 高 - 底 -	B	杯部 1/4	I区12号井戸	200302
57	ミニチュア壺	□ 4.8 高 5.0 底 2.0	A+G	完形	I区12号井戸	200303
58	埴	□ 7.6 高 6.4 底 -	A+G	完形	I区12号井戸	200304
59	埴	□ - 高 - 底 -	A+G	□縁欠	I区12号井戸	200305
60	壺	□(17.0) 高 - 底 -	F	□縁のみ	I区14号井戸	200306
61	小型広口壺(赤彩)	□(12.0) 高 - 底 -	G	□縁破片	I区14号井戸	200307
62	壺	□ 18.0 高 30.0 底 7.4	E	□ 2/3 欠	I区14号井戸	200308
63	直口壺	□ 9.3 高 15.0 底 -	B	完形	J区1号井戸	200309
64	板材(井戸側材)	長 69.8 幅 15.2 厚 3.6	クヌギ節	側縁欠	I区8号井戸	40
65	角棒(井戸側材)	長 76.3 幅 4.4 厚 3.5	アカガシ亜属	先端欠	I区8号井戸	41
66	杭	長 22.8 幅 2.5 厚 3.0	クヌギ節		I区8号井戸	37
67	板材	現長 27.8 幅 2.2 厚 0.9	アカガシ亜属	両端欠	I区12号井戸	38
68	角棒	現長 47.7 幅 3.5 厚 2.5	クヌギ節	両端欠	I区12号井戸	39

I区土坑出土遺物(第70図 P.L.140)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	甕	□(16.0) 高 - 底 -	F	□縁小破片	40号土坑	200310
2	壺	□(14.0) 高 - 底 -	F	□~体上部片	40号土坑	200311
3	小型壺	□ - 高 - 底 4.5	B	体下半~底	44号土坑	200312
4	高杯	□ - 高 - 底 8.3	E	脚部	65号土坑	200313
5	勾玉	長 2.55 径 0.7 重 2.5	滑石	完形	60号土坑	200026

A区9号溝出土遺物 (第78図 P L.142・143)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	横鋤か泥除	現長 20.0 推定幅 17.0 柄穴径 4.5	アカガシ亜属	約1/3	埋土下層	10
2	鋤	現長 19.2 幅 10.5 厚 0.7	不明	柄舟部	埋土下層	36
3	矢板	長 40.7 幅 4.5 厚 2.1	クリ	完形	堰	14
4	矢板	現長 15.0 幅 5.0 厚 1.5	クヌギ節	先端部	堰	15
5	杭	現長 29.6 幅 6.6 厚 2.9	クヌギ節	先端部	堰	16
6	杭	長 39.2 幅 6.0 厚 3.1	アカメガシワ	先端部欠	堰	22
7	杭	長 35.3 幅 5.4 厚 3.5	クヌギ節	完形	堰	20
8	杭	長 35.5 径 3.3	アカメガシワ	上半欠	堰	21
9	杭	長 45.2 幅 5.4 厚 4.6	クヌギ節	上半欠	堰	29
10	杭	現長 34.1 幅 4.7 厚 2.1	クヌギ節	完形	堰	17
11	杭	長 28.0 幅 3.8 厚 2.2	ムクロジ	完形	堰	18
12	杭	長 37.4 幅 4.6 厚 3.3	クヌギ節	上部、先端部欠	堰	19

F区新2・5号溝出土遺物 (第87図 P L.144)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	口(13.0) 高 3.5 底 -	A	口～底1/4	新2号溝埋土	200314
2	杯	口 11.2 高 3.1 底 -	A	完形	新2号溝埋土	200315
3	杯	口(17.0) 高 3.4 底 -	A	口～底1/4	5号溝埋土	200316

I区古墳時代II期水田耕土出土遺物 (第90図 P L.144)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	壺	口 15.0 高 - 底 -	B	口～頸部	耕土	200317
2	S字状口縁台付甕	口 15.6 高 - 底 -	G	口～肩1/2	耕土	200318
3	S字状口縁台付甕	口(14.0) 高 - 底 -	F	口～肩部片	耕土	200319
4	甕	口(12.0) 高 - 底 -	G	口～肩部片	耕土	200320
5	甕	口(15.6) 高 - 底 -	A	口～頸部片	耕土	200321
6	甕	口(15.6) 高 - 底 -	B	口～肩部片	耕土	200322
7	S字状口縁台付甕	口 - 高 - 底 9.7	A	脚部	耕土	200323
8	高杯	口 - 高 - 底(10.5)	B	杯部～脚1/2	耕土	200324
9	高杯	口 16.5 高 - 底 -	G	杯部のみ	耕土	200325
10	埴	口 - 高 - 底 -	B	口縁部欠	耕土	200326
11	小型(台付)甕	口(8.3) 高 - 底 -	B	口～体1/3	耕土	200327
12	鉢(朽痕あり)	口 15.8 高 - 底 -	G	口～体2/3	耕土	200328
13	高杯	口 - 高 - 底(13.0)	B	杯底部～脚部	耕土	200329
14	器台	口 8.6 高 8.3 底 8.4 孔 1.1	A	器受部1/2欠	耕土	200330

G区6号溝出土遺物 木製品 (第97図～99図 P L.144～147)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	筒形木製品	長 13.5 口径 9.6 胴径 8.6	イヌガヤ	半欠	底面	1
2	横鋤	現長 43.0 幅 10.6 厚 2.6	アカガシ亜属	刃部のみ	埋土下層	12
3	(鋤)	現長 30.0 幅 12.4 厚 2.5	コナラ節	柄刃部1/2欠	埋土下層	35
4	杭	現長 48.3 径 3.6	コナラ節	完形	打込み	27
5	建築部材	長 117.0 幅 23.0 厚 4.0 柄幅 5.5	クリ	完形	埋土	49
6	杭	現長129.0 径 7.0	マツ属単維管束亜属	完形	打込み	47
7	矢板	現長 67.0 幅 7.3 厚 3.5	カヤ	中折	打込み	43
8	加工材	現長 93.1 幅 6.5 厚 2.6	クマノミズキ類		埋土	48

G区6号溝出土遺物 (第100図 P L.144)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	甕	口(19.8) 高 22.2 底(7.5)	B	口～底2/3	埋土下層	200331
2	甕	口(17.0) 高 - 底 -	G	口～体上1/4	埋土	200332
3	甕	口(16.8) 高 - 底 -	F+雲母	口～体上1/3	埋土	200333
4	S字状口縁台付甕	口 - 高 - 底 -	A	脚接合部	埋土	200334
5	台付甕	口 - 高 - 底(8.6)	F	台部	埋土	200335
6	台付甕	口 - 高 - 底 -	G	脚接合部	埋土	200336

7	壺	□ 14.2 高 - 底 -	A	口縁部	埋土	200337
8	高杯 (赤彩)	□ - 高 - 底 -	A	脚部 1 / 5	埋土	200338
9	高杯	□ - 高 - 底 -	G	脚部片	埋土	200339
10	埴	□ - 高 - 底 -	B	頸～底部片	埋土	200340

H区20号溝出土遺物 (第103・104図 P L.147)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土	遺存度	出土位置	整理番号
1	壺	□(16.2) 高 - 底 -	A	口縁 1 / 5	埋土	200341
2	壺	□(16.0) 高 - 底 -	C	口縁 1 / 4	埋土	200342
3	壺	□(16.0) 高 - 底 -	G	口縁 1 / 5	埋土	200343
4	壺	□ 16.7 高 - 底 -	F	口縁部	埋土	200344
5	壺 (凸帯羽状刻)	□ - 高 - 底 -	E	頸部破片	埋土	200345
6	壺 (東海型櫛描文)	□ - 高 - 底 -	A	肩破片	埋土	200346
7	壺 (木葉痕)	□ - 高 - 底 (9.0)	A	底部のみ	埋土	200347
8	壺	□ - 高 - 底 8.8	A	底部片	埋土	200348
9	壺	□ - 高 - 底 6.5	A	体下～底 1 / 3	埋土	200349
10	直口壺	□ - 高 - 底 -	E	口縁欠	埋土	200350
11	S字状口縁台付甕	□(15.0) 高 - 底 -	C	口～肩 1 / 4	埋土	200351
12	S字状口縁台付甕	□(17.2) 高 - 底 -	A	口～肩部片	埋土	200352
13	S字状口縁台付甕	□(11.4) 高 - 底 -	A	口～肩 1 / 3	埋土	200353
14	S字状口縁台付甕	□(20.6) 高 - 底 -	F	口～肩 1 / 5	埋土	200354
15	S字状口縁台付甕	□(13.8) 高 - 底 -	C	口～肩部片	埋土	200355
16	S字状口縁台付甕	□(9.6) 高 - 底 -	C	口～肩 1 / 4	埋土	200356
17	S字状口縁台付甕	□(10.5) 高 - 底 -	A	口～肩 1 / 4	埋土	200357
18	S字状口縁台付甕	□ 14.2 高 - 底 -	C	口～肩 1 / 5	埋土	200358
19	S字状口縁台付甕	□(13.1) 高 - 底 -	C	口～頸 1 / 3	埋土	200359
20	S字状口縁台付甕	□(24.0) 高 - 底 -	E	口縁 1 / 2	埋土	200360
21	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 9.0	A	体下半～脚部	埋土	200361
22	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 -	A	脚接合部	埋土	200362
23	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 (8.0×7.1)	E	脚部のみ	埋土	200363
24	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 11.5	C	脚部 2 / 3	埋土	200364
25	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 8.6	A	脚部のみ	埋土	200365
26	甕	□(14.0) 高 - 底 -	E	口～体中 1 / 5	埋土	200366
27	甕	□(16.3) 高 - 底 -	B	口～頸部片	埋土	200367
28	杯	□(15.0) 高 - 底 -	E	口～体部片	埋土	200368
29	台付甕形手捏ね	□ - 高 - 底 (6.0)	B	脚部 1 / 2	埋土	200369
30	杯	□(17.0) 高 5.0 底 -	B	口縁大部分欠	埋土	200370
31	埴	□ 9.2 高 8.4 底 2.4	A	完形	埋土	200371
32	埴	□(12.0) 高 - 底 -	B	口～体部小片	埋土	200272
33	鉢形ミニチュア	□ 6.2 高 3.1 底 3.8	A	口縁大部分欠	埋土	200373
34	埴 (赤彩)	□(12.4) 高 - 底 -	B	口～底 1 / 4	埋土	200374
35	埴	□ 11.0 高 - 底 -	B	口～体 1 / 3	埋土	200375
36	埴	□(9.8) 高 5.7 底 -	A	口～底 1 / 2	埋土	200376
37	埴	□ - 高 - 底 -	G	口縁欠	埋土	200377
38	埴	□ 8.6 高 5.4 底 3.0	F	ほぼ完形	埋土	200378
39	埴	□ - 高 - 底 -	E	口～体 1 / 3	埋土	200379
40	(器台)	□(11.8) 高 - 底 -	B	器受部	埋土	200380
41	高杯	□ - 高 - 底 9.8	A	脚部のみ	埋土	200381
42	高杯	□ - 高 - 底 -	A	脚部のみ	埋土	200382
43	器台	□ 8.9 高 - 底 -	A	器受～脚 2 / 3	埋土	200383
44	特殊杯 (贅模造品)	□ - 高 - 底 -	E	底中央片	埋土	200384

H区31号溝出土遺物 (第105図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	小鉢	□(8.6) 高 5.5 底 -	G	口～底 1 / 2	埋土	200385
2	高杯	□ - 高 - 底 (14.6)	F	脚部 1 / 4	埋土	200386

H区36号溝出土遺物 (第105図 PL.147)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	勾玉	長 2.1 厚 0.6 孔径 0.2 重 2.9	滑石か?	完形	埋土	200027

H区37号溝出土遺物 (第105図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	S字状口縁台付甕	口(17.0) 高 - 底 -	B	口～肩部片	埋土	200387

I区48号溝出土遺物 (第106～109図 P L.148・149)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	壺	口(25.0) 高 37.6 底(9.2)	A	口～底 1/3	埋土	200388
2	壺	口(19.4) 高 - 底 -	G	口縁片	埋土	200389
3	壺	口 20.0 高 - 底 -	G	口縁片	埋土	200390
4	壺	口 - 高 - 底 -	B	頸～体下 1/2	埋土	200391
5	壺	口(21.8) 高 - 底 -	E	口縁片	埋土	200392
6	壺	口(19.5) 高 - 底 -	A	口～肩 1/5	埋土	200393
7	壺	口(18.0) 高 - 底 -	B	口縁片	埋土	200394
8	壺	口 16.6 高 - 底 -	B	口～肩 1/3	埋土	200395
9	壺	口 12.8 高 - 底 -	A	口～肩 1/3	埋土	200396
10	壺	口(16.2) 高 - 底 -	G	口縁片	埋土	200397
11	壺	口(15.6) 高 - 底 -	A	口縁片	埋土	200398
12	壺	口 12.4 高 - 底 -	G	口～体上位	埋土	200399
13	壺	口(9.4) 高 - 底 -	A	口～肩	埋土	200400
14	壺 (櫛状具刺突)	口 - 高 - 底 -	B	肩小片	埋土	200401
15	壺 (櫛描羽・波状文)	口 - 高 - 底 -	C	肩片	埋土	200402
16	壺	口 - 高 - 底 -	G	肩破片	埋土	200403
17	壺 (東海型櫛描文)	口 - 高 - 底 -	A	肩片	埋土	200404
18	小型壺	口 11.0 高 - 底 -	G	口～肩破片	埋土	200405
19	埴	口(8.8) 高 - 底 -	G	口縁片	埋土	200406
20	埴	口(9.4) 高 - 底 -	B	口～体部片	埋土	200407
21	埴	口 8.1 高 8.2 底 -	B	口～底 2/3	埋土	200408
22	埴	口 9.0 高 - 底 -	G	口～底 2/3	埋土	200409
23	小型壺	口 - 高 - 底 2.0	G	口縁欠	埋土	200410
24	小型壺	口 - 高 - 底 3.5	B	体～底	埋土	200411
25	小型壺	口 - 高 - 底 2.5	A	体～底 1/3	埋土	200412
26	小型壺 (有孔)	口 - 高 - 底 - 孔径 0.3	G	口縁部欠	埋土	200413
27	埴	口 8.0 高 - 底 -	E	口～体 1/2	埋土	200414
28	小型壺	口 - 高 - 底 3.2	B	口縁部欠	埋土	200415
29	小壺	口 9.5 高 6.5 底 5.5	A	口 1/2 欠	埋土	200416
30	甕形ミニチュア	口(4.4) 高 4.9 底 3.2	A	頸～底 2/3	埋土	200417
31	高杯	口 11.4 高 - 底 -	A	杯～脚部片	埋土	200418
32	高杯	口 - 高 - 底 -	C	脚部片	埋土	200419
33	高杯 (山陰～北陸系)	口 - 高 - 底 4.2	E	杯部 1/2 欠	埋土	200420
34	高杯 (器台?)	口 - 高 - 底(16.2)	F	脚のみ	埋土	200421
35	高杯	口(14.4) 高(13.8) 底 10.7	G	杯部 1/2 欠	埋土	200422
36	高杯	口 - 高 - 底(11.4)	G	脚のみ 1/3	埋土	200423
37	高杯	口 - 高 - 底 10.8	A	脚のみ	埋土	200424
38	高杯	口 - 高 - 底(13.0)	E + 土器粒	脚のみ	埋土	200425
39	高杯	口 - 高 - 底(13.0)	G	脚のみ	埋土	200426
40	器台	口 7.8 高 7.0 底 10.4 孔径 1.0×0.8	C	口縁一部欠	埋土	200427
41	器台	口 7.2 高 - 底 - 孔径 1.0×0.9	E	脚裾部欠	埋土	200428
42	器台	口 8.4 高 - 底 -	B	器受部～脚上半	埋土	200429
43	器台	口 9.4 高 - 底 -	B	器受部片	埋土	200430
44	鉢 (有孔鉢)	口(17.2) 高 - 底 -	A	口縁 1/2	埋土	200431
45	(有孔鉢)	口 13.0 高 - 底 -	E	口～体 1/2	埋土	200432
46	有孔鉢	口 - 高 - 底(5.5) 孔径 1.8	E	体下～底 1/3	埋土	200433
47	蓋	口 - 高 - 底 -	E	つまみ部	埋土	200434

48	埴形手捏ね	□ - 高 - 底 2.5	B	口縁欠	埋土	200435
49	S字状口縁台付甕	□(14.0) 高 - 底 -	G	口~肩部	埋土	200436
50	S字状口縁台付甕	□(14.0) 高 - 底 -	B	口~肩部片	埋土	200437
51	S字状口縁台付甕	□(15.8) 高 - 底 -	A	口~体上位	埋土	200438
52	S字状口縁台付甕	□(14.0) 高 - 底 -	F	口~肩部	埋土	200439
53	S字状口縁台付甕	□(15.0) 高 - 底 -	A + F	口~肩部片	埋土	200440
54	S字状口縁台付甕	□(16.0) 高 - 底 -	F	口~肩部	埋土	200441
55	S字状口縁台付甕	□(12.8) 高 - 底 -	B	口~体中1/3	埋土	200442
56	S字状口縁台付甕	□(15.0) 高 - 底 -	E	口~体中位破片	埋土	200443
57	S字状口縁台付甕	□(17.0) 高 - 底 -	E	口~肩	埋土	200444
58	S字状口縁台付甕	□(8.5) 高 - 底 -	E	口~体中1/3	埋土	200445
59	S字状口縁台付甕	□(15.0) 高 - 底 -	B	口~肩部片	埋土	200446
60	S字状口縁台付甕	□ 16.4 高 - 底 -	E	口~肩部	埋土	200447
61	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 -	E	体下~脚接合部	埋土	200448
62	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 -	A	体下半~脚	埋土	200449
63	S字状口縁台付甕	□(18.0) 高 - 底 -	G	口縁小片	埋土	200450
64	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 -	A + F	脚接合部	埋土	200451
65	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 9.5	E	脚部のみ	埋土	200452
66	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 10.4	E	脚部のみ	埋土	200453
67	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 8.0	A + F	脚部のみ	埋土	200454
68	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 7.2	E	脚部のみ	埋土	200455
69	台付甕	□ - 高 - 底 8.8	B	台部のみ	埋土	200456
70	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 -	C	脚接合部	埋土	200457
71	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底(9.6)	F	脚部 1/4	埋土	200458
72	台付甕	□ - 高 - 底 -	G	体下~台接合部	埋土	200459
73	台付甕	□ - 高 - 底 -	E	体下~台接合部	埋土	200460
74	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 -	C	脚接合部	埋土	200461
75	台付甕	□ - 高 - 底(8.6)	B	脚部	埋土	200462
76	甕	□(16.0) 高 - 底 -	E	口~頸 1/2	埋土	200463
77	甕	□ 12.8 高 - 底 -	G	口~肩部	埋土	200464
78	小型甕	□ 13.7 高 14.5 底 -	B	体一部欠	埋土	200465
79	甕	□(17.0) 高 - 底 -	C	口~体上位	埋土	200466
80	小型甕	□(13.0) 高 - 底 -	G	口~体中位破片	埋土	200467
81	甕	□ 15.0 高 - 底 -	G	口~体上 1/4	埋土	200468
82	小型広口壺	□ 11.5 高 11.1 底 3.0	G	体一部欠	埋土	200469
83	小型甕	□ 12.7 高 15.7 底 -	G	体一部欠	埋土	200470
84	小型甕	□ 10.3 高 11.8 底 4.6	B	口~底 2/3	埋土	200471
85	小型甕	□ 10.8 高 12.2 底 -	G	口~体 1/3	埋土	200472
86	甕	□(17.2) 高 - 底 -	G	口~体上 1/2	埋土	200473
87	甕	□ - 高 - 底 7.0	B	底部のみ	埋土	200474
88	甕	□ - 高 - 底 7.0	G	底部片	埋土	200475
89	小型甕	□(11.0) 高 9.2 底 -	B	口~底 1/2	埋土	200476
90	壺(赤井戸・吉ヶ谷式)	□ - 高 - 底 -	A	口縁片	埋土	200177
91	壺(赤井戸・吉ヶ谷式)	□ - 高 - 底 -	B	頸部片	埋土	200179
92	壺か甕(赤井戸・吉ヶ谷式)	□ - 高 - 底 -	E	体上部片	埋土	200182
93	壺か甕(赤井戸・吉ヶ谷式)	□ - 高 - 底 -	E	体上部片	埋土	200187
94	壺か甕(赤井戸・吉ヶ谷式)	□ - 高 - 底 -	E	肩部片	埋土	200184
95	壺か甕(赤井戸・吉ヶ谷式)	□ - 高 - 底 -	A	肩部片	埋土	200192
96	壺か甕(赤井戸・吉ヶ谷式)	□ - 高 - 底 -	F	体上部片	埋土	200189
97	壺か甕(赤井戸・吉ヶ谷式)	□ - 高 - 底 -	B	体部片	埋土	200188

I 区古墳時代の溝出土遺物 (第112図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□(17.2) 高 - 底 -	-	口縁破片	15号溝	200477
2	高杯	□(19.0) 高 - 底 -	E	杯部 1/3	16号溝	200478
3	S字状口縁台付甕	□(13.0) 高 - 底 -	A + F	口~肩部片	16号溝	200479
4	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 -	G	脚部片	16号溝	200480

J区河川跡1号河道出土遺物 (第115~122図 P.L.150~153)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	壺	□ 14.0 高 - 底 -	B	□~肩 3 / 4	埋土	200481
2	壺	□ (21.4) 高 - 底 -	A	□縁片	埋土	200482
3	壺(赤彩)	□ 18.8 高 - 底 -	A	□縁片	埋土	200483
4	壺	□ (21.0) 高 - 底 -	G	□縁片	埋土	200484
5	壺(赤彩)	□ - 高 - 底 -	A	□縁片	埋土	200485
6	壺	□ (20.0) 高 - 底 -	D	□縁片	埋土	200486
7	壺	□ (17.0) 高 - 底 -	A	□縁片	埋土	200487
8	壺	□ (17.0) 高 - 底 -	A	□縁片	埋土	200488
9	壺	□ (18.0) 高 - 底 -	A	□縁片	埋土	200489
10	壺	□ (15.5) 高 - 底 -	G	□縁片	埋土	200490
11	壺	□ (15.6) 高 - 底 -	G	□縁片	埋土	200491
12	壺	□ (17.5) 高 - 底 -	G	□縁片	埋土	200492
13	壺	□ (15.0) 高 - 底 -	A	□縁片	埋土	200493
14	直口壺	□ 15.6 高 - 底 -	B	□縁片	埋土	200494
15	壺	□ (11.0) 高 - 底 -	A	□~体部片	埋土	200495
16	壺	□ (13.0) 高 - 底 -	G	□~頸部破片	埋土	200496
17	壺	□ (14.6) 高 - 底 -	F	□縁片	埋土	200497
18	壺(樽式)	□ - 高 - 底 -	F	頸~肩部片	埋土	200498
19	壺	□ - 高 - 底 -	G	□縁片	埋土	200499
20	壺(東海型櫛描文)	□ - 高 - 底 -	A	肩片	埋土	200500
21	壺(東海型櫛描文)	□ - 高 - 底 -	E	頸片	埋土	200501
22	壺(東海型櫛描文)	□ - 高 - 底 -	G	肩片	埋土	200502
23	壺(東海型櫛描文)	□ - 高 - 底 -	H	肩片	埋土	200503
24	壺(東海型櫛描文)	□ - 高 - 底 -	H	肩片	埋土	200504
25	壺(東海型櫛描文)	□ - 高 - 底 -	H	肩片	埋土	200505
26	S字状口縁台付甕	□ (20.0) 高 - 底 -	C	□~肩部	埋土	200506
27	S字状口縁台付甕	□ (19.5) 高 - 底 -	F	□~肩 4 / 5	埋土	200507
28	S字状口縁台付甕	□ (18.0) 高 - 底 -	G	□~肩部	埋土	200508
29	S字状口縁台付甕	□ (15.2) 高 - 底 -	F	□~肩部	埋土	200509
30	S字状口縁台付甕	□ (15.2) 高 - 底 -	F	□~肩部	埋土	200510
31	S字状口縁台付甕	□ (15.0) 高 - 底 -	C	□~肩部	埋土	200511
32	S字状口縁台付甕	□ (14.3) 高 - 底 -	A	□~肩部	埋土	200512
33	S字状口縁台付甕	□ (14.0) 高 - 底 -	G + F	□~肩部	埋土	200513
34	S字状口縁台付甕	□ (15.4) 高 - 底 -	F	□~肩部	埋土	200514
35	S字状口縁台付甕	□ (16.6) 高 - 底 -	A + F	□~肩部	埋土	200515
36	S字状口縁台付甕	□ (16.0) 高 - 底 -	A	□~肩部	埋土	200516
37	S字状口縁台付甕	□ (15.6) 高 - 底 -	C	□~肩部	埋土	200517
38	S字状口縁台付甕	□ (14.9) 高 - 底 -	F	□~肩部	埋土	200518
39	S字状口縁台付甕	□ (15.0) 高 - 底 -	F	□~肩部	埋土	200519
40	S字状口縁台付甕	□ (12.2) 高 - 底 -	A + F	□~肩部	埋土	200520
41	S字状口縁台付甕	□ (13.5) 高 - 底 -	A + F	□~肩部	埋土	200521
42	S字状口縁台付甕	□ (13.6) 高 - 底 -	A	□~肩 1 / 2	埋土	200522
43	S字状口縁台付甕	□ (12.8) 高 - 底 -	E	□~体部	埋土	200523
44	S字状口縁台付甕	□ 11.2 高 - 底 -	A	□~肩 1 / 2	埋土	200524
45	S字状口縁台付甕	□ (12.0) 高 - 底 -	F	□~肩部	埋土	200525
46	S字状口縁台付甕	□ (11.6) 高 - 底 -	E	□~肩 1 / 2	埋土	200526
47	S字状口縁台付甕	□ (13.0) 高 - 底 -	E + 骨針	□~肩部片	埋土	200527
48	S字状口縁台付甕	□ (10.4) 高 - 底 -	A + F	□~体片	埋土	200528
49	S字状口縁(鉢)	□ (10.4) 高 - 底 -	A	□~体下半	埋土	200529
50	S字状口縁台付甕	□ (10.0) 高 - 底 -	A	□~体片	埋土	200530
51	S字状口縁台付甕	□ (14.0) 高 - 底 -	C	□~肩部	埋土	200531
52	S字状口縁台付甕	□ (28.0) 高 - 底 -	E	□縁	埋土	200532
53	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 -	E	頸~肩部	埋土	200533
54	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 -	C	頸~肩部	埋土	200534
55	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 11.1	C	体下~脚部	埋土	200535
56	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 -	D	体下~脚接合部	埋土	200536
57	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 10.0	A + F	脚部	埋土	200537
58	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 10.4	E	脚部	埋土	200538
59	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 (10.8)	G + F	脚部	埋土	200539

60	S字状口縁台付甕	口	-	高	-	底	-	A	体下~脚接合部	埋土	200540
61	S字状口縁台付甕	口	-	高	-	底	-	A	体下~脚接合部	埋土	200541
62	S字状口縁台付甕	口	-	高	-	底	-	E	体下~脚接合部	埋土	200542
63	S字状口縁台付甕	口	-	高	-	底	5.7×6.1	G	体下~脚 1/2	埋土	200543
64	S字状口縁台付甕	口	-	高	-	底	(8.0)	E	体下~脚 1/2	埋土	200544
65	小型甕	口(13.0)	高	-	底	-	-	A	口~体部	埋土	200545
66	甕	口(13.0)	高	-	底	-	-	E	口~体部片	埋土	200546
67	甕	口(16.0)	高	-	底	-	-	G	口~肩	埋土	200547
68	台付甕	口	-	高	-	底	(7.0)	B	台部	埋土	200548
69	甕	口(22.0)	高	-	底	-	-	A	口縁片	埋土	200549
70	壺	口(16.0)	高	-	底	-	-	G	口縁片	埋土	200550
71	台付甕	口(14.5)	高	-	底	-	-	G+B	口~体下部	埋土	200551
72	甕	口(15.4)	高	(18.7)	底	(5.7)	-	G	口~底 3/4	埋土	200552
73	甕	口(13.0)	高	25.0	底	6.7	-	G	口~底 3/4	埋土	200553
74	注口壺	口	5.2	高	-	底	-	G	口~肩部	埋土	200554
75	高杯(赤彩)	口(16.8)	高	-	底	-	-	A	杯部片	埋土	200555
76	高杯	口	10.3	高	-	底	-	B	杯部 1/2	埋土	200556
77	高杯	口	-	高	-	底	-	A+B	杯部小片	埋土	200557
78	高杯	口	14.8	高	-	底	-	G	杯部	埋土	200558
79	高杯	口(15.2)	高	(12.2)	底	(12.2)	-	B	口~脚 1/2	埋土	200559
80	高杯	口(15.8)	高	13.2	底	12.2	-	F	口~脚 1/2	埋土	200560
81	高杯	口	16.4	高	-	底	-	G	杯部	埋土	200561
82	高杯(弥生土器か)	口	-	高	-	底	(8.9)	G+雲母	脚部 1/2	埋土	200562
83	高杯	口	-	高	-	底	8.0	A	脚部片	埋土	200563
84	高杯	口	-	高	-	底	10.1	G	脚部	埋土	200564
85	(器台)	口	-	高	-	底	(18.4)	A	脚部 1/3	埋土	200565
86	高杯	口	-	高	-	底	(12.0)	B	脚部片	埋土	200566
87	高杯	口	-	高	-	底	-	A	杯~脚部片	埋土	200567
88	高杯	口	-	高	-	底	11.5	G	脚部	埋土	200568
89	高杯	口	-	高	-	底	(11.0)	A	脚部	埋土	200569
90	高杯	口	-	高	-	底	11.4	B	脚部	埋土	200570
91	高杯	口	-	高	-	底	-	A	脚部	埋土	200571
92	高杯	口	-	高	-	底	(12.4)	B	杯~脚部	埋土	200572
93	高杯	口	-	高	-	底	11.6	D	脚部 1/2	埋土	200573
94	高杯	口	-	高	-	底	(10.8)	A+F	脚部	埋土	200574
95	罎	口	19.0	高	-	底	-	A	口~体	埋土	200575
96	罎	口	18.0	高	6.2	底	-	B	口~底部	埋土	200576
97	罎	口	15.1	高	-	底	-	B	口~底部	埋土	200577
98	杯	口(15.2)	高	-	底	-	-	B	口縁 1/5	埋土	200578
99	罎	口(10.0)	高	-	底	-	-	G	口~底部片	埋土	200579
100	罎	口(9.0)	高	9.2	底	-	-	B	口~底部	埋土	200580
101	小型甕	口(10.0)	高	-	底	-	-	G	口~体部	埋土	200581
102	小型甕	口(10.0)	高	-	底	-	-	A+E	口~体部	埋土	200582
103	罎	口	-	高	-	底	-	A	口縁欠	埋土	200583
104	小型壺	口	-	高	-	底	3.4	G	体~底	埋土	200584
105	小型壺	口	-	高	-	底	4.4	A+B	口縁欠	埋土	200585
106	小壺	口(7.5)	高	-	底	-	-	B	口縁	埋土	200586
107	小壺	口(6.9)	高	-	底	-	-	G	口~体部	埋土	200587
108	小型甕(体部穿孔)	口	10.0	高	11.8	底	4.7	G	口~底部	埋土	200588
109	器台	口(8.2)	高	8.1	底	(10.0)	-	E	器受~脚 2/3	埋土	200589
110	器台	口(7.8)	高	-	底	-	-	A	器受~脚 2/3	埋土	200590
111	器台	口(8.0)	高	-	底	-	-	G	器受~脚 1/2	埋土	200591
112	器台	口(10.0)	高	-	底	-	-	G	器受部片	埋土	200592
113	器台	口	-	高	-	底	-	F	脚部	埋土	200593
114	有孔鉢	口	-	高	-	底	(5.8)	G	底部	埋土	200594
115	有孔鉢	口	-	高	-	底	(4.0) 孔径(1.0)	G	底部 1/2	埋土	200595
116	有孔鉢	口	-	高	-	底	(4.4) 孔径(1.8)	G	底部	埋土	200596
117	鉢(有孔)	口	14.2	高	-	底	-	G	口~体部	埋土	200597
118	有孔鉢	口	-	高	-	底	4.2 孔径 1.0	E	体下~底 1/5	埋土	200598
119	壺	口	-	高	-	底	4.9	B	体~底	埋土	200599
120	壺	口	-	高	-	底	6.2	A	体~底部片	埋土	200600
121	壺	口	-	高	-	底	13.0	E	底部	埋土	200601

122	(壺)	□ - 高 - 底(8.3)	G	体下~底 1/2	埋土	200602
123	壺	□ - 高 - 底 7.0	G	底部片	埋土	200603
124	壺	□ - 高 - 底 7.0	C	底部片	埋土	200604
125	(壺)(木葉痕)	□ - 高 - 底 5.8	G	底部片	埋土	200605
126	鉢形手捏ね	□ 6.0 高 2.4 底 3.1	G	□~底 3/4	埋土	200606
127	鉢形手捏ね	□(5.5) 高 4.0 底(1.5)	G	□~底 1/4	埋土	200607
128	鉢形手捏ね	□ 7.0 高 4.4 底 2.8	G	完形	埋土	200608
129	水注(須恵)	□ 2.5 高 4.8 底 2.9	D	ほぼ完形	埋土	200609
130	杯	□(12.8) 高(4.2) 底 -	B	□~底 1/2	埋土	200610
131	甕	□(11.0) 高 - 底 -	B	□縁片	埋土	200611
132	管玉	長 1.7 径 0.5 孔径 0.2 重 0.7	碧玉	末端部欠	埋土	200028
133	切子玉	長 1.8 径 1.3 孔径 0.2 重 3.3	水晶	完形	埋土	200029
134	土製丸玉	長 0.8 径 0.9 孔径 0.2 重 0.4		完形	埋土	200612
135	土製紡錘車	径 5.7 厚 1.7 孔径 0.6 重64.3	A	完形	埋土	200613
136	土製紡錘車	径 4.5 厚 1.3 孔径 0.6 重12.8	G	1/2	埋土	200614
137	石製紡錘車	上径3.2 下径2.1 厚1.9 孔径0.7 重28.2	滑石	完形	埋土	200030
138	鍬(身) (柄)	長 32.5 現幅 12.0 厚(ほぞ部)3.5	アカガシ亜属 カバノキ属	側縁欠	埋土	11
139	斧柄	長 30.0 径 2.5	ヤマグワ	頭部一部欠	埋土	24
140	一木鋤	現長66.9 肩幅 3.0 厚 2.0 柄径 3.7	アカガシ亜属	刃端・柄端欠	埋土	32
141	(鍬)	現長16.0 幅10.0 厚 1.5	トチノキ	刃部片	埋土	13
142	加工板(ほぞ穴あり)	現長58.7 幅11.8 厚 1.8	クヌギ節		埋土	46
143	(刀形木製品)	現長74.8 幅 4.4 厚 2.4	クヌギ節		埋土	45
144	加工棒	現長93.3 幅 3.8 厚 2.5	クヌギ節		埋土	44
145	角棒	現長76.8 幅 3.6 厚 2.2	クヌギ節		埋土	42
146	(坑)	現長60.0 径 4.0	カエデ属		埋土	26
147	加工棒	現長57.0 径 2.5	ヤマグワ		埋土	34
148	加工棒	現長49.4 径 2.5	ヤマグワ		埋土	33
149	(建物柱)(擦痕あり)	現長49.1 径 7.5	クヌギ節		埋土	31
150	杭	現長26.5 径 4.2	アカメガシワ		埋土	23
151	杭	現長27.0 径 3.0	ケンボナン属		埋土	25
152	加工棒	現長29.0 径 1.3	ヤマグワ		埋土	53
153	加工棒	現長74.0 径 1.8	ヤナギ属		埋土	50
154	加工棒	長 71.7 径 1.6	アカガシ亜属		埋土	51
155	加工棒	長 92.0 径 1.8	ヤマグワ		埋土	52

J 区河川跡 2 号河道出土遺物 (第123図 P L.153)

番号	器 種	法 量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	壺	□(18.0) 高 - 底 -	A+B	□縁片	埋土	200615
2	甕	□(13.0) 高 - 底 -	A	□~体上 1/2	埋土	200616
3	高杯	□ - 高 - 底 -	C	杯~脚部	埋土	200617
4	高杯	□ - 高 - 底 12.6	A	脚部	埋土	200618
5	高杯	□ - 高 - 底 11.0	A	脚部 1/2	埋土	200619
6	罎	□ 10.5 高 6.4 底 3.4	A	□~底 1/4	埋土	200620
7	手捏ね(壺形)	□ - 高 - 底(4.0)	B	体~底 1/2	埋土	200621
8	蓋(須恵)	端部径 14.2 高 4.7	E	端部一部欠	埋土	200622
9	杯	□ 11.4 高 - 底 -	B	□~底 1/2	埋土	200623
10	杯	□ 12.8 高 4.8 底 -	B	□~底 1/2	埋土	200624
11	杯	□ 12.0 高 4.0 底 -	B	□縁一部欠	埋土	200625
12	杯	□ 12.8 高 4.7 底 -	B	□~底 1/4 欠	埋土	200626
13	杯	□ 13.2~12.1 高 4.1 底 -	B	完形	埋土	200627
14	杯	□ 12.6 高 3.6 底 -	B	□~底 1/3 欠	埋土	200628
15	鉢	□(24.0) 高 - 底 -	G	□~体部片	埋土	200629
16	鉢(内面黒色処理)	□(26.0) 高 - 底 -	A	□縁小片	埋土	200630
17	(壺)	□ - 高 - 底 8.0	C	底部	埋土	200631
18	勾玉(未製品)	長(1.5) 径 0.5 厚 0.4 重 1.0	滑石	1/2	埋土	200031
19	勾玉	長 1.0 径 0.7 厚 0.2 重 0.3	ひすい	完形	埋土	200032

J区河川跡出土遺物 (第124図 P L.153)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	壺	□(17.0) 高 - 底 -	A	口縁片	埋土	200632
2	壺	□(18.7) 高 - 底 -	B	口縁	埋土	200633
3	壺	□(17.0) 高 - 底 -	A	口縁1/2	埋土	200634
4	壺	□ - 高 - 底 -	A	(口縁)片	埋土	200635
5	(壺)(斜格子文)	□ - 高 - 底 -	微細少量含む	(肩)片	埋土	200636
6	S字状口縁台付甕	□(15.0) 高 - 底 -	A + F	□~肩部	埋土	200637
7	S字状口縁台付甕	□(14.0) 高 - 底 -	A + F	□~肩部	埋土	200638
8	S字状口縁台付甕	□(18.0) 高 - 底 -	A + F	□~肩部	埋土	200639
9	S字状口縁台付甕	□(13.6) 高 - 底 -	G	□~肩部片	埋土	200640
10	小型壺	□(10.4) 高 - 底 -	G	□~体部片	埋土	200641
11	台付甕	□(11.0) 高 - 底 -	G	台部	埋土	200642
12	埴	□ 8.8 高 8.2 底 -	A	□~底部	埋土	200643
13	鉢	□ 10.0 高 5.8 底 -	A	□~底部	埋土	200644
14	鉢形手捏ね	□(3.6) 高(3.3) 底(3.0)	A	□~底1/3	埋土	200645
15	高杯	□ - 高 - 底 -	A	脚部1/3	埋土	200646
16	高杯	□ - 高 - 底 -	C	脚部	埋土	200647
17	古代瓦	□ - 高 - 底 -	E		埋土	200648
18	古代瓦	□ - 高 - 底 -	D	中央部片	埋土	200649
19	灰釉皿(丸石2号窯式期)	□(11.3) 高 2.3 底(6.0)	H	□~底1/2	埋土	200650

古墳時代遺構外出土遺物 (第125・126図 P L.153)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	壺	□ 13.7 高 - 底 -	G	口縁	I区	200651
2	壺(パレススタイル)	□ - 高 - 底 -	A + C	口縁片	H区	200652
3	壺	□(11.0) 高 - 底 -	A	□~頸1/4	H区畠	200653
4	壺	□(16.0) 高 - 底 -	G	口縁1/3	I区	200654
5	壺	□(18.5) 高 - 底 -	E	口縁片	I区11号溝	200655
6	壺(櫛状具刺突)	□ - 高 - 底 -	G	□~体中1/4	I区	200656
7	壺(櫛状具刺突・横線)	□ - 高 - 底 -	E	肩片	I区	200657
8	壺(波状文)	□ - 高 - 底 -	G	肩破片	I区1号住居	200658
9	壺(波状文・横線)	□ - 高 - 底 -	G	(肩)破片	I区1号井戸	200659
10	S字状口縁台付甕	□(10.2) 高 - 底 -	E	□~肩1/4	H区	200660
11	S字状口縁台付甕	□(12.0) 高 - 底 -	A + F	□~肩破片	I区	200661
12	S字状口縁台付甕	□(12.2) 高 - 底 -	F	□~肩破片	H区畠	200662
13	S字状口縁台付甕	□(16.0) 高 - 底 -	A + F	□~肩	I区	200663
14	S字状口縁台付甕	□(11.0) 高 - 底 -	F	□~肩部	I区	200664
15	甕	□(16.8) 高 - 底 -	G	□~肩片	I区	200665
16	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 -	C	脚接合部片	I区	200666
17	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 8.4	F	脚部3/4	H区畠	200667
18	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底 9.4	G	脚部1/2	I区	200668
19	S字状口縁台付甕	□ - 高 - 底(7.0)	A	脚部	I区	200669
20	台付甕	□ - 高 - 底(8.0)	G	台部1/3	H区	200670
21	台付甕	□ - 高 - 底 7.0	A	台部	I区	200671
22	甕(北陸系千種甕)	□ - 高 - 底 -	G	口縁片	I区16号井戸	200672
23	高杯	□ 17.0 高 - 底 -	E	杯部3/4	H区	200673
24	高杯	□(18.0) 高 - 底 -	B	杯部1/3	I区	200674
25	高杯	□(15.0) 高 - 底 -	A + F	杯部片	I区	200675
26	高杯	□(16.0) 高 - 底 -	A	杯部1/3	I区	200676
27	高杯	□ - 高 - 底 -	E	杯~脚部	H区畠	200677
28	高杯	□ - 高 - 底 -	A	脚部片	I区	200678
29	高杯	□ - 高 - 底(11.0)	A	脚部1/4	I区	200679
30	高杯	□ - 高 - 底(8.3)	A	脚部1/3	H区	200680
31	鉢	□(10.0) 高 7.4 底 4.0	E	□~底1/3	H区	200681
32	鉢	□(11.6) 高 - 底 -	A	□~体1/4	H区	200682
33	小型甕	□(9.0) 高 - 底 -	A	□~体部	I区	200683
34	埴	□(14.0) 高 - 底 -	E	口縁1/5	I区	200684
35	埴	□(10.0) 高 4.6 底 -	F	□~底2/3	I区	200685

36	埴	□(9.6) 高 - 底 -	F	□~体	I 区	200686
37	埴	□(10.0) 高 9.8 底(2.5)	E	□~底1/2	J 区	200687
38	埴	□ - 高 - 底 -	G	底部	I 区	200688
39	器台	□(8.0) 高 - 底 -	F	器受~脚部片	H 区	200689
40	器台	□ - 高 - 底(13.8)	G	器受~脚1/4	I 区	200690
41	器台	□ - 高 - 底 12.6	C	脚部のみ	H 区	200691
42	器台	□ - 高 - 底 -	A	器受部~脚上部	I 区	200692
43	器台	□ - 高 - 底(9.0)	E	脚部1/3	I 区	200693
44	小型壺	□ 11.2 高 - 底 -	B	□~体2/3	I 区	200694
45	杯	□ 12.0 高 - 底 -	B	□~体1/4	I 区	200695
46	鉢形手捏ね	□(8.7) 高 3.6 底(4.0)	B	□~底片	I 区	200696

H区1号住居跡出土遺物 (第128図 P L.154)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯(内面漆)	□ 12.0 高 3.3 底 7.2	G	底部1/4欠	竈燃焼部	200697
2	杯	□(12.0) 高 - 底 -	A	□~体1/2	竈内	200698
3	灰釉小瓶か手付瓶	□ - 高 - 底(7.0)	黒色細粒含む	底部片	床面	200699
4	椀	□(14.0) 高 - 底 -	D	□~体部片	埋土下層	200700
5	鉢	□ 20.0 高 8.8 底 11.7	A	□~底1/2	竈掘方	200701
6	甕	□ 21.0 高 - 底 -	A	□~体中1/4	竈燃焼部	200702
7	甕	□(14.0) 高 - 底 -	G+雲母	□~体部片	埋土下層	200703
8	甕	□(19.8) 高 - 底 -	G	□~体中位片	竈燃焼部	200704
9	甕	□ - 高 - 底(3.5)	A	体下~底片	竈燃焼部	200705
10	甕	□ - 高 - 底 3.5	A	体下~底片	竈右前床	200706

H区6号住居跡出土遺物 (第131図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	蓋	□(18.0) 高 - 底 -	E	端部片	掘方埋土	200707
2	杯	□(12.0) 高 - 底 -	G	□縁片	竈内	200708

H区8号住居跡出土遺物 (第133図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□ 11.8 高 3.5 底 -	A	□~底1/2	掘方埋土	200709
2	杯	□ - 高 - 底(7.0)	E	体~底1/3	掘方埋土	200710
3	杯	□ - 高 - 底(9.0)	E	体~底1/3	掘方埋土	200711

H区10・11号住居跡出土遺物 (第135図 P L.154)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□ 12.0 高 3.1 底 -	G	□縁一部欠	11号住居埋土	200712
2	盤	□ - 高 - 底 -	E	□~体部片	10号住居埋土	200713

I区2号住居跡出土遺物 (第136図 P L.154)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□(12.7) 高 3.4 底(6.7)	D	□~底1/3	埋土	200714
2	杯	□ - 高 - 底(6.6)	D	底部1/4	埋土	200715

I区6号住居跡出土遺物 (第137図 P L.154)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□ 12.4 高 3.3 底 -	G	□~底4/5	2号貯蔵穴	200716
2	椀	□ - 高 - 底 7.1	E	底部のみ	2号貯蔵穴	200717
3	杯	□ 13.1 高 3.9 底 6.4	G+片岩	□~底3/4	2号貯蔵穴	200718
4	土製紡錘車(紡輪)	径(5.0) 厚 1.3 重 23.1	A	1/4	埋土	200719

J区1号住居跡出土遺物 (第139図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	灰釉碗(大原2号窯式期)	□(14.2) 高 - 底 -	砂粒みられず	□~体破片	埋土	200720
2	椀	□ - 高 - 底 6.0	B	体~台1/2	埋土	200721

J区2号住居跡出土遺物 (第140図 P L.154)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□(13.8) 高 - 底 -	A	□~体1/3	埋土	200722
2	杯	□(11.9) 高 - 底 -	A	□~体1/4	埋土	200723
3	甕	□(25.6) 高 - 底 -	E	□~肩1/4	埋土	200724
4	刀子	長 4.5 幅 1.5 厚 0.6		鋒部片	埋土	200001

J区3・8号住居跡出土遺物 (第142図 P L.154)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□ 13.3 高 3.8 底 6.5	B	□~底2/3	3号住居埋土	200725
2	杯	□(12.1) 高 3.8 底 6.6	A	□~底1/4	3号住居埋土	200726
3	杯	□(12.0) 高 3.5 底 -	A	□~底1/4	3号住居埋土	200727
4	杯	□ 13.4 高 4.1 底 6.0	D	□~底1/2	3号住居埋土	200728
5	杯	□ - 高 - 底 5.5	E	体~底1/2	3号住居埋土	200729
6	椀	□ - 高 - 底 -	A	体~台1/2	3号住居埋土	200730
7	椀	□ - 高 - 底 6.6	B	体~高台部	3号住居埋土	200731
8	椀	□ - 高 - 底 6.7	A + F	高台部片	3号住居埋土	200732
9	椀	□ - 高 - 底 8.0	D	高台部のみ	3号住居埋土	200733
10	椀	□ - 高 - 底(6.3)	D	体~台1/4	3号住居埋土	200734
11	長頸壺	□(10.8) 高 - 底 -	E	口縁片	3号住居埋土	200735
12	(台付甕)	□ - 高 - 底 -	B	台部接合部	3号住居埋土	200736
13	甕	□(24.0) 高 - 底 -	D	□~体上1/5	3号住居埋土	200737
14	杯	□(14.0) 高 - 底 -	A	□~底1/6	8号住居埋土	200738
15	杯	□(11.8) 高 3.8 底 -	A	□~底1/3	8号住居埋土	200739
16	杯	□(13.0) 高 - 底 -	A	□~底1/5	8号住居埋土	200740
17	椀?	□(14.0) 高 - 底 -	E	□~体1/5	8号住居埋土	200741
18	杯	□ - 高 - 底(8.0)	B	底部1/5	8号住居埋土	200742
19	蓋	□ - 高 - 底 - つまみ 3.5	E	つまみ部	8号住居埋土	200743
20	甕	□(22.0) 高 - 底 -	A	口縁1/5	8号住居埋土	200744
21	甕	□ - 高 - 底(13.0)	E	体下~底片	8号住居埋土	200745
22	(甕)	□ - 高 - 底 16.5	E	体下~底1/3	8号住居埋土	200746

J区4号住居跡出土遺物 (第143図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	蓋	□(18.0) 高 - 底 -	D	端部片	掘方埋土	200747
2	杯	□ 13.0 高 - 底 -	A	□~底破片	掘方埋土	200748
3	杯	□(12.0) 高 3.7 底(7.5)	E	□~底1/6	掘方埋土	200749

J区5号住居跡出土遺物 (第144図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□ 10.0 高 2.1 底 4.7	B	口縁一部欠	埋土	200750
2	羽釜	□ - 高 - 底 -	E	口縁片	竈	200751
3	羽釜	□ - 高 - 底 -	E	口縁片	竈	200752

J区6・7号住居跡出土遺物 (第145図 P L.154)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	灰釉碗(大原2号窯式期)	□(16.0) 高 - 底 -	黒色微粒含む	口縁1/5	6号住居埋土	200753
2	椀	□ - 高 - 底(9.0)	B	高台のみ	6号住居埋土	200754
3	羽釜	□ - 高 - 底 -	E	口縁破片	6号住居埋土	200755
4	椀	□ - 高 - 底(8.0)	E	底部1/4	7号住居埋土	200756
5	灰釉皿(大原2号窯式期)	□ - 高 - 底(6.6)	砂粒なし	底部破片	7号住居埋土	200757

6	甌(須恵)	□ - 高 - 底(19.5)	B	底部破片	7号住居埋土	200758
7	土鍬	長 4.8 幅 1.7 重 11.0g 孔径 0.3	B	ほぼ完形	7号住居埋土	200759

J区9・10号住居跡出土遺物 (第146図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	椀	□(13.6) 高 - 底 -	E	□~体片	10号住居埋土	200760
2	杯	□(10.8) 高 - 底 -	E	□~底片	9号住居埋土	200761
3	杯	□ 12.8 高 2.9 底 8.0	B	□~底 2 / 3	掘方	200762
4	鉢	□(17.0) 高 - 底 -	D	□~体 1 / 4	10号住居埋土	200763
5	杯	□(13.0) 高 - 底 -	A	□~体 1 / 4	10号住居埋土	200764
6	椀	□ - 高 - 底 -	B	体下部 1 / 3	9号住居埋土	200765
7	甕	□(12.0) 高 - 底 -	G	□~体 1 / 5	埋土	200766
8	甕	□(21.6) 高 - 底 -	A	□縁片	10号住居埋土	200767
9	台付甕	□ - 高 - 底 8.6	A	体下~台 1 / 2	埋土	200768

J区11号住居跡出土遺物 (第149図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	蓋	□ - 高 - 底 - つまみ 3.75	E	つまみ部	埋土	200769
2	杯	□(12.0) 高 - 底 -	A	□~体 1 / 4	埋土	200770
3	椀	□ - 高 - 底 (6.0)	G	体~台 1 / 2	埋土	200771
4	椀	□ - 高 - 底 (6.8)	H+雲母	底部片	3床下坑	200772

J区12号住居跡出土遺物 (第150図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	高台椀	□ - 高 - 底 (7.0)	E	体~台 1 / 2	埋土	200773
2	灰釉碗(光ヶ丘1号窯式期)	□ - 高 - 底 (7.0)	砂粒含まず	底部片	埋土	200774
3	椀(蓋?)	□ - 高 - 底 -	B	体部片	埋土	200775
4	平瓦		B	破片	埋土	200776

J区15号住居跡出土遺物 (第151図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□ - 高 - 底 (7.6)	A+雲母	体~底 3 / 4	埋土	200777

J区19号住居跡出土遺物 (第152図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	鉢	□(14.6) 高 - 底 -	A	□~体 1 / 6	埋土	200778
2	(丸瓦)		B	破片	埋土	200779
3	平瓦		B	破片	埋土	200780

J区16号住居跡出土遺物 (第153図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□(13.0) 高 3.3 底 -	A	□~底 1 / 3	埋土	200781
2	杯	□(14.0) 高 - 底 -	A	□~底 1 / 4	埋土	200782
3	杯	□ 12.6 高 3.6 底 7.4	D	□~底 3 / 4	P 2	200783

J区17号住居跡出土遺物 (第155図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□(12.0) 高 - 底 -	A	□~体 1 / 4	埋土	200784
2	杯	□ - 高 - 底 7.0	E	底部 1 / 4	埋土	200785
3	甕	□(22.0) 高 - 底 -	A	□縁片	竈	200786

J区20号住居跡出土遺物 (第157図 PL.154・155)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	灰釉輪花碗(大原2号窯式期)	□(14.0) 高 - 底 -	黒色粒わずか	□~体1/6	埋土	200787
2	灰釉碗(大原2号窯式期)	□(13.7) 高 4.35 底(7.0)	黒白細砂少量	□~台1/2	北東隅床	200788
3	灰釉輪花皿(大原2号窯式期)	□(16.0) 高 - 底 -	夾雑物少ない	□~体部片	埋土	200789
4	椀	□(14.5) 高 6.0 底(7.3)	C	□~台2/3	埋土	200790
5	羽釜	□ 18.4 高 24.8 底 7.6	F	□~底1/3	北東隅床	200791

J区21号住居跡出土遺物 (第160図 PL.155)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□(12.0) 高 - 底 -	B	□~体片	竈	200792
2	(杯)	□(9.6) 高 - 底 5.4	B	□~底1/3	埋土	200793
3	杯	□ - 高 - 底 5.7	B	体~底部	床面	200794
4	灰釉碗(大原2号窯式期)	□ - 高 - 底(8.0)	黒白細砂少量	体~底1/3	床面	200795
5	灰釉平瓶(猿投・井ヶ谷78)	最大径(14.3) 高 - 底 -	石英長石細砂	体部1/3	埋土	200796
6	羽釜	□(22.0) 高 - 底 -	F	□~体1/4	竈	200797
7	羽釜	□(21.2) 高 - 底 -	E	□縁片	竈	200798
8	羽釜	□(23.0) 高 - 底 -	F	□縁1/4	竈	200799

J区22号住居跡出土遺物 (第162図 PL.155)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□(13.2) 高 4.0 底(8.4)	D	□~底1/6	埋土	200800
2	杯	□ 11.6 高 3.9 底 4.8	A	完形	竈右脇	200801
3	椀	□(14.6) 高 5.4 底(7.9)	E+雲母	□~底1/3	竈右脇	200802
4	椀	□ 12.4 高 5.2 底 7.3	E	□縁一部欠	竈右脇	200803
5	椀	□(12.8) 高(5.0) 底(6.3)	E	□~台3/4	竈右脇	200804
6	(甕)	□ - 高 - 底 7.3	G	体下~底部	竈右脇	200805
7	椀	□ 14.0 高 4.6 底 6.3	C	□~台1/2	竈右脇	200806
8	甕	□ - 高 - 底 5.6	C	体下~底部	竈右脇	200807

J区24号住居跡出土遺物 (第164図 PL.155)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	椀	□ - 高 - 底(8.0)	A	体~台1/3	埋土	200808
2	椀	□(11.2) 高 4.3 底 6.3	E	□~台1/2	床面	200809
3	椀	□ - 高 - 底(8.8)	B	体下~台1/2	埋土	200810
4	椀	□ - 高 - 底(7.8)	G	台部1/2	埋土	200811
5	甕	□ - 高 - 底 7.6	C	底部片	貯蔵穴	200812

J区25号住居跡出土遺物 (第165図 PL.155)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	羽釜	□(21.5) 高 - 底 -	F	□縁小破片	竈内	200813
2	土錘	長 3.4 最大径 1.3 孔径 0.4 重 6.3	C	完形	埋土	200814
3	鉄製紡錘車	直径 4.8 軸径 0.4 厚 0.7 重 76.19		紡輪 2/3	竈焚口	200002

J区26号住居跡出土遺物 (第167図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	羽釜	□(26.3) 高 - 底 -	B	□縁小破片	竈	200815
2	緑釉皿	□ - 高 - 底 -		体部片	埋土	200816
3	甕か羽釜	□ - 高 - 底(16.8)	G	体下~底1/5	竈	200817

J区27号住居跡出土遺物 (第168図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	椀	□ - 高 - 底 7.5	A	高台部	埋土	200818

J区29号住居跡出土遺物 (第170図 P L.155)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	蓋	□ - 高 - 底 -	E	天井部 1/4	埋土	200819
2	蓋	□ - 高 - 底 -	E	つまみ部分	埋土	200820
3	高台杯	□(13.0) 高 - 底 -	E	□~体 1/3	埋土	200821
4	杯	□(12.3) 高 4.3 底 6.7	A+雲母	□~底 1/3	埋土	200822
5	椀	□(14.0) 高 5.2 底 6.4	C	□~台 1/2	埋土	200823
6	杯	□ - 高 - 底 6.2	G	体~底 1/3	埋土	200824
7	杯	□(12.4) 高 3.9 底 -	G	□~底 1/2	埋土	200825
8	杯	□(11.8) 高 2.8 底 -	G	□~底 1/4	埋土	200826
9	杯	□(12.2) 高 3.5 底 -	A	□~底 1/3	埋土	200827
10	杯	□ 12.6 高 2.9 底 -	G	□~底 1/2	埋土	200828
11	甕	□(19.0) 高 - 底 -	G	□縁片	埋土	200829

J区30号住居跡出土遺物 (第173図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	蓋	□(14.0) 高 - 底 -	E	天井 1/4	床直	200830
2	壺(須恵)	□ - 高 - 底(10.4)	E	底部片	掘方	200831
3	灰釉碗(大原2号窯式期)	□(15.3) 高 - 底 -	黒の微粒少量	□~体片	埋土	200832
4	椀	□(14.0) 高 4.6 底 -	G	□~底 1/3	床直	200833
5	杯	□(12.0) 高 3.5 底 -	F	□~底 1/4	埋土	200834

J区31号住居跡出土遺物 (第174図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□(13.0) 高 - 底 -	A	□縁小片	埋土	200835
2	甕	□(12.2) 高 - 底 -	G	□縁小片	埋土	200836

J区32号住居跡出土遺物 (第175図 P L.155)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	皿	□ 13.7 高 2.8 底 6.4	B	□ 1/3 欠	埋土	200837
2	蓋	□ 11.7 高 2.1 底 5.8	B	端部 1/3 欠	埋土	200838
3	灰釉皿(大原2号窯式期)	□ 14.0 高 3.6 底 7.4	黒の微粒少量	□~底 1/4	埋土	200839
4	皿	□(14.0) 高 2.1 底(5.7)	E	□~底小片	竈	200840
5	椀	□ - 高 - 底 7.5	B	底~台部	埋土	200841
6	鉢(須恵)	□(18.3) 高 - 底 -	B	□~体 1/3	埋土	200842
7	杯	□ 11.7 高 3.3 底 -	G	□~底 2/3	埋土	200843
8	杯	□(11.7) 高 3.0 底 -	G	□~底 1/3	埋土	200844
9	土釜	□(21.4) 高 - 底 -	B	□縁破片	埋土	200845
10	羽釜	□(24.5) 高 - 底 -	F	□~体上 1/2	埋土	200846
11	羽釜	□(21.8) 高 - 底 -	B	□~体上 1/6	竈	200847
12	羽釜か土釜	□ - 高 - 底(8.5)	F	体下~底 1/2	埋土	200848
13	(釜)	□ - 高 - 底 9.0	H	底部破片	埋土	200849
14	鎌	長(11.7) 幅 3.7 厚 0.8		先端欠	床面	200003
15	刀子	長 7.5 幅 1.4 厚 0.6		鋒・茎端欠	埋土	200004

J区34号住居跡出土遺物 (第176図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□ - 高 - 底(8.3)	B	体下~底 1/3	埋土	200850

J区35号住居跡出土遺物 (第177図 P L.156)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□ 12.4 高 3.7 底 -	B	□~底 3/4	埋土	200851
2	杯	□ 12.0 高 2.9 底 -	E	□~底 3/4	埋土	200852
3	杯	□(12.3) 高 3.1 底 -	E	□~底 1/2	埋土	200853
4	杯	□(12.8) 高 2.6 底 -	B	□~底 1/3	埋土	200854
5	杯	□ 12.3 高 3.5 底 -	G	□縁一部欠	埋土	200855

6	杯	□(13.8) 高 3.7 底 -	G	□~底 1/3	埋土	200856
7	杯	□ 12.5 高 3.2 底 -	G	完形	埋土	200857
8	杯	□(14.4) 高 - 底 -	B	□~底 1/4	埋土	200858
9	杯	□(12.0) 高 2.5 底 -	G	□~底 1/4	埋土	200859
10	杯	□ 12.0 高 2.8 底 -	E	□~底 2/3	埋土	200860
11	杯	□ 12.8 高 3.7 底 7.2	D	□~底 2/3	埋土	200861

J 区36号住居跡出土遺物 (第178図 P L.156)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	灰釉碗(大原2号窯式期)	□(15.2) 高 5.7 底 7.7	砂粒含まず	□~底 1/2	埋土下層	200862

J 区37号住居跡出土遺物 (第179図 P L.156)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	椀	□(13.6) 高 4.8 底 6.0	E	□~台 1/2	埋土	200863
2	杯	□ 12.1 高 3.6 底 5.6	B	□~底 4/5	貯蔵穴	200864
3	椀	□(14.5) 高 - 底 -	B	□~体 1/3	床面	200865
4	椀	□ 14.5 高 - 底 -	B	□~体 1/2	貯蔵穴	200866
5	椀	□(14.3) 高 5.3 底(6.5)	B	□~台 1/3	埋土	200867
6	杯	□ 11.7 高 3.6 底 7.1	G	□~底 4/5	埋土	200868
7	短頸壺	□(10.0) 高(4.6) 底 -	D	□~底 1/4	埋土	200869
8	甕	□(19.0) 高 - 底 -	B	□縁片	埋土	200870
9	甕	□(20.0) 高 - 底 -	B+雲母	□~体片	埋土	200871
10	ガラス小玉	縦 0.5 横 0.5 孔径 0.1 重 0.2	青緑色	完形	埋土	200001

J 区38号住居跡出土遺物 (第180図 P L.156)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	椀	□(16.5) 高 - 底 -	E	□~体片	埋土	200872
2	杯	□ 9.5 高 2.3 底 5.4	B	完形	埋土	200873
3	杯	□ 10.1 高 3.0 底 4.8	B	完形	埋土	200874

J 区39号住居跡出土遺物 (第181図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	(高台杯)	□ - 高 - 底(10.8)	E	底部 1/2	掘方埋土	200875

J 区40号住居跡出土遺物 (第182図 P L.156)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	羽釜	□(19.0) 高 - 底 -	E	□縁 1/4	竈	200876
2	羽釜	□(21.0) 高 - 底 -	A	□~体部片	竈	200877
3	羽釜	□(24.7) 高 - 底 -	B+白粘土	□~体部片	竈	200878
4	羽釜	□(22.0) 高 - 底 -	B	□~体部片	竈	200879
5	(羽釜)	□ - 高 - 底(8.0)	F	体下~底片	竈	200880
6	杯(土師質)	□(12.5) 高 4.2 底(5.2)	E	□~底 1/4	竈	200881

I 区1号塚跡出土遺物 (第191図 P L.156)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□ 13.5 高 4.4 底 5.8	A	□縁一部欠	周溝埋土下層	200882
2	杯	□ 8.6 高 1.9 底 4.6	B+白粘土塊	完形	周溝埋土下層	200883
3	杯	□ 7.8 高 1.9 底 3.8	微細なG	□縁一部欠	周溝埋土下層	200884
4	杯	□ 7.7 高 1.8 底 4.0	G+骨針	完形	周溝埋土下層	200885
5	椀	□ - 高 - 底 7.1	C+A	底部	周溝	200886
6	皿	□ 13.2 高 2.5 底 5.3	E	□~底 1/3	周溝	200887
7	杯	□(12.0) 高 3.6 底 -	A	□ 1/3 欠	周溝	200888
8	灰釉碗(光ヶ丘1号窯式期)	□ - 高 - 底(7.2)	白岩片の細粒	底片	周溝	200889

I区1号竖穴・3号井戸跡出土遺物(第192図 P L.157)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□ 13.0 高 3.8 底 5.9	C	□1/4欠	1号竖穴底面	200890
2	碗(内面黒色処理)	□ 14.0 高 5.0 底 5.9	A+E	□1/4欠	1号竖穴底面	200891
3	杯	□ 11.5 高 3.4 底 -	G	□縁一部欠	1号竖穴底面	200892
4	杯	□(11.6) 高 3.1 底(8.0)	G	□~底1/3	1号竖穴底面	200893
5	長頸壺(須恵)	□(10.0) 高 - 底 -	E	□縁片	3号井戸埋土	200894

J区2号井戸跡出土遺物(第193図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□(12.0) 高 3.0 底(8.6)	G	□~底1/4	埋土	200895

H区34号土坑出土遺物(第194図 P L.157)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	灰釉碗(虎溪山1号窯式期)	□ 7.4 高 7.0 底 9.0	白色細砂含む	完形	埋土	200896
2	碗	□ 14.6 高 6.1 底 8.6	B	□~台	埋土	200897
3	杯	□ 11.8 高 3.4 底 5.4	A	完形	埋土	200898
4	杯	□ 11.0 高 3.7 底 6.6	A	□縁一部欠	埋土	200899
5	杯	□ 9.9 高 3.0 底 5.0	A	完形	埋土	200900

H区35号土坑出土遺物(第195図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	甕	□(16.0) 高 - 底 -	G	□~肩部片	埋土	200901
2	杯	□ - 高 - 底(6.0)	E	体~底部片	埋土	200902

J区25号土坑出土遺物(第196図 P L.157)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□(12.0) 高 3.8 底(6.0)	A	□~底1/4	埋土	200903
2	灰釉皿(光ヶ丘1号窯式期)	□ 12.8 高 3.0 底 7.0	夾雑物なし	□~底3/4	埋土	200904

J区11号土坑出土遺物(第197図 P L.157)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□ 12.5 高 3.3 底 -	G	□~底3/4	埋土	200905
2	杯	□ 11.7 高 2.9 底 10.0	G	□~底1/2	埋土	200906

J区46号土坑出土遺物(第198図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	甕	□(20.0) 高 - 底 -	A	□~体上1/5	埋土	200907

J区59号土坑出土遺物(第199図 P L.157・158)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□(10.7) 高 3.4 底 -	G	□~底1/4	埋土	200908
2	杯	□ 12.6 高 4.0 底 5.9	C	□~底3/4	埋土	200909
3	杯	□(13.4) 高 5.5 底 6.2	G	□~底1/2	埋土	200910
4	碗	□(13.8) 高 5.4 底 6.5	E	□縁3/4欠	埋土	200911
5	灰釉碗(大原2号窯式期)	□ - 高 - 底 6.8	砂粒含まず	底部	埋土	200912
6	碗	□ - 高 - 底 8.7	B	高台部のみ	埋土	200913

J区41号土坑出土遺物(第200図 P L.158)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	台付甕	□ 13.0 高 - 底 -	B	台部欠	埋土	200914

J区68・69・73号土坑出土遺物（第201図）

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	椀	□(17.0) 高 - 底 -	C	□~体片	68号土坑	200915
2	杯	□ 14.0 高 - 底 -	A	□~底1 / 5	69号土坑	200916
3	甕	□ 17.6 高 - 底 -	G	□縁片	69号土坑	200917
4	杯	□ - 高 - 底 6.4	B	体~底1 / 2	73号土坑	200918
5	甕	□(18.0) 高 - 底 -	A+B	□~体片	73号土坑	200919

J区122号土坑出土遺物（第202図）

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□(13.0) 高 3.4 底 6.3	E	□~底片	埋土	200920

J区154号土坑出土遺物（第203図）

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□(13.6) 高 - 底 -	C	□~体部片	埋土	200921

J区155号土坑出土遺物（第204図）

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□(12.3) 高 3.9 底 (6.5)	E	□~底1 / 3	埋土	200922

J区181号土坑出土遺物（第205図 P L.158）

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	椀	□(10.0) 高 3.8 底 (6.0)	B	□~台1 / 2	埋土	200923
2	灰釉碗(大原2号窯式期新)	□(16.6) 高 6.6 底 9.0	黒の微粒少量	□~台1 / 3	埋土	200924
3	羽釜	□(18.0) 高 - 底 -	A	□縁小片	埋土	200925

J区191号土坑出土遺物（第206図）

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	灰釉皿(虎溪山1号窯式期)	□(12.8) 高 2.7 底 6.6	夾雑物なし	□~台1 / 4	埋土	200926
2	土釜	□(20.0) 高 - 底 -	G	□縁片	埋土	200927

E区5号溝出土遺物（第210図 P L.158）

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□(14.0) 高 - 底 -	B	□~底1 / 4	埋土	200928
2	杯	□(12.0) 高 3.1 底 -	B	□~底1 / 4	埋土	200929

H区42・43号溝出土遺物（第214図）

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□(12.0) 高 3.5 底 (6.5)	E	□~底1 / 3	42号溝埋土	200930
2	杯	□(14.0) 高 3.8 底 -	A	□ 4 / 5 欠	43号溝埋土	200931

H区5号溝出土遺物（第215図 P L.158）

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□ 13.8 高 3.3 底 -	A	□縁一部欠	埋土	200932
2	杯	□(14.4) 高 3.7 底 -	G	□~底1 / 3	埋土	200933
3	杯	□(13.3) 高 3.9 底 8.0	E	□ 3 / 4 欠	埋土	200934
4	杯	□ 12.2 高 3.2 底 9.0	G	□ 1 / 4 欠	埋土	200935
5	盤	□ - 高 - 底(18.0)	E	底部片	埋土	200936
6	罎	□ - 高 - 底 4.0	B	□縁欠	埋土	200937
7	(子持器台)	□ - 高 - 底 -	E(骨針)	脚部片	埋土	200938
8	椀	□(14.0) 高 4.8 底 (6.4)	G	□~台	埋土	200939
9	羽口	□ - 高 - 底 - 孔径(2.0)	E	破片	埋土	200940

I 区28号溝出土遺物 (第218図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	甕	□(18.6) 高 — 底 —	A	□~体片	埋土	200941

I 区2・3・5・8・9号溝出土遺物 (第244図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	皿	□(12.3) 高 2.1 底 (6.3)	B	□~底 1 / 4	2号溝埋土	200942
2	杯	□ — 高 — 底 (7.0)	D	底部片 1 / 6	2号溝埋土	200943
3	碗	□ — 高 — 底 (7.0)	E	底~高台部片	2号溝埋土	200944
4	杯	□(11.0) 高 — 底 —	A	□縁片	3号溝埋土	200945
5	杯	□ — 高 — 底 (6.6)	G	底部片	3号溝埋土	200946
6	甕(須恵)	□(38.0) 高 — 底 —	A	□縁片	5号溝埋土	200947
7	台付甕(土師)	□ — 高 — 底 (8.8)	G	台部 1 / 2	5号溝埋土	200948
8	杯	□(12.0) 高 — 底 —	A	□縁片	8号溝埋土	200949
9	杯	□ — 高 — 底 (7.0)	B	底部片	9号溝埋土	200950

J 区11・18号溝出土遺物 (第245図 P L.158)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	蓋	□ — 高 — 底 —	E	天井部欠	11号溝埋土	200951
2	杯	□ — 高 — 底 (6.0)	G	体~底破片	11号溝埋土	200952
3	杯	□(11.6) 高 4.1 底 (7.3)	D	□~底 1 / 5	18号溝埋土	200953
4	杯	□(13.0) 高 3.1 底 5.8	B	□~底 1 / 3	18号溝埋土	200954
5	杯	□(13.3) 高 4.1 底 —	E	□~底 1 / 4	18号溝埋土	200955
6	杯	□ — 高 — 底 5.6	E	体~底部	18号溝埋土	200956
7	碗	□ — 高 — 底 (7.7)	C	体~台 1 / 2	18号溝埋土	200957
8	甕	□ — 高 — 底 —	G	□縁破片	18号溝埋土	200958
9	台付甕	□ — 高 — 底 —	G	台接合部	18号溝埋土	200959

J 区19号溝出土遺物 (第248図 P L.158・159)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□(12.6) 高 3.5 底 —	G	□~底 1 / 4	埋土	200960
2	杯	□ 13.0 高 2.9 底 —	E	完形	埋土	200961
3	杯	□ 11.6 高 3.2 底 8.0	G	□一部欠	埋土	200962
4	杯	□ 12.0 高 3.0 底 (9.0)	G	□~底 1 / 3	埋土	200963
5	杯	□ 12.2 高 — 底 —	G	□~底 1 / 2	埋土	200964
6	杯	□(13.1) 高 — 底 —	B	□~底 1 / 3	埋土	200965
7	杯	□(12.0) 高 — 底 —	A	□~底 1 / 4	埋土	200966
8	杯	□ 11.6 高 3.9 底 —	A	□ 1 / 3 欠	埋土	200967
9	杯	□ 11.2 高 3.3 底 —	A	□一部欠	埋土	200968
10	杯	□ 12.0 高 3.0 底 8.6	A	□~底 3 / 4	埋土	200969
11	杯	□ 12.6 高 3.7 底 —	A	□~底 4 / 5	埋土	200970
12	杯	□ 12.4 高 3.6 底 —	G	□~底 3 / 4	埋土	200971
13	杯	□ 13.6 高 — 底 —	E	□~体 1 / 2	埋土	200972
14	杯	□ 12.5 高 4.3 底 (9.0)	A	□~底 1 / 2	埋土	200973
15	杯	□(12.0) 高 — 底 —	G	□~底 1 / 3	埋土	200974
16	杯	□(12.3) 高 3.0 底 —	G	□~底 1 / 2	埋土	200975
17	杯	□(11.2) 高 — 底 —	B	□~体片	埋土	200976
18	杯	□(11.0) 高 — 底 —	G	□~底 1 / 4	埋土	200977
19	杯	□(13.1) 高 (3.6) 底 —	G	□~底 1 / 4	埋土	200978
20	杯	□(13.0) 高 — 底 —	A	□~体 1 / 3	埋土	200979
21	杯	□ 12.6 高 3.2 底 5.8	D	□~底 1 / 2	埋土	200980
22	杯	□ — 高 — 底 7.0	E	体~底片	埋土	200981
23	杯	□(13.2) 高 3.5 底 —	E	□~底 1 / 5	埋土	200982
24	碗	□(16.0) 高 6.7 底 (7.9)	E	□~台 1 / 6	埋土	200983
25	蓋	□ — 高 — 底 —	D	天井部	埋土	200984
26	甕(須恵)	□(18.0) 高 — 底 —	B	□縁片	埋土	200985
27	甕	□(18.6) 高 — 底 —	A	□縁片	埋土	200986
28	甕	□(20.0) 高 — 底 —	B	□~体上位片	埋土	200987

古代遺構外出土遺物 (第249図 P L.159)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	杯	□(13.2) 高 3.5 底 5.5	C	□~底 1/3	E区水田耕土	200988
2	(碗)	□ - 高 - 底(7.0)	G	体~底部片	E区耕作痕	200989
3	青磁碗	□(12.8) 高 - 底 -		□縁小片	H区表土	200990
4	碗	□ - 高 - 底(9.0)	E	体~台 1/4	H区	200991
5	杯	□(12.0) 高 2.7 底 -	A	□~底 1/2	H区	200992
6	杯	□(12.0) 高 2.4 底 -	A	□縁小片	H区	200993
7	杯	□(11.0) 高 3.0 底(8.0)	G	□~底小片	H区	200994
8	台付甕	□ - 高 - 底(9.0)	E	台部 1/2	H区	200995
9	杯	□ - 高 - 底(7.0)	C	破片	H区	200996
10	杯	□ - 高 - 底(8.0)	E	底部 1/4	H区	200997
11	碗	□ - 高 - 底(7.5)	E	高台部 1/2	H区	200998
12	碗	□ - 高 - 底(5.0)	G	体~台 1/2	H区水田耕土	200999
13	短頸壺	□(11.0) 高 - 底 -	D	□~肩 1/4	H区	201000
14	碗	□(14.5) 高 6.7 底(6.7)	E	□~台 1/4	I区16号井戸	201001
15	碗	□ 15.3 高 5.0 底 6.3	B	ほぼ完形	I区4号井戸	201002
16	碗	□(14.5) 高 4.7 底 6.5	D	□~底片	I区4号溝	201003
17	杯	□ 12.5 高 3.6 底 7.5	G	□~底 1/2	I区倒木痕	201004
18	灰釉碗(光ヶ丘1号窯式期)	□(15.0) 高 - 底 -	夾雑物なし	□縁片	I区26号溝	201005
19	灰釉碗(光ヶ丘1号窯式期)	□ - 高 - 底(6.6)	夾雑物なし	体~台部片	I区17号溝	201006
20	(皿)	□ - 高 - 底 6.5	E	高台部 2/3	I区4号井戸	201007
21	蓋	□ - 高 - 底 - つまみ 径 3.2	E	天井部片	I区	201008
22	碗	□(13.0) 高 5.3 底(6.6)	D	□~台部	J区	201009
23	杯	□(11.4) 高 3.6 底(6.0)	E	□~底	J区	201010
24	杯	□(12.8) 高 3.7 底(4.0)	E	□~底 1/4	J区	201011
25	甕	□(15.0) 高 - 底 -	F	□~体部片	J区	201012
26	耳皿(光ヶ丘1号窯式期)	□(11.4)(8.1) 高 3.1 底 5.0	黒の微粒含む	□~底 1/2	J区	201013
27	蓋	□ 15.2 高 - 底 -	D	つまみ部欠	J区	201014
28	碗(内面漆)	□ - 高 - 底 6.4	E	底部のみ	J区	201015
29	丸瓦	□ - 高 - 底 -	E	破片	J区	201016
30	丸瓦	□ - 高 - 底 -	B+C	破片	J区	201017

I区4号溝出土遺物 (第259図)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	内耳土鍋	□(26.0) 高 - 底 -	C	□縁破片	埋土	201018
2	内耳土鍋	□ - 高 - 底 -	B	□縁破片	埋土	201019
3	内耳土鍋	□(31.5) 高 - 底 -	B	□縁小片	埋土	201020
4	内耳土鍋	□ - 高 - 底(21.0)	F	底部破片	埋土	201021
5	瓷器 大甕	□ - 高 - 底(18.0)	E	底部 1/4	埋土	201022
6	石臼(上臼)	径(30.0) 厚 13.2 重 4220	粗粒安山岩	半欠	埋土	200033
7	板碑	長(11.2) 幅(7.8) 厚(2.4) 重 405	緑泥片岩	破片	埋土	200034
8	板碑	長(17.5) 幅(9.8) 厚(1.4) 重 280	緑泥片岩	破片	埋土	200035
9	砥石	長(11.1) 幅 6.7 厚 5.7 重 280	デイサイト系	完形	埋土	200036
10	砥石	長(13.1) 幅(3.6) 厚 2.0 重 74	デイサイト系	端欠	埋土	200037
11	砥石	長(7.2) 幅 3.4 厚 2.5 重 74	デイサイト系	半欠	埋土	200038
12	硯(石製)		(粘板岩か)	破片	埋土	200039

中・近世の井戸出土遺物 (第266図 P L.159・160)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	(土鍋)	□(30.0) 高 - 底 -	B	□縁破片	I区16号井戸	201023
2	甕か鉢	□ - 高 - 底 14.0	G	下半 1/2	I区17号井戸	201024
3	かぎ状木製品	長 14.4 径 1.9	モモ	完形	I区17号井戸	198
4	曲物底板	径 19.0 厚 1.1	アスナロ	側縁一部欠	I区17号井戸	194
5	曲物底板	径 13.4 厚 0.7	ヒノキ	半欠	I区17号井戸	196
6	曲物底板	径 16.5 厚 0.8	サワラ	半欠	I区17号井戸	195
7	不明木製品	現長 14.0 幅 4.9 厚 1.0	ケヤキ	端部欠	I区17号井戸	197

中・近世溝出土遺物 (第271図 P L.160)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	鉢 肥前	口(14.0) 高 — 底 —	黒色粒を含む	口〜体 1/4	A区1号溝	201025
2	蕎麦猪口 肥前	口 — 高 — 底(5.6)	黒色微粒含む	底部 1/2	A区2号溝	201026
3	碗 (肥前)	口(7.5) 高 3.6 底 3.0		口〜底破片	C区6号溝	201027
4	灯明皿	口(10.0) 高 1.6 底(4.0)	夾雑物なし	口〜底 1/4	E区1号溝	201028
5	灯明皿	口 8.4 高 2.0 底 3.0	夾雑物なし	完形	E区1号溝	201029
6	おろし皿 近代以降	長 15.6 幅 9.8 高 2.3	黒微細粒含む	完形	G区2号溝	201030
7	灯明皿 瀬戸美濃	口(10.4) 高 1.7 底 5.5	キメやや粗い	口〜底 2/3	J区5号溝	201031
8	灯明受皿 瀬戸美濃	口 9.7 高 2.0 底 4.0	キメやや粗い	完形	J区5号溝	201032
9	碗 肥前	口 9.7 高 5.3 底 4.0		完形	J区5号溝	201033
10	砥石	長(9.6) 幅 2.6 厚 2.7 重 83	デイサイト系	上端欠	J区5号溝	200040
11	下駄	長 21.5 幅 6.5 高 3.5	クリ	完形	B区2号溝	2
12	下駄	長 19.5 幅 8.2 高 2.6	サワラ	完形	B区2号溝	3
13	下駄	長 21.5 幅 8.5 高 3.0	ツガ属	完形	H区3号溝	7
14	蓋か底板	現長 23.0 厚 1.0	サワラ	側縁片	B区2号溝	5
15	蓋か底板	現長 17.6 厚 1.5	スギ	1/3片	B区2号溝	6
16	蓋(足利忠右衛門墨書)	径 14.5 厚 0.8	ツガ属	完形	B区2号溝	4

近世・近代墓墳出土遺物 (第276図 P L.161)

番号	器種	法量 (cm・g)	胎土・質	遺存度	出土位置	整理番号
1	煙管	雁首 4.6 吸口(5.6)	銅か銅合金	吸口端欠	J区78号土坑	200005
2	煙管	雁首 3.8	銅か銅合金	雁首部	J区78号土坑	200006
3	煙管	雁首 5.2	銅か銅合金	雁首部	J区78号土坑	200007
4	煙管	雁首(2.0)	銅か銅合金	雁首部	J区78号土坑	200008
5	煙管	長 11.0	銅か銅合金	吸口部	J区78号土坑	200009
6	煙管	吸口 7.2	銅か銅合金	吸口部	J区78号土坑	200010
7	煙管	全長(16.0)	銅か銅合金	完形	J区78号土坑	200011
8	煙管	雁首 6.4 吸口(9.6)	銅か銅合金	ほぼ完形	J区102号土坑	200012
9	眼鏡	レンズ 3.5×2.8 厚 0.2	銅か銅合金	半欠	J区101号土坑	200013

近世・近代墓墳出土銭貨 (第277~280図 P L.161~164)

番号	銭文	背文	出土遺構	外径(mm)	穿径(mm)	面輪幅(mm)	背輪幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
1	○銭	不明	J区60号土坑	22.1	—	—	—	1.5	2.010	
2	○銭	不明	J区62号土坑	23.0	—	—	—	1.3	2.810	
3	(寛永通宝)鉄		J区77号土坑	23.3	5.8	—	—	—	1.937	2枚重
4	(寛永通宝)鉄		J区77号土坑	29.4	6.0	—	—	—	17.301	6枚重
5	(寛永通宝)鉄		J区77号土坑	—	—	—	—	—	0.494	
6	古寛永通宝		J区80号土坑	25.0	6.5	2.5	3.0	1.8	3.007	
7	寛永通宝		J区80号土坑	22.3	5.0	2.5	3.0	1.7	1.853	
8	新寛永通宝		J区80号土坑	23.8	6.0	2.5	2.0	1.6	2.541	
9	寛永通宝 鉄4銅1		J区80号土坑	25.0	5.0	2.8	—	—	9.328	
10	寛永通宝		J区80号土坑	23.7	6.8	2.0	3.0	1.2	1.160	
11	新寛永通宝		J区80号土坑	23.1	6.0	2.0	2.5	1.1	2.439	
12	新寛永通宝		J区80号土坑	23.5	6.5	1.5	1.5	1.0	2.125	
13	新寛永通宝		J区80号土坑	23.5	6.0	2.0	2.5	1.2	2.568	
14	新寛永通宝		J区80号土坑	24.2	6.5	2.0	3.0	1.5	2.908	
15	(寛永通宝)鉄		J区80号土坑	28.8	6.5	2.5	—	—	3.626	2枚重
16	新寛永通宝		J区80号土坑	23.2	6.0	2.0	3.0	1.4	2.581	
17	新寛永通宝		J区80号土坑	24.5	6.0	2.0	2.5	1.3	2.277	
18	古寛永通宝		J区85号土坑	25.0	6.0	2.5	3.0	1.3	1.996	
19	古寛永通宝		J区85号土坑	23.4	6.5	2.0	2.5	1.7	2.128	
20	古寛永通宝		J区85号土坑	26.0	6.5	2.5	2.0	1.7	2.588	
21	新寛永通宝		J区85号土坑	23.5	5.5	2.5	2.5	1.3	2.274	
22	新寛永通宝		J区85号土坑	25.9	5.8	3.3	3.2	2.0	2.637	
23	新寛永通宝		J区85号土坑	23.4	6.5	2.0	2.5	1.4	1.724	
24	新寛永通宝		J区85号土坑	22.9	6.0	1.8	3.8	1.7	2.234	
25	新寛永通宝		J区85号土坑	24.0	6.0	2.5	2.0	2.0	2.162	
26	新寛永通宝		J区85号土坑	24.2	5.0	2.6	2.5	1.9	1.964	

27	古寬永通宝		J 区85号土坑	24.7	5.9	2.0	2.5	1.2	2.952	
28	古寬永通宝		J 区85号土坑	24.5	5.5	2.2	3.3	1.2	2.637	
29	新寬永通宝		J 区85号土坑	23.7	6.5	2.0	2.6	1.1	2.153	
30	新寬永通宝		J 区85号土坑	24.8	6.3	2.2	4.3	1.6	3.241	
31	新寬永通宝		J 区85号土坑	22.7	7.4	2.0	2.4	1.0	1.619	
32	新寬永通宝	4文	J 区85号土坑	27.7	5.8	3.3	3.3	1.7	3.211	明和 5
33	新寬永通宝		J 区85号土坑	24.5	5.8	2.6	2.6	1.7	4.471	
34	新寬永通宝		J 区85号土坑	23.7	6.5	2.0	2.8	1.3	2.455	
35	新寬永通宝		J 区85号土坑	23.2	6.5	1.9	2.3	1.2	2.363	
36	新寬永通宝		J 区85号土坑	22.3	6.5	1.8	1.8	1.0	2.196	
37	新寬永通宝		J 区85号土坑	22.3	6.0	2.5	2.5	1.4	1.978	
38	文久永宝	波	J 区85号土坑	26.8	6.7	2.3	3.0	1.5	3.343	
39	新寬永通宝		J 区85号土坑	25.2	5.9	2.8	3.4	1.3	2.899	
40	新寬永通宝		J 区85号土坑	24.7	5.9	2.8	3.0	1.3	2.317	
41	文久永宝		J 区85号土坑	27.2	7.2	2.8	3.0	1.3	2.055	
42	(一錢)大正〇年	桐	J 区101号土坑	23.1	—	—	—	1.2	3.030	
43	(一錢)大正〇年	桐	J 区101号土坑	22.9	—	—	—	1.1	2.880	
44	新寬永通宝	四文	J 区102号土坑	28.2	6.7	3.5	3.2	1.1	3.565	
45	新寬永通宝	四文	J 区102号土坑	28.3	6.0	3.2	3.8	1.4	4.442	
46	新寬永通宝	四文	J 区102号土坑	27.9	6.8	3.2	3.4	1.2	3.366	
47	新寬永通宝	四文	J 区102号土坑	28.2	6.8	3.9	3.5	1.2	3.361	
48	新寬永通宝	四文	J 区102号土坑	28.3	6.0	4.3	3.9	1.2	4.651	
49	新寬永通宝		J 区102号土坑	22.9	6.6	2.2	1.6	1.3	2.910	
50	新寬永通宝		J 区102号土坑	23.0	5.6	2.3	3.2	2.1	1.121	
51	新寬永通宝	波	J 区150号土坑	28.0	6.5	3.0	4.0	1.2	3.558	
52	文久永宝	波	J 区150号土坑	26.5	6.0	2.5	2.5	1.0	2.562	
53	古寬永通宝		J 173・174坑	24.4	6.0	2.3	3.0	1.3	3.149	
54	新寬永通宝		J 173・174坑	24.3	6.5	2.5	3.0	1.1	2.404	
55	新寬永通宝		J 173・174坑	24.7	6.0	2.7	4.0	1.3	3.461	
56	新寬永通宝		J 173・174坑	23.0	6.1	3.0	3.5	1.3	2.075	
57	新寬永通宝		J 173・174坑	23.2	7.0	1.9	2.5	1.2	2.713	
58	新寬永通宝	九・星 1	J 173・174坑	23.0	5.9	3.0	3.1	1.1	2.107	
59	古寬永通宝		J 173・174坑	24.4	6.0	3.1	4.0	1.1	2.893	
60	新寬永通宝		J 173・174坑	22.9	6.2	3.0	3.0	1.4	2.730	
61	新寬永通宝		J 173・174坑	25.1	5.8	2.7	3.1	1.6	3.859	
62	新寬永通宝		J 173・174坑	24.8	5.6	2.1	2.2	2.0	3.532	
63	寬永通宝		J 173・174坑	24.9	6.9	2.3	—	—	4.803	3枚重
64	寬永通宝		J 173・174坑	25.9	6.8	2.7	—	—	18.607	8枚重
65	新寬永通宝		J 173・174坑	22.9	6.1	2.1	—	—	6.105	3枚重

第4章 自然科学分析

1 徳丸仲田遺跡出土井戸試料の花粉化石

鈴木 茂(パレオ・ラボ)

徳丸仲田遺跡で行われた発掘調査で検出された井戸跡より土壌試料が採取された。以下にはこの土壌試料を用いて行われた花粉分析の結果・考察を示し、古植生について検討した。

(1) 試料と分析方法

試料は、出土遺物から古墳時代前期と考えられているI区1号井戸の埋積土下部より採取された黒色の粘土である。この黒色粘土試料について以下のよう手順にしたがって花粉分析を行った。

試料(湿重約3g)を遠沈管にとり、10%の水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後、0.5mm目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に46%のフッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理(無水酢酸9:1濃硫酸の割合の混酸を加え3分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作成して行い、その際サフランにて染色を施した。

(2) 分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉4、草本花粉9、形態分類で示したシダ植物胞子2の総計15である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を表11に、それらの分布を第287図に示した。なお、分布図は全花粉・胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、表および図においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示している。

検鏡の結果、検出できた花粉数は少なかった。特に樹木花粉はコナラ属コナラ亜属、クリ属、トチノキ属、ムクノキ属の4分類群8個体のみであった。草本類ではイネ科とヨモギ属が目立って得られており、イネ科は20%強、ヨモギ属は40%弱の出現率を示している。その他クワ科、アカザ科-ヒユ科、アブラナ科、タンポポ亜科が5~10%を示している。

(3) 井戸周辺の古植生

試料は井戸という狭い堆積盆であることから、花粉分析結果は極狭い井戸近辺の古植生を示していると考えられる。上記したようにイネ科とヨモギ属が多産しており、古墳時代前期(4世紀)の1号井戸周辺はヨモギ属やイネ科を主体にクワ科、アカザ科-ヒユ科、アブラナ科、タンポポ亜科などの雑草類が生育していたと考えられる。またこれらのうちクワ科は木本のヤマグワなどの可能性があり、アブラナ科についてはダイコンやカブなどの栽培種が含まれていることも考えられるが、花粉形態からの分類は難しく現時点では不明である。遺跡周辺の森林植生については検出花粉化石数が少なく明確には示せないが、遺跡周辺丘陵部にはコナラ亜属を中心とした落葉広葉樹林が成立していたとみられ、台地斜面部にはトチノキ属やムクロジ属などが生育していたと推測できよう。

なお遺構の形状からトイレである可能性も考えられた。もしも遺構がトイレであるとする埋積土中には寄生虫卵が多く認められるはずである。しかしながら寄生虫卵は1個体も観察されず、現時点では遺構がトイレである可能性は低いと寄生虫卵からは判断される。

第11表 産出花粉化石一覧

樹木		
コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	4
クリ属	<i>Castanea</i>	1
トチノキ属	<i>Aesculus</i>	2
ムクロジ属	<i>Sapindus</i>	1

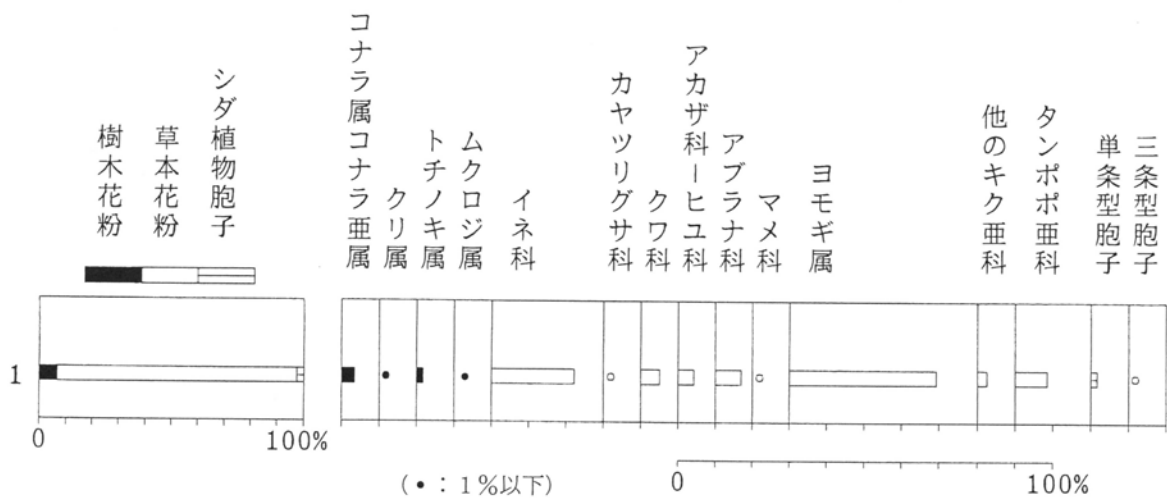
草本		
イネ科	Gramineae	26
カヤツリグサ科	Cyperaceae	1
クワ科	Moraceae	6
アカザ科ーヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	5
アブラナ科	Cruciferae	8
マメ科	Leguminosae	1
ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	46
他のキク亜科	other Tubuliflorae	3
タンポポ亜科	Liguliflorae	10

シダ植物		
単条型孢子	Monolete spore	2
三条型孢子	Trilete spore	1

樹木花粉	Arboreal pollen	8
草本花粉	Nonarboreal pollen	106
シダ植物孢子	Spores	3
花粉・孢子総数	Total Pollen & Spores	117

不明花粉	Unknown pollen	16

樹 木 花 粉 草本花粉・シダ植物孢子



第287図 I区1号井戸試料の花化石分布図

(出現率は全花粉・孢子総数を基数として百分率で算出した)

2 徳丸仲田遺跡から出土した大型植物化石

新山雅広(パレオ・ラボ)

(1) はじめに

徳丸仲田遺跡は、群馬県前橋市南部の平野地帯に立地する。本遺跡では、これまでの発掘調査により、古墳時代はじめの集落跡・水田・水路などが検出された。ここでは、古墳時代に流れていた河川跡（J区河川跡）から出土した大型植物化石を主な試料とし、当時の古植生および栽培・利用状況の推定を試みた。

(2) 試料

大型植物化石の検討は、試料番号1～28の合計28試料について行った。これらは、既に洗い出し（取り上げ）済みであり、タッパーないし袋に概ね水付きの状態では保存されていたが、一部半乾きの状態の試料もみられた。なお、大型植物化石が出土した遺構は、古墳時代前期のG区6号溝（試料1）およびI区12井戸（試料2、3）、平安時代のJ区32住（試料4）、古墳時代前期～後期のJ区河川跡（試料5～27）、徳丸地区出土地不明（試料28）である。

(3) 出土した大型植物化石

同定された分類群数は、木本8、草本10であり、その他に虫えい、菌核などもみられた。これら出土した大型植物化石の一覧は表12に示した。なお、虫えい、菌核を除いた大型植物化石以外のもの（炭化材、礫、炭化した草本茎状のもの、木（草）の節？、不明炭化物など）は、不明・その他の欄に一括した。以下に、出土した大型植物化石の記載を示す。

木本はオニグルミ、スモモ、モモ、サンショウ、ヤマブドウ、ブドウ属、エゴノキ、分類群不明の芽が出土した。オニグルミはJ区32住（試料4）、J区河川跡（試料27）で出土した。スモモはJ区河川跡（試料7、19）で出土し、試料7では炭化した破片がみられた。モモはJ区河川跡（試料9、16、18、26）で出土し、試料9では多産した。この中の一部には、

げっ歯類による食害痕を受けたものもみられた。サンショウ、ヤマブドウ、ブドウ属はJ区河川跡（試料11、24）で出土し、ブドウ属は非常に多産し、サンショウも比較的多産した。エゴノキはJ区河川跡（試料7）で出土した。

草本はイネ、コムギ、ウキヤガラ、ホタルイ属、アサ、カナムグラ、イシミカワ、ノブドウ、メロン仲間、ヒョウタン仲間が出土した。イネはJ区河川跡（試料11、12、24、25）および出土地不明（試料28）で出土した。コムギ、ウキヤガラ、ホタルイ属、アサはJ区河川跡（試料11）で出土した。カナムグラ、イシミカワ、ノブドウはJ区河川跡（試料11、24）で出土し、カナムグラは比較的多産し、ノブドウも試料11では比較的目立った。メロン仲間はJ区河川跡（試料10、17、22）で出土した。ヒョウタン仲間はG区6号溝（試料1）、I区12井戸（試料2）、J区河川跡（試料5、6、21）で出土した。その他では、虫えいがJ区河川跡の数試料でやや目立った。また、菌核もJ区河川跡（試料14）で出土した。

(4) 考察

出土したもののうち、栽培植物と考えられるものはスモモ、モモ、イネ、コムギ、アサ、メロン仲間、ヒョウタン仲間である。これらは、古墳時代前期～後期のJ区河川跡で出土しており、ヒョウタン仲間のみ古墳時代前期のG区6号溝およびI区12井戸でも出土している。これら栽培植物は、J区河川跡付近で栽培されていた可能性もあるが、周辺の生活の場で廃棄されたものが流入したか、あるいは直接河川に投棄されたことも考えられる。イネ、コムギは炭化しており、栽培地からの流入というよりは後者の可能性が高いのではないだろうか。他では、平安時代のJ区32住で出土したオニグルミが食用となる有用植物である。また、サンショウ、ヤマブドウ、ブドウ属も食用などとして利用可能ではあるが、実際に利用されていたのかは定かではない。河川付近に生育していたものが流入したのかもしれないし、他の栽培植物と共に利用後の残滓が流入したのかも

れない。栽培・利用植物以外では、エゴノキが河川付近に生育していたであろう。草本類では、河川内に抽水ないし湿地性のウキヤガラ、ホタルイ属、イシミカワが生育しており、河川沿いの樹木には蔓植物のカナムグラ、ノブドウが絡み付いていたであろう。

(5) 主な大型植物化石の形態記載

オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. 核

J区32住で破片が多数得られた。破片65個のうち、2個はほぼ半分(1/2個)程度の大きさである。残りの63個は、大きさ約3~23mmの破片であり、完全に換算して2~3個分程度かと思われる。

モモ *Prunus persica* Batsch. 核

欠損などのないものについては長さの計測を行った。J区河川跡出土核の全体では、長さ約20~30mmで平均25.1mm。25~26mmのものが多く、5割(24個中12個)を占める。なお、試料9ではげっ歯類による食害痕を受けたものが4個体あった。側部の縫合線上に1個の穴があるものが3個体、下端に1個の穴があるものが1個体であった。試料9の破片12個については、縫合線に沿って半分に割れたもの(1/2個)が9片、半分に満たない小片が3片であった。

ヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat et Planch. 種子

長さが概ね5.0mmを越える大きなもの(試料11で出土した長さ約5.0mmの3個体、試料24で出土した長さ約5.3mmの1個体)をヤマブドウとした。ブドウ属としたものは、小さいもので約3.4mmであるが、4.0mm程度のものが多い。ブドウ属としたものの中にも5.0mmを若干下回る程度の大きなものが稀にみられ、ヤマブドウが混じっている可能性はある。

メロン仲間 *Cucumis melo* Linn. 種子

試料10出土種子は藤下(1984)による6.0mm以下の小粒種子(雑草メロン型)が2個体(約5.2、6.0mm)、6.1~8.0mmの中粒種子(マクワ・シロウリ型)が3個体(約6.1、6.4、8.0mm)であった。試料17出土種子は約7.3mm、試料22出土種子は約7.0mmでいずれも中粒

種子にあたる。

ヒョウタン仲間 *Lagenaria siceraria* Stndley 果実(果皮)、種子

果実はいずれも破片(果皮片)であり、軟らかくなっていて、状態の良好なものはあまりなかった。試料1は他試料に比べて果皮の状態は良好であった。大きさ1~6cm位の破片が10個で壁の厚さは約2~5mm。試料2は1~4cm位の薄い破片が4個。試料5は非常に軟らかくなっており、細かな破片も多く含むので、計数が困難であった。比較的大きな明らかな破片は30~40個位であり、最大の破片は5cm位であった。壁の厚さは約2~3mm。種子は、I区12井戸(試料2)は4個体のみであるが、長さ約10.2~12.0mmで平均10.9mm。J区河川跡(試料5、6、21)は長さ約10.6~14.2mmで平均12.5mm。

虫えい(虫こぶ)

黒色で大きさは様々であるが、数mm程度である。形も様々であるが、横からみると卵形~台形のものが多く、上・下からみると円形である。上・下端の中央部は、窪んでいることが多く、内部は中空となっており、断面には果実や種子のような構造はみられない。

菌核

腐った樹木の表面などにつく菌の集合である。大きさ、形などは様々であるが、黒色で仁丹状の球形をしたものが多い。出土したものは、塊状になったものである。

参考文献

藤下典之(1984) 出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法, 古文化財に関する保存科学と人文・自然科学—総括報告書, pp. 638-654, 同朋社。

第12表 大型植物化石一覧 (その1) 数字は個数、()内は半分の破片の数を示す

分類群・部位\出土遺構・試料番号	G区6号溝		I区12井戸		J区32住		J区河川跡							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
オニグルミ 核				2 (65)										
スモモ 核							2 (2)							
炭化核							(1)							
モモ 核									16(12)					
核・びっ歯類食害									4					
サンショウ 種子											11			
ヤマブドウ 種子											3			
ブドウ属 種子											94(3)			
エゴノキ 種子														
不明 芽											1	1		
イネ 炭化胚乳											3	6		
コムギ 炭化胚乳											1			
ウキヤガラ 果実											1			
ホタルイ属 果実											1			
アサ 種子											1			
カナムグラ 種子											10(7)			
イシミカワ 果実											2			
ノブドウ 種子														
メロン仲間 種子										5				
ヒョウタン仲間 果実	(10)	(4)			(30~40)									
種子		4			15(4)	8								
虫えい											9		9	5
菌核														1
不明・その他(炭化材、礫など)								1		1	3	3		

第12表 大型植物化石一覧 (その2) 数字は個数、()内は半分ないし破片の数を示す

分類群・部位\出土遺構・試料番号	J 区 河 川 跡														不 明
	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
オニグルミ 核															
スモモ 核					2										
炭化核															
モモ 核		1		1(2)								(1)			
核・びっ歯類食害															
サンショウ 種子										9					
ヤマブドウ 種子										1					
ブドウ属 種子										36					
エゴノキ 種子															
不明 芽															
イネ 炭化胚乳										1	1				2
コムギ 炭化胚乳															
ウキヤガラ 果実															
ホタルイ属 果実															
アサ 種子															
カナムグラ 種子															
イシミカワ 果実										10(2)					
ノブドウ 種子										1					
メロン仲間 種子															
メロン仲間 果実															
ヒョウタン仲間 種子								5							
虫えい						8								1	9
菌核															
不明・その他(炭化材、礫など)	5					1				2				1	7

3 徳丸仲田遺跡出土材の樹種構成

三村昌史(パレオ・ラボ)

(1) はじめに

前橋市南端部に位置する徳丸地区では、古墳時代の集落や水田跡、それに伴う水路などの灌漑施設をはじめ、縄文時代の住居跡と思われる遺構や、平安時代の水田、中世・近世の屋敷跡などが発見された。ここでは、徳丸仲田遺跡において出土をみた、古墳前期の杭・丸太・鋤類などの遺物計158点、および近世の曲物・桶・下駄などの遺物計17点の同定を試み、遺跡の性格の一端を明らかにすることを目的とする。

(2) 方法

横断面、接線断面、放射断面の3断面の切片を切り取りガムクロラルで封入されたプレパラート(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団作成)を用いて、光学顕微鏡にて40~400倍で検鏡し、現生標本との対照をもとに同定を行った。なお、プレパラートは財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

(3) 結果と分類群の記載 保存が悪く組織が収縮していたために詳細な同定が不能であった5点(×印)を除く171点の出土材中には計30分類群が認められた。その樹種構成リストを付表に示す。ここではまず、検出された分類群の解剖学的記載を行い同定の根拠を示すとともに、分類群の生態・分布、材質について簡潔に記す。

カヤ *Torreya nucifera* (L.) Sieb. et Zucc.

Taxaceae PL.168 1a~1c

仮道管と放射柔組織からなる針葉樹材。樹脂細胞は欠く。早材から晩材への移行は緩やかである。仮道管の内壁にはらせん肥厚があり、2本の対を成してまとまっている傾向がある。また仮道管は丸みを帯びる。分野壁孔はヒノキ型で小さく、1分野にふ

つう2個程度。

カヤは高木になる常緑針葉樹で、主に暖温帯に分布する成長の遅く耐陰性の高い種である。日本海側の多雪地を中心に匍枝生の変種であるチャボガヤ *Torreya nucifera* (L.) Sieb. et Zucc. var. *radicans* Nakai が分布する。材質はやや重硬、弾性・割裂性に優れ、耐湿性が高い。

イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight)

K.Koch Cephalotaxaceae PL.168 2a~2c

仮道管と放射柔組織、および樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部は量少ない。仮道管壁は全体にやや厚く、丸みを帯びる。樹脂細胞は早材・晩材の区別なく散在する傾向にある。仮道管の内壁にはらせん肥厚がみられ、しばしば対になる傾向がある。分野壁孔はヒノキ型で、1分野にふつう2~3個。

イヌガヤは小高木になる常緑針葉樹で、主に温帯下部~暖温帯に分布する。耐陰性の高い樹種で、谷沿いなどの陰湿地で見られる。日本海側の多雪地を中心に変種として匍枝生の低木であるハイイヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K.Koch var. *nana* (Nakai) Rehder が分布する。材質はやや緻密で硬く、大径が得難いので小器具に用いられる。

スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don

Taxodiaceae PL.168 3a~3c

仮道管と放射柔組織、および樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、樹脂細胞はこの移行部分にかけて散在し、しばしば接線方向に配列する。また晩材部は量多く明瞭。分野壁孔はスギ型で大きく、1分野にふつう2個。

スギは高木になる常緑針葉樹である。現在ではないたるところに植栽されているが天然分布は降水量の多い地域に限られて点在し、特に東日本の日本海側に多く、湿地周辺や尾根沿い、谷沿いなどに生育する。材質は軽軟で保存性は中庸、割裂性・加工性に優れ、各種の用途がある。

モミ属 *Abies* Pinaceae PL.169 4a~4c

仮道管と放射柔組織からなる針葉樹材。放射仮道管、樹脂道、樹脂細胞を共に欠く。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は明瞭。放射組織はじゅず状末端壁を有する。分野壁孔はスギ型で小さく、1分野にふつう2-3個。

近世の出土材でモミ属と同定されたものは様々な種を含む可能性があるが、古墳時代のものの母植物としては、現在の分布から推測するとモミ *Abies firma* Sieb. et Zucc. の可能性が高いと考えられる。モミは高木になる常緑針葉樹で、主に温帯下部~暖温帯に分布する。また中部以北の日本海側にはほとんど分布しない。材質はどの種も概してやや軽軟な材で加工しやすく割裂性に優れる。

ツガ属 *Tsuga* Pinaceae PL.169 5a~5c

仮道管と放射組織、放射仮道管、樹脂細胞からなる針葉樹材。樹脂道は欠く。早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部は量少ない。放射組織はじゅず状末端壁を有し、放射仮道管の放射壁には小型で孔口が狭い有縁壁孔がある。分野壁孔は小さなヒノキ型で1分野にふつう2-3個。

ツガ属にはコマツガ *Tsuga diversifolia* (Maxim.) Masters、ツガ *Tsuga sieboldii* Carr. が含まれる。ツガは高木になる常緑針葉樹で、福島県以西の暖温帯に分布する。また日本海側にはほとんど分布せず、現在では低地部には少ない種である。またコマツガも高木になる常緑針葉樹であるが、こちらはツガより高海拔に生育する。ツガ属の材質はやや重硬な材で、加工は容易ではないが割裂性には優れる。

ヒノキ *Chamaecyparis obtuse* (Sieb. et Zucc.)
Endl. Cupressaceae PL.169 6a~6c

仮道管と放射柔組織、および樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、樹脂細胞はこの移行部分にかけて散在し、しばしば接線方向に配列する。また晩材部は量少ない。分野壁孔は大型のトウヒ型からヒノキ型でやや大きく、1分野

にふつう2個。

ヒノキは主に暖温帯に分布し、低地部にはほとんどみられず山地の尾根沿いなどに生育する、高木になる常緑針葉樹である。材質はやや軽軟であるが、加工し易く保存性が著しく高いという特徴がある。

サワラ *Chamaecyparis pisifera* (Sieb. et Zucc.)
Endl. Cupressaceae PL.170 7a~7c

仮道管と放射柔組織、および樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、また晩材部はやや少ない。樹脂細胞はこの移行部分にかけて散在し、しばしば接線方向に配列する。分野壁孔はやや大きく、ヒノキ型からやや小さなスギ型であるが孔口は水平に近く開き、ふつう1分野に2個。

サワラは高木になる常緑針葉樹であり、主に温帯下部~暖温帯の山地・溪畔に見られる。材質は軽軟で割裂・加工は容易、耐久性はやや低いが水湿には耐性を持つ。

アスナロ *Thujaopsis dolabrata* Sieb. et Zucc.
Cupressaceae PL.170 8a~8c

仮道管と放射柔組織、および樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、樹脂細胞はこの移行部分にかけて散在し、しばしば接線方向に配列する。晩材部は量多く、また晩材部の仮道管は厚壁で早材との区別は明瞭である。放射柔細胞にはしばしば内容物が詰まっている。分野壁孔はヒノキ型で小さく、1分野にふつう2-4個。

アスナロは高木になる常緑針葉樹で、主に温帯に分布する。材質は中庸で、割裂・加工性も中庸。耐久性は良好な部類に入り、水湿にも強い。

マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Dipoxylon*
Pinaceae PL.170 9a~9c

仮道管と放射柔組織、放射仮道管、および水平・垂直両樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞からなる針葉樹材。エピセリウム細胞は薄壁で、保存性は悪い。放射仮道管の水平壁は、内腔側に向かって鋸歯

状の突起を有する。分野壁孔は大型の窓状。

マツ属複維管束亜属にはアカマツ *Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.、クロマツ *Pinus thunbergii* Parlatores が含まれるが、クロマツの分布とハビタツト、および観察された放射仮道管の上下の壁の鋸歯が顕著であることからアカマツであると考えられる。材質はいずれも重硬で、保存性は中庸であるが、水湿には耐性がある。

マツ属単維管束亜属 *Pinus* subgen. *Haploxyylon* Pinaceae PL.171 10a~10c

仮道管と放射柔組織、放射仮道管、および水平・垂直両樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞からなる針葉樹材。エピセリウム細胞は薄壁で、保存性は悪い。放射仮道管の水平壁は平滑である。分野壁孔は大型の窓状。

マツ属単維管束亜属の母植物としてはゴヨウマツ *Pinus parviflora* Sieb. et Zucc. が考えられる。ゴヨウマツは高木になる常緑針葉樹で、温帯~暖温帯に分布し、尾根上などのやせた土壤に生育する。材質はマツ属複維管束亜属とほぼ同等である。

ヤナギ属 *Salix* Salicaceae PL.171 11a~11c

小さな(直径約40—80 μ m)放射方向に伸びた丸い薄壁の道管が、ほぼ単独で密に分布する散孔材。道管の直径は年輪の始めと終わりで小さくなる傾向にある。道管の穿孔は単一。放射組織は単列異性で、道管と放射組織との壁孔は蜂の巣形のふり状。

ヤナギ属には山地に生育する種や、河畔・湿地周辺に生育する種などが含まれ、また低木から高木になる種まで様々であるが、多くが向陽地の土壤の薄い湿潤で水はけの良い立地を好む。本遺跡の立地や出土材の計測値、植物分布を考慮すると、ヤナギ属の母植物は高木になり河畔・溪畔などの湿潤地に生育するアカメヤナギ *Salix chaenomeloides* Kimura、バッコヤナギ *Salix bakko* Kimura、コゴメヤナギ *Salix serissaefolia* Kimuraなどを主に含むと考えられる。材質は軽軟で、加工は容易、耐久性は低い。

カバノキ属 *Betula* Betulaceae PL.171 12a~12c

中型(直径約80—120 μ m)でやや放射方向に伸びた丸い道管が、単独あるいは1—2個放射方向に複合しまばらに分布する散孔材。道管の穿孔は階段状で10—20本程度、木部柔細胞はあまり目立たず散在状。放射組織は異性であるが同性に近く、1—2列。道管相互の壁孔は極めて小さく、道管と放射組織との壁孔も極めて小さい。

カバノキ属の母植物には、分布から考えてミズメ *Betula grossa* Sieb. et Zucc. の可能性が高い。ミズメは高木になる落葉広葉樹で、温帯~暖温帯の山地に分布する。ミズメの材質は緻密で重硬、靱性を有するが、その割に加工はそれほど困難でなく、保存性は中庸である。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. Fagaceae PL.172 13a~13c

年輪の始めに大型(直径約200—350 μ m)で丸い道管が単独で1—2列に並び、そこから順次径を減じ、晩材部では小型(直径約20—50 μ m)でやや角張った道管が火炎状に配列する環孔材。晩材部には木部柔組織がみられ、いびつな接線状に配列する。道管の穿孔は単一で、道管内部にはチロースが著しい。放射組織は単列同性。道管と放射柔細胞との壁孔は対列状、または柵状。

クリは主に温帯下部・暖温帯に広く分布する落葉広葉樹で、向陽地に多くみられる。材質は強硬で割裂性・保存性・弾性に優れ、特に水湿に強い。

コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* Fagaceae PL.172 14a~14c

年輪の始めに大型(直径約150—300 μ m)の丸い道管が単独で1—2列に並び、晩材では小型(直径約20—50 μ m)でやや角張った道管が火炎状に配列する環孔材。木部柔組織はいびつな接線状で1—2列。道管の穿孔は単一で、道管内部にはチロースが著しい。放射組織は単列同性であるが、幅が約250 μ m、高さが5mmを超える大型の複合放射組織が混

在する。道管と放射柔細胞との壁孔は対列状、または柵状。

コナラ節には温帯下部～暖温帯に分布するコナラ *Quercus serrata* Thunb. ex Murray、温帯上部～冷温帯に分布するミズナラ *Quercus crispula* Blume、主に暖温帯の沿海地に多いカシワ *Quercus dentata* Thunb. ex Murray、暖温帯に点在して分布するナラガシワ *Quercus aliena* Blume などが含まれる。いずれも重硬で弾性を持つ材で、保存性は中庸、割裂・加工は難易であり、乾燥収縮に伴い割れが入りやすい。

クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* Fagaceae
PL.172 15a～15c PL.173 15a'～15c'

幹・枝材：大型(直径約200—300 μ m)の丸い道管が単独で1—数列ならび、そこから径を減じていき、年輪界付近では丸く厚壁の小道管(直径約15—30 μ m)が単独で放射方向に配列する環孔材。木部柔細胞は数列の束になって、まばらな帯状に分布する。道管の内腔にはチロースが認められる。道管の穿孔は単一。放射組織は同性で、単列のものに複合放射組織を交える。道管と放射組織との壁孔は柵状。

根材：年輪のはじめに大型(直径約250—300 μ m)で丸い道管が1列ほど配列し、その後はややゆるやかに径を減じて、晩材では小型(直径約50—80 μ m)で厚壁の丸い道管が分布する環孔材。その他の形態は幹・枝材と同様である。

クヌギ節にはクヌギ *Quercus acutissima* Carruthers、アベマキ *Quercus variabilis* Blume が含まれる。いずれも暖温帯の向陽地にみられる、高木になる落葉広葉樹である。クヌギ節の母植物としてはアベマキが静岡以西に分布が限られているため、そのほとんどはクヌギであると考えられる。材質はいずれも重硬であり弾性を有する材で、割裂・加工は困難。

アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*
Fagaceae PL.173 16a～16c

中型(直径80—120 μ m)で丸い厚壁の道管が単独

で1—数列まとまり、やや斜めに連なって放射方向に配列する放射孔材。道管の直径は年輪内でほとんど変化しない。道管の穿孔は単一で、木部柔細胞は数列の束となって何層もの帯状に配列する。道管の内腔にはチロースが認められる。放射組織は同性で、単列のものに、5mmに達する複合放射組織が混じる。道管と放射組織との壁孔は柵状。

アカガシ亜属の母種としてはアカガシ *Quercus acuta* Thunb. ex Murray、シラカシ *Quercus myrsinaefolia* Blume、ウラジログシ *Quercus salicina* Blume、アラカシ *Quercus glauca* Thunb. ex Murray が考えられる。種によって若干分布は異なるが、いずれも高木になる常緑広葉樹で、暖温帯の主要な樹種である。材質はいずれも極めて強硬な部類に属し、加工は困難、割裂性・保存性は中庸である。

ムクノキ *Aphananthe aspera* (Thunb.) Planch.
Ulmaceae PL.173 17a～17c

やや大型(直径約100 μ m)で丸く壁の厚い道管が、単独あるいは放射方向に2—3個複合して均一にならぶ散孔材。道管の穿孔は単一で、木部柔細胞は早材部では翼状、晩材部では道管を取り囲みながら帯状に分布する傾向にある。放射組織は異性でおおむね3—4列、しばしば結晶がみられる。道管と放射組織との壁孔は交互状。

ムクノキは高木になる落葉広葉樹で、暖温帯を代表する樹木のひとつである。材質は中庸で韌性に富み、割裂は難易である。

エノキ属 *Celtis* Ulmaceae PL.174 18a～18c

大型(直径約150—200 μ m)で丸く壁の厚い道管が、単独ないしは1—2個複合してややまばらに配列し、年輪界付近では小型(直径約20—50 μ m)でやや角張った道管が多数複合して、接線状・かたまり状に分布する環孔材。道管の穿孔は単一で、内腔にチロースがみられる。木部柔組織は周囲状。放射組織は異性で、直立細胞数個からなる低い単列のもの、6—8列程度の多列部のものがあり、多列部

のものには鞘細胞がみられる。鞘細胞にはしばしば結晶が認められる。小道管の内腔にはらせん肥厚が認められる。道管と放射組織との壁孔はごく小さい。

エノキ属の母植物は、エノキ *Celtis sinensis* Pers. var. *japonica* (Planch.) Nakai、エゾエノキ *Celtis jessoensis* Koidz. が考えられる。エノキは暖温帯に分布する高木になる落葉広葉樹で、向陽地や沿海地に見られる。エゾエノキはエノキよりやや高所・内陸に分布する高木になる落葉広葉樹である。材質は中庸で従曲性を持ち、割裂はやや困難。

ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino

Ulmaceae PL.174 19a~19c

年輪の始めに大型(直径約200-300 μ m)の丸い道管が単独で1-2列に並び、晩材部では小型(直径約30-60 μ m)の薄壁で角張った道管が多数集合して、接線方向あるいは斜めに帯をなす環孔材。早材から晩材にかけて、道管の直径は急激に変化する。木部柔組織は早材部では大道管の周囲を、晩材部では小道管の塊の周囲をそれぞれ取り囲む。道管の穿孔は単一で、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端のみ直立細胞からなる異性で、しばしば上下端や多列部の縁に結晶を含む。道管と放射組織との壁孔は交互状。

ケヤキは高木になる落葉広葉樹で、谷沿いや河畔の肥沃な土壤にみられ、温帯~冷温帯に分布する。材質はやや重硬だが、加工は容易、割裂性は中庸で保存性に優れ、木目が美しい。

ヤマグワ *Morus australis* Poir. Moraceae

PL.174 20a~20c

年輪のはじめに大型(直径約150-200 μ m)で丸い道管が単独あるいは1-2個複合して1-2列並び、そこから徐々に径を減じて年輪界付近ではごく小型(直径約10-20 μ m)の角張った道管が数個~多数集合して斜上状~接線状に配列する環孔材。道管の内腔にはチロースが認められる。道管の穿孔は単一で、木部柔細胞は周囲状。放射組織は異性で1

-4列ほど、しばしば上下端の直立細胞は数個縦に連なる。道管と放射組織との壁孔はレンズ状。

ヤマグワは温帯~暖温帯に広く分布し、林縁などの向陽地や谷沿い・河畔の適湿地にみられる、低木~小高木の落葉広葉樹である。材質はやや重硬で韌性・従曲性・割裂性に富み、加工はやや困難、保存性は高い部類に入る。

カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.

Cercidiphyllaceae PL.175 21a~21c

小型(直径約50-80 μ m)の薄壁でやや角張った道管がごく密に分布する散孔材。道管の直径は年輪界付近では減少する。道管の穿孔は階段状で30本ほどと多い。放射組織は異性で1-2列。道管と放射組織との壁孔は対列状または交互状。

カツラは河畔や溪畔、崩壊地にみられる高木になる落葉広葉樹であり、主に温帯に分布する。材質はやや軽軟で割裂性に優れ、加工は容易、保存性は低い。

サクラ属 *Prunus* Rosaceae PL.175 22a~22c

年輪の始めに単独あるいは1-2個複合した小型(直径約30-50 μ m)で丸い道管が1-2列に並び、その後は徐々に径を減じながら、斜めに連なる傾向をみせて散在する散孔材。道管の穿孔は単一で内壁にはらせん肥厚がみられ、また道管の内腔にはしばしばゴム状の着色物質がみられる。木部柔組織は散在する。放射組織は同性に近い異性で4列程度。道管と放射組織との壁孔は小型の交互状。

サクラ属には多くの種が含まれ分布も様々であるが、木材組織の形態や現在の植物分布から考えられる母植物はチョウジザクラ *Prunus apetala* (Sieb. et Zucc.) Franch. et Savat.、ヤマザクラ *Prunus jamasakura* Sieb. ex Koidz.、カスミザクラ *Prunus verecunda* (Koidz.) Koehne などである。材質は一般に中庸~やや強硬な材で粘りがあり、割裂性はやや困難、保存性は良い。

モモ *Prunus persica* Batsch Rosaceae

PL.175 23a~23c

年輪のはじめに小型(直径約60-80 μ m)で丸い道管がほぼ単独に1-2列ならび、そこから急速に径を減しながら、放射方向に2-数个複合した小型(直径約50 μ m)でやや丸い道管が均質に分布する環孔性を有する散孔材。道管内部にはしばしばゴム状の内容物が詰まり、道管はややななめに連なる傾向がある。道管の穿孔は単一で、内部には粗いらせん肥厚がみられる。放射組織は異性で4列ほど、また長くしばしば500 μ mを超える。道管と放射組織との壁孔は対列状。

モモは中国西北部が原産とされる小高木になる落葉広葉樹で、古くから移入されて果樹として利用されている。材質は重硬であり、割裂し難い。

アカメガシワ *Mallotus japonicus* (Thunb.) Muell. Arg. Euphorbiaceae PL.176 24a~24c

中型(直径約100-130 μ m)で丸い道管が、単独または放射方向に数个複合して年輪のはじめに2-3列並び、その後は径を減じるとともに密度も減少して、年輪界付近では小型(直径約20-50 μ m)で厚壁の丸い道管が放射方向に数个顕著に複合するか、または間に木部柔細胞を挟みながら放射方向に顕著に連なる環孔材。道管の穿孔は単一で、木部柔細胞は周囲状や短接線状に分布する。放射組織は単列異性であるが時に2列となり、しばしば結晶を含む。道管と放射組織との壁孔は交互状。

アカメガシワは、埋土種子を形成し日当たりの良い林縁や裸地など乾燥した立地にもいち早く新入するパイオニア的な種であり、主に暖温帯に分布する。材質は軽軟で耐久性が低い。

コクサギ *Orixa japonica* Thunb. Rutaceae PL. 176 25a~25c

小型(20-40 μ m)でやや丸い道管が数列帯をなして、斜上状あるいはX字状に分布する紋様孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は同性に近い異性で、ほぼ単列であるが時に2列になる。道管の内腔には

らせん肥厚が認められる。道管と放射組織との壁孔は大きなレンズ状でまばらに分布する。

コクサギは低木~小高木の落葉広葉樹で、主に河畔・溪畔の肥沃な土壤にみられ、ケヤキと随伴して出現することもしばしばある。材質は軽軟で保存性も低い。

カエデ属 *Acer* Aceraceae PL.176 26a~26c

小型(直径約40-70 μ m)で丸い道管が、単独あるいは放射方向に2-3個複合して、ほぼ均一に分布する散孔材。道管の直径は年輪の始めと終わりで小さく、その中ほどで大きくなる傾向にある。道管の穿孔は単一で、内腔にはしばしばゴム状の物質が詰まっており、またらせん肥厚も認められる。木繊維の壁厚の相違は、横断面で紋様となって確認される。放射組織は同性で、6-7列ほどで、単列のものも交える。道管と放射組織との壁孔は小さなふるい状。

カエデ属には多くの種が含まれているが、一部の種を除けば多くが溪畔・河畔・丘陵などで主に亜高木層を形成する。材質は概して強硬で緻密、粘りも有しており、割れにくく加工はやや困難。

ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn.

Sapindaceae PL.177 27a~27c

大型(直径約200-250 μ m)で丸く、壁の厚い道管がほぼ単独で年輪の始めに2-3列並び、その後はやや径を減じてまばらに分布し、年輪界付近ではいびつで壁の厚い小道管(直径約20-30 μ m)が多数集合する環孔材。木部柔細胞は早材部では周囲状、晩材部ではレンズ状あるいは顕著な帯状に分布する。道管の穿孔は単一。道管内腔にはしばしばゴム状の着色物質がみられる。放射組織は同性で、3-4列。道管と放射組織との壁孔は、小さい対列状~ふるい状。

ムクロジは高木になる落葉広葉樹で、暖温帯の向陽地にみられる。材質は中庸~やや重硬で、やや従曲性がある。

トチノキ *Aesculus turbinata* Blume

Hippocastanaceae PL.177 28a~28c

小型(直径約30-60 μ m)でやや放射方向に伸びた丸い道管が放射方向に2-数个複合して散在する散孔材。道管の密度は年輪のはじめと終わりで低く、その間で高くなる傾向がある。道管の穿孔は単一で、内壁にはらせん肥厚がみられる。道管相互の壁孔は小型の交互状。放射組織は単列同性で、しばしば階層状に配列する。道管と放射組織との壁孔は小型の交互状。

トチノキは高木になる落葉広葉樹で、溪畔や河畔をハビタットとし、主に温帯に分布する。材質は均質で軽軟な部類に属し保存性も低いが、加工は容易で光沢を有し、木目が美しい。

ケンボナシ属 *Havenia* Rhamnaceae PL.177 29a~29c

中型(直径約120-150 μ m)の厚壁の丸い道管が年輪の始めにほぼ単独で1-2列ならび、そこから徐々に径を減じながらまばらに散在する環孔材。木部柔細胞は周囲状であるが、年輪界に接する部分では連合翼状となり、小道管(直径約20-40 μ m)を取り囲む。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で1-4列、単列部は直立細胞のみからなる。また、直立細胞にはしばしば結晶が認められる。道管と放射組織との壁孔はごく小さな交互状。

ケンボナシ属にはケンボナシ *Hovenia tomentella* (Makino) Nakai、ケンボナシ *Hovenia dulcis* Thunb. が含まれる。いずれも温帯~暖温帯に分布し高木になる落葉広葉樹で、ケンボナシは西日本に多くみられる。材質はいずれも中庸で、加工は容易で、木目が美しい。

クマノミズキ類 *Swida* cf. *macrophylla* (Wall.) Sojak Cornaceae PL.178 30a~30c

小型(直径約60-70 μ m)で丸い道管がほぼ単独でまばらに分布する散孔材。道管の直径は年輪界に向けて徐々に減少するが、時折小さな(直径約20 μ m)

道管を介在する。道管の穿孔は階段状で20本程度。木部柔細胞は散在状、短接線状。放射組織は異性で、直立細胞のみからなる単列のもの、4-6列程度の多列のものからなり、単列のものは数が少ない。道管と放射組織との壁孔は小さな交互~ふるい状。

クマノミズキ *Swida macrophylla* (Wall.) Sojak とヤマボウシ *Benthamidia japonica* (Sieb. et Zucc.) Hara との区別は困難なため、クマノミズキ類として一括して示している。クマノミズキは小高木になる温帯~暖温帯に分布する落葉広葉樹で、適湿な立地にみられる。ヤマボウシは小高木になる温帯に分布する落葉広葉樹で山野に生育する。材質はクマノミズキがやや重硬、ヤマボウシが重硬な材質で、いずれも緻密である。

4. 考察

古墳前期における出土材の樹種の特徴

同定された古墳時代の出土材の総数は153点で、そのほとんどが広葉樹材(計145点)で占められていることが明らかとなった(第13表)。全体では、クヌギ節が最も多く(54点)、次いでヤナギ節(24点)、アカガシ亜属(8点)、ヤマグワ(8点)、コナラ節(7点)、トチノキ(7点)などで構成されていた。次に、器種別の樹種構成の特徴を見ていくことにしたい(第15表)。

<杭>

器種別にみると杭材では、樹種構成は網羅的である事がわかる。杭材に関しては、他の地域においても樹種の選択性はあまり働かず、近辺の植生を反映していることが推定されている。今回の分析結果においても、アカガシ亜属(カシ類)やクヌギ節・コナラ節(ナラ類)などの堅強な材質を有するものから、ヤナギ属・アカメガシワなど軽軟な材質を有するものまで使用されていることを考慮すると、杭材に関しては材質に着目した樹種の選択性はあまり作用しておらず、近辺から適度な径長が得られる材をなかば無操作的に得ていた段階にとどまるものと推察さ

れる。

<丸太材>

丸太材に関しても、樹種構成は杭材のものとはほぼ類似的で、堅強な材と軽軟な材とが混在して使用されている。この丸太材は、水路に架けられた橋を構成していたものであると想定されているが、ヤナギ属の材が杭と比較してより多く使用されていることがわかる。またトチノキも多く、コクサギといった樹種の使用も認められる。これらの種は、いずれも河畔・溪畔を生育適地とするものであり、橋を造成する際に近辺に生育していた樹木を利用していただけすぎないことを強く示唆する。またこれらの材質は共に軽軟で耐久性が低く、丸太材についても杭材と同様、材質に着目した樹種選択はあまり働いていないと推察される。ただし、橋を構成していたであろう他の部材に対して強度を加味した樹種選択が成されていた可能性は排除できないであろう。

<角材・割板材>

角材・割板材の樹種構成は、杭材や丸太材ほど網羅的ではなく、それぞれその多くがクヌギ節の材で占められており、その他はほぼ1点ずつである。また杭や丸太材と比べても針葉樹材は多くないことがわかる。木材流通や林業技術が発達した近世ではこうした割材の多くは針葉樹材で占められるが、本遺跡におけるこの時代においてはそのような傾向は認められない。

<鋏・鋤>

杭・丸太材に比べ点数は少ないものの、鋤・鋏などの農具類には樹種選択が数種に絞られていることが明瞭である。最も多く用いられているのが重硬で強靱な材質を持つアカガシ亜属で、暖温帯地域の一般的な樹種選択に合致し、適材が用いられていると指摘できる。このうち1点は一木作りの鋤である。他にも、加工は容易で仕上がりも美しいが耐久性の面からみて問題のあるトチノキの1点を除けば、コナラ節、クヌギ節、カバノキ属と堅強・強靱な材質

のものが使用されている。アカガシ亜属は森林植生において優占し得るが、いくつかの花粉分析結果(徳永 1982; パリノ・サーヴェイ株式会社 1986; 藤根・鈴木 1993)をみる限り、おおむね花粉構成比10-15%程度で、蓄積はそれほど多くはなかったとみなせる。また、カバノキ属の母植物はミズメであると考えられるが、コナラ節やクヌギ節、アカガシ亜属に比べ森林植生の優占種とはならず点在して生育する種である。上記の花粉分析結果でもミズメと考えられるカバノキ属の花粉は5%程度あるいはそれ未満で、風媒花としては少ない。このことは、ごく近くにミズメの少数個体が存在していたか、遠方のある程度のまとまりを持った集団からもたらされたと考えられるが、いずれにせよ、それほど個体数が多くなかったということを示している。にもかかわらず、その材を選択して使用しているのには感心させられるものである。鋏・鋤の樹種構成の傾向は、当時の人々が経験を基に培われた材質への着目、そこから派生する樹種の取捨を通じて獲得された用材選択を指し示しているといえよう。

<その他>

その他の製品では、筒形木製品にイヌガヤが使用されていた。イヌガヤは特別な用途にされることもあり、丸木弓や槌、杵、削物などが代表的である。新保遺跡では多量の丸木弓が、日高遺跡においても、丸木弓と棒状木製品が各1点見出されている。これらは概して小型の棒状のものである。丸木弓には狩猟用具とする考えのほかに、供献具とする考えもある。今後のデータの蓄積を待たねば成らないが、本遺跡での筒形木製品も供献具としての性格のものである可能性があり、またそのような器種には選択的にイヌガヤが用いられていたのかもしれない。

また、斧柄にはヤマグワが用いられていた。ヤマグワの材は、重硬な部類に属し靱性に優れているという特性があり、まさに適材を選択しているといえる。他に斧柄に用いられる樹種としては、ユズリハ属、コナラ節、クヌギ節、カヤなどが一般的である

が、これらも同様に単に重硬であるだけでなく粘り強い材質を有している。

矢板にはクヌギ節が重点的に使用されており、その他も概して重硬で弾性に富むクリ、カヤが用いられて強度に配慮した樹種選択が行われていることが窺える。

加工板・加工材・加工棒はいずれも点数が少ないが、ヤナギ属の1点を除けばクヌギ節、アカガシ亜属、クマノミズキ類と堅強な材が見出されている。特に加工棒には堅強で強靱なヤマグワの材が集中的に用いられていた。これらはいずれも枝材を利用した小径で概して長く、形状と材の特性を生かす何らかの使用法を採っていた可能性が高い。

また、自然木や加工木と自然木との区別が不明瞭な材破片・材・枝・丸木のうち、材破片はやや網羅的でありながらもクヌギ節の卓越が確認される。やや類似した樹種構成は前述の角材や割・板材に認められ、この材破片はこうした材と同様な使用が想定され、それらから剝離・欠損したものである可能性もある。材とされたものではヤナギ属が多く、杭や丸太材由来のもの、あるいは近辺に生育していた植物由来のものである可能性があると考えられる。その他枝・丸木・自然木は、ヤナギ属、クヌギ節、アカガシ亜属、コクサギ、不明広葉樹材が検出されたが、これらは近辺に生育していた植物であると考えられる。

その他、不明なもののうち、モモの材が1点検出された。中国西北部が原産地とされるモモは、古くは縄文前期の遺跡から果実の中の核が出土しており(同志社大学考古学研究室 1990)、弥生時代に入ると各地で出土例がみられるので、既に移入されて果樹としての利用が一般的になっていたと考えられるが、モモの木材の出土は全国的にみて稀である。ただし、群馬県においては比較的出土例はあり、自然木では浜川館遺跡で(藤根・松葉 1998)、また加工木では日高遺跡で弥生後期のものが(鈴木・能城 1982)、新保遺跡では古墳前期のものが(鈴木・能城 1986)、そして元総社寺田遺跡では古墳後期のものがそれぞれ出土している(藤根 1992,1996)。本遺跡に

おいては明らかでないが、これらの遺跡におけるモモの材の用途は、一般に樹種の選択性が低い杭が多いものの、一方で分割材・梯子・弓などにも用いられており、重硬なモモの材質に着目した使用の可能性が窺える。また、モモの核の出土には人形などの遺物を伴う例があり、祭祀的な意味付けを想定することができるが、木材にもそのような意味付けが与えられていたのであろうか。

古墳前期の樹種構成から推測される周辺植生

ここまでの考察から、杭材、丸太材などは選択性が希薄であったと考えられる。このように、樹種の選択性があまり働いていないとすれば、杭材や丸太材から得られた樹種構成は近辺の林分レベルの植生を直接的に指し示していると想定される。また、鍬・鋤などの選択性が強く働いた器種の樹種を含めた、古墳前期の出土材の樹種構成全体は、より広範な遺跡周辺の植生を指し示していると想定される。そのように考えると、微高地を中心にクヌギ節が優占し、クリ、コナラ節をはじめとしてエノキ属、カエデ属などの落葉広葉樹に、アカガシ亜属などの常緑広葉樹やモミ属やイヌガヤなどの常緑針葉樹を交える林が広がり、河畔などの湿潤地にヤナギ属が、それよりやや比高のある適湿地にはトチノキやケヤキなどが生育する植生がうかび上がってくるが、前述の花粉分析結果数例に本遺跡の立地を考慮しても矛盾しない植生である。

群馬県においては、この時期のみならず出土材の樹種構成で殊にクヌギ節(クヌギと考えられる)が優占することが多く(例えば、鈴木・能城 1986; 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990; 藤根・鈴木 1993)、本遺跡の結果もこれと同調的である。こうしたクヌギ林が本来自然植生として成立していたのか、また人為の攪乱の影響が作用した結果なのかは不明であるが、仮に自然植生として成立していてもクヌギは成長が早く高い萌芽特性を持つ樹種であるから、過度な干渉でない限り人為攪乱により個体群が減少することはないと考えられる。本遺跡においてはアカメ

ガシワのようにパイオニア的な種を交えること、またクヌギは萌芽性が高く向陽地を好むことを考慮すれば、2次林的な色彩が強いものであると考えられる。

他の遺跡との古墳前期の樹種構成の比較

他の遺跡での鋤・鍬の用材をみると、多量の木製品を出土した新保遺跡(弥生後期～古墳前期)では、アカガシ亜属が89点、ついでクヌギ節が60点となっており(鈴木・能城 1982)、殊にカシ類が重用されたことが窺える。元総社寺田遺跡(古墳前期～古墳後期)ではカバノキ属が37点、クヌギ節が26点と重点的に使用されているが、柄には多様な樹種が用いられている(藤根 1992, 1996)。中村遺跡(古墳後期)では、カバノキ属の使用が2点認められ、クヌギ節・アカガシ亜属は使用されていない(パリノ・サーヴェイ株式会社 1986)。三ツ寺 I 遺跡(古墳後期)では、カバノキ属が12点と重点的に使用されており、クヌギ節・アカガシ亜属は少ない(群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988)。バックグラウンドとしての微地形に対応した植生の相違や樹種選択の嗜好性や強度にも考慮しなければならないが、この地域における鋤鍬類の樹種選択を概観すると、各遺跡で相違はあるものの、アカガシ亜属・クヌギ節・カバノキ属を中心として展開されているといえ、本遺跡での結果もこれに調和的であると指摘できる。

また、新保遺跡や三ツ寺 I 遺跡、元総社寺田遺跡など、弥生時代～古墳時代にすでにモミ属を板材や角材に多用している遺跡がある。こうした背景には、まず周辺植生にモミ属が多かったことが想定され、付近の花粉分析結果(徳永 1982; 藤根・鈴木 1993)でもモミ属花粉は10%程度検出されているのでこの可能性はあるであろう。ただし、立地は本遺跡と近似している印象をうけ、その他持込の可能性も考えられる。いずれにしても、モミ属の材が割材・角材に重点的に用いられる傾向にあるということは、こうした遺跡ではすでにこの時代に針葉樹材の割裂性などの材特性に着目していたと考えられる。

近世における出土材の樹種の特徴

同定結果を時代別にみると、近世以降と考えられる出土材の樹種構成は、その多くが針葉樹材で占められていることが明らかになった。全体でみると、アスナロ(3点)、サワラ(3点)が最も多く、次いでスギ(2点)、ツガ属(2点)という構成であった。

次に、器種別にその樹種構成を考察していきたい(第14表参照)。

<曲物・桶材>

近世の遺物で今回同定された総点数は少なく、統計的には十分ではない面があるが、曲物・桶材に関してはすべて針葉樹材が使われていたという結果が得られた。こうした板材の使用に際しては通直で割裂性に優れ、曲げにも強い針葉樹材を使用する傾向は、近世では一般的な傾向である。使用されている樹種もサワラ、ツガ属、モミ属、アスナロ、ヒノキ、スギと多様であり、顕著な針葉樹材への傾倒を示している。また、木取りは曲物(底板、蓋or底板)がすべて柾目であり、桶材(蓋)の木取りは柾目であった。一般に曲物の側板では柾目が多く、桶の側板には概して板目が使用される傾向にある。これは木材組織からみると晩材付近では水分が通導し難いため、水物である桶の使用に考慮し選択的に板目を使用するものと推察される。しかしながら、蓋・底板となると柾目・板目のどちらも用いられることがしばしばである。

<下駄>

下駄にはクリ、サワラ、ツガ属が使用されていた。近世の関東地方における下駄材には、針葉樹材の他にカツラ、サクラ属、ケヤキ、ムクロジ、キハダ、トネリコ属、ヤマグワ、キリ、アカガシ亜属などの、材質も様々な広葉樹材が用いられる傾向にあるが、そのなかでもクリの下駄はしばしば検出されており、一般的な用材選択の一つであると考えられる。クリの下駄が多いのは、材の蓄積としてクリが関東地方でふつうに見られる種であるということばかりでな

く、耐久性や耐湿性を考慮している可能性があると思われる。計3点のうち残りの2点は針葉樹材であるが、近世では下駄材にも針葉樹材は網羅的に使用されるのが一般的である。

< 鋤柄 >

鋤柄にはムクノキ、不明針葉樹材が使用されていた。この不明針葉樹材は、保存が悪く詳細な同定は出来ないがヒノキ科の一種あるいはスギと考えられる。これらは本遺跡の古墳時代の鋤柄や鋤柄に使用されている材に比べ強度が劣り、また軽い材であるが、加工技術の発達で材質をそれほど抑制しなくなったということなのかも知れないし、弥生時代や古墳時代には耕作具としてよりも土木具的な性格が強いと思われる鋤の使用に時代的な変化がみられたのかもしれない。

< その他 >

加工棒にモモが用いられていた。弥生時代・古墳時代のみならず近世においてもモモの木材の出土は稀であるといえるが、モモの材質に着目した使用なのか、また他の可能性があるのかは用途も不明なため明らかではない。

5. まとめ

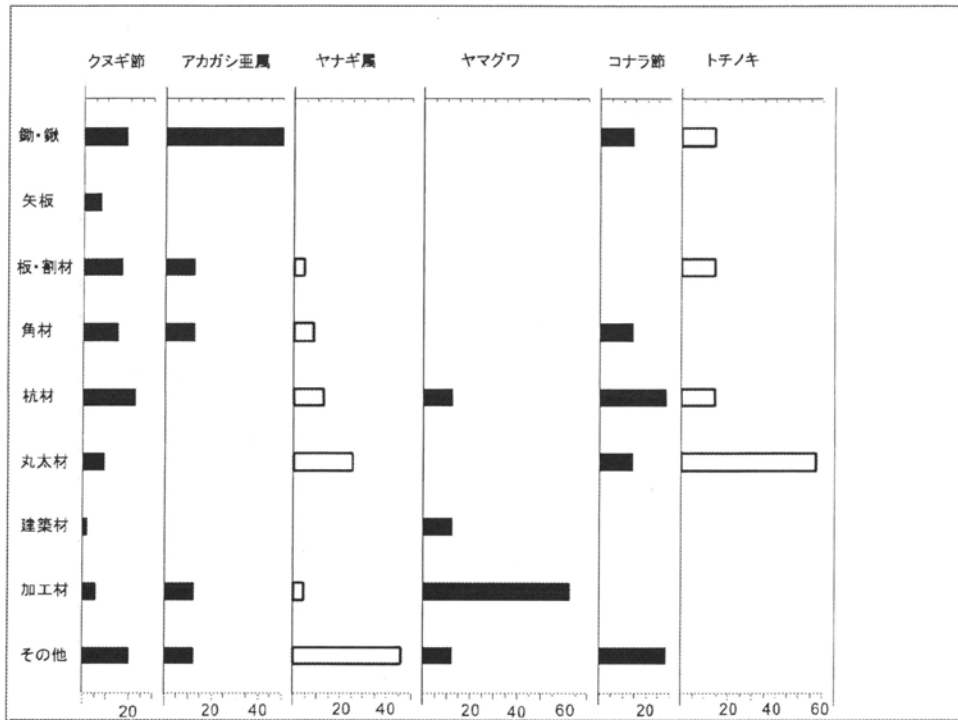
古墳時代の出土材はほとんど広葉樹材から成っていたが、近世になると針葉樹材が重用される傾向が明らかとなった。これには、針葉樹材の材特性への着目と、流通の確立により近隣の材だけでなく遠方の材をも利用できる環境が整ったこと、また林業技術の発達などを主な要因に挙げることができる。

古墳時代の出土材に関しては、器種により選択性の強度に相違が見られた。杭材や丸太材では使用されている樹種は多様で、また湿生や適湿生の分類群が多いことから近隣の植生からなかば無操作的に身近な材を得ていたと想定された。また、鋤・鋤などの農具類や、矢板、斧柄、筒形木製品などにはそれ

ぞれ適材や特別な材が用いられており、選択性が強く働いたと考えられた。

引用文献

- 群馬県埋蔵文化財調査事業団(1988)「上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書 第8集 三ツ寺I遺跡：古墳時代居館の調査」pp.1-33
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団(1990)「一級河川染谷川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊 溝・井戸・河川跡・水田・島の調査 新保田中村前遺跡I《遺物観察表編》」138p.
- 藤根久(1992)二之宮千足遺跡出土材の樹種。群馬県埋蔵文化財調査事業団(編)「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(自然科学・分析編) 二之宮千足遺跡」pp.30-49
- 藤根久(1996)樹種同定。群馬県埋蔵文化財調査事業団(編)「(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第208集 元総社寺田遺跡III」pp.65-91
- 藤根久・松葉礼子(1998)浜川館遺跡出土木材の樹種。群馬県埋蔵文化財調査事業団(編)「北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査報告書第9集 浜川館遺跡群」pp.336-349
- 藤根久・鈴木茂(1993)元総社寺田遺跡出土材の樹種構成と周辺植生。群馬県埋蔵文化財調査事業団(編)「(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第167集 元総社寺田遺跡II《木器編》」pp.135-185
- パリノ・サーヴェイ株式会社(1986)渋川市教育委員会(編)「関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書(KC-III) 中村遺跡」pp.538-609
- 鈴木三男・能城修一(1982)日高遺跡出土木材の樹種。群馬県埋蔵文化財調査事業団(編)「一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第5集 日高遺跡」pp.372-388
- 鈴木三男・能城修一(1986)新保遺跡出土加工木の樹種。群馬県埋蔵文化財調査事業団(編)「一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第10集 新保遺跡I 弥生・古墳時代大溝編」pp.71-94



第288図 古墳前期出土材における頻出分類群の器種別構成比

基数をそれぞれの樹種の検出数とした%で表してある。黒のヒストグラムは重硬な材、白のヒストグラムは軽軟な材を示している。

第13表 出土材の時代別樹種構成

樹種構成	近世～	古墳前期	計
クスギ節		54	54
ヤナギ属		24	24
アカガシ亜属		8	8
ヤマグワ		8	8
コナラ節		7	7
トチノキ		7	7
クリ	1	5	6
アスナロ	3	2	5
カエデ属		5	5
アカメガシワ		4	4
エノキ属		4	4
サワラ	3	1	4
モミ属	1	3	4
イヌガヤ		3	3
スギ	2	1	3
ケヤキ	1	2	3
マツ属単維管束亜属		3	3
ケンボナシ属		2	2
コクサギ		2	2
ツガ属	2		2
ムクノキ	1	1	2
ムクロジ		2	2
モモ	1	1	2
カツラ		1	1
カバノキ属		1	1
カヤ		1	1
クマノミズキ類		1	1
サクラ属		1	1
ヒノキ	1		1
マツ属複維管束亜属		1	1
×(広葉樹材)		1	1
×(広葉樹環孔材)		2	2
×(広葉樹散孔材)		1	1
×(針葉樹材)	1		1
計	17	158	176

第14表 近世以降の器種別樹種構成

樹種名	鋤柄	曲物蓋 or 底板	曲物底板	桶蓋	下駄	加工棒	加工材	棒	計
アスナロ			2					1	3
サワラ		1	1		1				3
スギ		2							2
ツガ属				1	1				2
クリ					1				1
ケヤキ							1		1
ヒノキ									1
モミ属			1						1
モモ			1			1			1
ムクノキ	1								1
×(針葉樹材)	1								1
計	2	3	5	1	3	1	1	1	17

第15表 古墳時代の器種別樹種構成

樹種名	鋤・鉄		杭・丸太材		角材		板・割材		建築材		加工材その他				その他			計
	一木鋤	鋤柄鉄 鋤横鉄 鋤泥除 横鉄 or 鋤鉄	杭	丸太杭 角杭 丸太杭 杭?	角材 角材 建築材? 角材	板材 割材 割材 杭 割材	脚台? 建築柱材 建築部材 建築部材?	刀形木製品? 筒形木製品 矢柄板 加工材 加工板 加工棒	丸木材 材破片 材枝	丸木材 材破片 材枝	不明 自然木	丸木材 材破片 材枝	丸木材 材破片 材枝	丸木材 材破片 材枝	丸木材 材破片 材枝	丸木材 材破片 材枝	丸木材 材破片 材枝	
クスギ節 (根材)	1		6	6	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	54
ヤナギ属			2	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	(1)
ヤマグワ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	24
アカガシ亜属	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
トチノキ		1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8
コナラ節	1		2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	7
クリ			2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	7
カエデ属			1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5
アスナロ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5
モミ属			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
サワラ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
エノキ属			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
アカメガシワ			3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4
マツ属 車維管束亜属			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4
スギ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
ケヤキ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
イヌガヤ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
モモ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
ムクロジ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ムクノキ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
コクサギ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
ケンボナシ属			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
マツ属 複維管束亜属			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サクラ属			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
クマノミズキ類			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
カヤ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
カバノキ属			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
カツラ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
× (針葉樹材)			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
× (広葉樹散孔材)			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
× (広葉樹環孔材)			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
× (広葉樹材)			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
計	1	1	2	2	6	1	2	4	10	2	1	1	1	1	1	1	1	159

第16表 出土材の樹種構成

No	樹種構成	出土位置	製品名	木取り	時代	計測値 (cm)	備考
1	イヌガヤ	G区6号溝	筒形木製品	幹	古墳前	長13.5 口径 9.6 胴径 8.6	木口面に漆
2	クリ	B区2号溝	下駄	柱目	近世～	長21.5 幅 6.5 高 3.5-0.9	
3	サワラ	B区2号溝	下駄	柱目	近世～	長19.5 幅 8.2 高 2.6-0.4	焼印有り
4	ツガ属	B区2号溝	蓋	柱目	近世～	径14.5 厚 0.8	「足利忠右衛門」墨書有り
5	サワラ	B区2号溝	蓋or底板	柱目	近世～	現長23.0 厚 1.0	
6	スギ	B区2号溝	蓋or底板	柱目	近世～	現長17.6 厚 1.5	隠針穴2ヶ所
7	ツガ属	H区3号溝	下駄	柱目	近世～	長21.5 幅 8.5 高 3.0	焼印有り
8	スギ	J区グリッド	曲物蓋or底板	柱目	近世～	長23.5 厚 1.0	隠針穴2ヶ所
9	モミ属	A区9号溝	曲物底板	柱目	近世～	現長15.5 厚0.7	
10	アカガシ亜属	A区9号溝	横鋏or泥除	柱目	古墳前	現長20.0 推定幅17.0 柄穴径4.5	
11-1	カバノキ属	J区1河川跡	鋏柄		古墳前	現長32.5 現幅12.0 穴径 3.5	
11-2	アカガシ亜属	J区1河川跡	鋏	柱目	古墳前		
12	アカガシ亜属	G区6号溝	横鋏	柱目	古墳前	現長43.0 幅10.6 厚 2.6	
13	トチノキ	J区1河川跡	(鋏)	柱目	古墳前	現長16.0 幅10.0 厚 1.5	
14	クリ	A区9号溝	矢板	柱目	古墳前	長40.7 幅 4.5 厚 2.1	
15	クヌギ節	A区9号溝	矢板	柱目	古墳前	現長15.0 幅 5.0 厚 1.5	
16	クヌギ節	A区9号溝	杭	割	古墳前	現長29.6 幅 6.6 厚 2.9	
17	クヌギ節	A区9号溝	杭	割	古墳前	現長34.1 幅 4.7 厚 2.1	
18	ムクロジ	A区9号溝	杭	割	古墳前	長28.0 幅 3.8 厚 2.2	
19	クヌギ節	A区9号溝	杭	割	古墳前	長37.4 幅 4.6 厚 3.3	
20	クヌギ節	A区9号溝	杭	割	古墳前	長35.3 幅 5.4 厚 3.5	
21	アカメガシワ	A区9号溝	杭	丸太	古墳前	長35.5 径 3.3	
22	アカメガシワ	A区9号溝	杭	割	古墳前	長39.2 幅 6.0 厚 3.1	
23	アカメガシワ	J区1河川跡	杭	丸太	古墳前	現長26.5 径 4.2	
24	ヤマグワ	J区1河川跡	斧柄	枝	古墳前	長30.0 径 2.5	
25	ケンボナシ属	J区1河川跡	杭	丸太	古墳前	現長27.0 径 3.0	
26	カエデ属	J区1河川跡	(杭)	丸太	古墳前	現長60.0 径 4.0	
27	コナラ節	G区6号溝	杭	丸太	古墳前	現長48.3 径 3.6	
28	アスナロ	B区2号溝	棒	丸太	近世～	現長69.0 径 3.2	
29	クヌギ節	A区9号溝	杭	割	古墳前	長45.2 幅 5.4 厚 4.6	
30-1	×(針葉樹材)	G区	鋏柄	割?	近世～	長55.0 径 3.2	取手に針穴
30-2	ムクノキ	G区	鋏柄	割?	近世～		
31	クヌギ節	J区1河川跡	建築柱材	丸太	古墳前	現長49.1 径 7.5	縛痕
32	アカガシ亜属	J区1河川跡	一木鋏	柱目	古墳前	現長66.9 肩幅 3.0 厚 2.0 柄径 3.7	直伸
33	ヤマグワ	J区1河川跡	加工棒	丸太	古墳前	現長49.4 径 2.5	
34	ヤマグワ	J区1河川跡	加工棒	丸太	古墳前	現長57.0 径 2.5	
35	コナラ節	G区6号溝	鋏	柱目	古墳前	現長30.0 幅12.4 厚 2.5	柄を欠く
37	クヌギ節	I区8号井戸	杭	割	古墳前	長22.8 幅 2.5 厚 3.0	
38	アカガシ亜属	I区12号井戸	板材	柱目	古墳前	現長27.8 幅 2.2 厚 0.9	
39	クヌギ節	I区12号井戸	角棒	割	古墳前	現長47.7 幅 3.5 厚 2.5	半分を丸く削る
40	クヌギ節	I区8号井戸	板材	柱目	古墳前	長69.8 幅15.2 厚 3.6	表裏ともコゲ有り
41	アカガシ亜属	I区8号井戸	角棒	割	古墳前	長76.3 幅 4.4 厚 3.5	先端コゲ
42	クヌギ節	J区1河川跡	角棒	割	古墳前	現長76.8 幅 3.6 厚 2.2	
43	カヤ	G区6号溝	矢板	柱目	古墳前	現長67.0 幅 7.3 厚 3.5	
44	クヌギ節	J区1河川跡	加工棒	割	古墳前	現長93.3 幅 3.8 厚 2.5	一方を刀状にする
45	クヌギ節	J区1河川跡	(刀形木製品)	割	古墳前	現長74.8 幅 4.4 厚 2.4	
46	クヌギ節	J区1河川跡	加工板	柱目	古墳前	現長58.7 幅11.8 厚 1.8	「大足」か
47	マツ属単維管束亜属	G区6号溝	杭	丸太	古墳前	現長129.0 径 7.0	
48	クマノミズキ類	G区6号溝	加工材	板目	古墳前	現長93.1 幅 6.5 厚 2.6	楕円断面に整形
49	クリ	G区6号溝	建築部材	板目	古墳前	長117.0 幅23.0 厚 4.0 柄幅 5.5	
50	ヤナギ属	J区1河川跡	加工棒	枝	古墳前	現長74.0 径 1.8	
51	アカガシ亜属	J区1河川跡	加工棒	丸太	古墳前	長71.7 径 1.6	先端欠く
52	ヤマグワ	J区1河川跡	加工棒	枝	古墳前	長92.0 径 1.8	
53	ヤマグワ	J区1河川跡	加工棒	枝	古墳前	現長29.0 径 1.3	
54	コナラ節	G区6号溝	材破片		古墳前	長36.5 幅 5	
55	ヤナギ属	G区6号溝	材		古墳前	長86 幅 5	
56	クヌギ節	G区6号溝	角材		古墳前	長30 幅 3	削り痕
57	クヌギ節	G区6号溝			古墳前	長 56 幅 9, 長13 径 2	面取り
58	エノキ属	G区6号溝			古墳前	長 7-9	面取り
59	クヌギ節	G区6号溝			古墳前	長20 幅 5	

60	×(広葉樹環孔材)	G区6号溝	角材(建築材か?)	古墳前	長52 幅 3	
61	ムクロジ	G区6号溝	建築部材?	古墳前	長12 幅 8	面取り
62	ヤナギ属	G区6号溝	丸太材	古墳前	長95 径 4.5	皮付き、枝払い
63	ケヤキ	G区6号溝	角材	古墳前	長35 幅 5	
64	コクサギ	G区6号溝	丸太材	古墳前	長129 径 5	皮付き、枝払い
65	サワラ	G区6号溝	角材	古墳前	長16 幅 7	断裁痕
66	ヤナギ属	G区6号溝	丸太材	古墳前	長95 径 8	皮剥き、枝払い、端部削り
69	マツ属単維管束亜属	G区6号溝	丸太材	古墳前	長32 径 5	コゲ
70	ヤナギ属	G区6号溝	自然木	古墳前		
71	トチノキ	G区6号溝	丸太材	古墳前	長97 径 9	削り
72	トチノキ	G区6号溝	丸太材	古墳前	長88 幅 7.5	皮剥き、枝払い、端部削り
73	クスギ節	G区6号溝	丸太材	古墳前	長59.5 幅 6	皮剥き、枝払い、端部に簡単な削り
74	クスギ節	G区6号溝	丸太材	古墳前	長55 径 7	皮剥き、枝払い、削り
75	クスギ節	G区6号溝	丸太材	古墳前	長39 径 6, 長45 径 5	
76	トチノキ	G区6号溝	杭	古墳前	長53 径 6	
77	トチノキ	G区6号溝	丸太材	古墳前	長129 径 7.5	
78	ヤナギ属	G区6号溝	材	古墳前	長90 幅15	
79	ヤナギ属	G区6号溝	丸木	古墳前	長105 径 8	皮付き
80-1	×(広葉樹散孔材)	G区6号溝	丸太材	古墳前	長73 径 7	両端裁断、削り80-2とは樹種異なる
80-2	クスギ節	G区6号溝	丸太材	古墳前	長50 径 4	
81	ヤナギ属	G区6号溝	材	古墳前	長96 径 7	皮付き、枝払い、みかん割
82	ヤナギ属	G区6号溝	材	古墳前	長110 径 7	皮付き、枝払い
83	ヤナギ属	G区6号溝	丸太材	古墳前	長70 幅 5.5	枝払い
84	エノキ属	G区6号溝	材破片	古墳前	長84	
85	トチノキ	G区6号溝	割材	古墳前	長110	
86	カエデ属	G区6号溝	材破片	古墳前	長100 幅10 厚 3.5	
87	クスギ節	G区6号溝	割材	古墳前	長290 径12	4分の1程度
88	コナラ節	G区6号溝		古墳前	長43 幅13	加工痕なし
89	クスギ節	G区6号溝	丸太杭	古墳前	長25	皮なし
90	クスギ節	G区6号溝	割材	古墳前	長18 径 4	裏面の一部に皮残す
92	ヤナギ属	G区6号溝	杭	古墳前		
93	コナラ節	G区6号溝	角材破片	古墳前	長28 幅 7.5	
94	カエデ属	G区6号溝	材	古墳前	長102 径 5	皮付き、枝払い
95	ヤマグワ	G区6号溝		古墳前		枝払い
97	イヌガヤ	G区6号溝	材破片	古墳前	長92 幅 3.5	堅く遺存度良し
98	ヤナギ属	G区6号溝	丸太材	古墳前	長96.5 径 4.5	枝払い、コゲ
99	クスギ節	G区6号溝		古墳前	長22.5 幅 5	枝払い、全体に磨きか
100	クスギ節	G区6号溝	材破片	古墳前	長46 幅 5	
101	クスギ節	G区6号溝	材破片	古墳前	長20 幅 3	
102	コナラ節	G区6号溝	丸太材	古墳前	長92 径 9	皮剥き、枝払い
103	マツ属単維管束亜属	G区6号溝	板材	古墳前	長45 幅19	破片で全形不明
104	ヤマグワ	G区6号溝	材	古墳前	長69 径 3	枝払い、一部に削り
105	モミ属	G区6号溝	杭	古墳前	長28 径 4.5	頭部丸く、中位に片方から深い削り痕
106	ケンボナシ属	G区6号溝	材破片	古墳前	長50 幅 5	
107	ヤナギ属	G区6号溝	杭	古墳前	長20 径 6	上半欠く
108	ヤナギ属	G区6号溝		古墳前	長44 径 4	皮付き、枝払い
109	クスギ節	G区6号溝	杭	古墳前	長57 径 4	皮付き、削り
111	ヤナギ属	G区6号溝	材	古墳前	長34 径 3	
113	エノキ属	G区6号溝	角材	古墳前	長25 幅 5	一部コゲ
114	エノキ属	G区6号溝	杭	古墳前	長57 幅 5	削りの可能性、割角材の可能性
115	ヤマグワ	G区6号溝	建築材(脚台?)	古墳前	長38 幅15	幹の分枝部、先端断裁後コゲの痕跡
116	マツ属複維管束亜属	G区6号溝	材	古墳前	長22 幅 9	
117-1	モミ属	G区6号溝	板材	古墳前	長24 幅 5.5	農具か不明
117-2	クスギ節	G区6号溝	角材	古墳前		
117-3	カツラ	G区6号溝	角材	古墳前		
117-4	アスナロ	G区6号溝	角材	古墳前		
118	ヤナギ属	G区6号溝	丸太材	古墳前	長77 径 6	枝払い、両端欠く
119	×(広葉樹環孔材)	G区6号溝	丸太材	古墳前	長87 幅11	両端断裁
120	ヤナギ属	G区6号溝	丸太材	古墳前	長65 径 5	片面コゲ
121	クリ	G区6号溝	材	古墳前	長45.5 幅 7	
122	クリ	G区6号溝	材	古墳前	長55 幅 8	全体削り
123	コナラ節	G区6号溝	杭	古墳前	長37 幅 6	

124	クヌギ節	G区6号溝	角材		古墳前	長15 幅 6	
125	イヌガヤ	J区1河川跡	割材(杭)		古墳前	長41 幅 4	枝払い
126	モミ属	J区1河川跡	割材		古墳前	長19 幅 3.5 厚 2	
127	クヌギ節	J区1河川跡	材破片		古墳前	長18 幅 5	流木
128	クヌギ節	J区1河川跡	割材		古墳前	長30 幅 4.5 高 1.5	
129	ムクノキ	J区1河川跡	丸木材		古墳前	長34 幅 3	
130	スギ	J区1河川跡	板材		古墳前	長16 幅 3.5 厚 0.5	
131	コクサギ	J区1河川跡	丸木		古墳前	長54 径 3	枝払い
132	ケヤキ	J区1河川跡	材破片		古墳前	長30 幅 8 厚 5	
133	クリ	J区1河川跡	角材		古墳前	長26 幅 5 厚 3	両端欠く
134	カエデ属	J区1河川跡	丸木材		古墳前	長38 幅 3.5	枝払い
135	トチノキ	J区1河川跡	丸木材		古墳前	長28 幅 4 厚 3	
136	カエデ属	J区1河川跡	丸太材		古墳前	長86 径 5	頭部窪む
137	クヌギ節	J区1河川跡	割材		古墳前	長39	
138	クヌギ節	J区1河川跡	材破片		古墳前	長12 幅 9	
139	クヌギ節	J区1河川跡	割材		古墳前	長16 幅 4.5 厚 2	
140	クヌギ節(根材)	J区1河川跡	丸太材		古墳前	長42 径 4	
141	アカガシ亜属	J区1河川跡			古墳前	長31 径 1.8	他
142	サクラ属	J区2河川跡	丸太材		古墳前	長50 径 5	
143	ヤナギ属	I区12号井戸	枝		古墳前	長29 幅 2.5	
144	クヌギ節	I区12号井戸	割材破片		古墳前	長31 幅 6	みかん割
145	ヤナギ属	I区12号井戸	材破片		古墳前	長42	
146	ヤナギ属	I区12号井戸	杭?		古墳前	長 9 幅 4.5	
147	ヤナギ属	I区12号井戸	割材		古墳前	長12 幅 7	
149	ヤナギ属	I区12号井戸	枝		古墳前	長12 径 1.8	皮付き
150	アスナロ	I区12号井戸	割材		古墳前	長12	
152	×(広葉樹材)	I区12号井戸	枝		古墳前	長28 幅 2.5	
153	クヌギ節	I区12号井戸	割材破片		古墳前	長24 幅10	
154	ヤナギ属	I区12号井戸	角材片		古墳前	長11	加工
155	ヤナギ属	I区12号井戸	角材破片		古墳前	長11 幅 5	加工
156	クヌギ節	I区12号井戸	割材		古墳前	長39 幅 5	
157	クヌギ節	A区9号溝	角杭		古墳前	長20	
161	クヌギ節	A区9号溝	自然木		古墳前	長22	
171	クヌギ節	A区9号溝	角杭		古墳前	長40 幅 5 厚 3	
172	クヌギ節	A区9号溝	角杭		古墳前	長26 幅 4 厚 4	
173	クヌギ節	A区9号溝	角材		古墳前	長15 幅 4.5 厚 2.5	
174	クヌギ節	A区9号溝	角杭		古墳前	長32 幅 7 厚 3.5	
175	クヌギ節	A区9号溝	矢板		古墳前	長31 幅 5.5 厚 3	
176	クヌギ節	A区9号溝	角杭		古墳前	長35 幅 5 厚 3	
179	クヌギ節	A区9号溝	角杭		古墳前	長35 幅 6 厚 4	
182	クヌギ節	A区9号溝	矢板		古墳前	長37 幅 6 厚 4	先端割れる
183	クヌギ節	A区9号溝	矢板		古墳前	長49 幅 7 厚 2	
184	クヌギ節	A区9号溝	角材		古墳前	長60以上	
187	アカメガシワ	A区9号溝	角杭		古墳前	長28 幅 5 厚 3	先端欠く
189	クヌギ節	D区1河川跡	材破片		古墳前	長15 幅 5.5	みかん割
190	クヌギ節	D区1河川跡	材破片		古墳前	長16 幅 3.5	杭断ち割り
191	クヌギ節	D区1河川跡	材破片		古墳前	長26 幅 8	炭化、杭断ち割り
193	モモ	J区1河川跡			古墳前		
194	アスナロ	I区17号井戸	曲物底板	柱目	近世～	径19.0 厚 1.1	完形
195	サワラ	I区17号井戸	曲物底板	柱目	近世～	径16.5 厚 0.8	2分の1残存
196	ヒノキ	I区17号井戸	曲物底板	柱目	近世～	径13.4 厚 0.7	2分の1残存
197	ケヤキ	I区17号井戸	不明木製品	柱目	近世～	現長14.0 幅 4.9 厚 1.0	
198	モモ	I区17号井戸	手かぎ状木製品	枝	近世～	長14.4 径 1.9	先端削り、分枝部残す
199	アスナロ	I区17号井戸	曲物底板	柱目	近世～	現長10.5 厚 0.8	

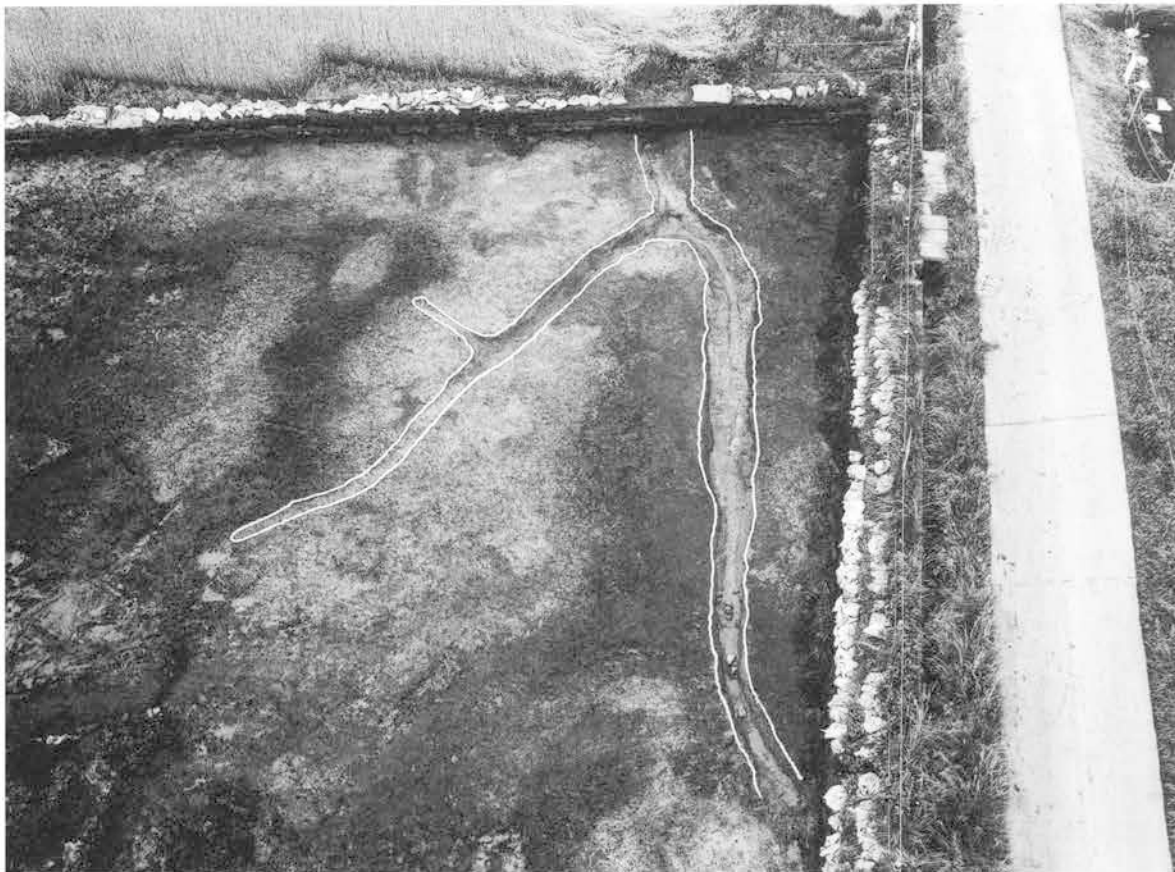
写 真 图 版



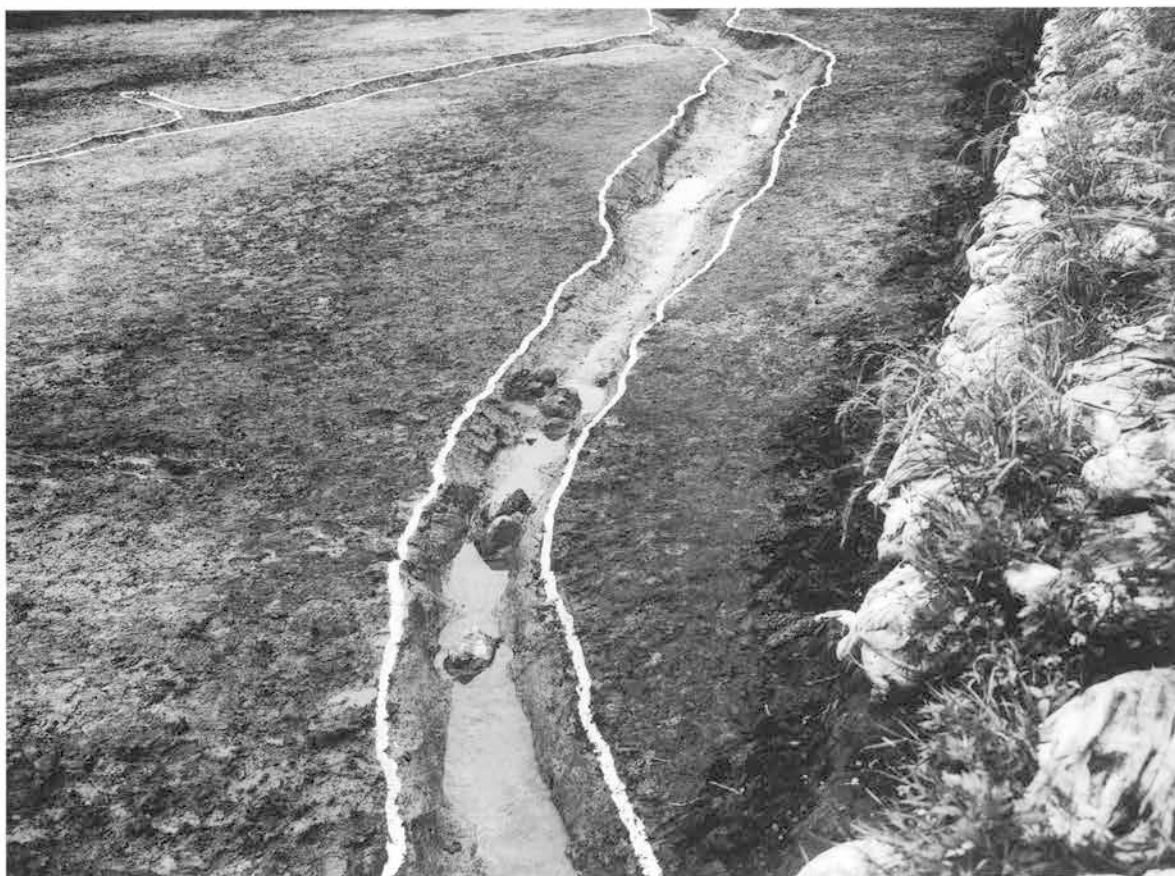
徳丸仲田遺跡周辺を南上空から望む 左から右下に利根川が流れる。中央の支流は端気川。



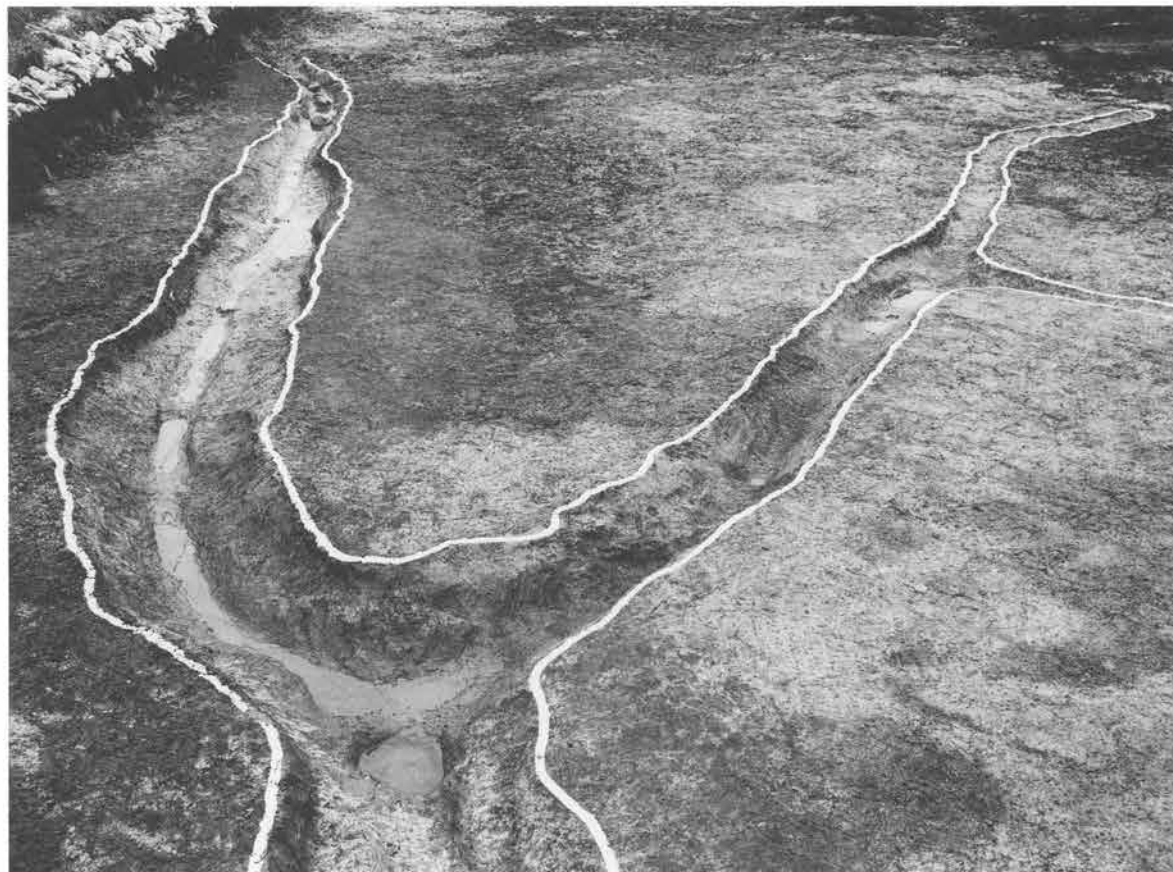
徳丸仲田遺跡を上空から望む 東西に北関東自動車道用地、左に端気川、右に藤川が流れる。



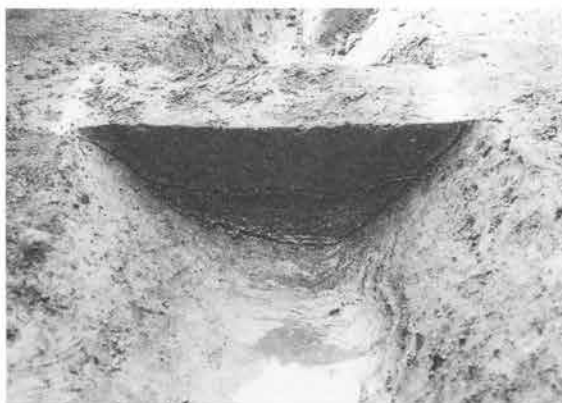
D区12・13号溝全景（南から）左が13号溝



D区12号溝近景（南から）



D区12・13号溝合流部分（北から）



D区12号溝土層断面 左A断面右C断面



D区13号溝土層断面 左D断面右E断面



E区6号溝 (南より)



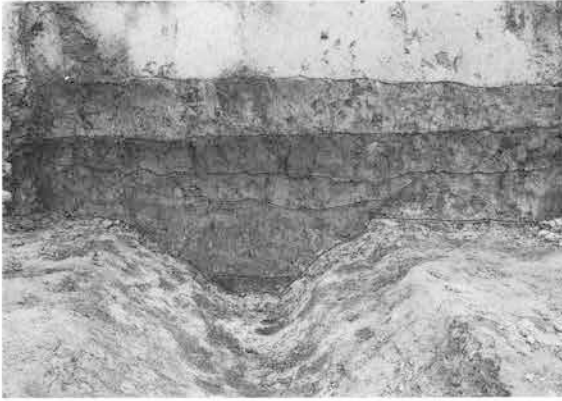
E区7号溝屈曲部分 (西より)



E区6・7号溝合流地点



E区8号溝全景（南東から）



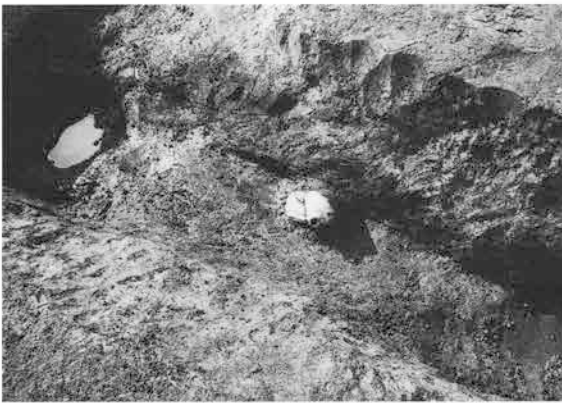
E区6号溝土層断面 左A断面右B断面



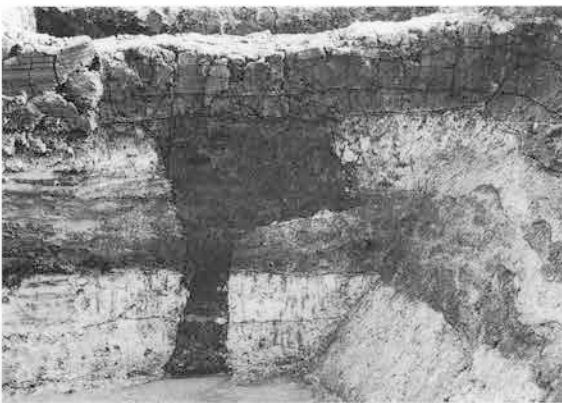
E区7号溝土層E断面



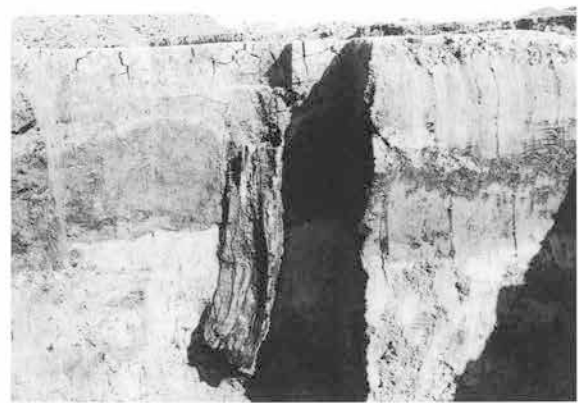
E区8号溝土層G断面



E区6号溝縄文土器出土状況 器種は注口浅鉢で1個体に復元にされた



E区陥穴状遺構断面



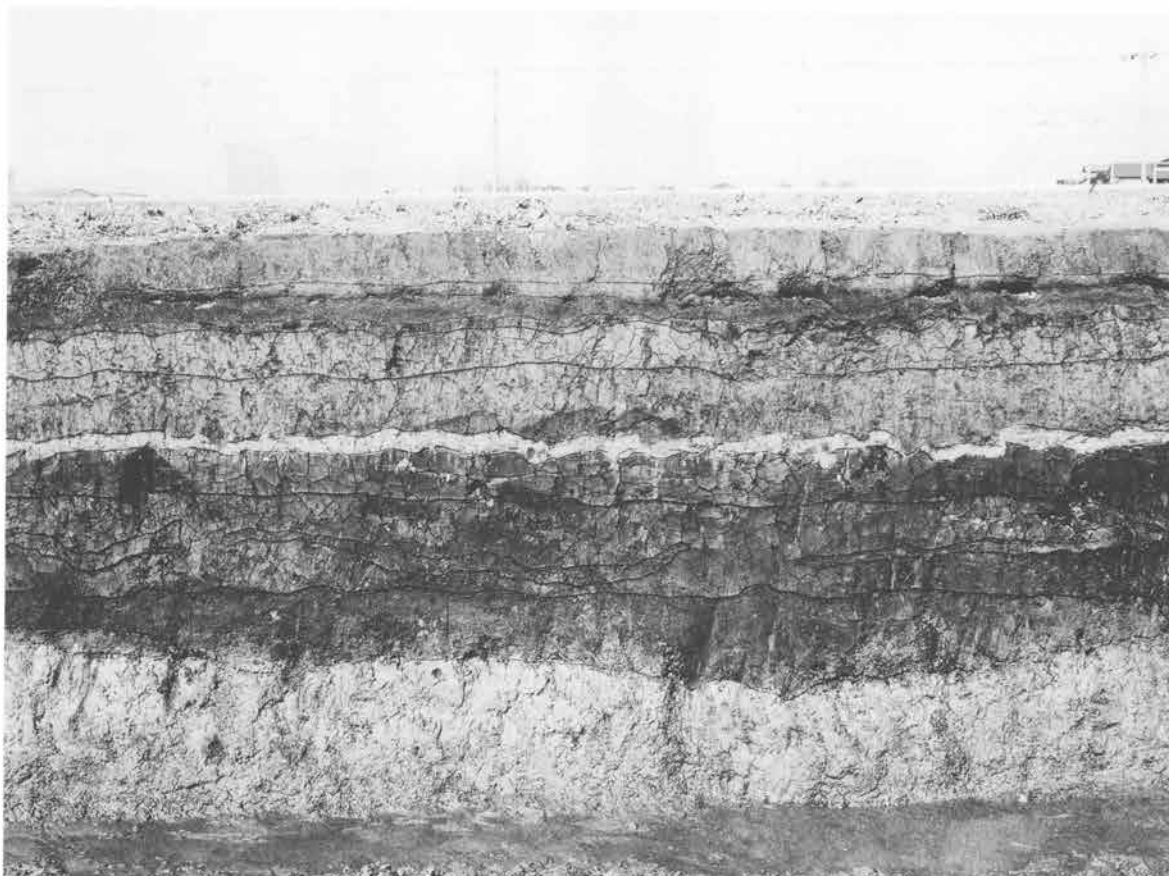
E区立木遺構断面



B区河川跡のくぼみ As-C降下直前の状況を示す



B区河川跡の南壁における土層断面 中位の白色層はHr-FA



B区河川跡土層断面 中位白色層はHr-FA、下位白色層は地山粘土層



東岸立ち上がり部分断面



西岸立ち上がり部分断面



河川跡底面における材の出土状況



D区河川跡（東から） 右下方から13号溝が合流する



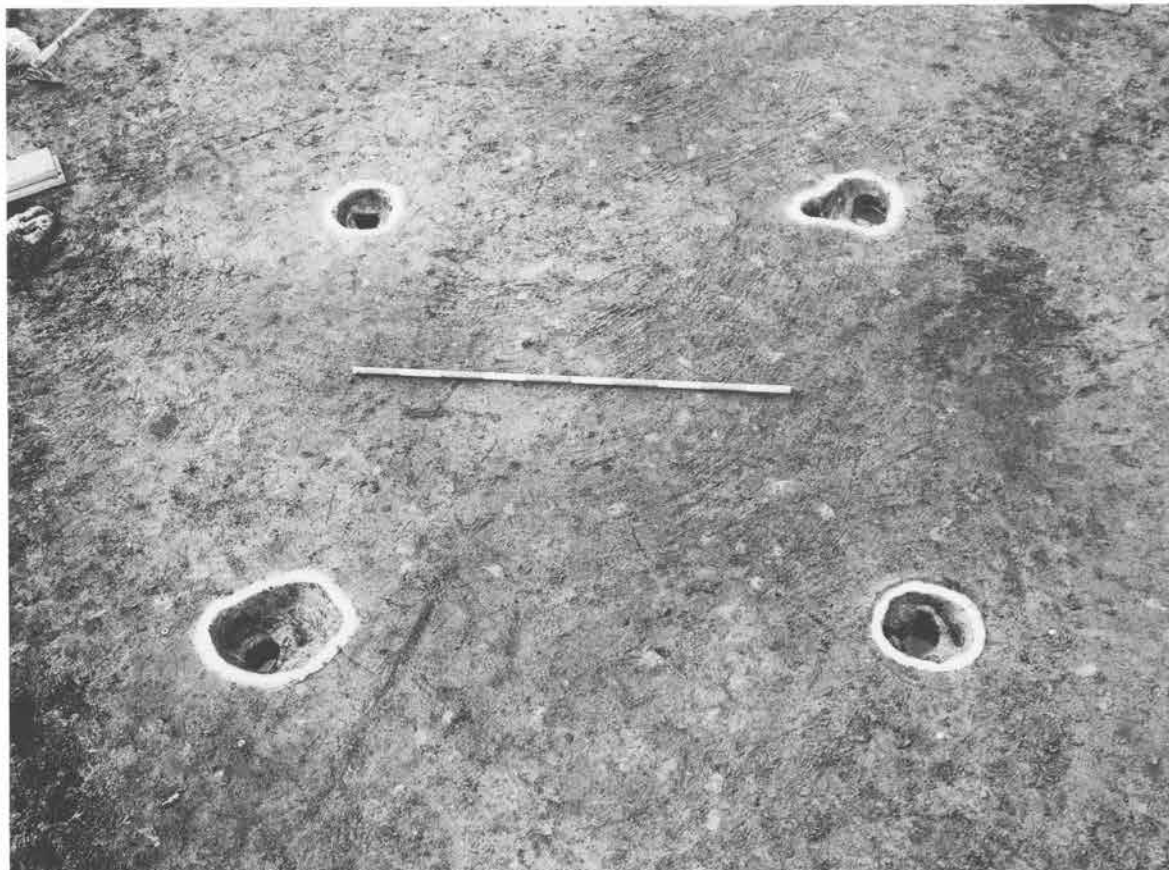
D区河川跡全景（南東から）



D区河川跡南半部分（南東から）



D区河川跡北半部分（南から）



H区3号住居跡 中央のポールは2m



H区4号住居跡 主柱穴のみが残る



I区1号住居跡全景 上は竈



竈の断面調査



掘方と埋土断面



竈内の甑 (1) 出土状況



貯蔵穴の断面



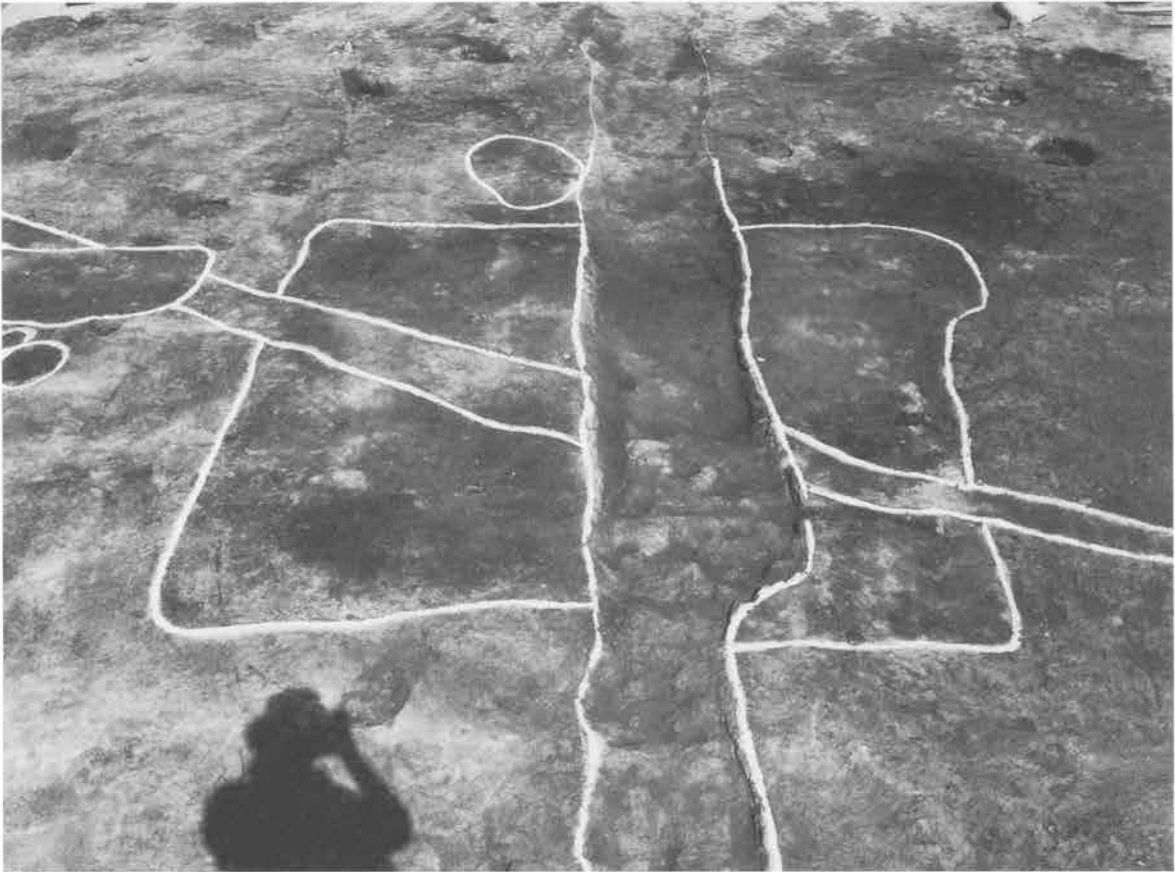
壁際出土の甕口縁 (台転用か)



甕 (6) 出土状況



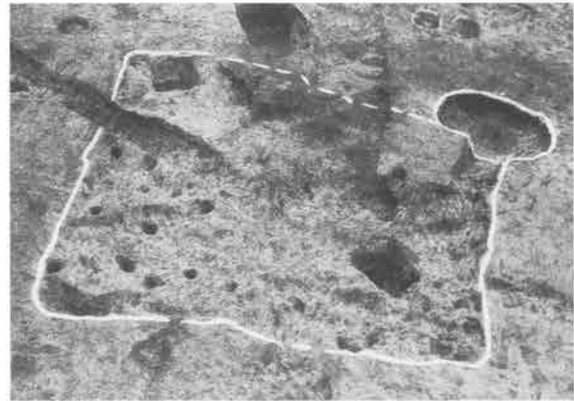
I区1号住居跡掘方全景



I区4号住居跡全景 中央を1・3号溝が貫通する



I区4号住居跡貯蔵穴



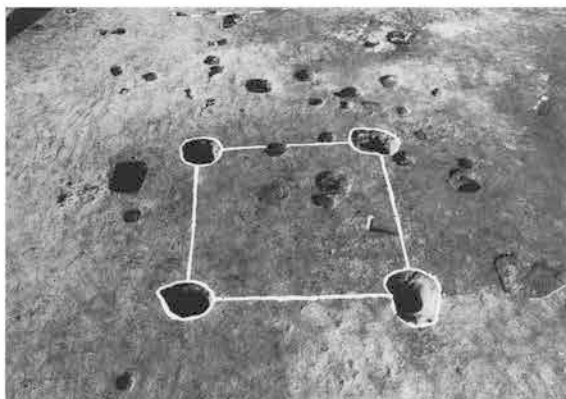
I区4号住居跡掘方



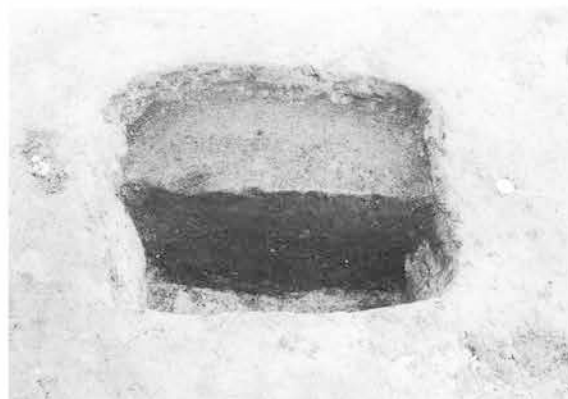
I区7号住居跡遺物出土状況



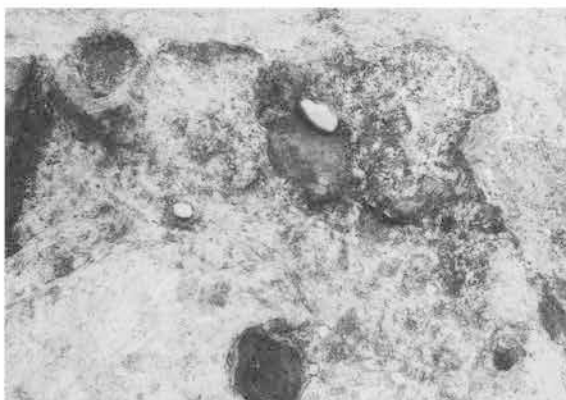
I区7号住居跡埋土A断面



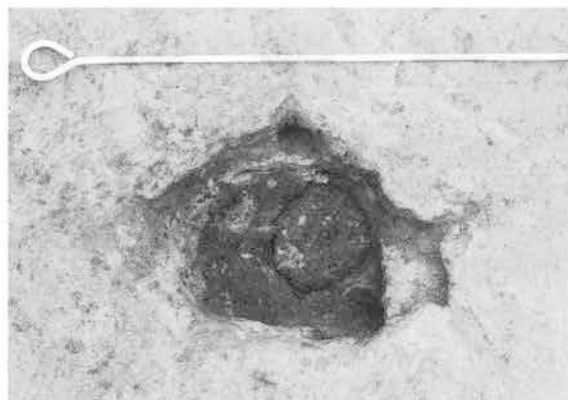
I区8号住居跡の柱穴配置



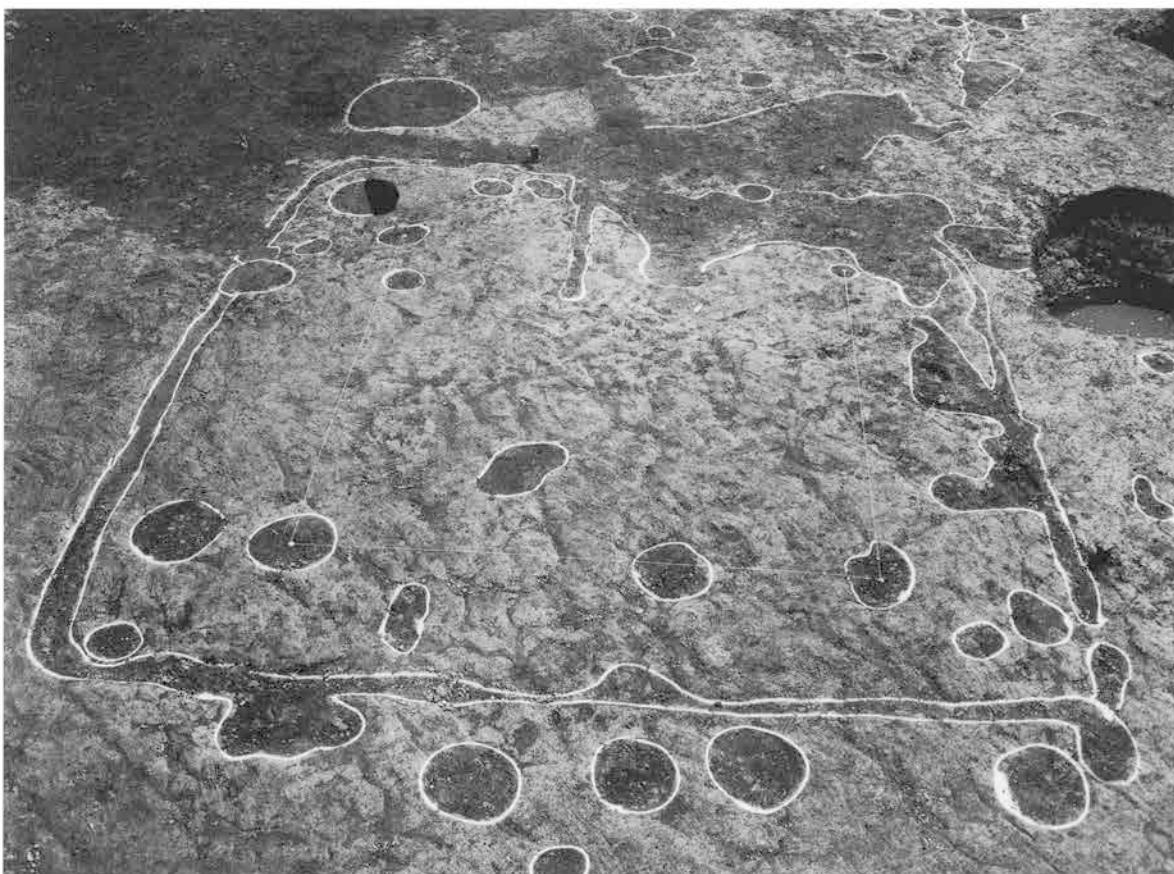
I区8号住居跡貯蔵穴断面



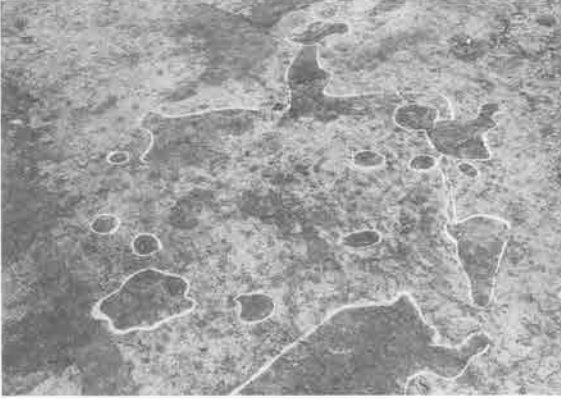
I区9号住居跡南東隅の状況



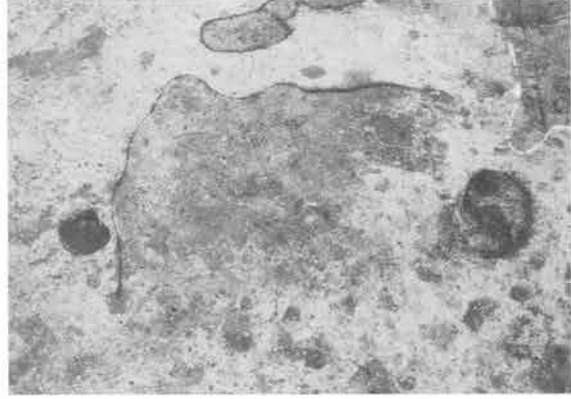
I区9号住居跡柱穴P3



I区9号住居跡掘方全景 壁と床面は残っていない



I区11号住居跡掘方



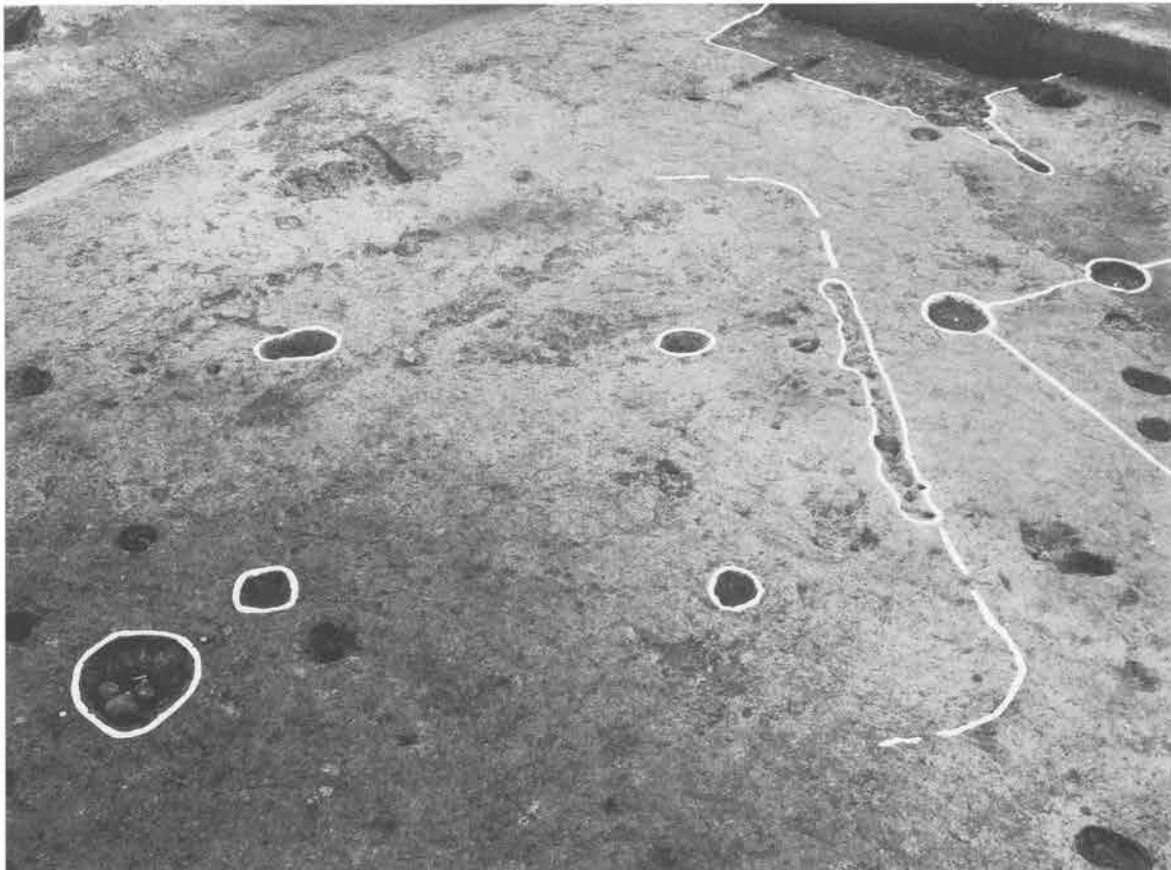
I区11号住居跡出土の焼土と炭化材



I区11号住居跡貯蔵穴断面



I区12号住居跡貯蔵穴の土器群



I区12号住居跡全景 柱穴と貯蔵穴のみ残る



I区13号住居跡全景 中世以降の攪乱が激しい



貯蔵穴断面 ローム塊が多い



貯蔵穴平面 碟2点が出土



貯蔵穴内出土土器片



貯蔵穴内遺物出土状況



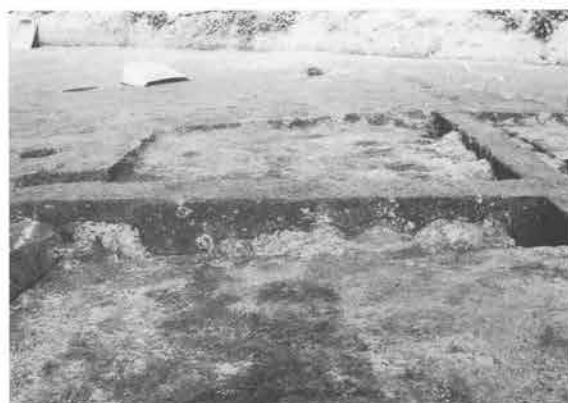
I区14号住居跡全景



I区14号住居跡遺物出土状況



I区15号住居跡全景



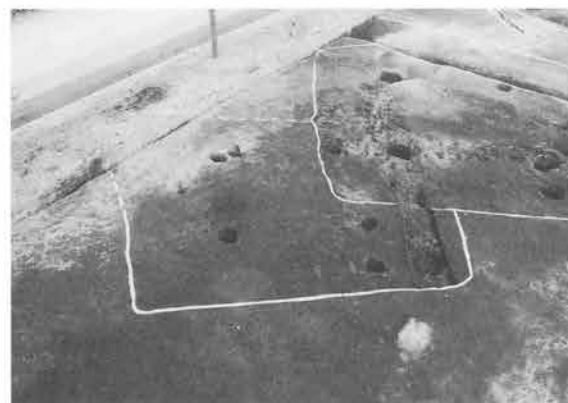
I区15号住居跡埋土断面



I区15号住居跡貯藏穴内部



I区15号住居跡柱穴



I区16号住居跡全景



I区17号住居跡全景



I区18号住居跡全景



I区18号住居跡P1断面



I区18号住居跡P2断面



I区19号住居跡全景



I区20号住居跡全景



I区20号住居跡貯藏穴遺物出土狀況



I区20号住居跡貯藏穴断面



I区20号住居跡貯藏穴遺物出土狀況



I区22号住居跡全景 中央を横断するのは27号溝



I区22号住居跡1号貯蔵穴断面



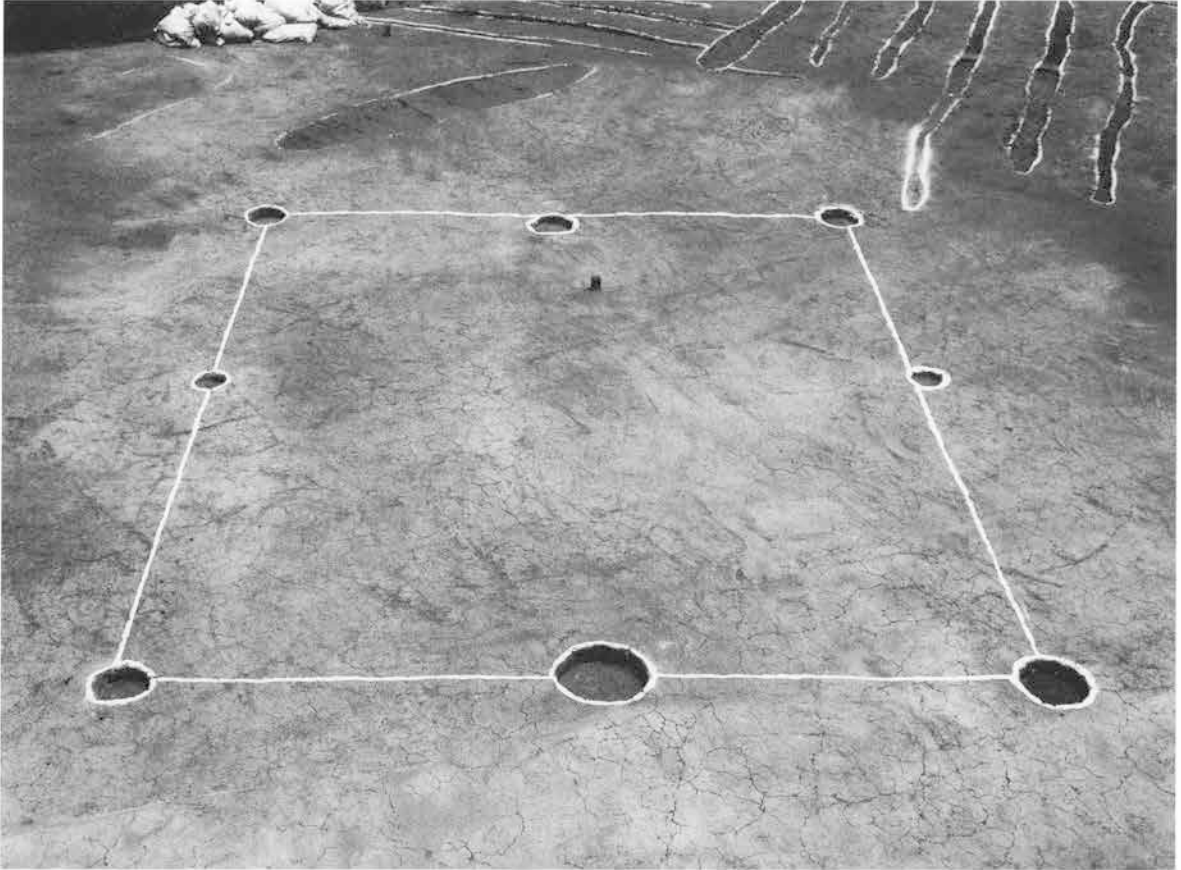
I区22号住居跡2号貯蔵穴



I区21号住居跡貯蔵穴



I区21号住居跡貯蔵穴断面と出土遺物



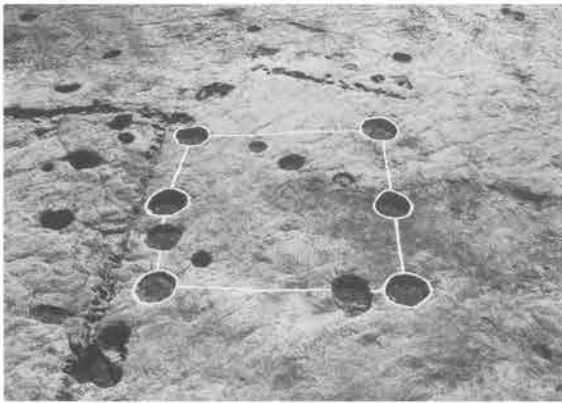
I区1号掘立柱建物跡全景 右上は畠遺構の溝群



I区2号掘立柱建物跡全景 中央を4号溝に切られる



I区5号掘立柱建物跡 中央に6号井戸が位置する



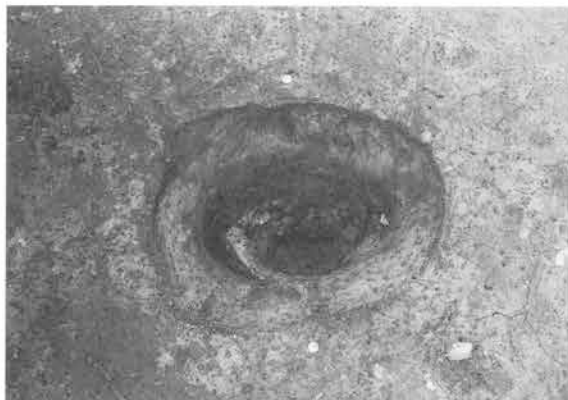
I区9号掘立柱建物跡全景



I区2号柵列と周辺井戸群



I区2号柵列と溝内ピットに直立して埋められた甕



A区1号井戸平面



A区1号井戸断面



H区1号井戸平面



H区1号井戸断面



H区1号井戸土器出土状況



H区1号井戸遺物出土状況



I区1号井戸断面



I区1号井戸湧水中の魚形土製品



I区2号井戸断面



I区2号井戸遺物出土状況



I区4号井戸



I区4号井戸遺物出土状況



I区5号井戸



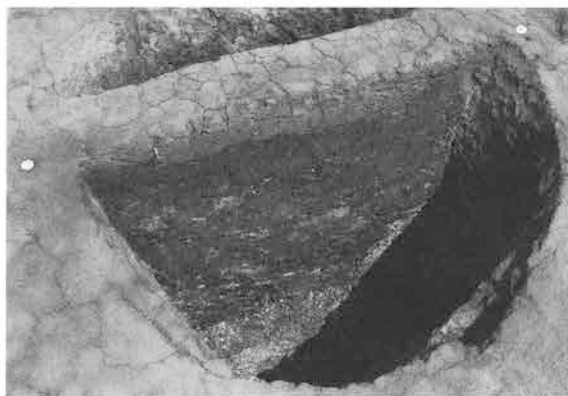
I区5号井戸遺物出土状況



I区6号井戸平面



I区6号井戸遺物出土状況



I区7号井戸断面



I区7号井戸断裁状況



I区8号井戸断面



I区8号井戸全景



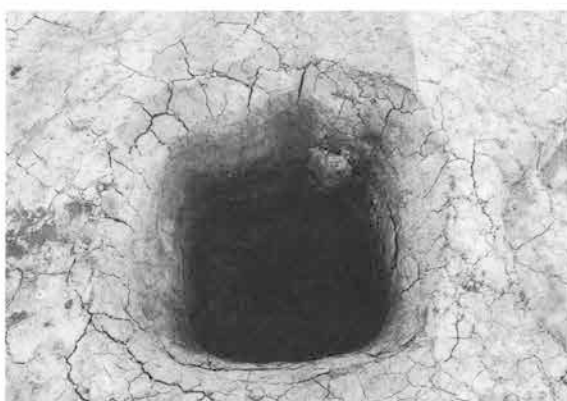
I区8号井戸側材出土状況



I区8号井戸底面付近の状況



I区9号井戸断面



I区9号井戸 上部のくぼみは汲み上げ痕か



I区11号井戸断面



I区12号井戸断面



I区12号井戸全景



I区12号井戸遺物出土状況



I区13号井戸断面



I区14号井戸遺物出土状況



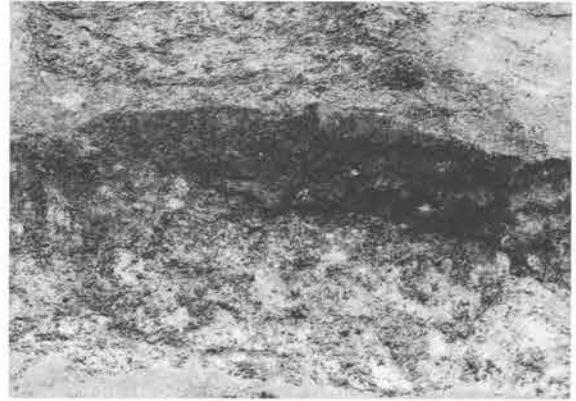
I区15号井戸断面



J区1号井戸遺物出土状況



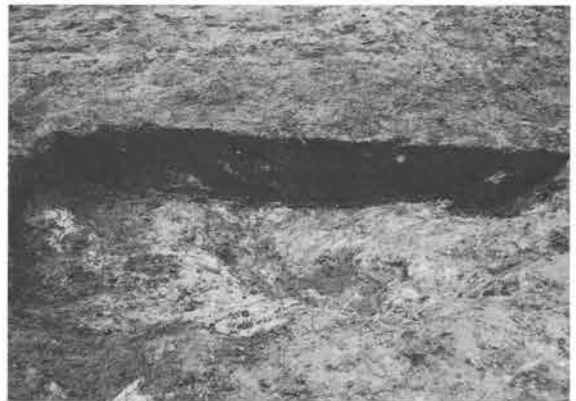
C区63号土坑



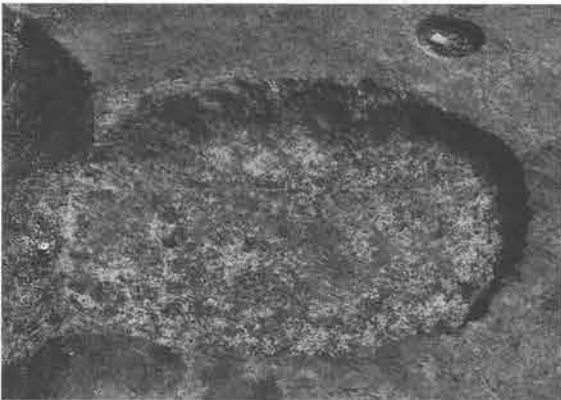
F区7号土坑断面



H区1号土坑断面



H区3号土坑断面



I区24号土坑



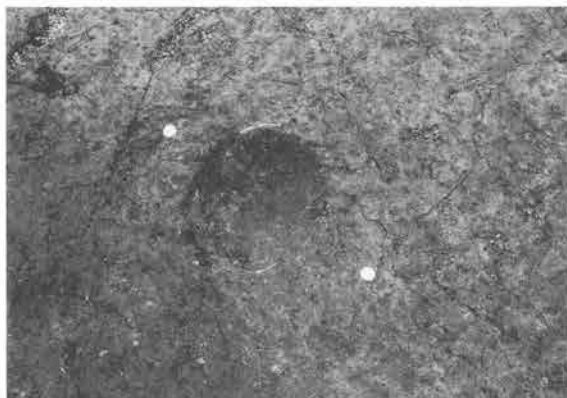
I区37号土坑断面



I区44号土坑遺物出土狀況



I区67号土坑断面



A区46号土坑 ピットか



A区48号土坑



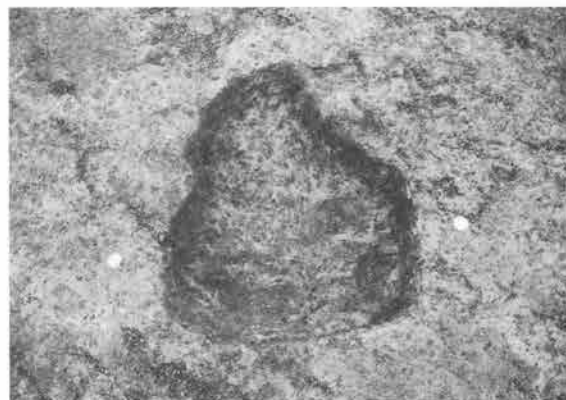
B区42号土坑断面



B区43号土坑断面



B区46号土坑断面



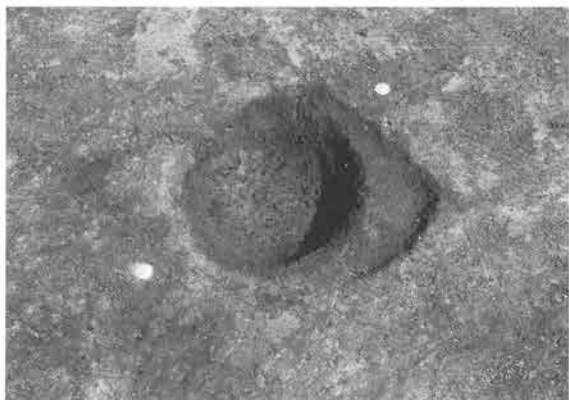
B区48号土坑



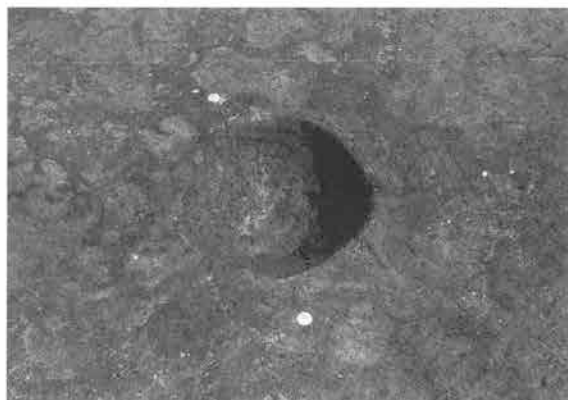
B区53号土坑断面



B区54号土坑



C区61号土坑



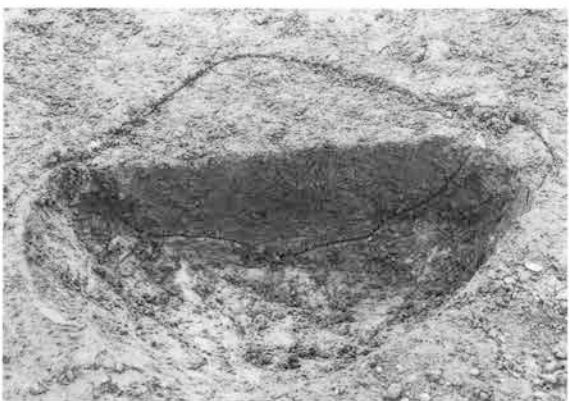
C区62号土坑



F区8号土坑断面



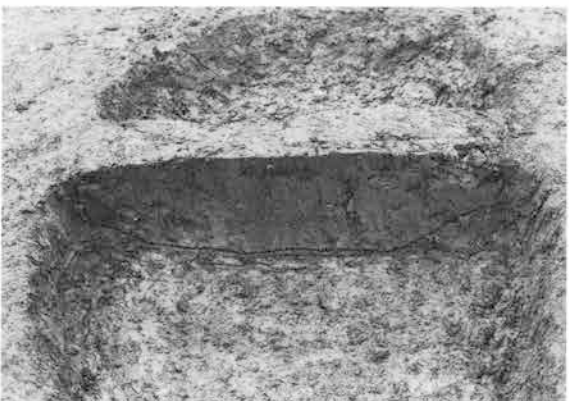
F区9号土坑断面



F区10号土坑断面



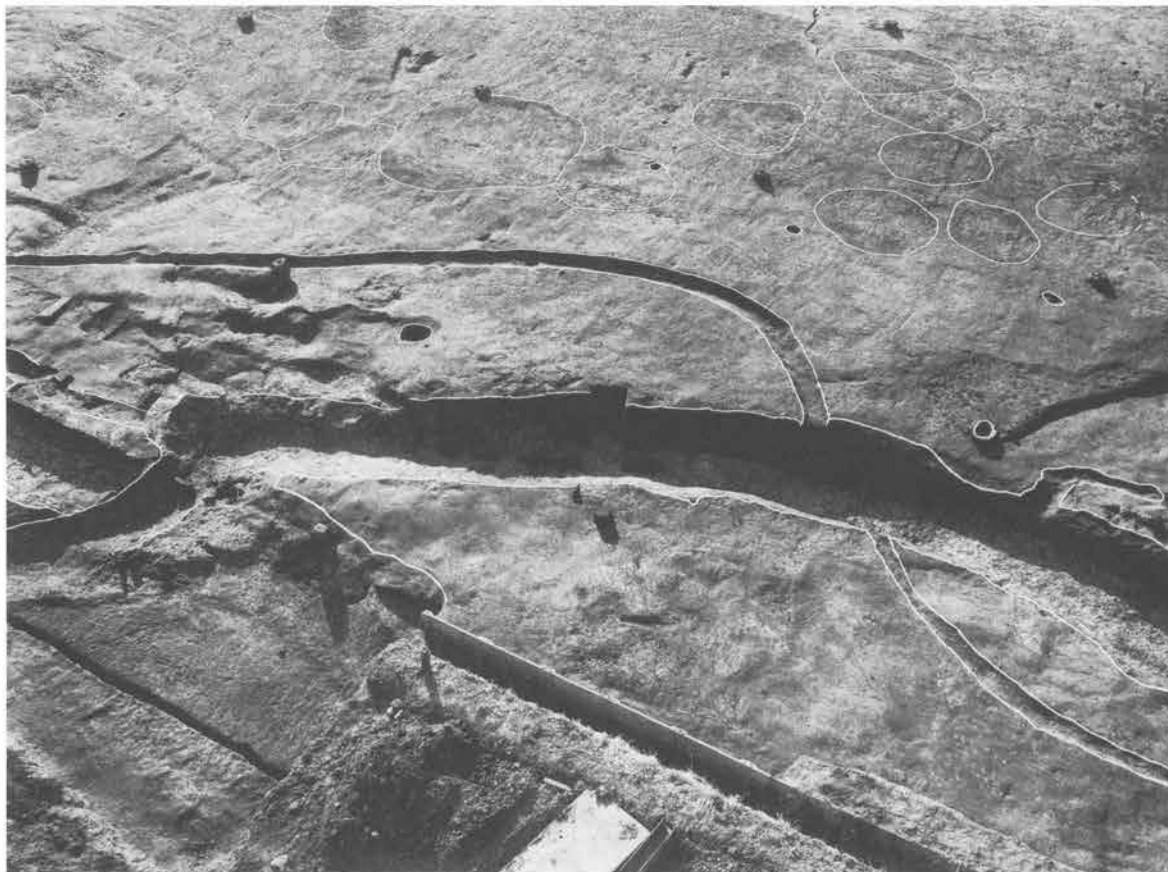
F区11号土坑断面



F区12号土坑断面



H区32号土坑断面



A区9号溝（東から） 8号溝が蛇行して重複し、左下方には河川跡がある



A区9号溝（北から）



A区9号溝A断面 中位白層はHr-FA



溝内の木製品出土状況



溝の出土状況



A区9号溝の堰検出状況 中央に杭列が残る



堰に使用された杭と矢板列の断面



A区溝群 左から8号溝・10号溝、中央は調査区境のトレンチ



A区10号溝 9号溝からの分岐部分



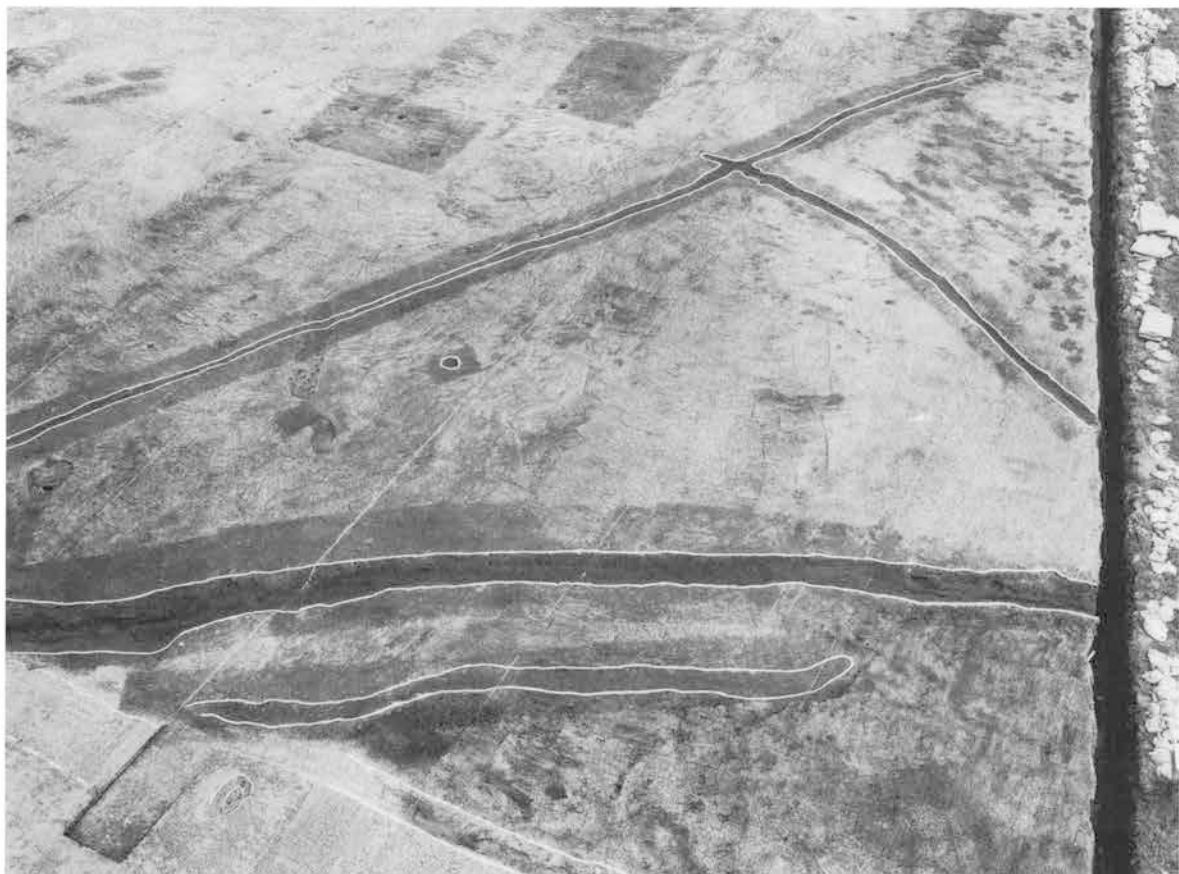
A区11号溝



A区8号溝 (南から)



A区8号溝遺物出土状況



B区古墳時代の水路群（西から） 手前から3・4号溝、交差する5・6号溝



B区3・4号溝（右から）



B区3号溝（北から）



B区5号溝 6号溝との交差部分



B区11・12号溝（左から）



B区河川跡のくほみ 古墳時代初頭降下のAs-Cを除去した状況



河川跡を西上空からみる



河川跡南部の状態



B区古墳時代前期調査面全景（西から）



B区古墳時代水路群



C区古墳時代調査面と水路群（南西上空から）



C区東部の古墳時代Ⅰ期水田



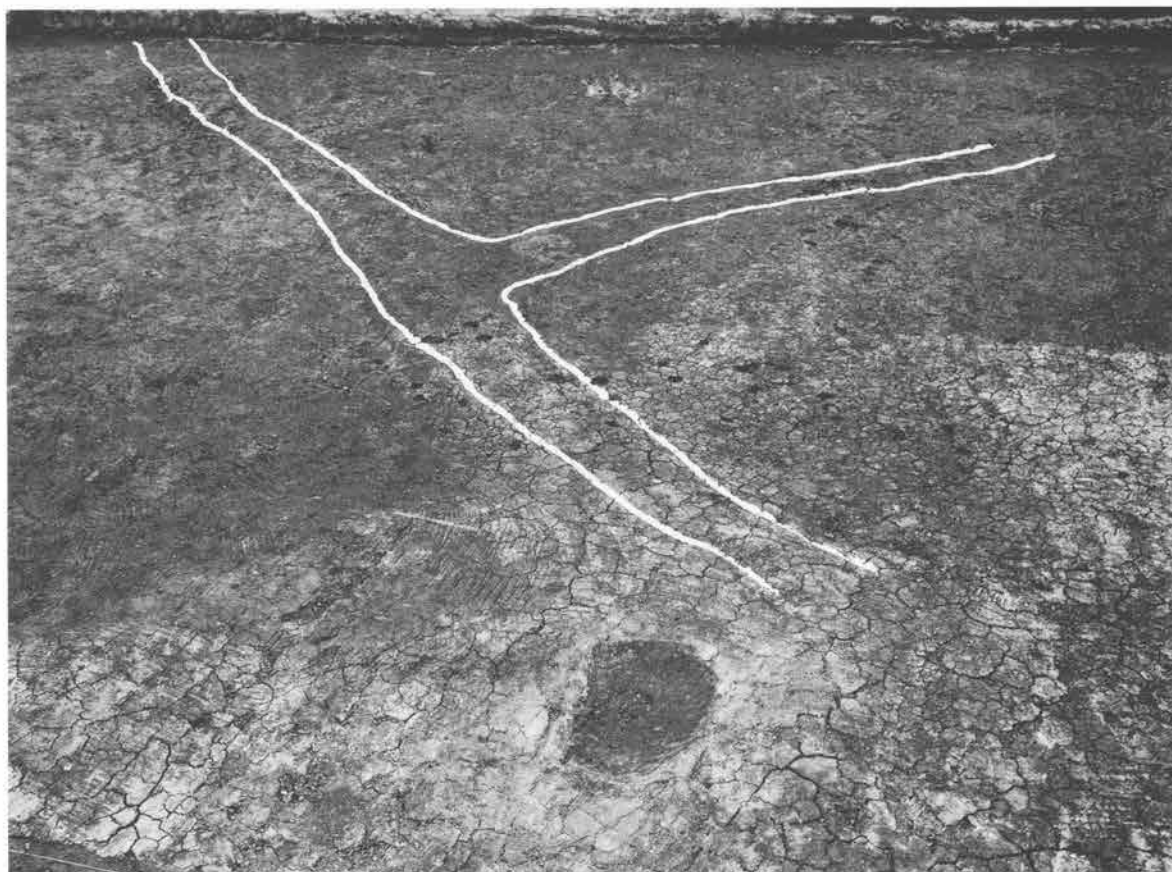
C区南西部の古墳時代Ⅰ期水田



C区17号溝（北西から）



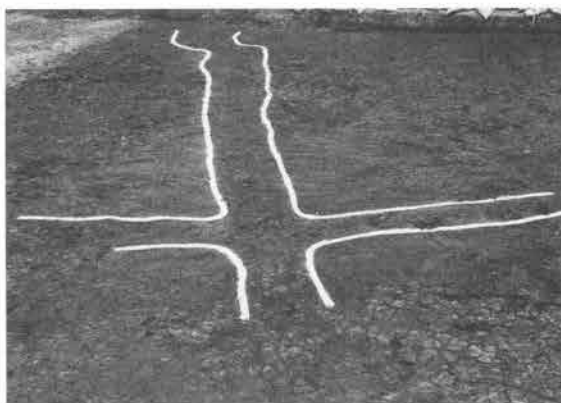
C区15号溝（北から）



D区古墳時代Ⅰ期水田畦（南から）



D区古墳時代Ⅰ期水田畦（南から）



D区古墳時代Ⅰ期水田畦（西から）



D区9号溝（北西から）



D区9号溝（北から）



E区古墳時代Ⅰ期水田全景（北西上空から）



E区古墳時代Ⅰ期水田全景



E区古墳時代Ⅰ期水田 水田区画を切る右端の長方形区画は古代水田耕土調査時のもの



南北方向（縦方向）の畦が比較的均等の間隔でそろっていることがよくわかる。水田区画への配水は写真上方へと流れる。



水田区画近景（西から）



E区古墳時代Ⅰ期水田近景（東から） 右下部は後世の耕作により畦基部が残らない



E区古墳時代Ⅰ期水田区画（南から） 白実線は畦基部の明瞭な高まりが残る部分



E区古墳時代Ⅰ期水田近景（西から）



水田検出状況 水田耕土であるAs-C混土を丁寧に削ると地山の畦基部が浮かび上がる



水田検出状況 2~3cm単位の厚さで数回にわたって削る手間のかかる作業



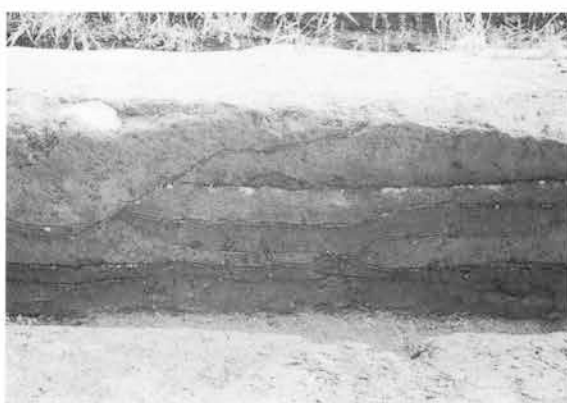
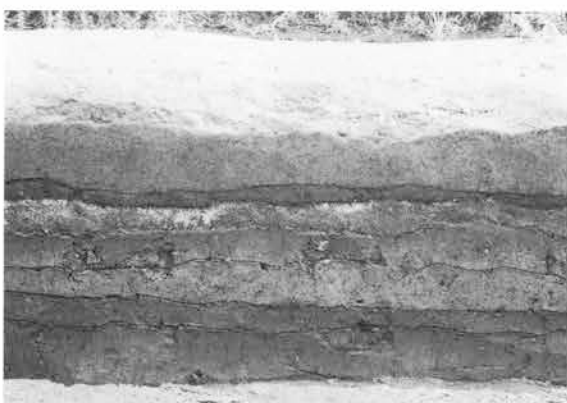
E区古墳時代Ⅱ期水田（北上空から） 6世紀初の降下テフラHr-FAを除去して検出



古墳時代Ⅱ期水田区画近景



E区水田土層断面



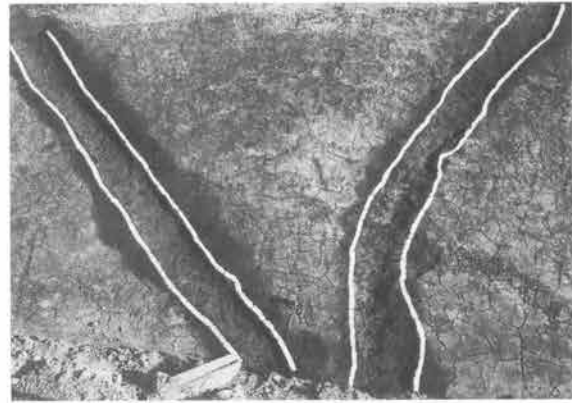
中央灰色層とその下の黒色層の間で古墳時代Ⅱ期水田が検出される



F区古墳時代Ⅱ期水田全景（東上空から）



F区古墳時代Ⅱ期水田 2号溝に切られる



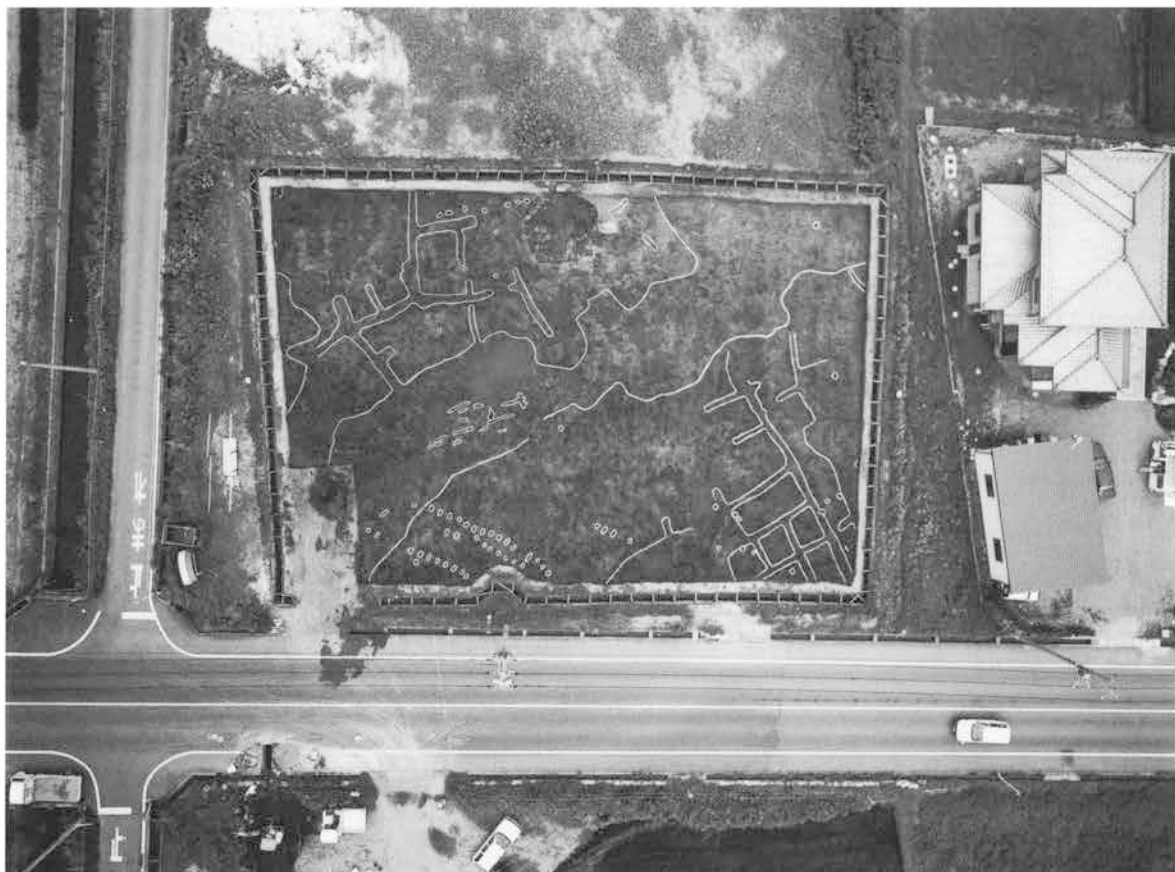
F区3・4号溝（右から）



F区4号溝B断面



F区6号溝（南東から）



G区古墳時代Ⅱ期水田全景（西上空から）



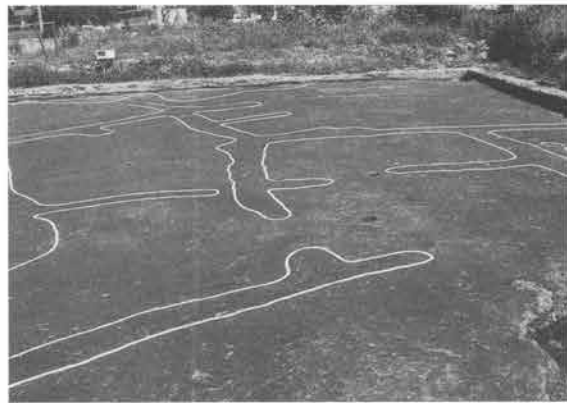
G区古墳時代Ⅱ期水田全景 中央にやや高い部分が帯状にのびる



G区古墳時代Ⅱ期水田（北上空から） 右のピット列は古代水田耕作痕



水田区画近景（東から）



水田区画近景（南から）



古代水田耕作痕 古墳水田と走向が交差する



G区古墳時代Ⅱ期水田区画（東から）



G区6号溝南東部（北西から） 溝の左方に微高地、右方は低地が広がる



G区6号溝A断面



G区6号溝橋状遺構 溝を横断する長い橋桁材と横木で構成される



短い横木が平行に密集した状態で検出された（東岸から）



G区6号溝建築部材出土状況



横鋸出土状況



底に打ち込まれた杭



筒形木製品出土状況



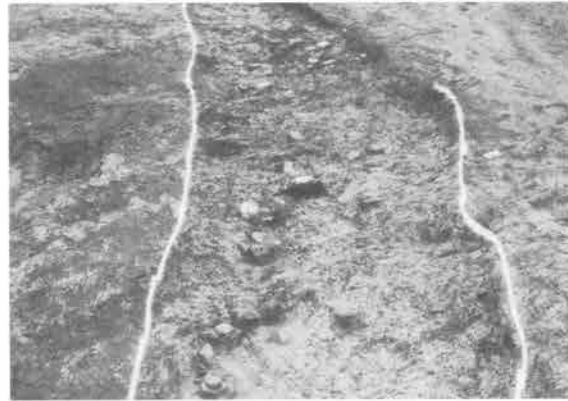
堆積土層のA断面



I区48号溝 (南東から)



H区20号溝B断面



H区20号溝遺物出土状況

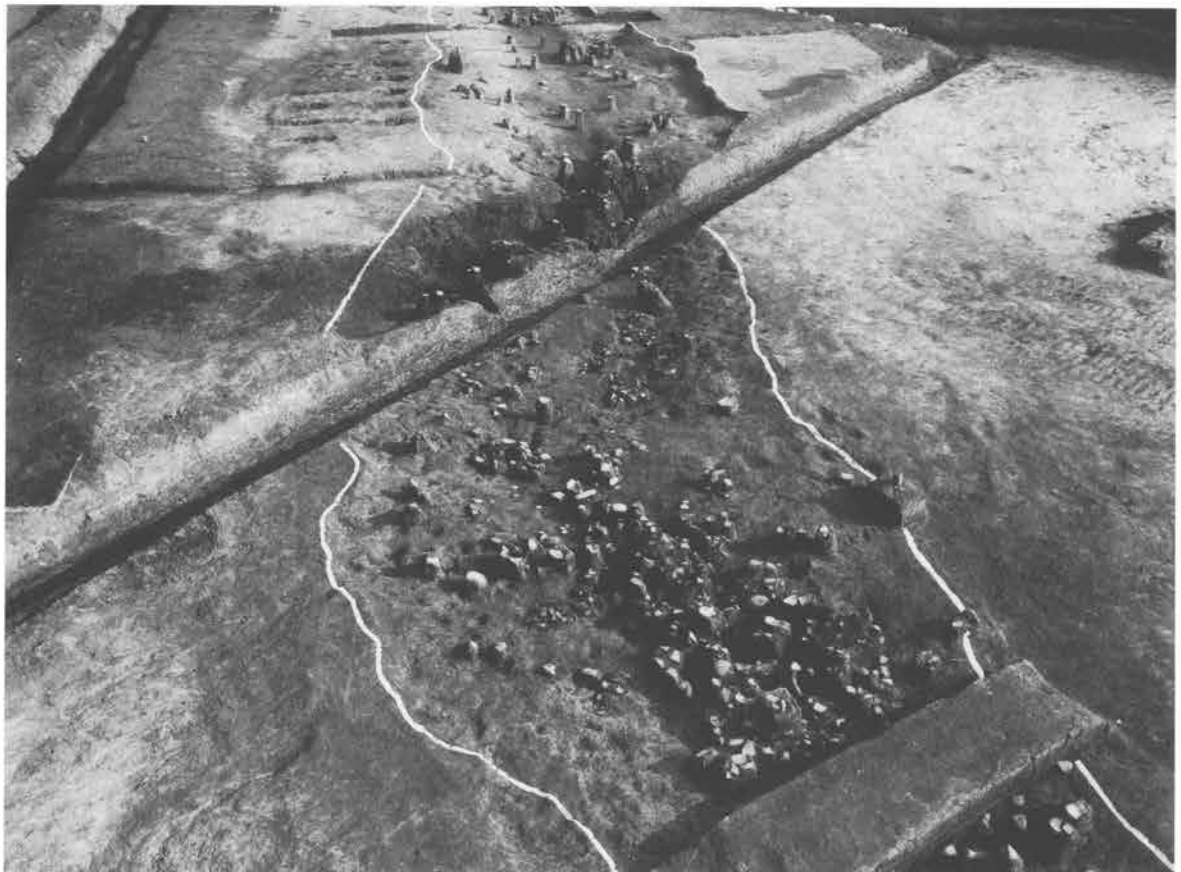


H区20号溝遺物出土状況

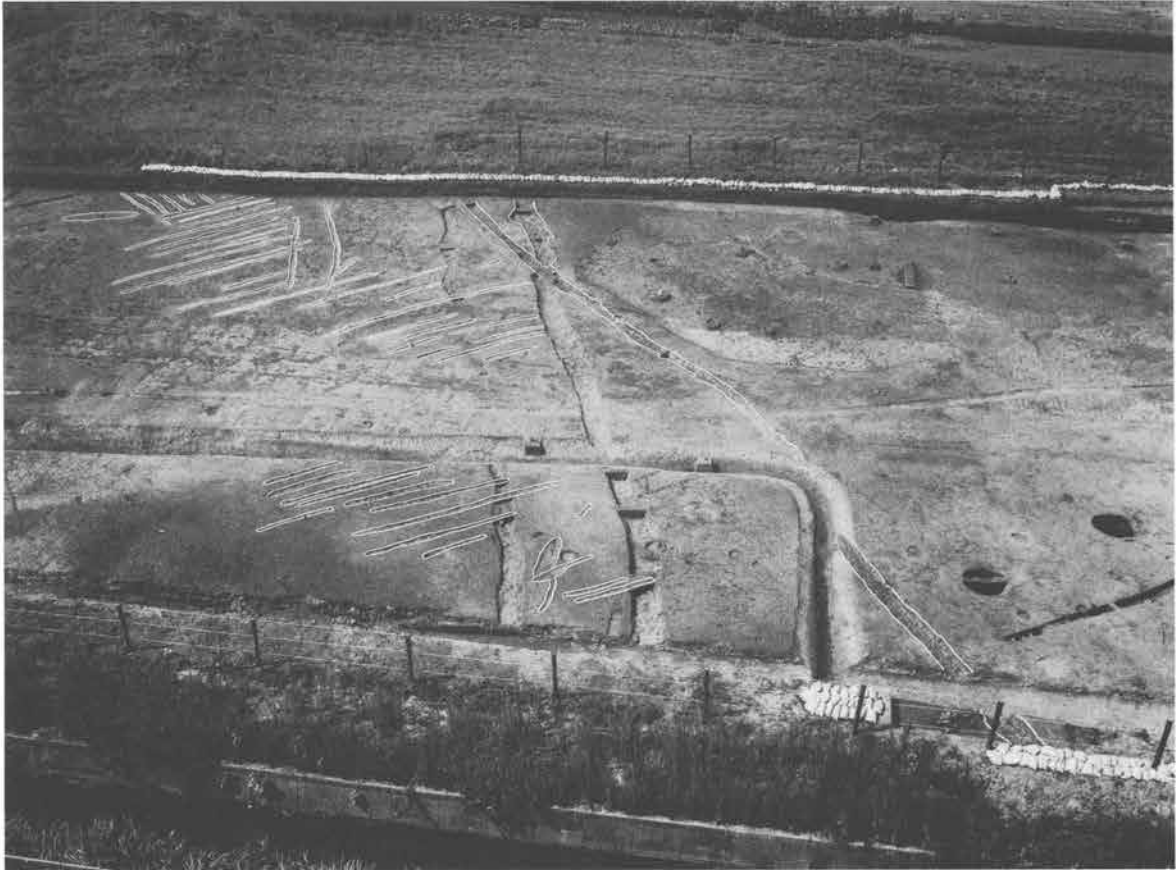




I区48号溝（北西から） 左上方には住居群が見える



I区48号溝遺物出土状況 古墳前期の土器破片が大量に出土する



I区古墳時代畠全景（南上空から） 畠は白線の溝群、中世以降の溝に切られる



I区畠近景（北西から） 溝へのAs-C混土の堆積で確認作業を行う



I区古墳時代畠部分（南東から） ほぼ等間隔の平行溝群で構成される



I区古墳時代畠部分（北東から）



I区古墳時代畠部分（南東から）



畠溝内の耕作痕

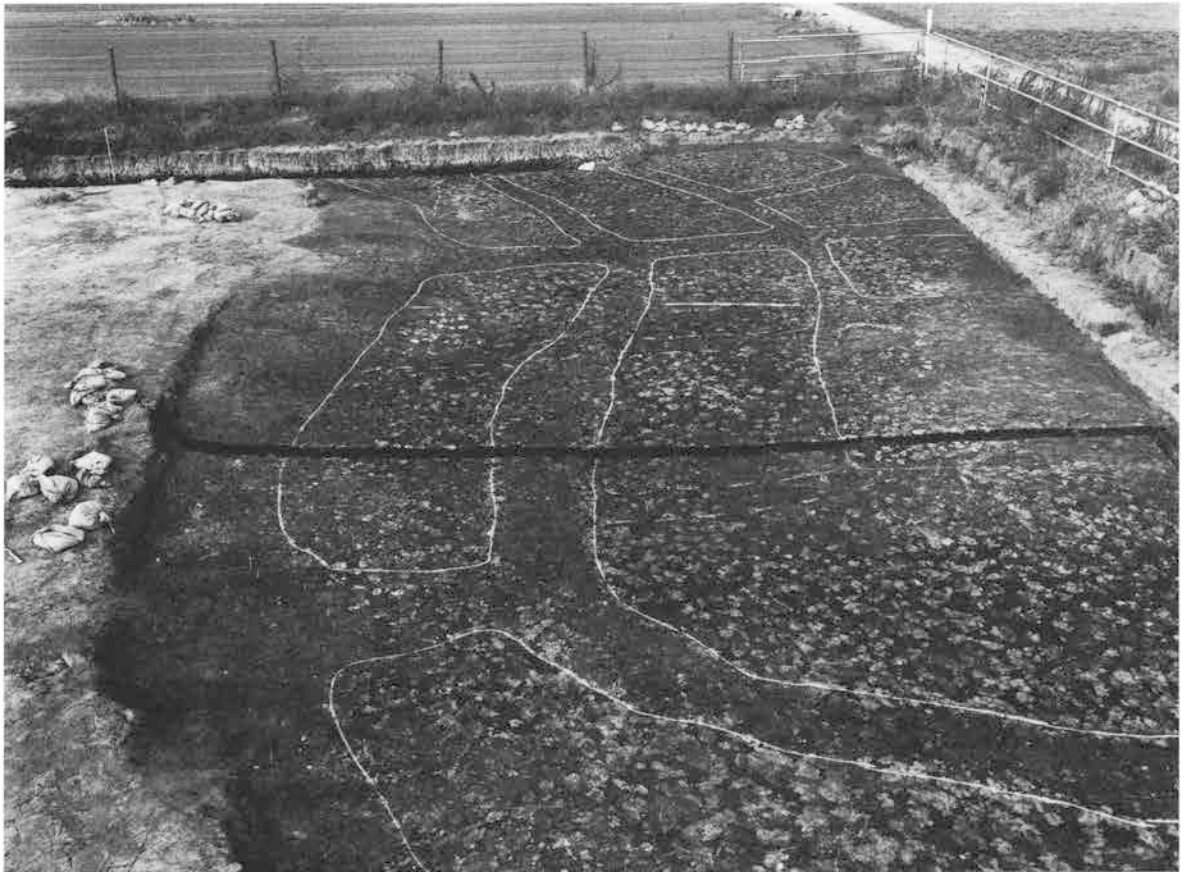
畠は平行する小規模な溝群で、直交部分で区画のあったことがわかる。また、溝内には耕具によって掘られた断面三角形のくぼみが無数に連続する。出土遺物はないが、As-C混土で埋没することから、これを耕作土とする古墳時代の所産と考えた。



I区古墳時代II期水田全景（南東上空から） 藤川旧河道のくほみに造成され、蛇行する



I区古墳時代II期水田の調査状況 Hr-FAを除去する作業



I区古墳時代II期水田全景 Hr-FAの堆積する無数の小さなくぼみがあるが規則性はない



I区古墳時代II期水田耕土遺物出土状況 古墳前期の土器



I区古墳時代II期水田耕土遺物出土状況 左は流木か



I区13・16・15号溝（右から） 島溝に切られる



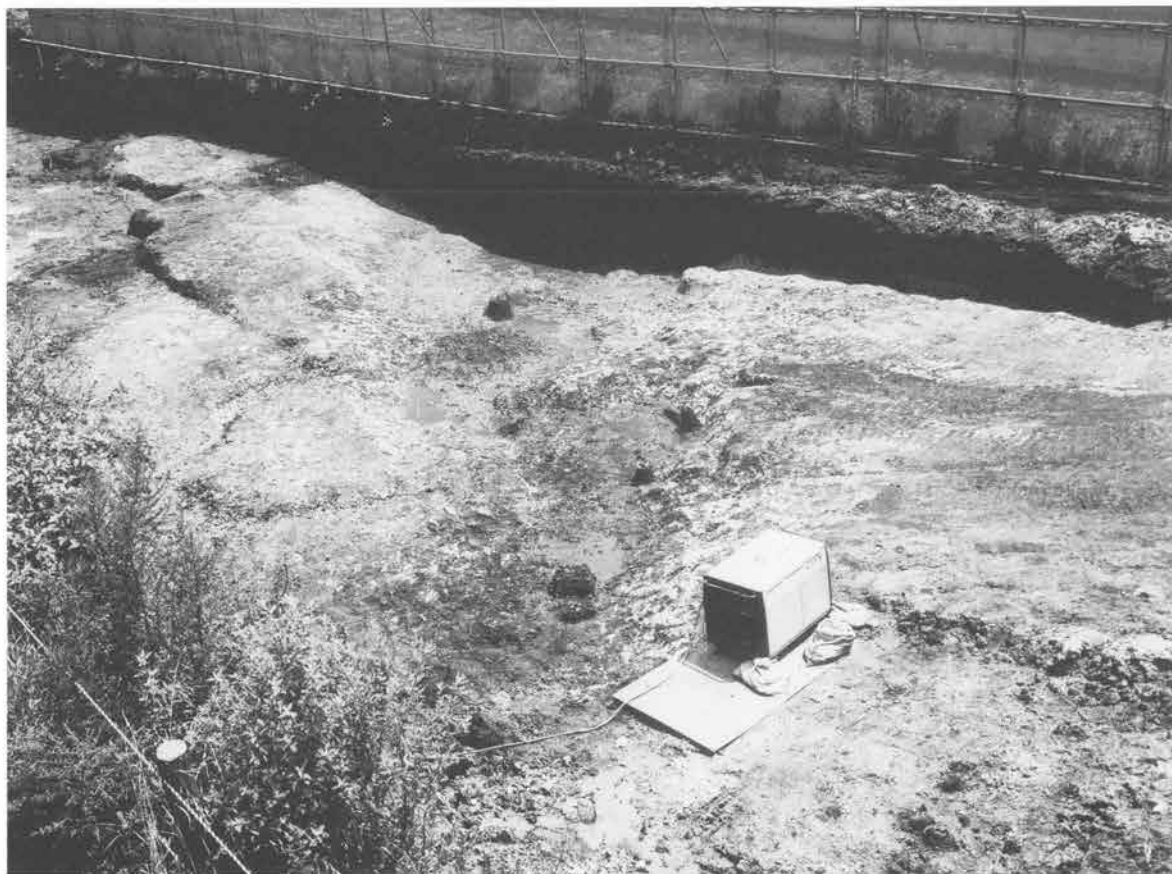
I区13号溝断面



I区15号溝断面



J区河川跡（西から） 古墳時代における藤川旧河道と推測される



J区河川跡 古墳時代後期と思われる2号河道



J区河川跡1号河道堆積土層断面



2号河道堆積土層断面



1号河道ヒョウタン出土状況



1号河道遺物出土状況



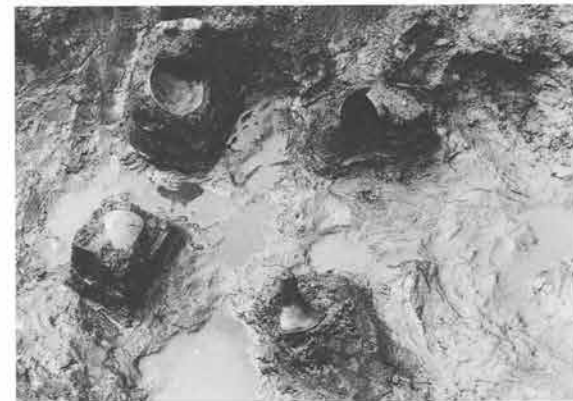
1号河道遺物出土状況



鍬の出土状況



細い丸木材の出土状況



土器類の出土状況



H区1号住居跡



H区1号住居跡掘方



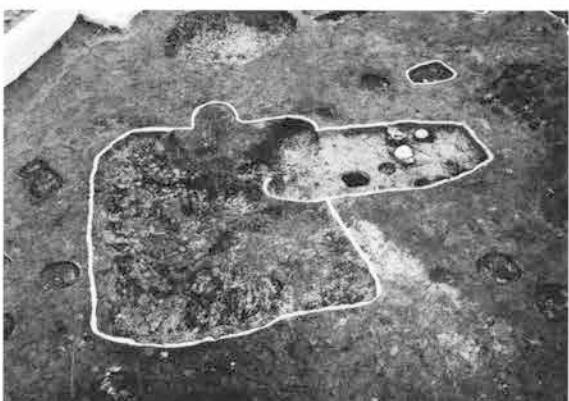
H区2号住居跡



H区5号住居跡



H区6号住居跡



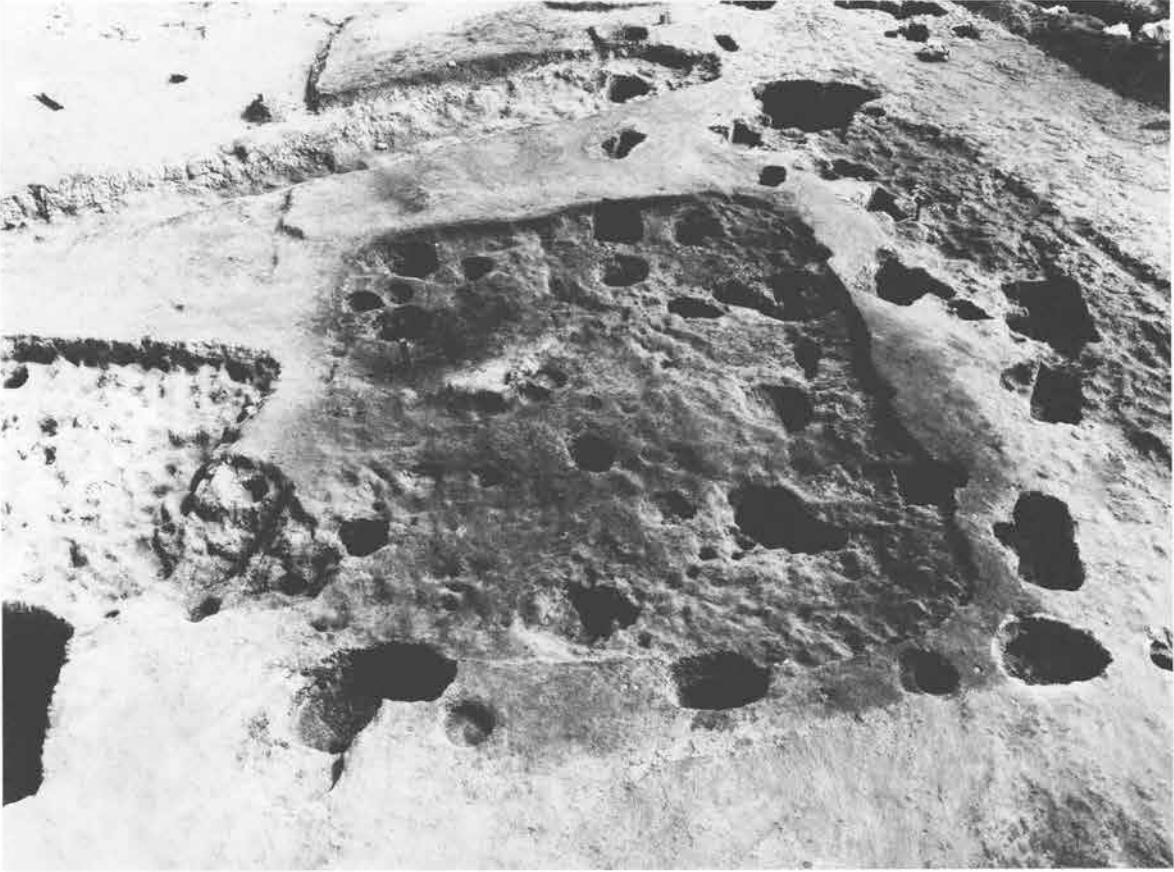
H区8号住居跡



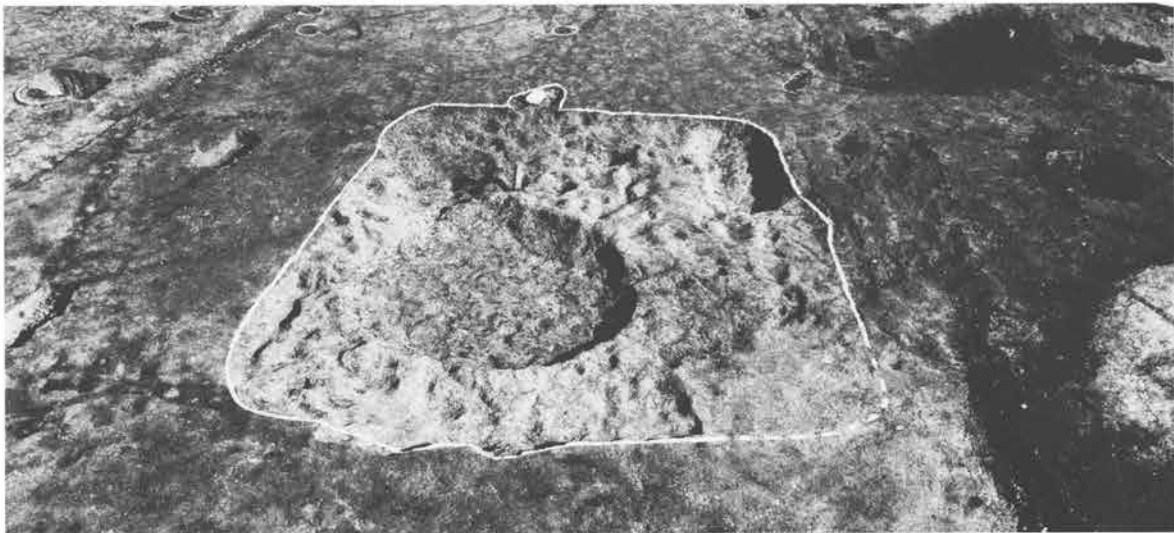
H区9・10・11号住居跡（右から）



H区11号住居跡床下土坑



I区2号住居跡掘方全景



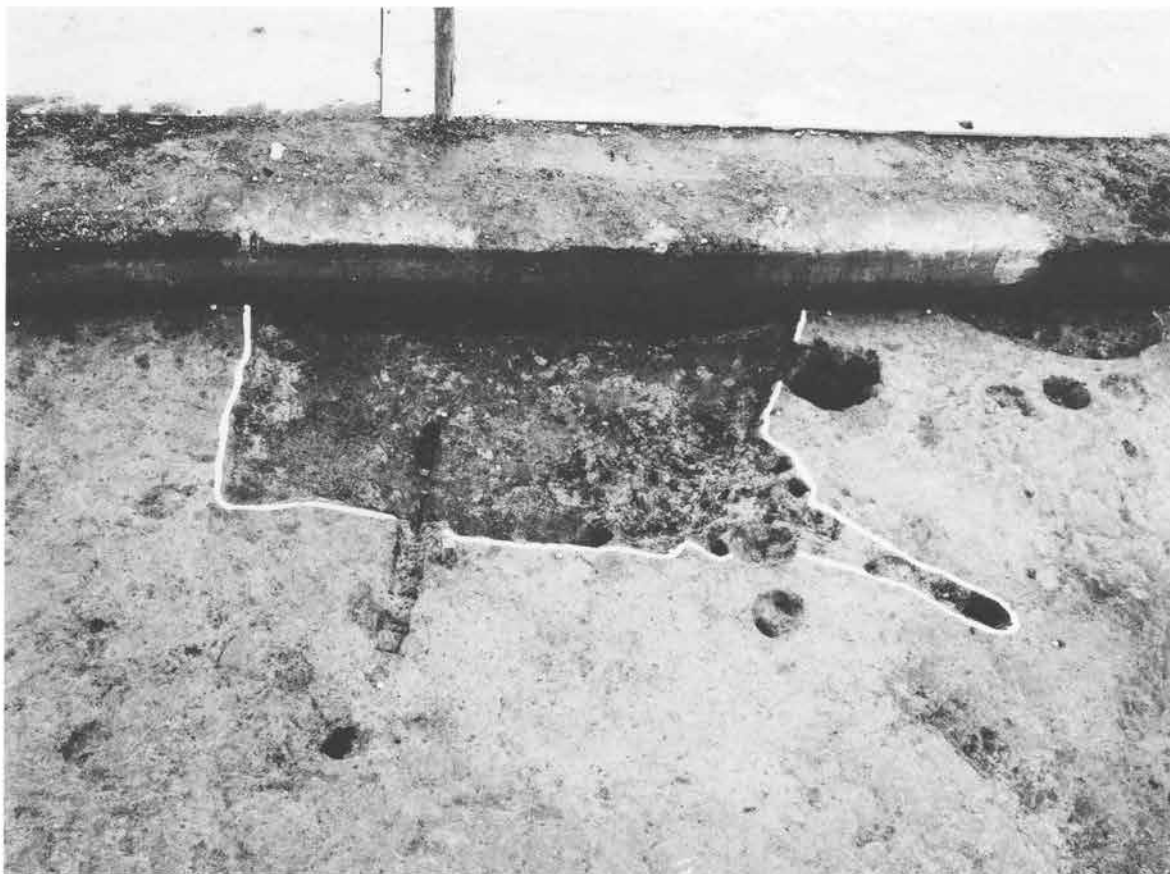
I区6号住居跡掘方全景



I区6号住居跡貯蔵穴遺物出土状況



I区6号住居跡内土坑断面



I区10号住居跡（南から） 竈煙道が南東へのびる



竈の状況



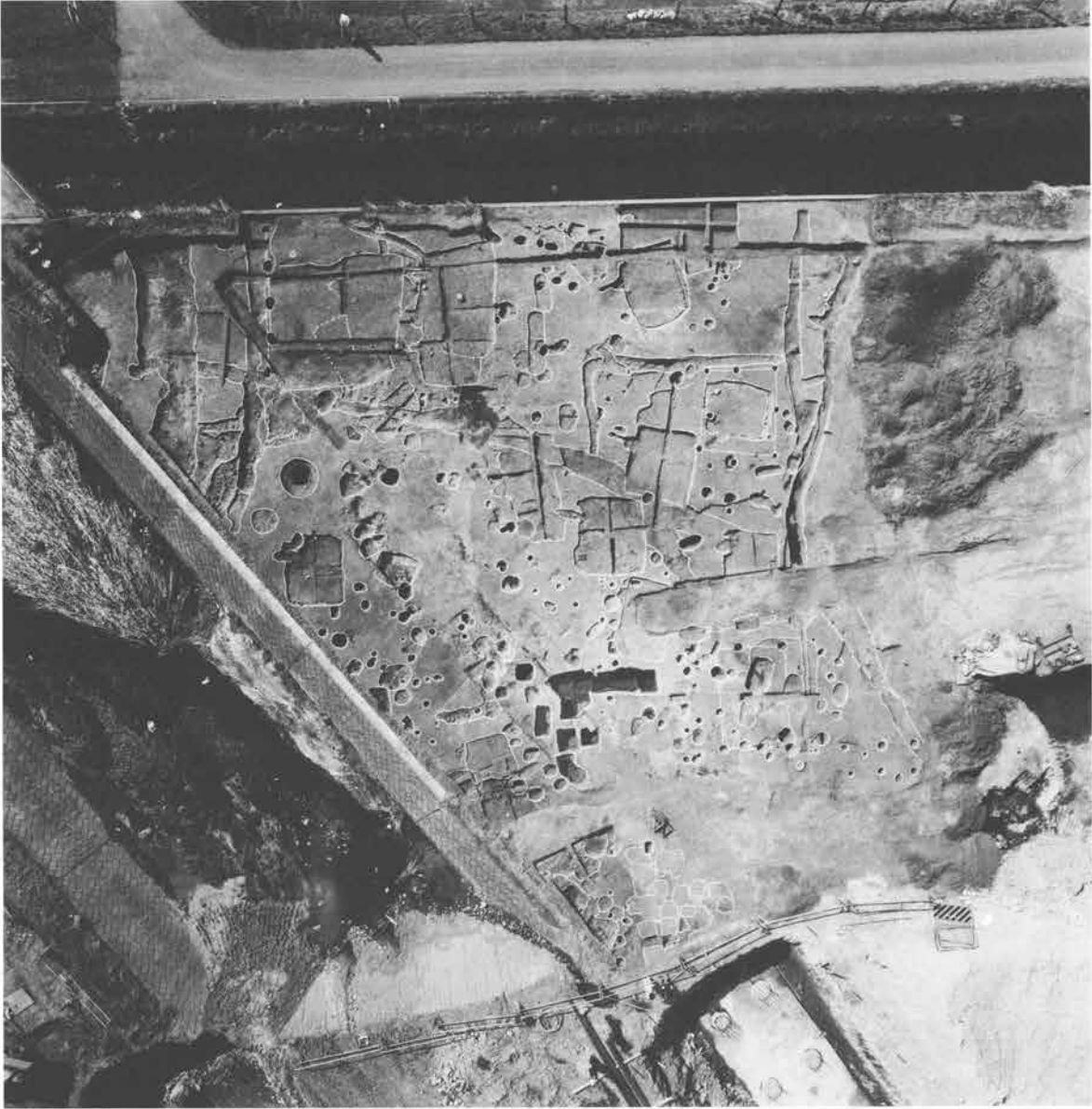
廃絶した古い竈の痕跡



掘方調査状況



埋土断面



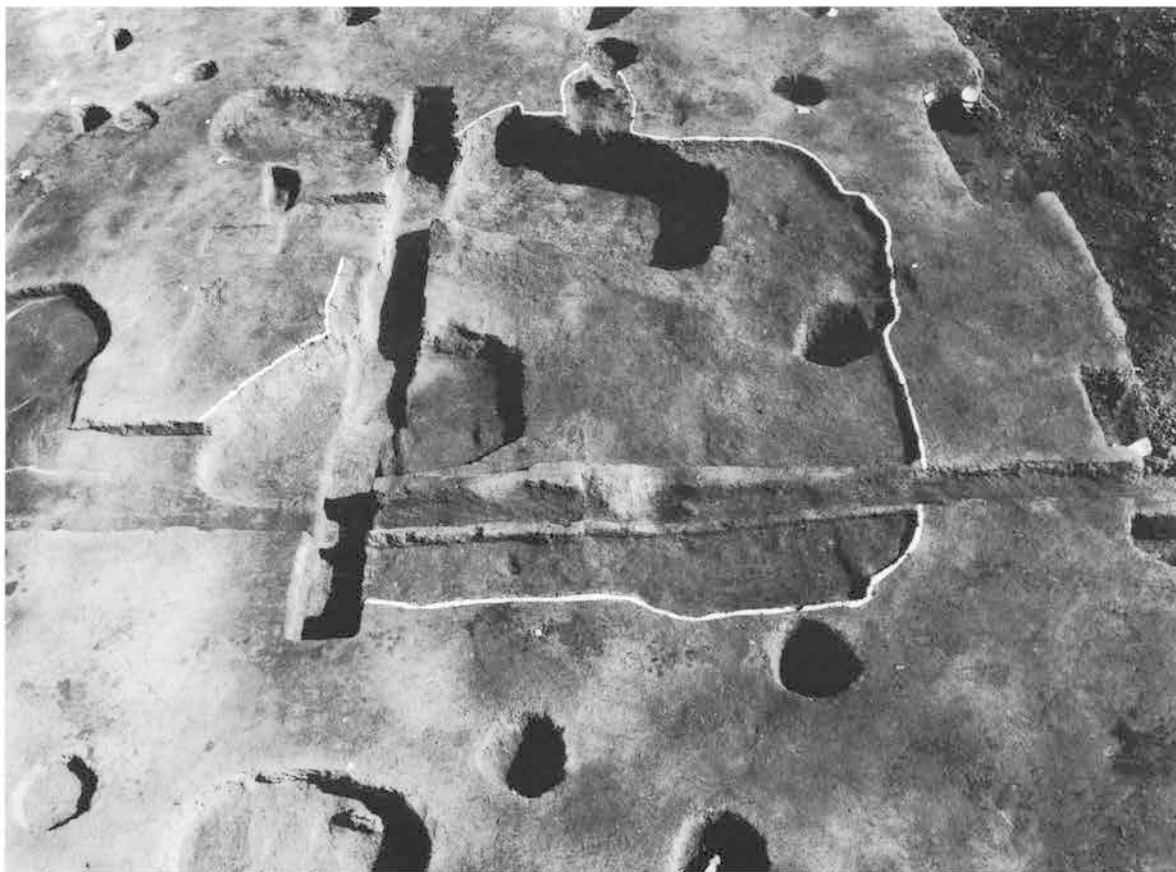
J区遺構群全景（北上空から） 主に古代～中・近世の遺構が重複する



J区住居群近景（中央は10・11号住居跡）



J区遺構群密集状況 右上は現藤川



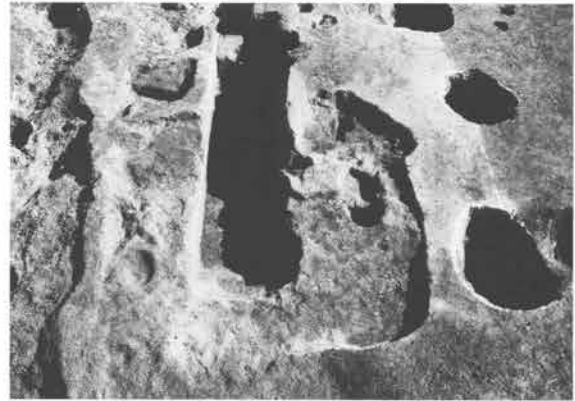
J区1号住居跡（西から） 中央の溝はトレンチ



J区2号住居跡（西から） 現代攪乱溝に切られる



J区3・8号住居跡



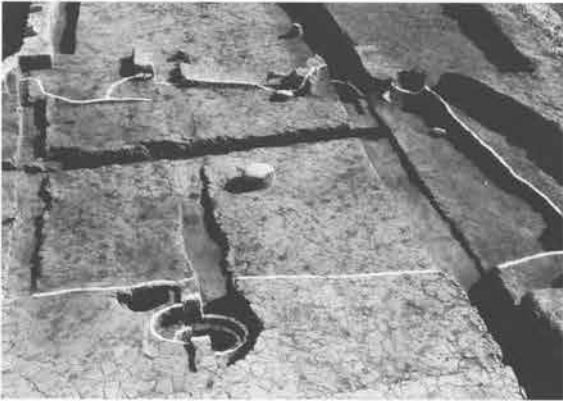
J区4号住居跡 中央は攪乱坑



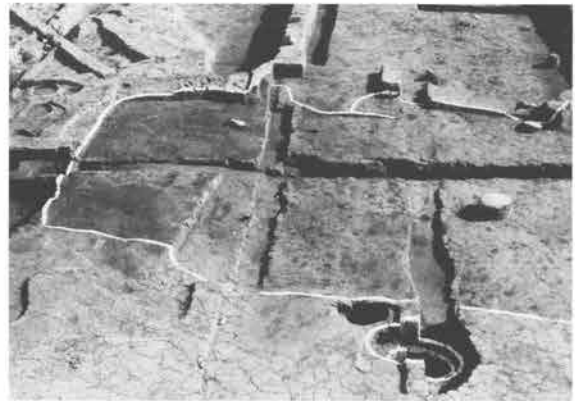
J区5号住居跡



J区5号住居跡遺物出土状況



J区6号住居跡



J区7号住居跡



J区7号住居跡床下土坑



J区9・10号住居跡遺物出土状況



J区11号住居跡全景（西から）



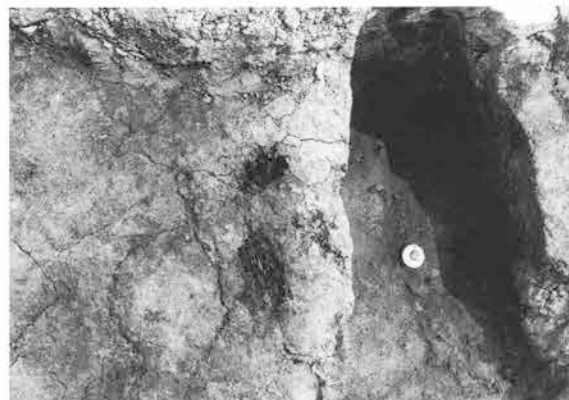
竈の状況 袖石が残る



竈燃烧部の横断面



床面出土の炭化物



壁際に残る炭化物



J区15号住居跡全景（西から）



竈の状況 煙道が屋外で開口する



床面の状況



竈燃焼部の断面



竈煙道部の横断面 白いのが焼土部分



J区16号住居跡P2遺物出土状況



J区16号住居跡P3遺物出土状況



J区17号住居跡全景（南西から）



J区17号住居跡竈検出状況



竈掘方の状況



J区20号住居跡全景（南から）



竈検出状況



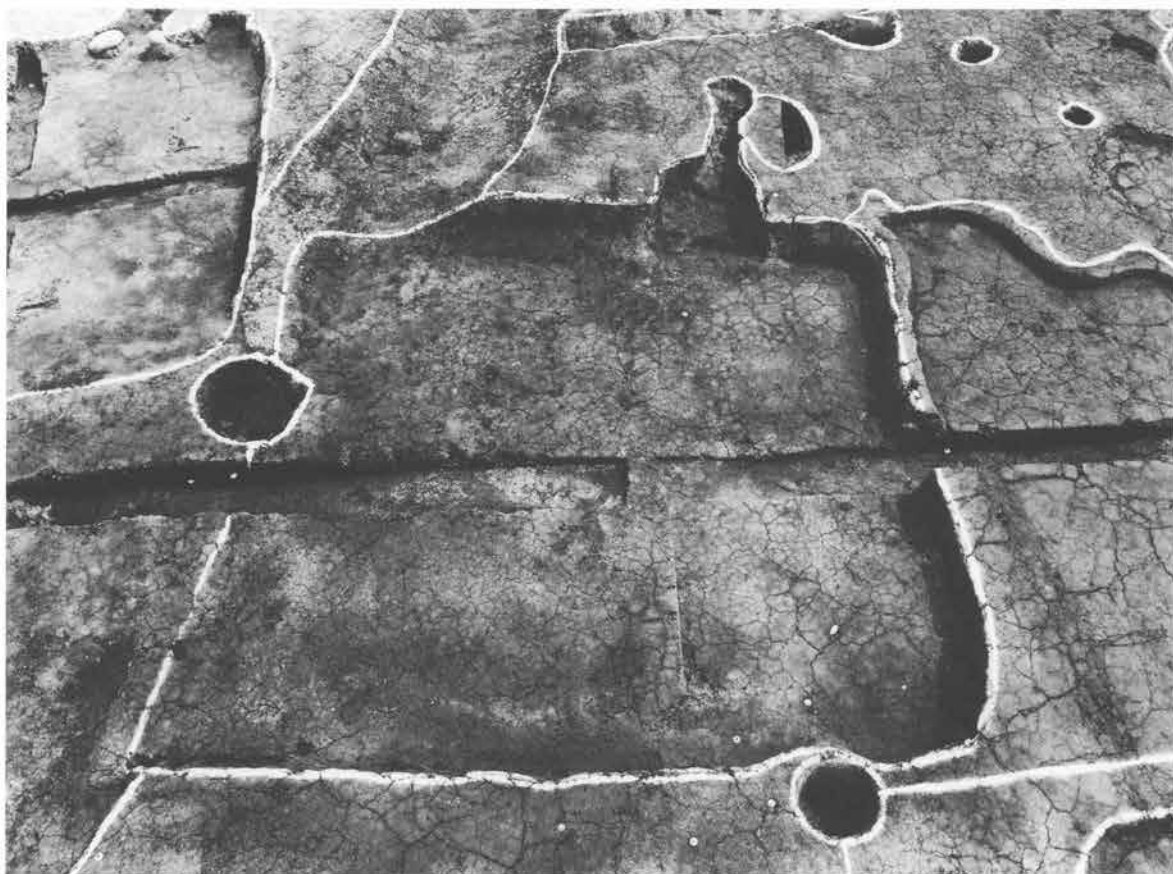
埋土A断面と床面の状況



竈右脇の土器出土状況



掘方全景



J区21号住居跡全景（西から）



埋土C断面



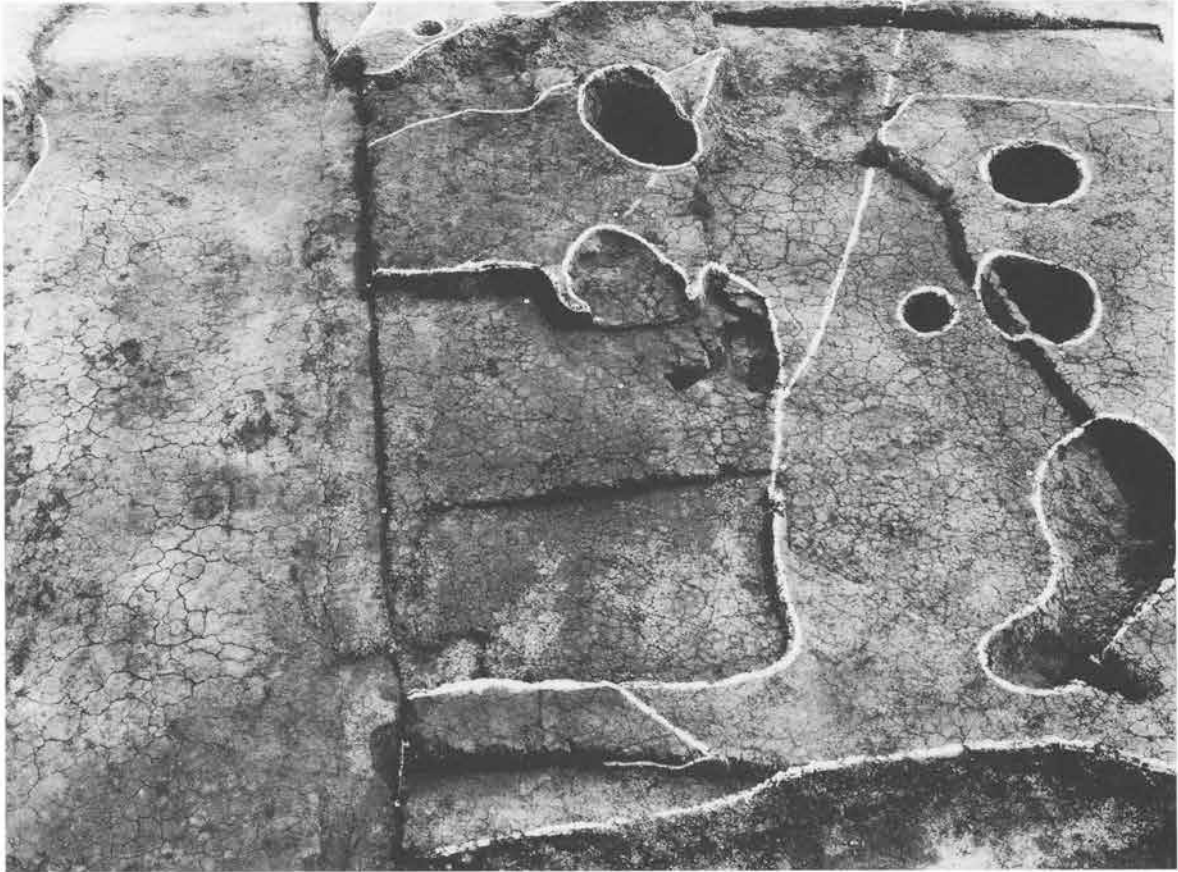
埋土断面南半部



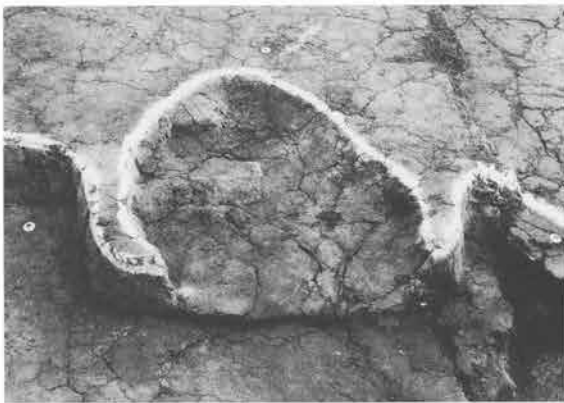
竈検出状況



竈焚き口の遺物出土状況



J区22号住居跡全景（西から） 左半部はトレンチで削平



J区22号住居跡竈



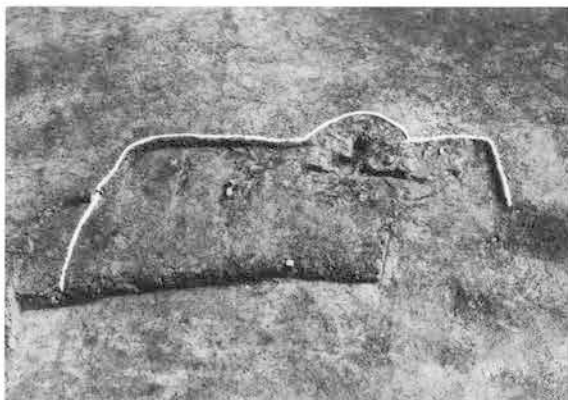
J区22号住居跡竈の遺物出土状況



J区23号住居跡竈



J区24号住居跡全景



J区25号住居跡



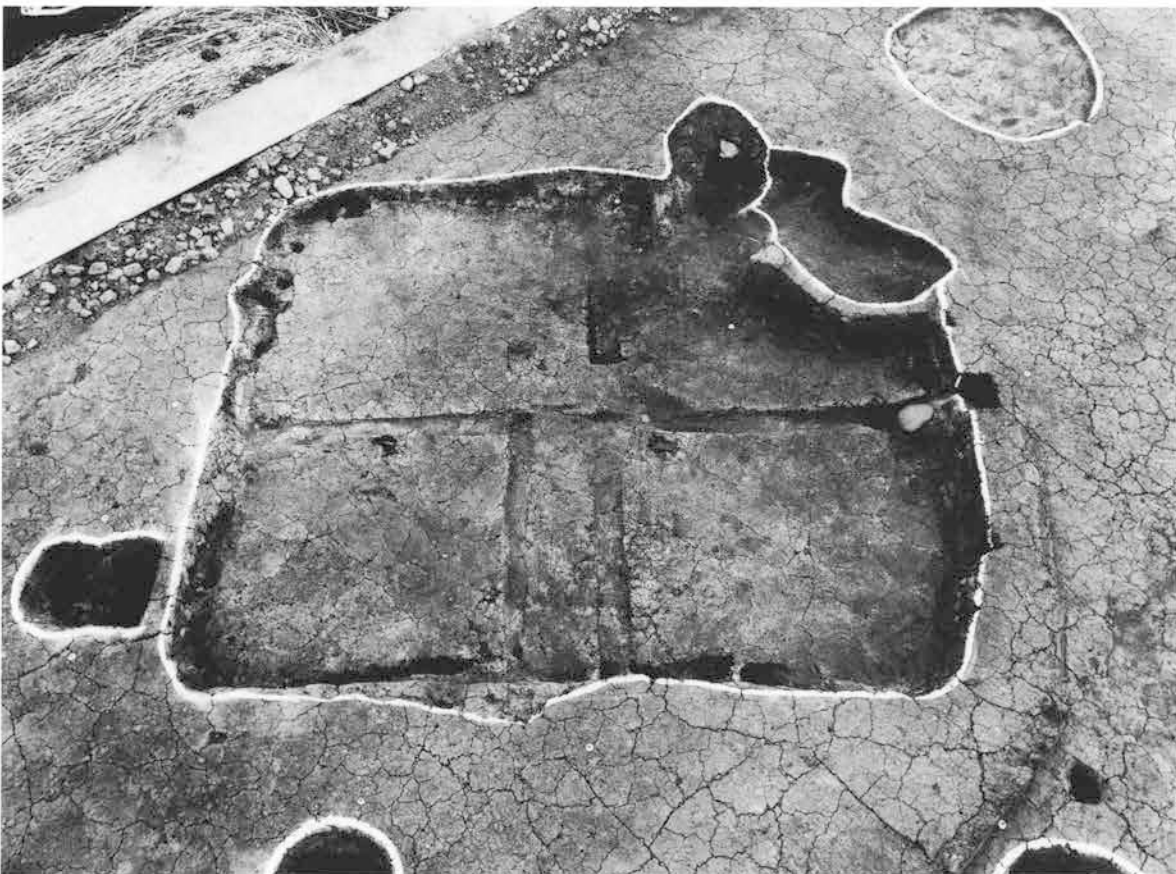
J区25号住居跡竈遺物出土状況



J区26号住居跡



J区26号住居跡竈遺物出土状況



J区30号住居跡全景 (西から)



J区32号住居跡埋土A断面



J区32号住居跡竈



J区32号住居跡鎌出土状況



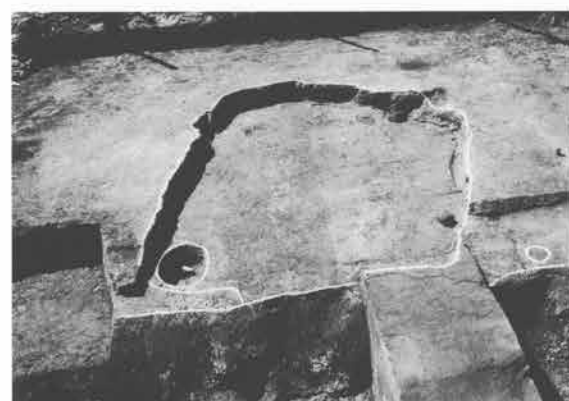
J区32号住居跡貯藏穴断面



J区33号住居跡床下土坑



J区35号住居跡遺物出土状況



J区36号住居跡全景



J区36号住居跡灰釉碗出土状況



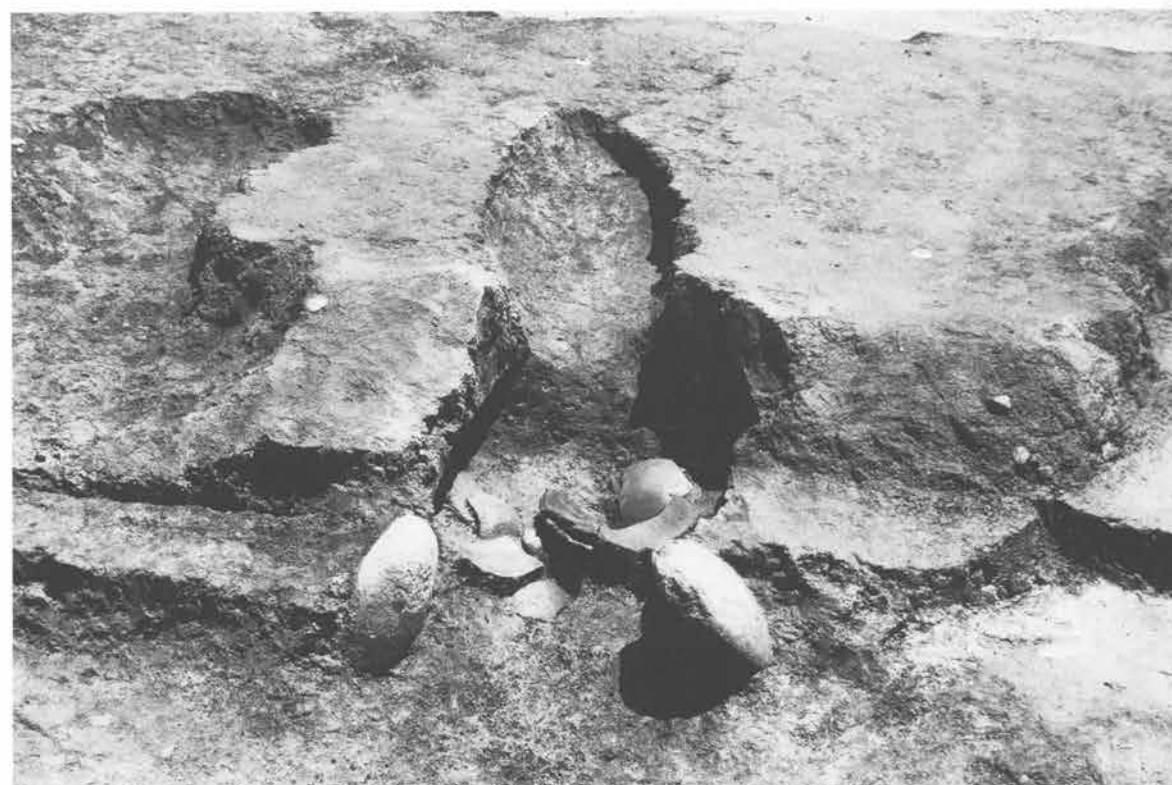
J区37号住居跡全景（西から）



J区37号住居跡貯蔵穴遺物出土状況



J区40号住居跡全景（西から）



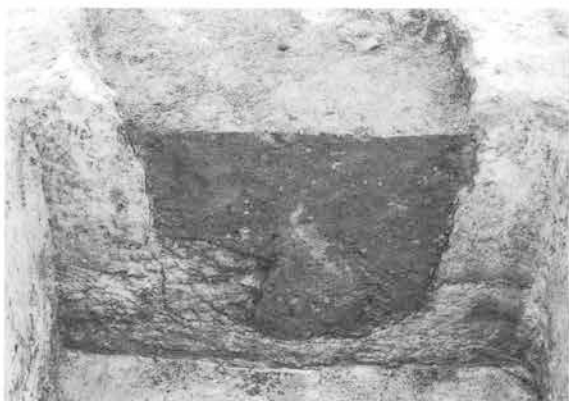
J区40号住居跡竈検出状況



H区1号掘立柱建物跡 8号住居跡と重複



I区6号掘立柱建物跡



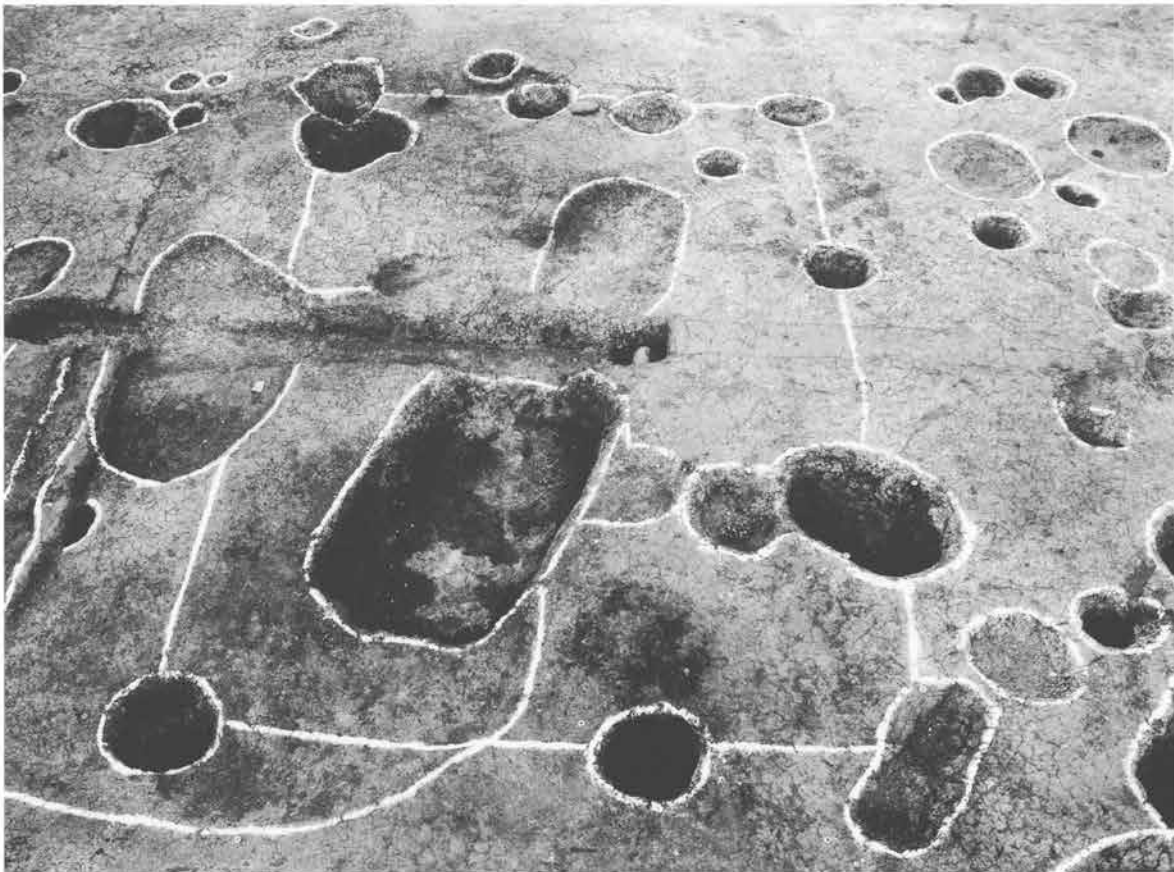
I区6号掘立柱建物跡柱穴断面 左P2・右P8



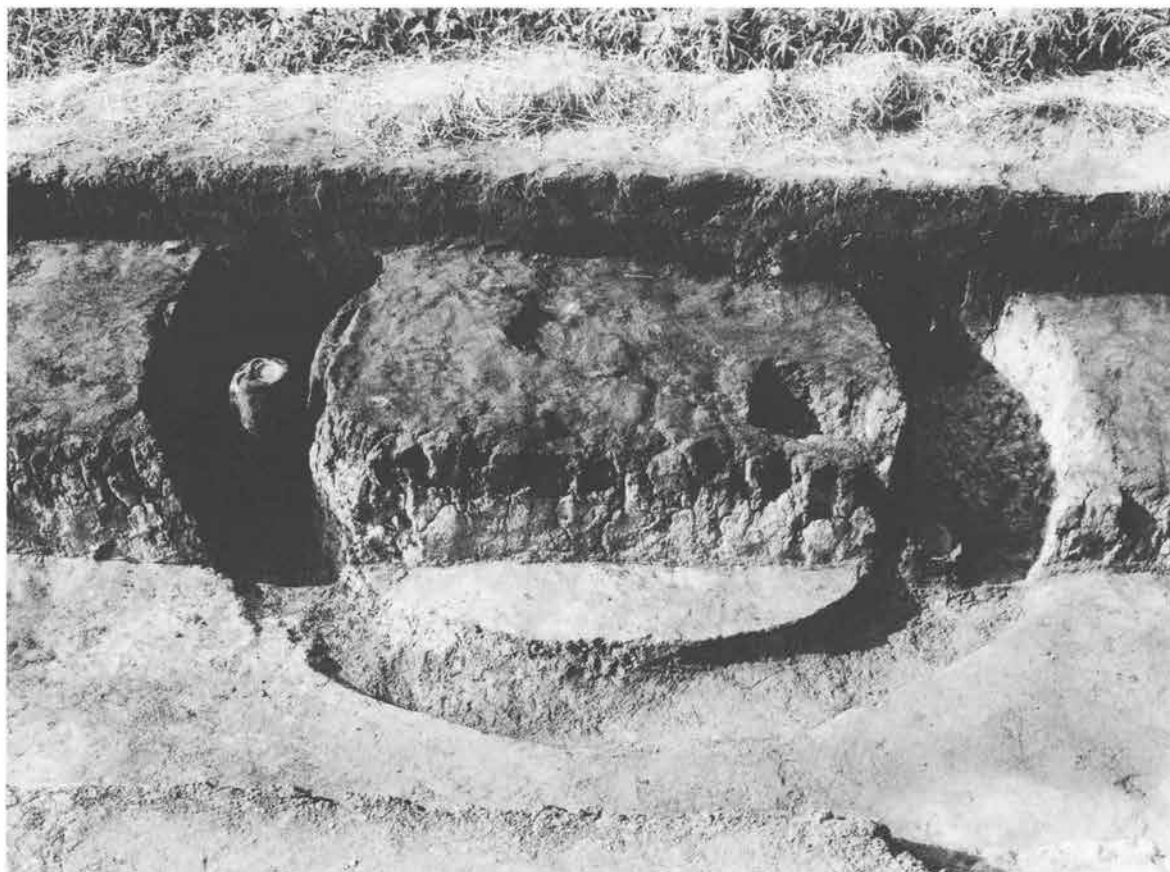
J区1号掘立柱建物跡 奥は2号掘立柱建物跡



J区2号掘立柱建物跡全景（南から）



J区5号掘立柱建物跡（南から）



I区1号塚(南から) 盛り土は残っていない



周溝の確認状況



横断面 溝断面は箱形で灰・焼土・炭が堆積



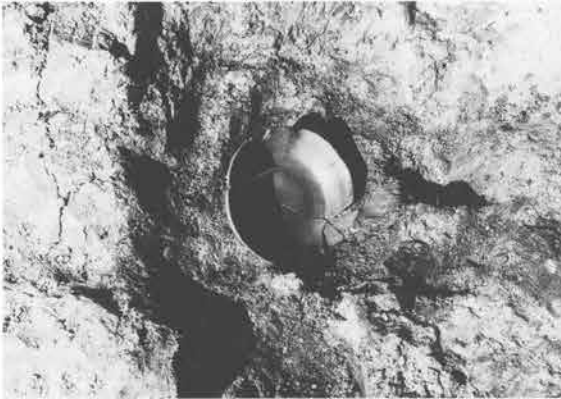
周溝内杯出土状況



周溝埋土断面



I区1号竖穴遺構遺物出土状況



1号竖穴遺構杯出土状況



I区3号井戸断面



I区3号井戸全景（南から）



J区2号井戸平面



H区34号土坑遺物出土状況



H区35号土坑断面



J区25号土坑遺物出土状況



J区143号土坑断面



J区46号土坑断面



J区41号土坑断面



J区59号土坑遺物出土状況



J区68号土坑断面



J区69号土坑遺物出土狀況



J区69号土坑断面



J区122号土坑断面



J区154号土坑断面



J区155号土坑断面



J区181号土坑遺物出土狀況



J区191号土坑遺物出土狀況



H区6号土坑断面



H区31号土坑断面



J区12号土坑



J区137号土坑断面



J区159号土坑断面



J区163号土坑断面



J区166号土坑断面



B区51号土坑断面



E区5号溝全景（北東から）



D区8号溝（北東から）



D区8号溝（北西から）



E区5号溝西壁断面



E区5号溝遺物出土状況



H区13・14号溝（北西から）



H区10号溝（北東から）



H区11・12号溝（北東から）



H区12・13号溝の交差部分



H区13号溝埋土断面



H区5号溝全景（北西から）



H区5号溝B断面



H区5号溝遺物出土状況



H区41号溝 左は5号住居跡



H区42・43号溝（北西から）



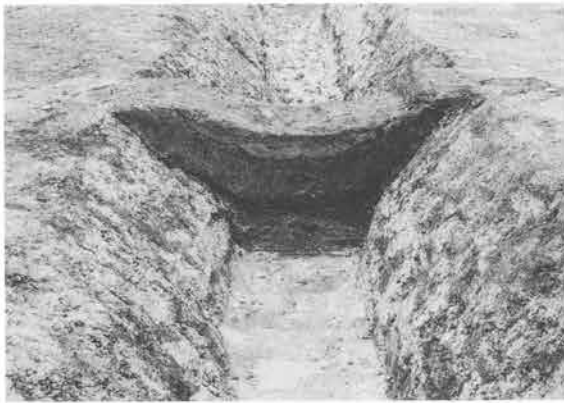
H区21号溝全景 (南東から)



I区28号溝全景 (北西から) 右脇には大畦が沿う



I区28号溝南壁断面 上層にAs-Bの一次堆積層が見られる



H区21号溝断面



全体にラミナ状堆積



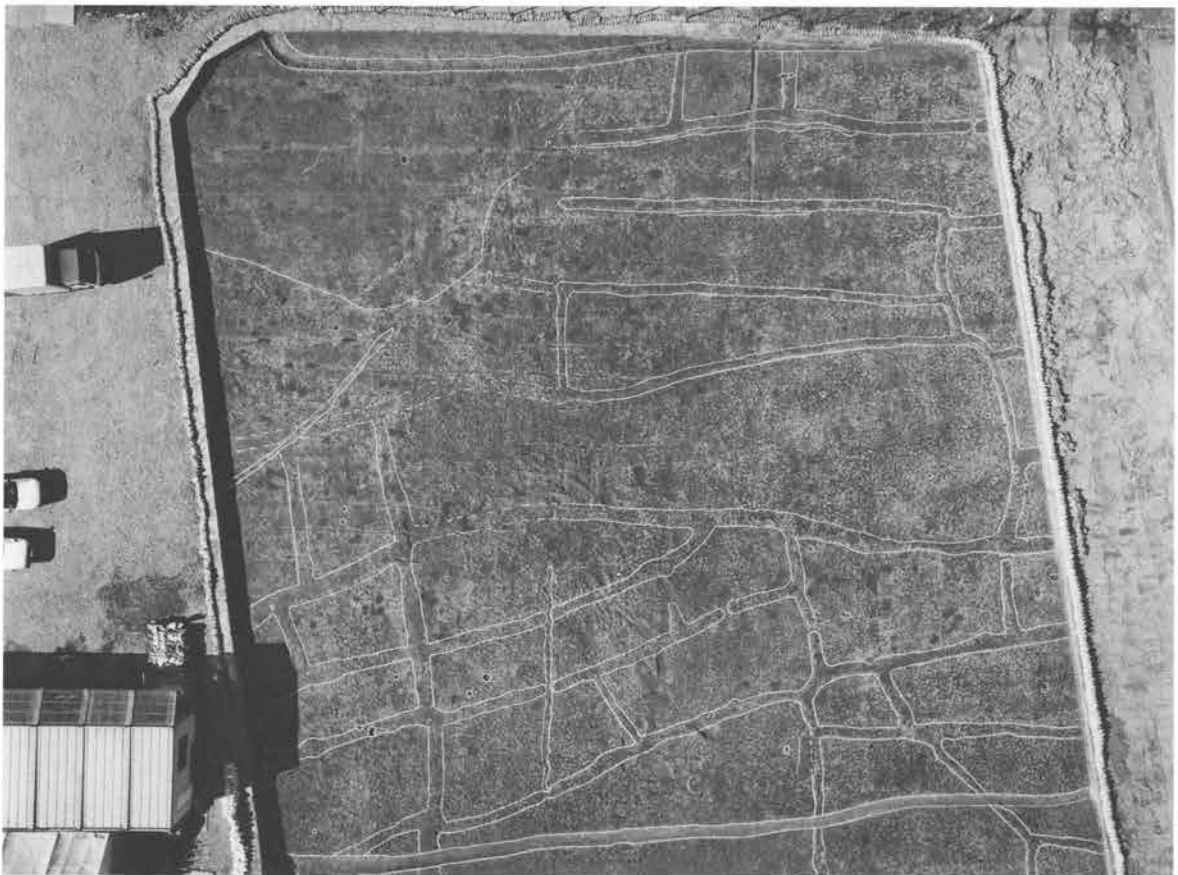
I区28号溝断面



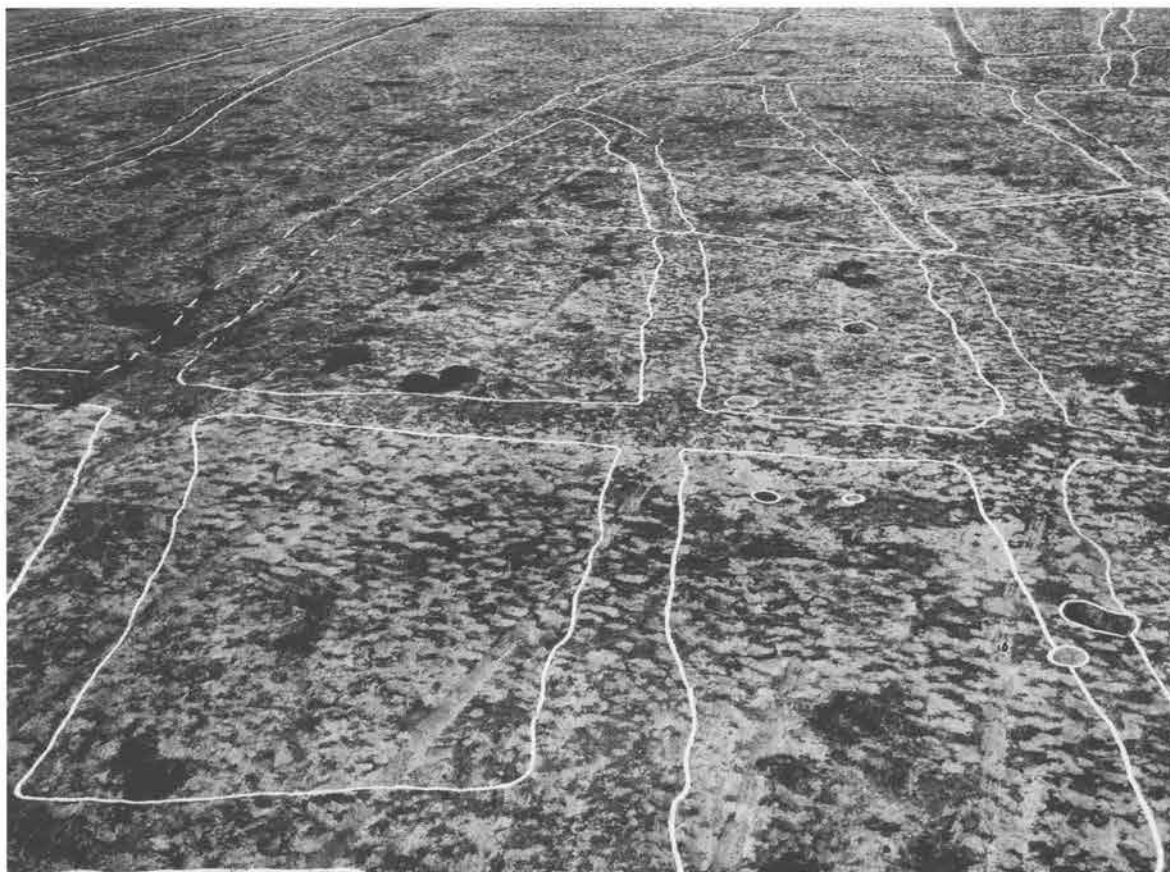
中央灰色層はAs-B層



A区古代水田全景（西から） 1108年（天仁元年）降下テフラAs-Bを除去して検出



A区古代水田全景（東上空から）



A区古代水田畦近景 斜行する畦と田面の状況



A区古代水田北東部 背景右に赤城山



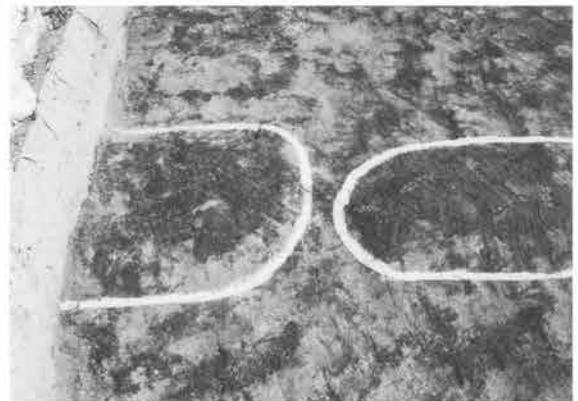
A区南西部微高地と屈曲する畦



段違いになる畦部分



水口と溝状くぼみ



水口



水口 周囲の白い汚れはくぼみに残ったAs-B灰



畦部分の断面 表層に黒色土、耕土は灰色シルト層



B区古代水田全景（東上空から）



古代水田区画部分（東から）



古代水田区画部分（西から）



B区古代水田の東西にのびる畦（西から）



B区古代水田の南北にのびる畦（北から）



C区古代水田全景（南上空から）



C区古代水田全景（西上空から）



C区古代水田の斜行する畦と田面の状況（南から）



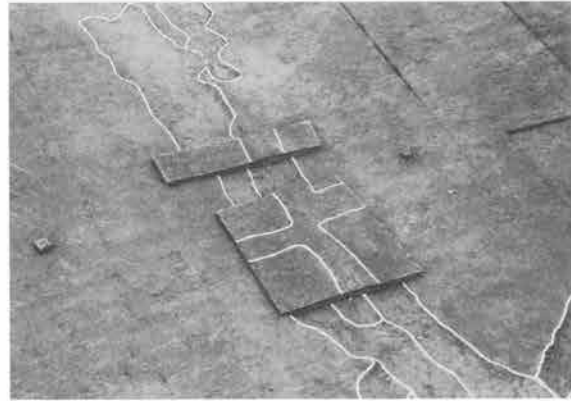
C区古代水田の平行する斜行畦（南西から）



C区古代水田の東西畦 左は大畦



大畦基部の溝状痕跡（西から）



大畦基部の痕跡



大畦断面 畦基部の両側に溝状くぼみが残る



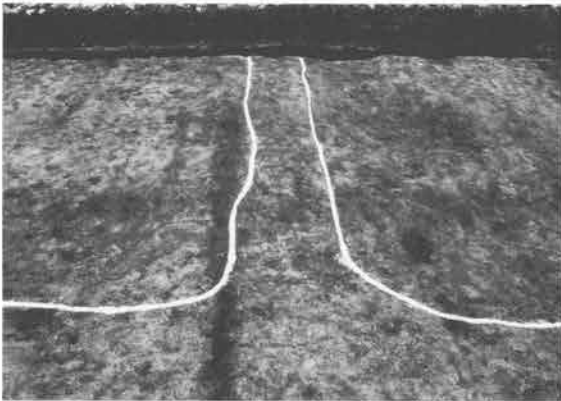
D区古代水田全景（南上空から）



D区古代水田東半の区画（南から）



D区古代水田の南北大畦 右側を近世溝に切られる



東西畦近景



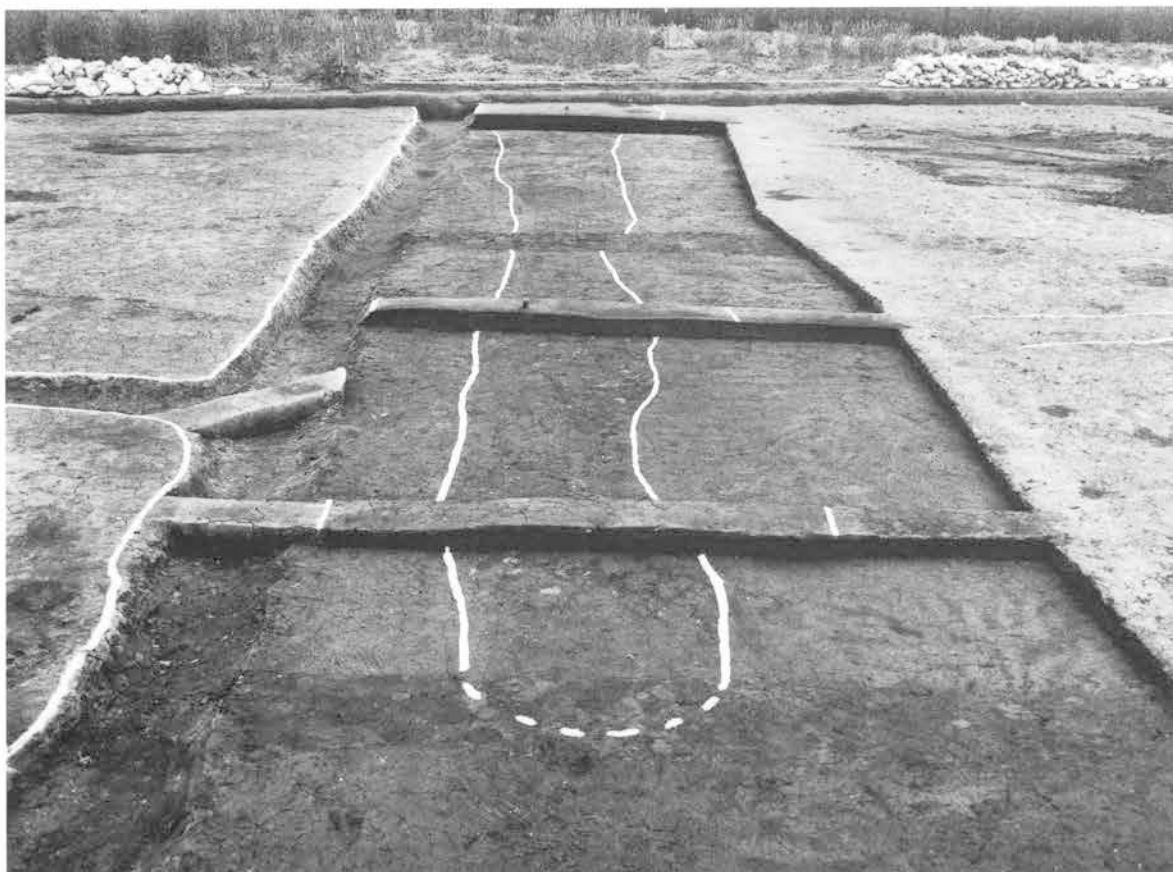
D区南部の東西畦



D区北部の東西畦



D区東部の区画



D区古代水田の大畦基部 白線部分は耕土中に露出した帯状の地山の範囲



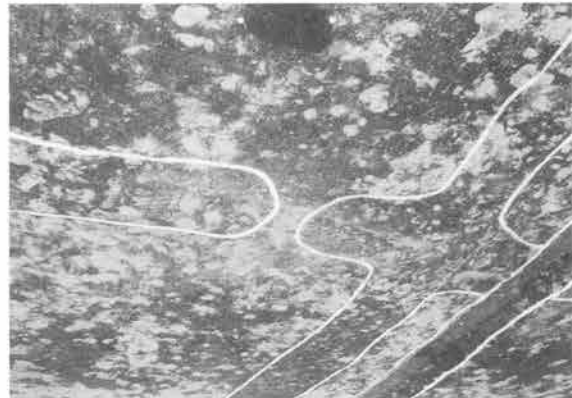
D区古代水田の大畦基部 水口部分の状況



E区古代水田全景（東上空から） 横断する細い溝は近世以降の水路



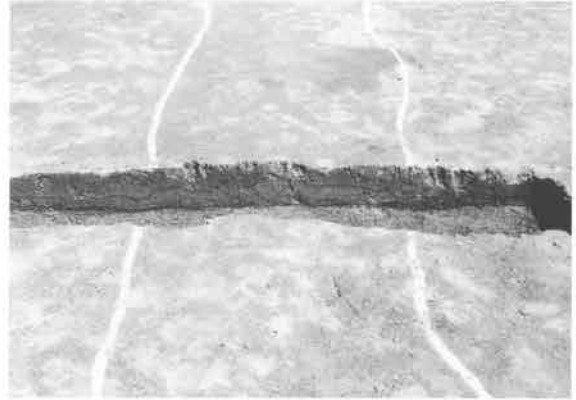
北西部における二重畦の状況



水口と田面の状況と畦



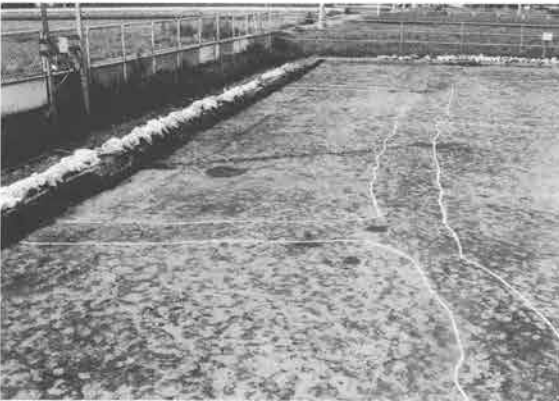
E区古代水田東西畦



畦断面



畦分岐と交差部分



E区西部の南北畦



畦と水口



近世以降の水路に併走して切られる南北畦



やや蛇行する南北畦



E区古代水田断面B

浅間山テフラAs-B (1108年降下) を除去すると、当時の水田面が検出される。ここでは畦や水路、水口などの状況を把握できるが、耕土の調査は意外に行われていない。本調査では表層の黒色土層と下位の灰褐色シルト層を耕土と想定し、地山に相当するAs-C混黒色土までの間を精査した。



耕土C断面 中央灰色層が耕土



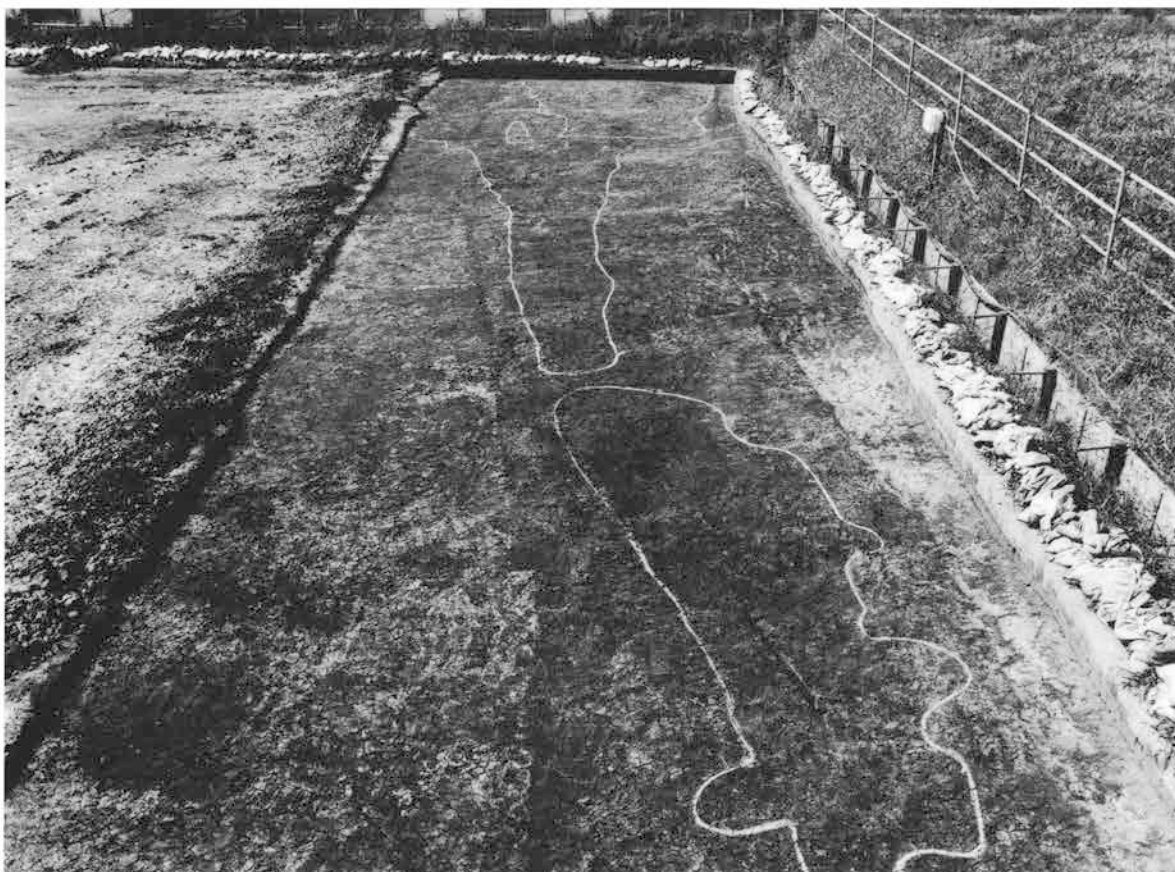
現水田耕土断面



E区古代水田耕土下面に現れた畦の基部 (黒色部分)



E区古代水田の交差する畦基部



E区古代水田の水口部分をあけた畦基部



E区古代水田の二重畦の基部 付け替えではなく、当初から二重であったことが判明



E区北西部古代水田の交差する畦基部



E区古代水田耕作痕跡の調査 地山の黒色土層上面にわずかに残るくぼみを検出する



検出された南北畦の基部と交差する平行小溝群



E区古代水田耕作痕跡（南から） 一面に広がる耕作溝群、走向は東西よりやや角度が振れる



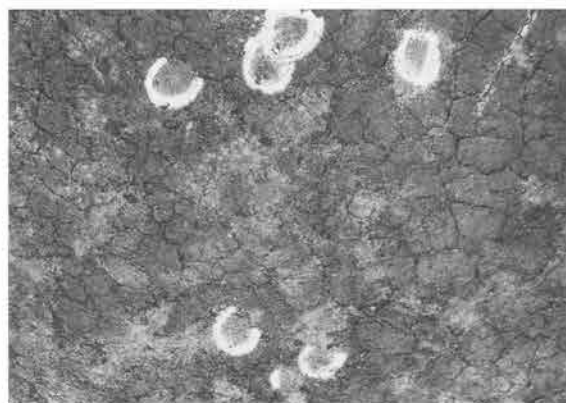
密集して走る耕作溝（西から） 馬鋤痕とも思われたが、縦断面調査から人力耕作と考えた



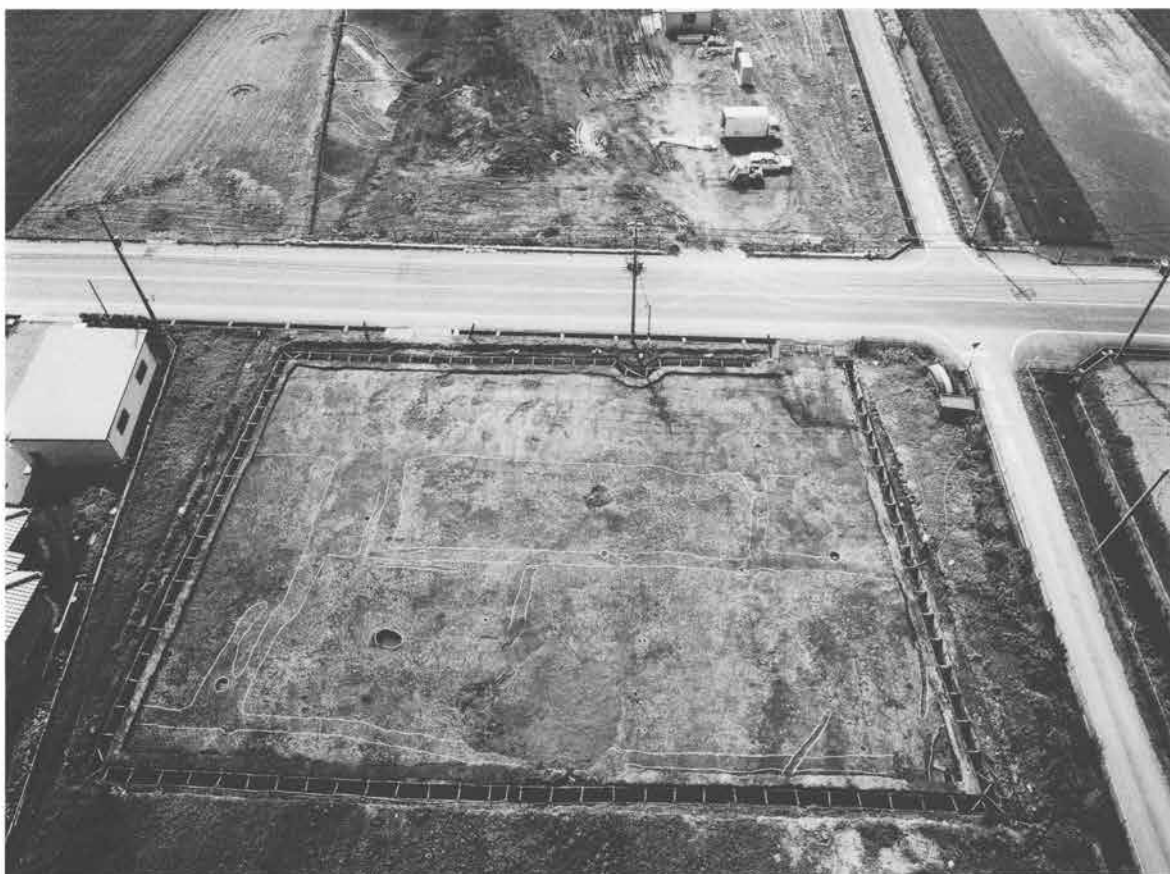
F区古代水田の畦検出状況



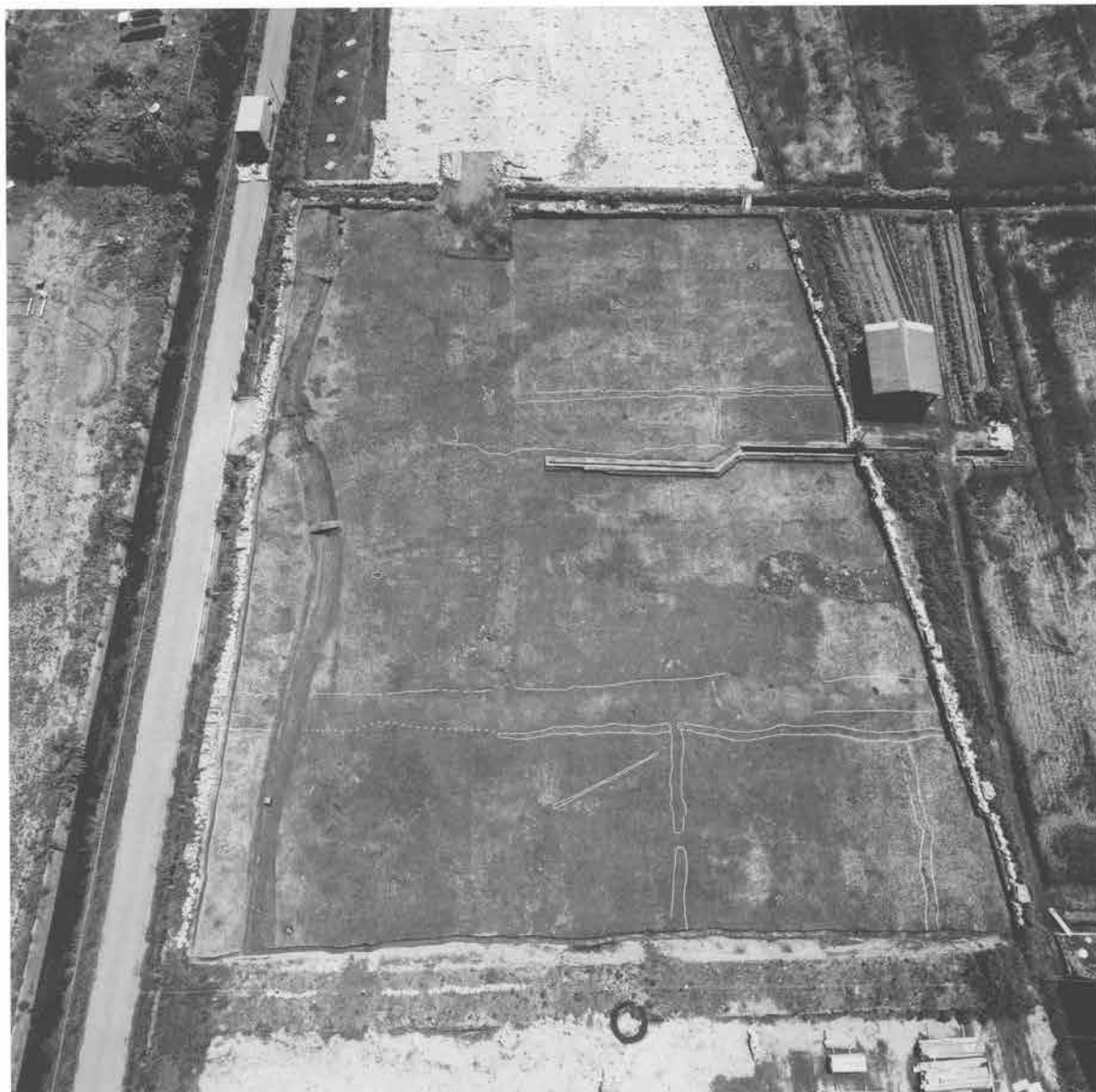
F区古代水田の検出作業 As-Bの除去



F区古代水田面に残る馬蹄痕



G区西半の古代水田全景（東上空から）



G区東半の古代水田全景（西上空から）



G区西半古代水田全景 現水田区画と走向がほぼ一致する



G区西半古代水田全景（北上空から） 南北に長い区画が特徴



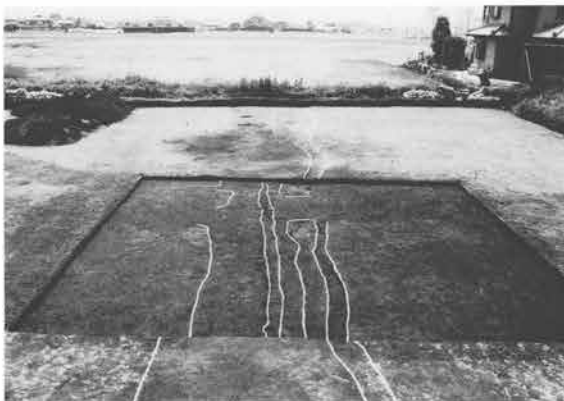
南東部の区画



北半部の区画



G区東半の古代水田検出状況（東上空から） 奥の橋脚工事部分がG区西半



G区東半の古代水田大畦基部



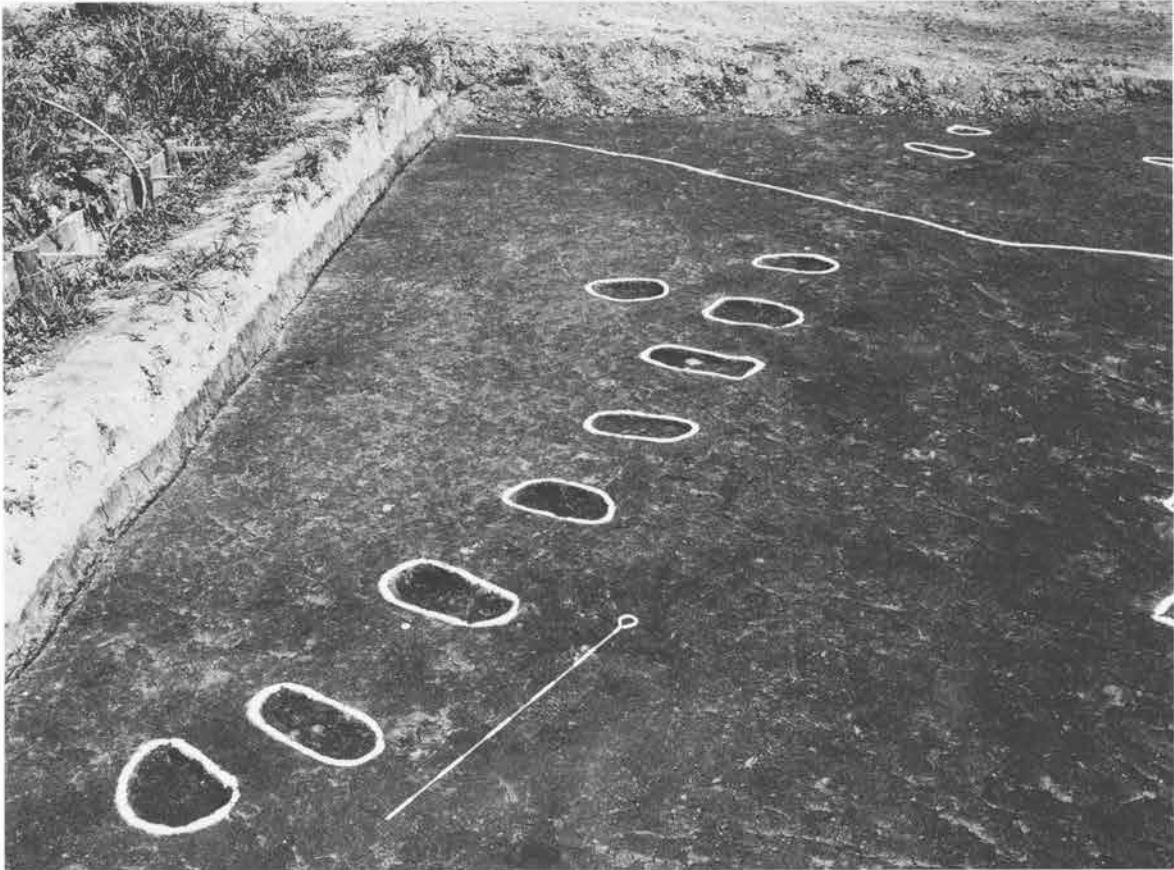
大畦断面と基部に残る溝



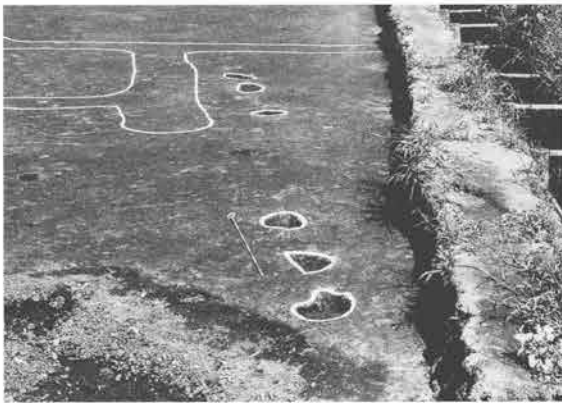
H区古代水田全景（東上空から）



I区古代水田（東上空から） 斜行する28号溝の手前が水田



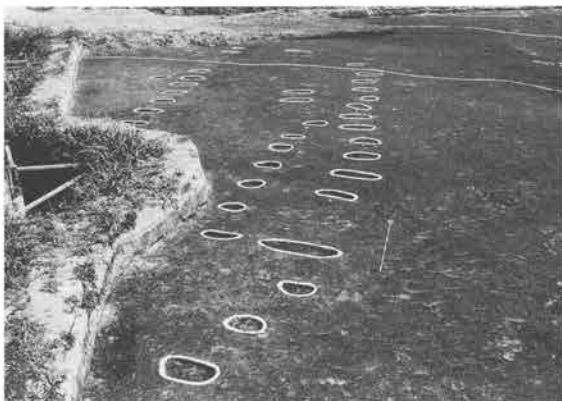
G区古代水田耕土下の耕作痕跡 ピンボール北向き、As-B直下水田より古いと思われる



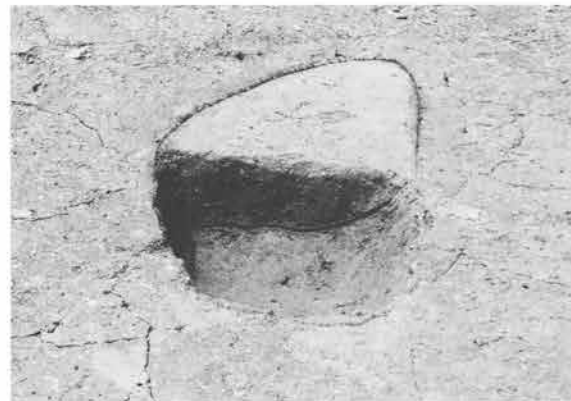
ピット状の耕作痕列



溝状の耕作痕列



南北に並ぶ耕作痕列



耕作痕の断面 灰色シルトが堆積



H区44号溝全景（北西から）



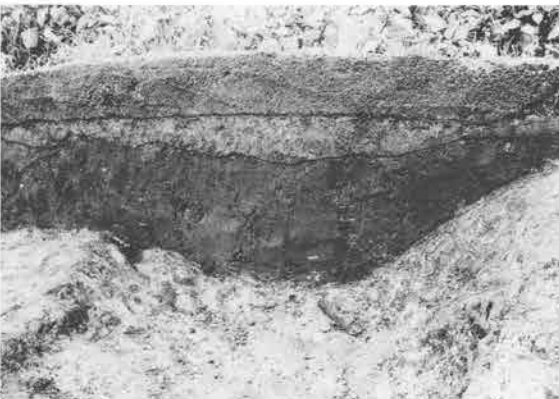
I区2号溝全景



I区3号溝全景



I区5号溝全景



I区5号溝埋土C断面



I区8号溝全景



J区11号溝断面 55号土坑重複部分



J区11号溝B断面



J区18号溝A断面



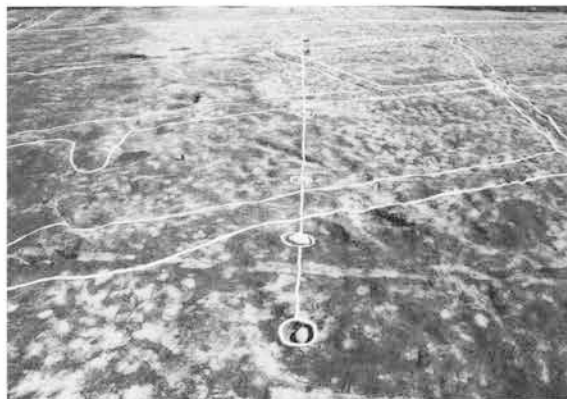
J区19号溝遺物出土状況



J区18・19号溝全景（南から） 奥は調査区東限を画す現藤川、対岸は西善尺司遺跡



A区1号掘立柱建物跡



A区1号柱列 古代水田を切る



A区1号柱列P2



A区1号柱列P1



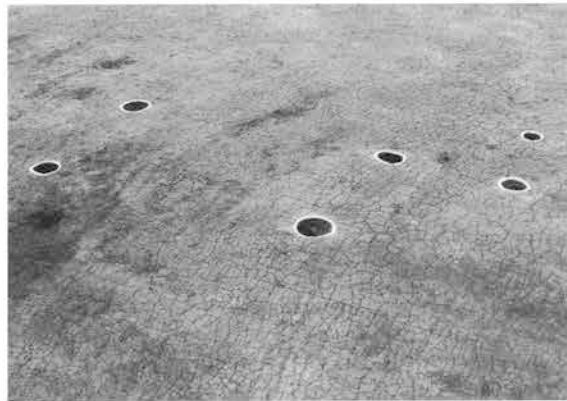
A区1号柱列P3



A区1号柱列P3断面



E区1号掘立柱建物跡



F区1号掘立柱建物跡



H区26号溝 (屋敷堀)



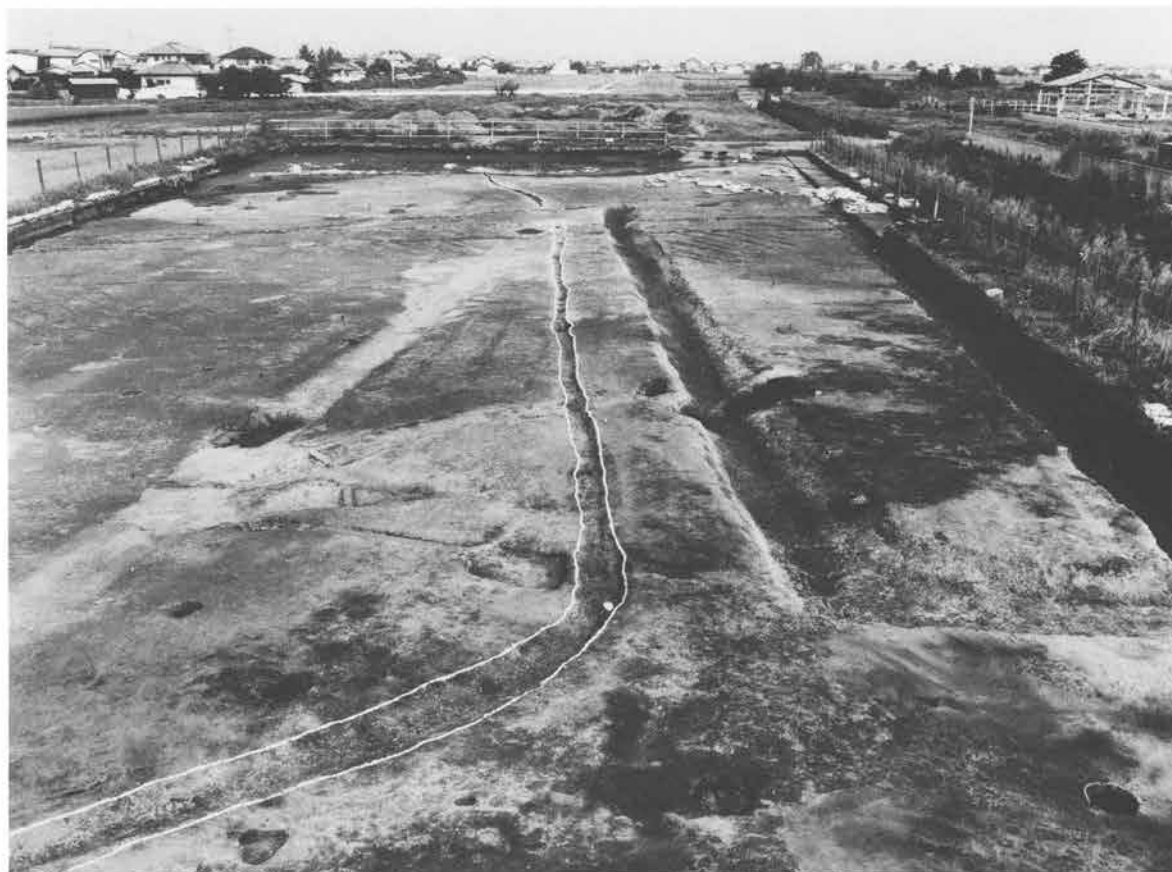
I区4号溝 (屋敷堀) H区26号溝に連続する



I区4号溝と11号溝（屋敷堀） 左下が4号溝、右上が11号溝、中央に7号溝



I区4号溝 左方の屈曲道路は屋敷区画に沿って走る



I区7号溝（中央）と平行する11号溝（右） 7号溝は江戸後期の絵図面にも記されている



I区29号溝（北から） 北半調査区の11号溝に続く



I区4号溝断面形状



I区4号溝屈曲部



I区4号溝底の高まり部分



I区4号溝底のくぼみ部分



I区4号溝土橋部分



I区4号溝埋土断面



I区4号溝全景（西から）



I区11号溝 (北東から)



I区11号溝断面形状



I区11号溝屈曲部



I区11号溝埋土断面



I区27号溝 (北から)



I区27号溝埋土断面



I区29号溝埋土断面



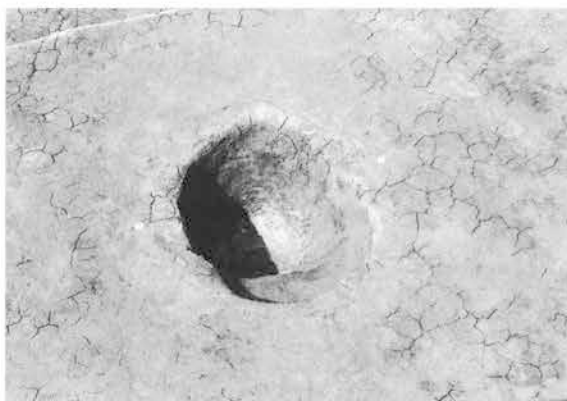
I区30号溝 (南から)



I区30号溝埋土A断面



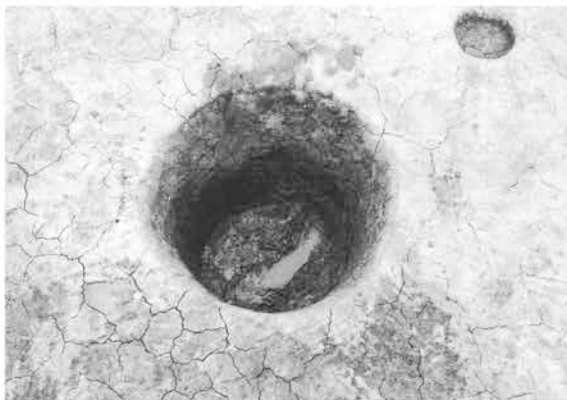
C区1号井戸



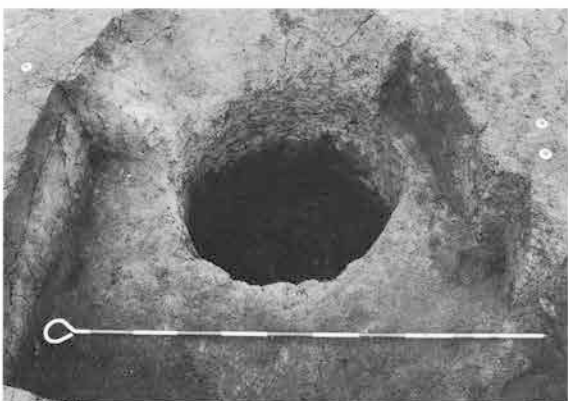
E区1号井戸



G区1号井戸



H区2号井戸



I区16号井戸 (ポールは50cm)



I区17号井戸



J区3号井戸断面



J区4号井戸



G区32号土坑(墓壇か)



G区32号土坑断面



J区62号土坑断面



J区71号土坑(墓壇)



J区77号土坑(墓壇)内部



J区78号土坑(墓壇)内部



J区79号土坑



J区80号土坑断面



J区85号土坑内部



J区96号土坑



J区97号土坑



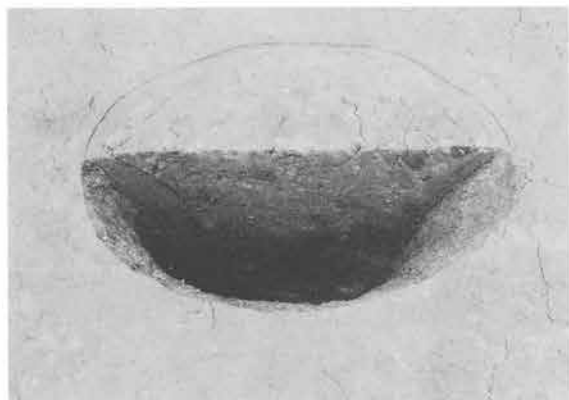
J区101号土坑



J区102号土坑



J区103号土坑 (墓圪)



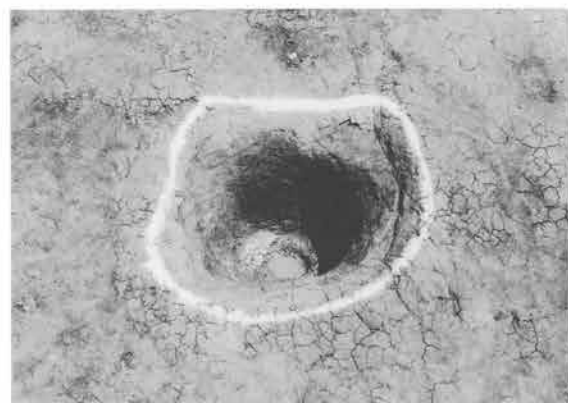
B区47号土坑断面



B区47号土坑



C区7号土坑断面



D区10号土坑



I区2号土坑



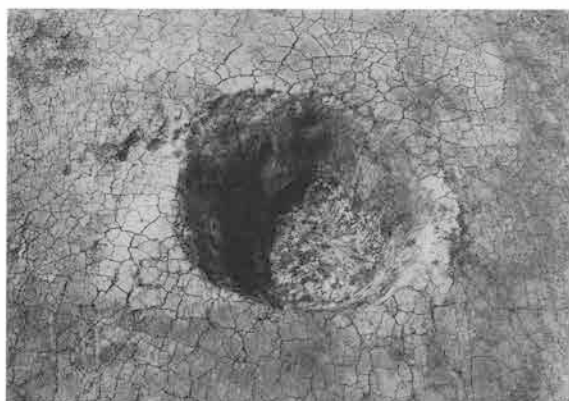
C区47号土坑



E区22号土坑



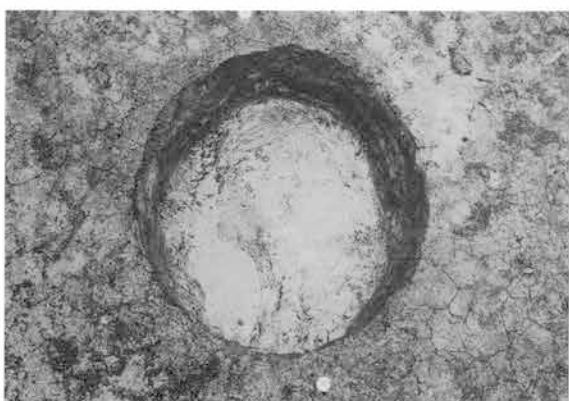
E区44号土坑



F区1号土坑



F区1号土坑断面



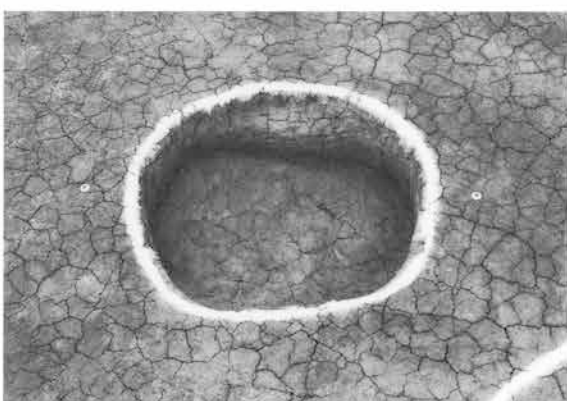
G区6号土坑



E区24号土坑



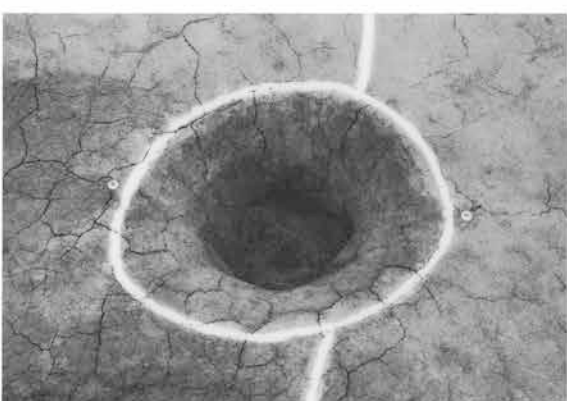
F区2号土坑



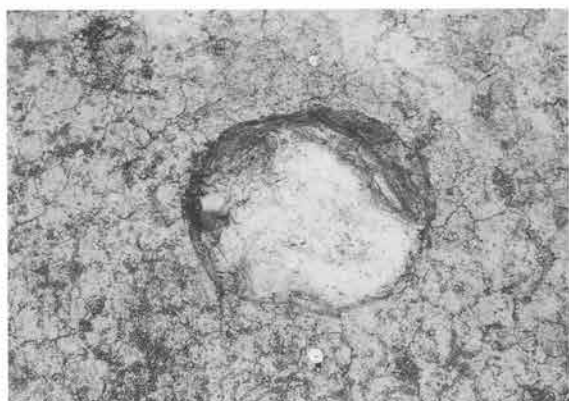
G区2号土坑



G区9号土坑



G区25号土坑



G区26号土坑



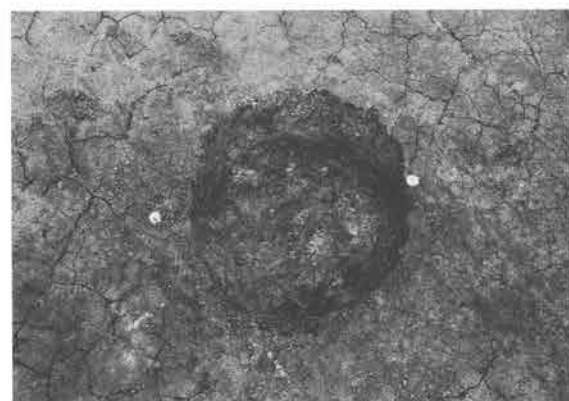
G区27号土坑



G区28号土坑



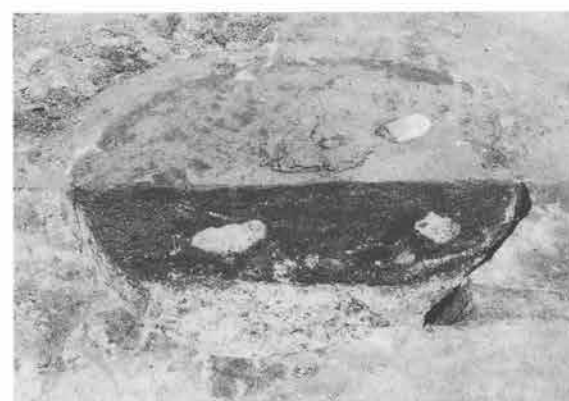
G区29号土坑



G区31号土坑



H区26号土坑断面



I区1号土坑断面



I区48号土坑



C区38号土坑



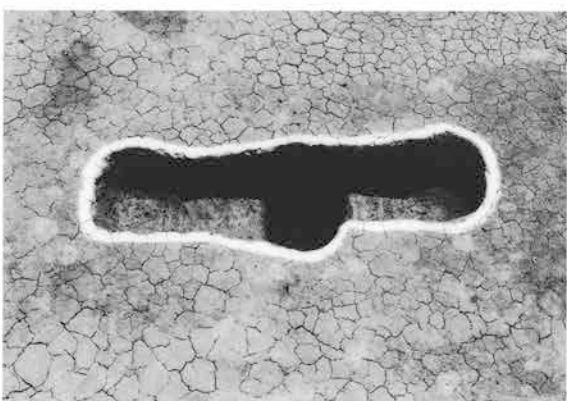
D区30号土坑



G区1号土坑断面



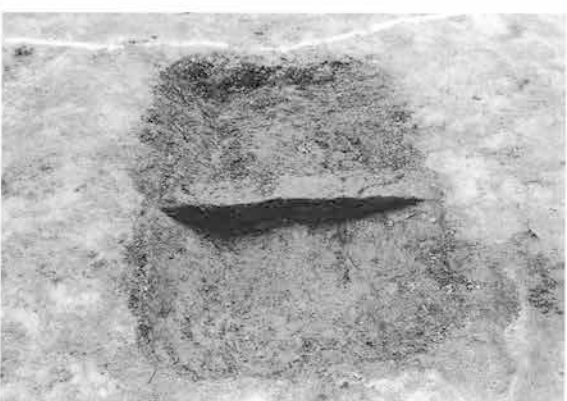
J区76号土坑



D区11号土坑



D区29号土坑



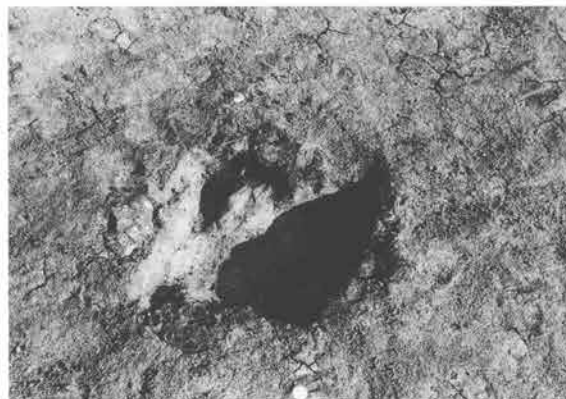
E区11号土坑



I区25号土坑



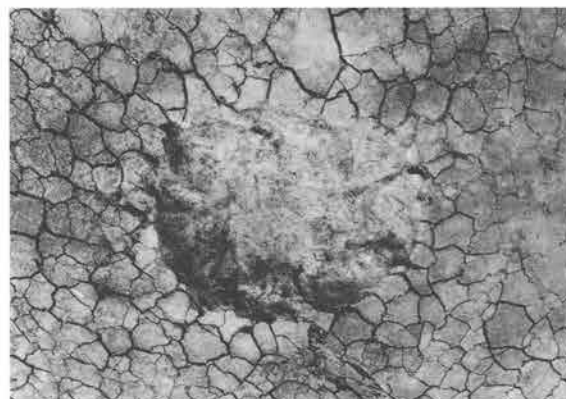
A区13号土坑



A区22号土坑



A区34号土坑



B区3号土坑



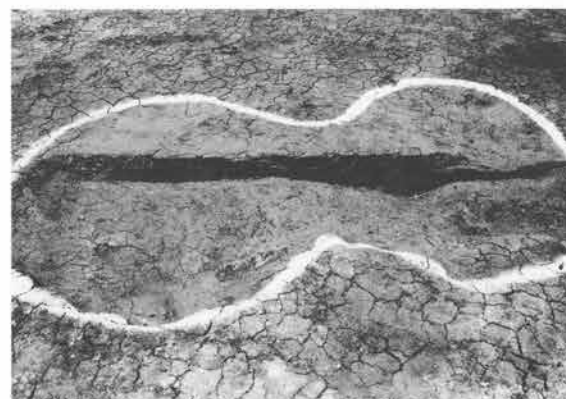
B区6号土坑



B区22·23号土坑



C区16号土坑



D区16号土坑



A区1号沟



A区1号沟埋土断面



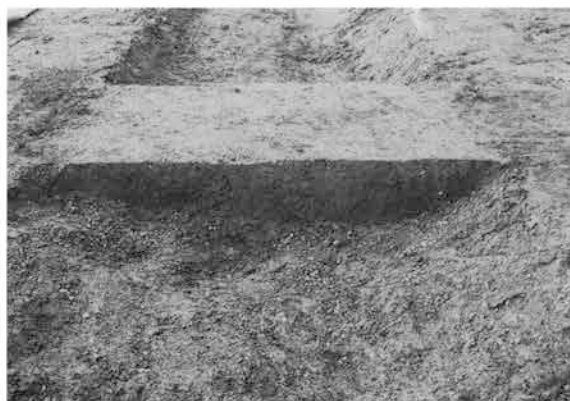
A区2号沟



A区3号沟



B区2号沟



B区2号沟断面



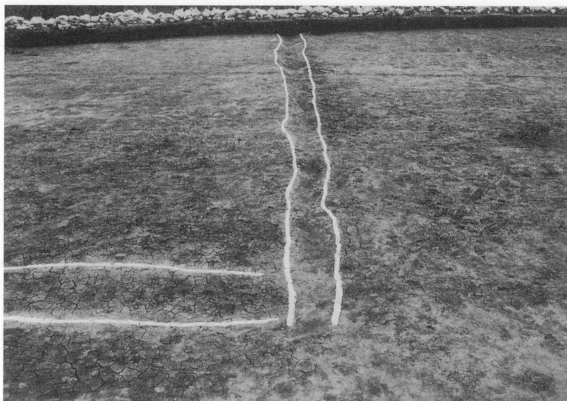
C区1号沟



C区3号沟



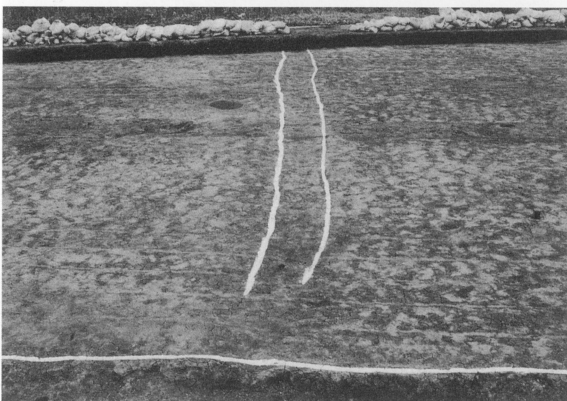
C区4・5・6号溝 (左から)



D区3号溝



D区4号溝



D区5号溝



D区5号溝埋土断面



E区1号溝



E区2号溝



F区1号溝



F区1号溝埋土断面



G区1号溝



G区3号溝



G区2号溝



H区3号溝



H区15・16・17・18号溝



I区32・33号溝



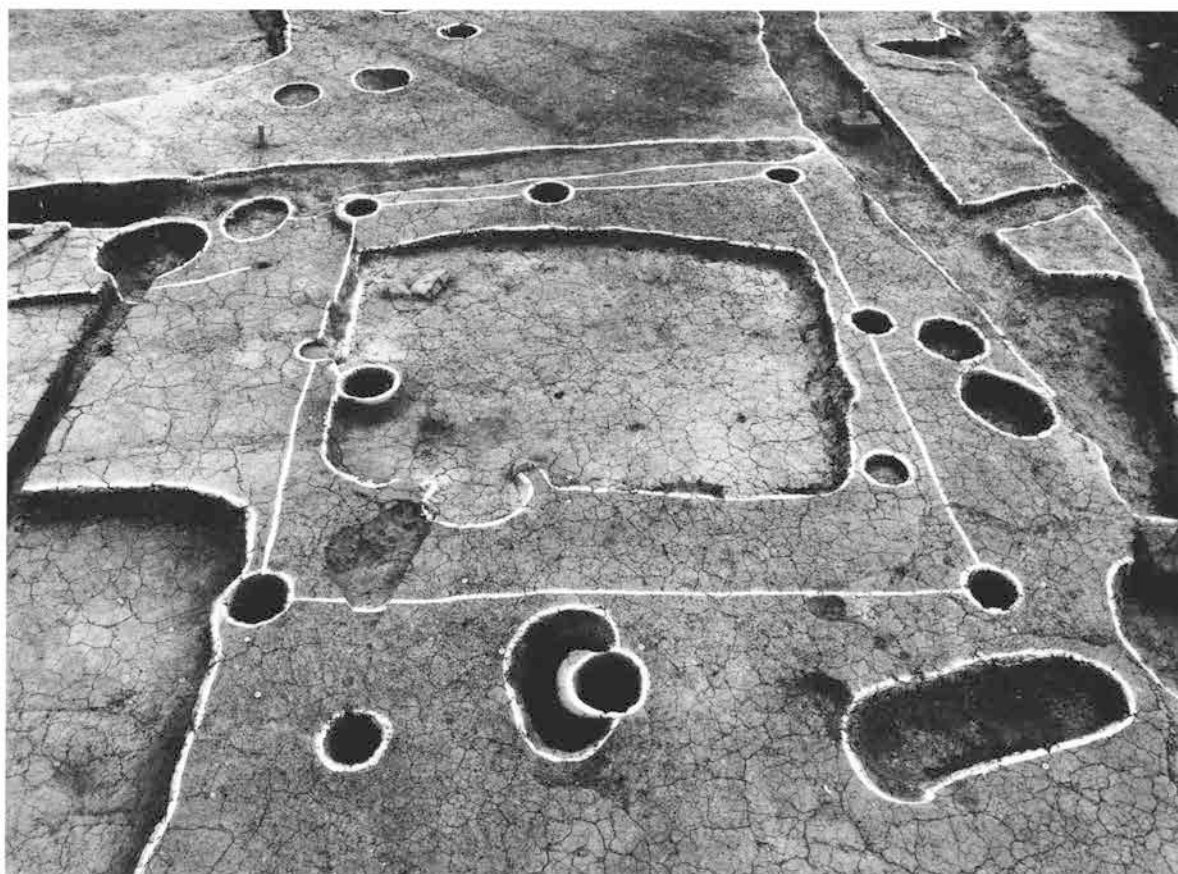
J区円形周溝遺構



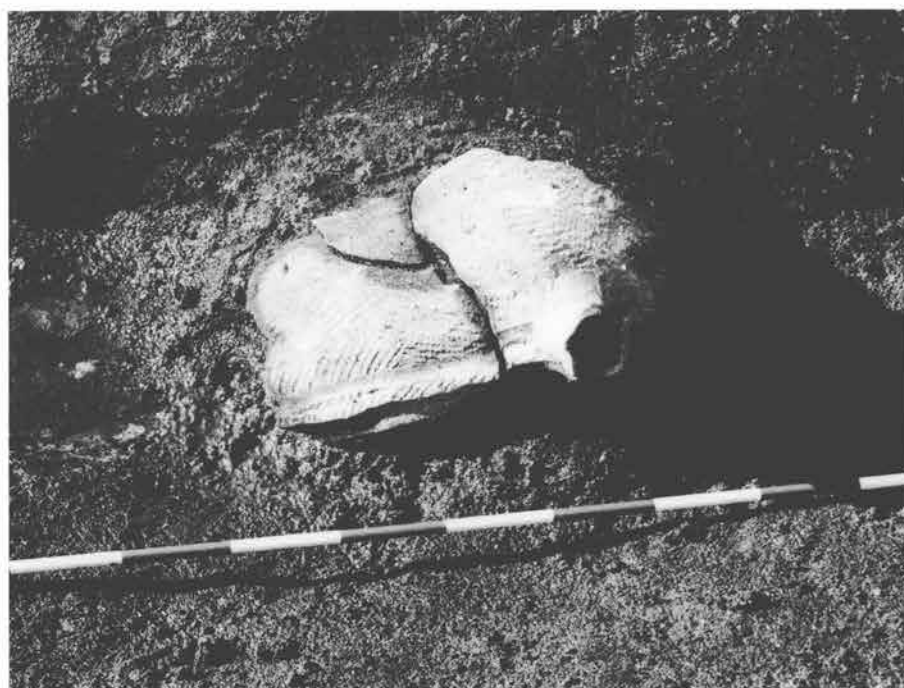
J区17号溝断面



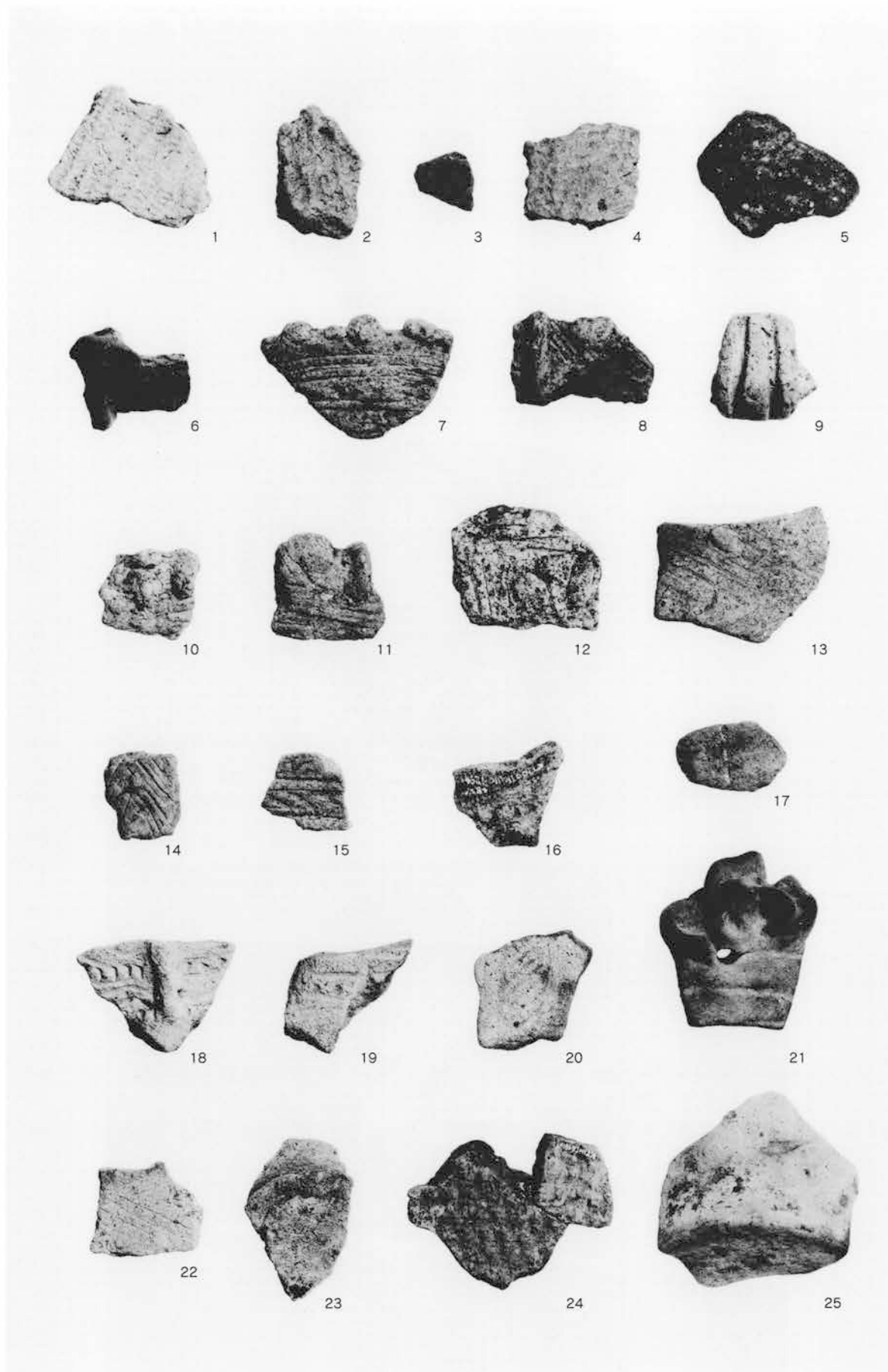
I区4号掘立柱建物跡（北から）



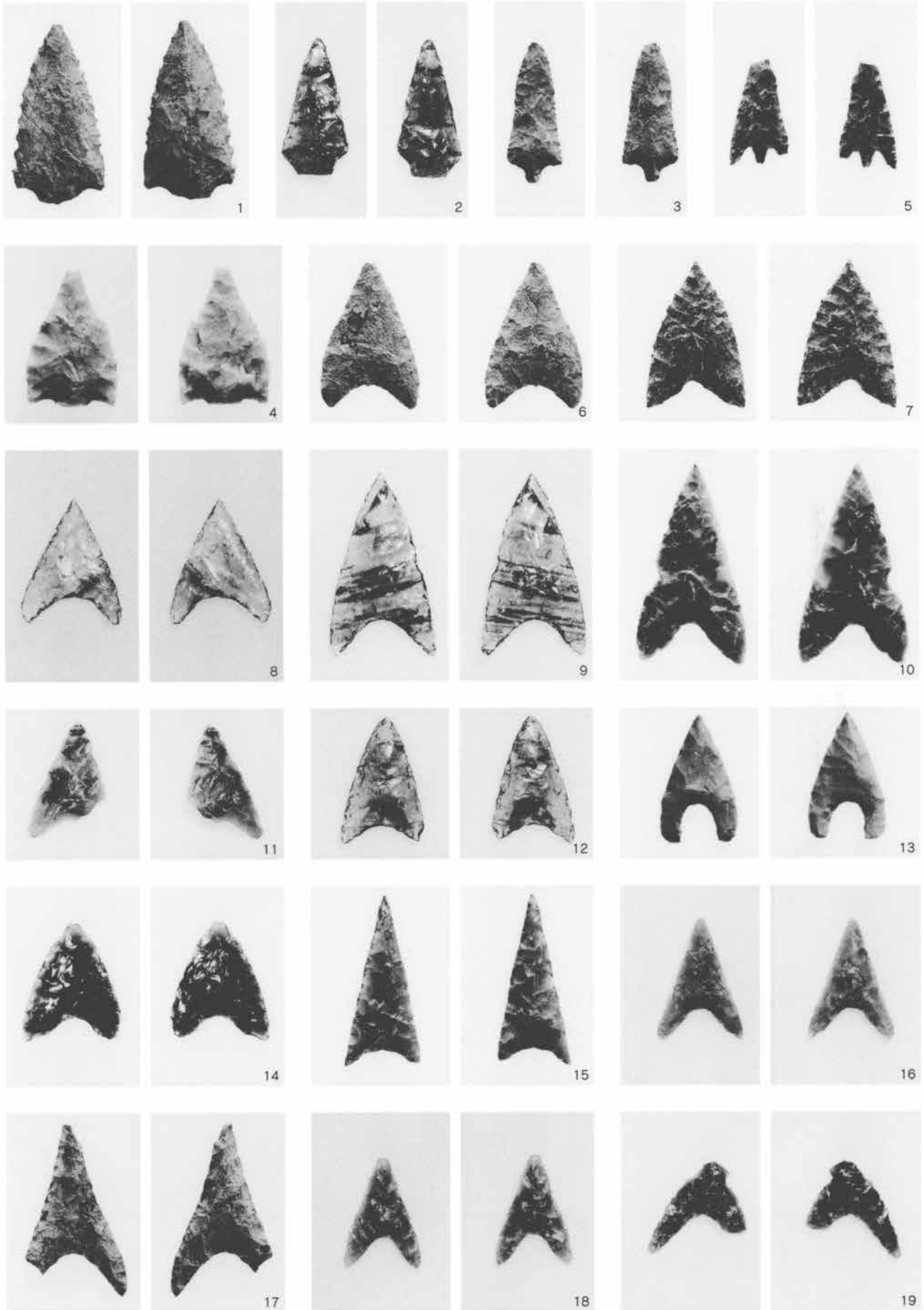
J区3号掘立柱建物跡(北から) 20号住居跡と重複するが新旧関係不明



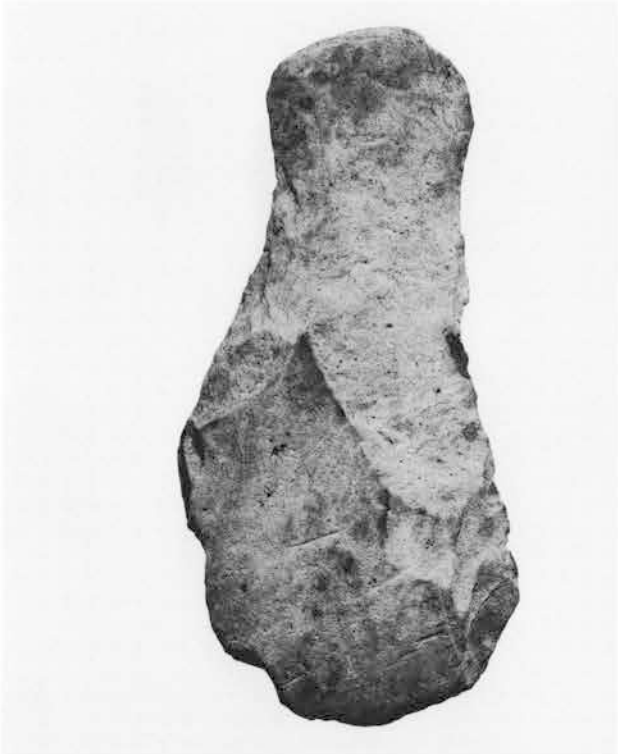
E区6号溝出土の縄文土器（注口浅鉢）



縄文土器



石器類 (1)



20



21



22



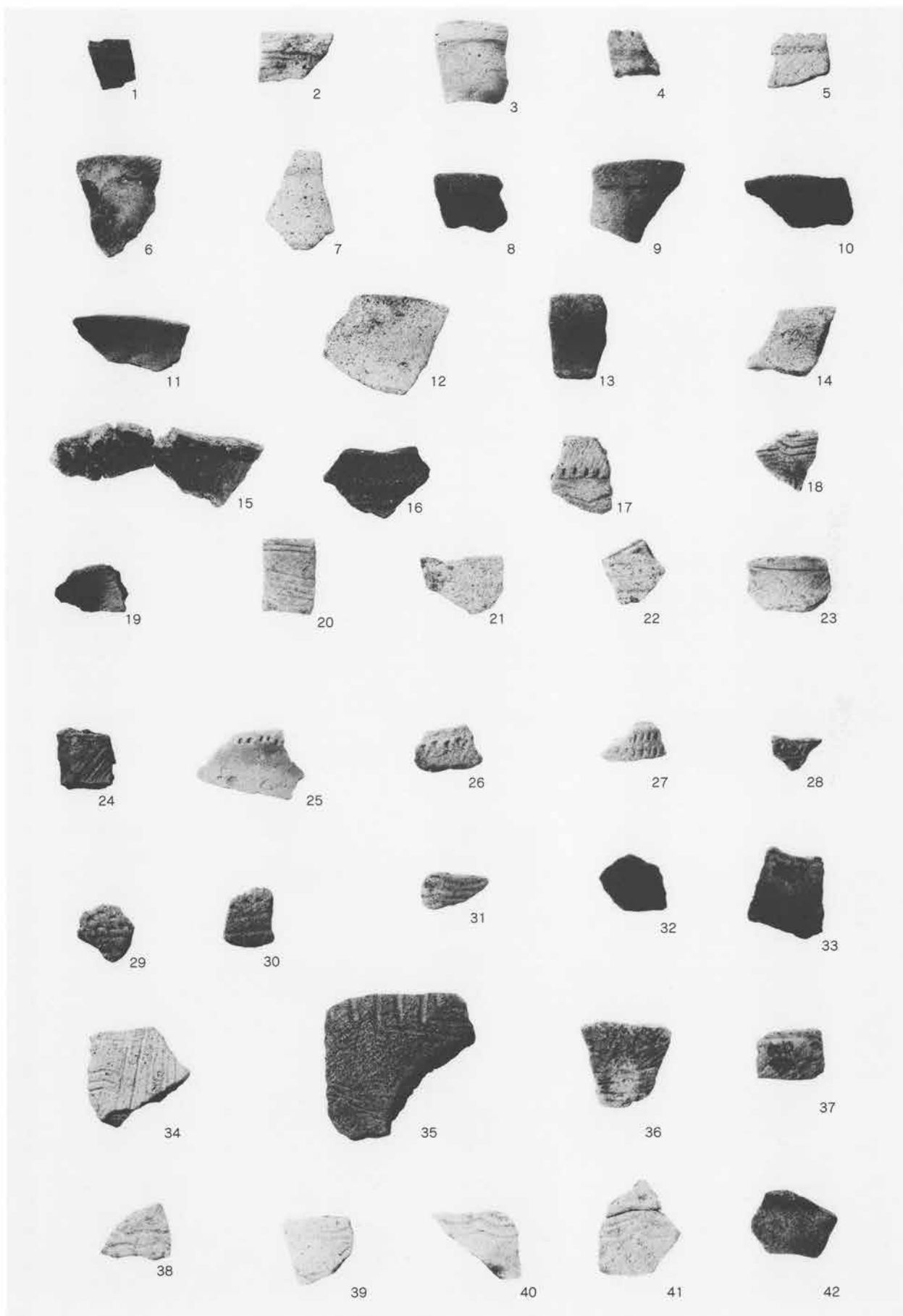
23



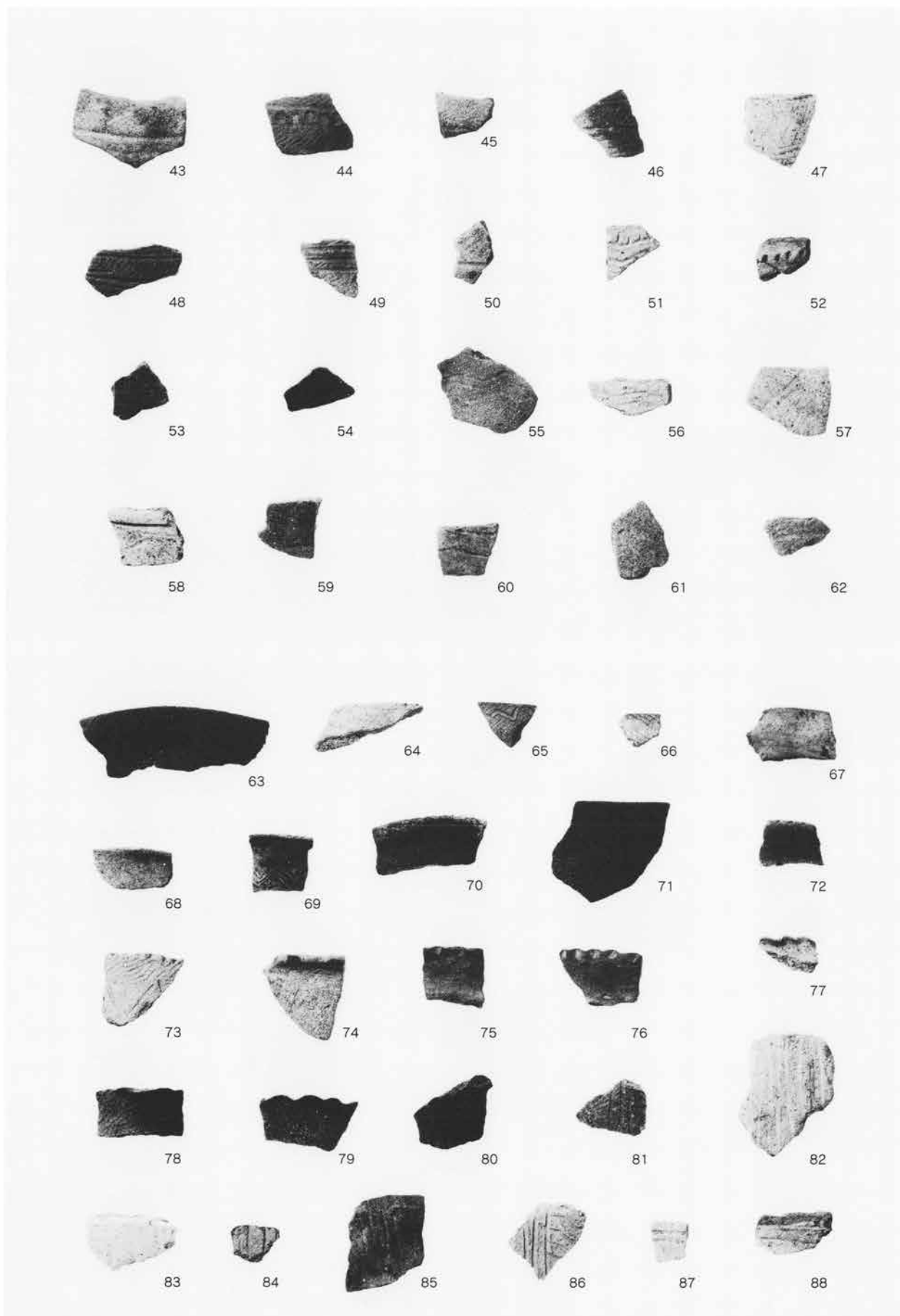
24



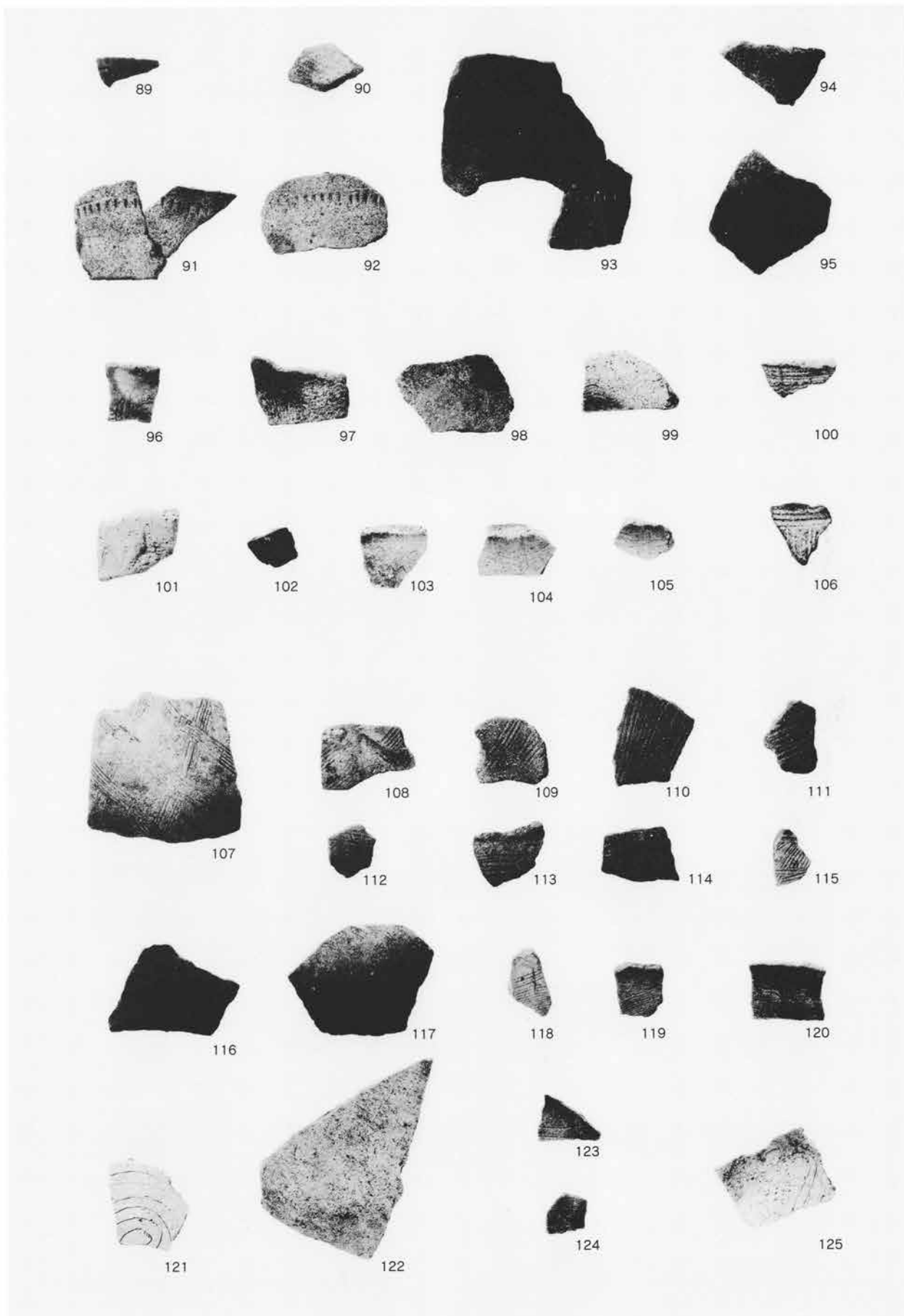
25



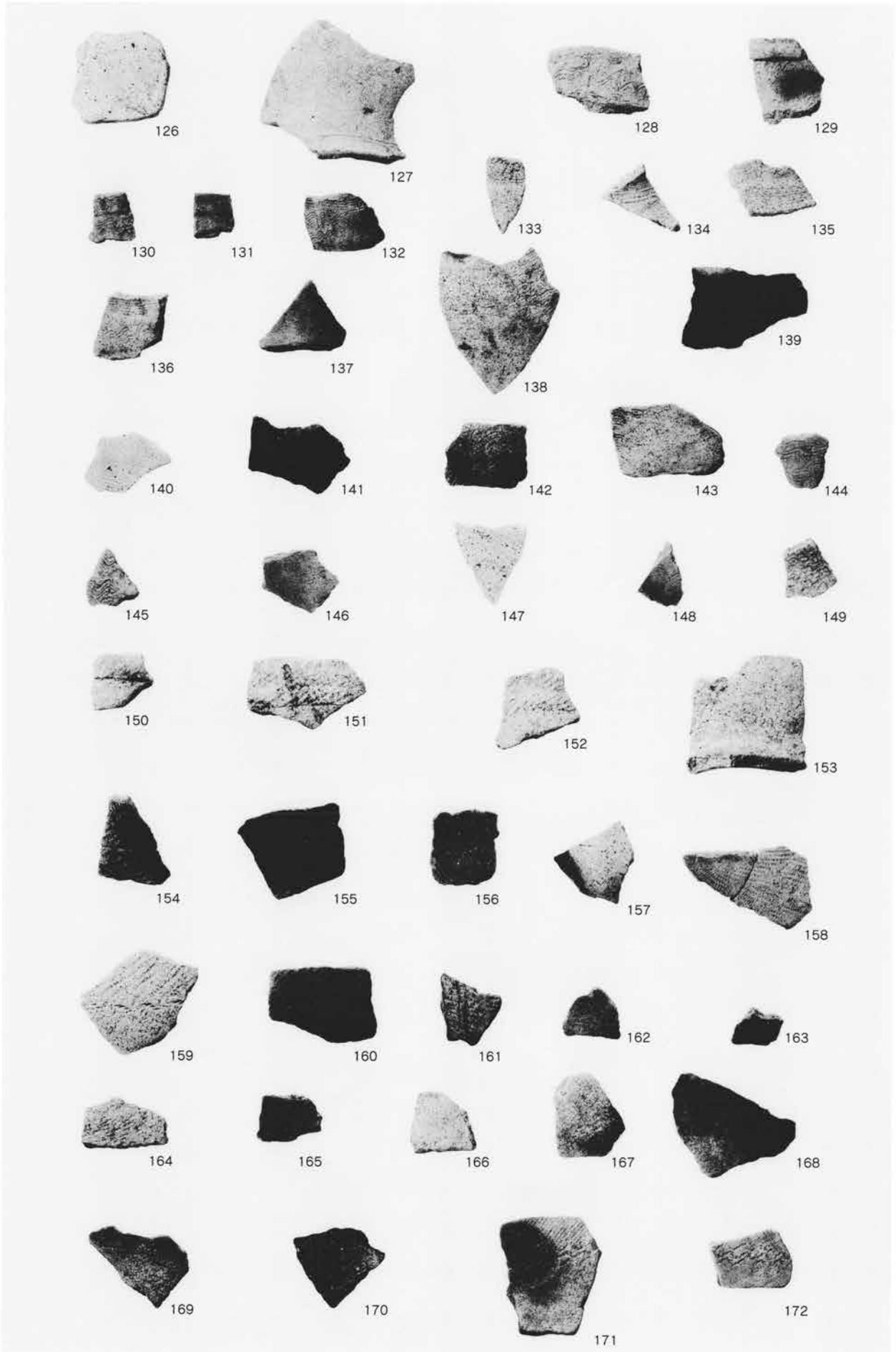
弥生土器 (1)



弥生土器 (2)



弥生土器 (3)





I区1号住居跡出土遺物



I区7号住居跡出土遺物



I区12号住居跡出土遺物



I区14号住居跡出土遺物 (1)



6



3

I区14号住居跡出土遺物 (2)



1

I区16号住居跡出土遺物



5



1

I区20号住居跡出土遺物



1

I区22号住居跡出土遺物



1

I区2号柵列跡出土遺物



I区1号井戸出土遺物(1)



I区60号土坑出土遺物



I区1号井戸出土遺物 (2)



19

I区4号井戸出土遺物



22

I区5号井戸出土遺物



24

I区6号井戸出土遺物



58



57



53



42

I区12号井戸出土遺物



54



62

I区14号井戸出土遺物



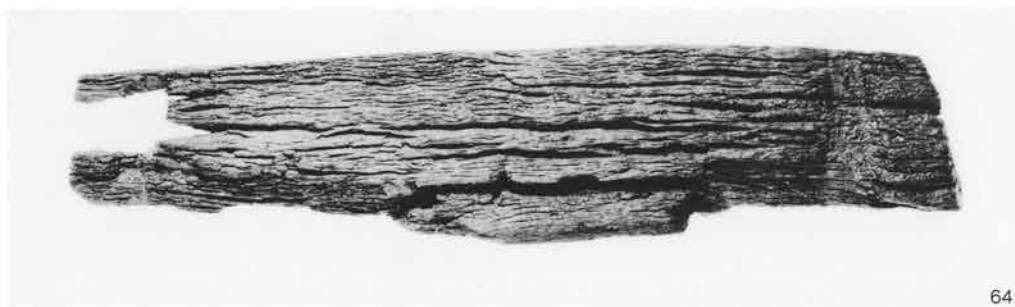
63

J区1号井戸出土遺物



65

I区8号井戸出土遺物



64



66

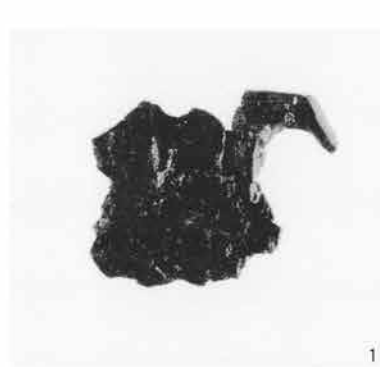


67

I区12号井戸出土遺物



68

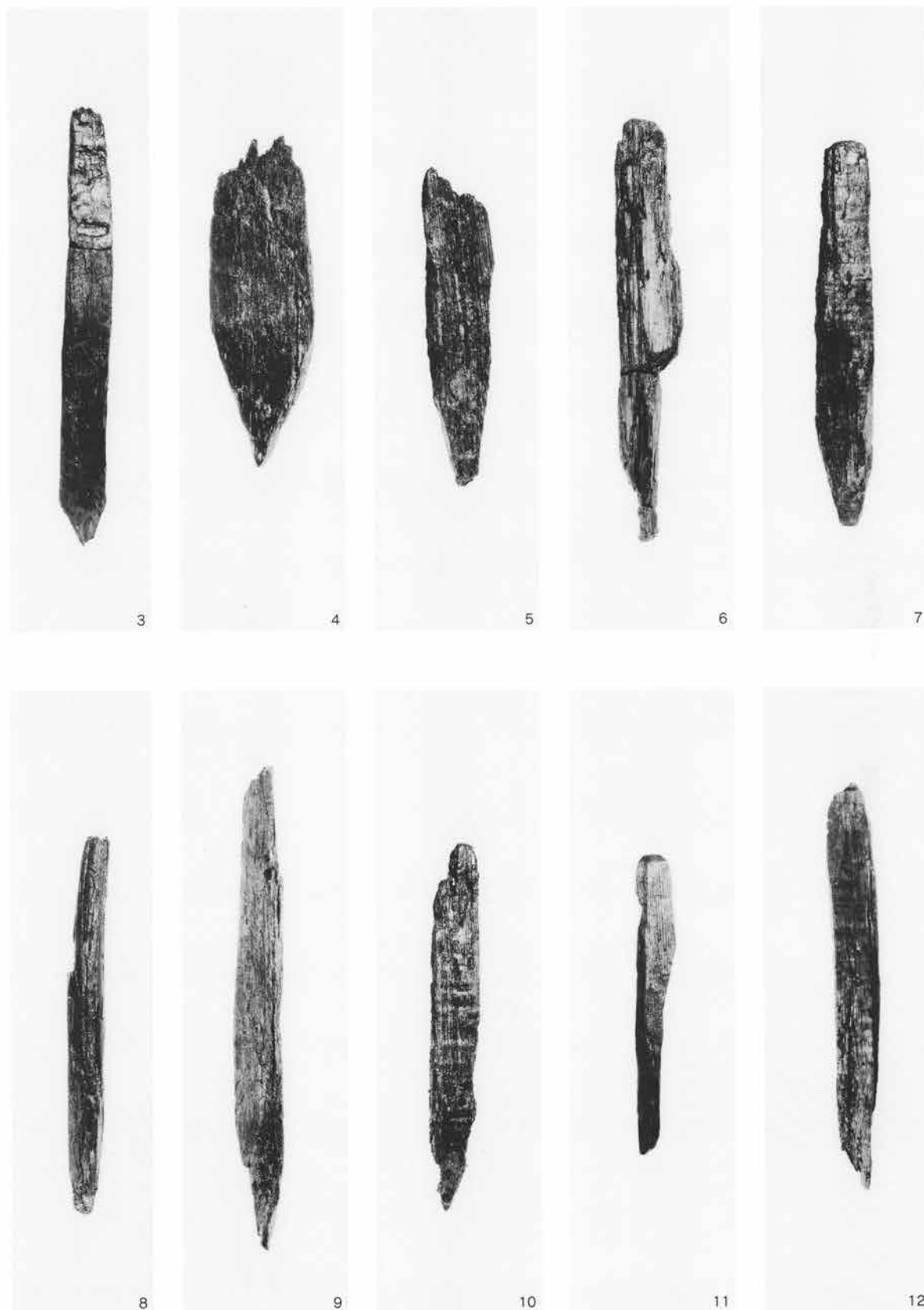


1



2

A区9号溝出土遺物 (1 鍬)



A区9号溝出土遺物 (2 杭と矢板)



1



2

F区2号溝出土遺物



3

F区5号溝出土遺物



10



11



1

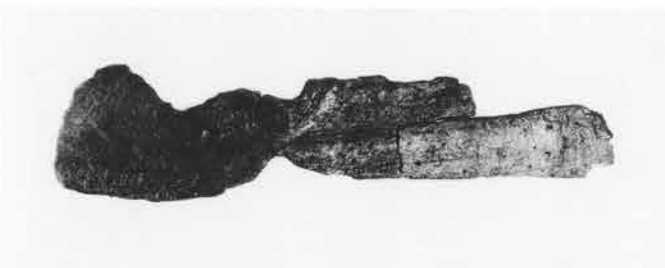


14



8

I区古墳II期水田耕土出土遺物



1



2



3

G区6号溝出土遺物 (1 農具)



5



4



7



5

G区6号溝の遺物 (2 建築材と杭)

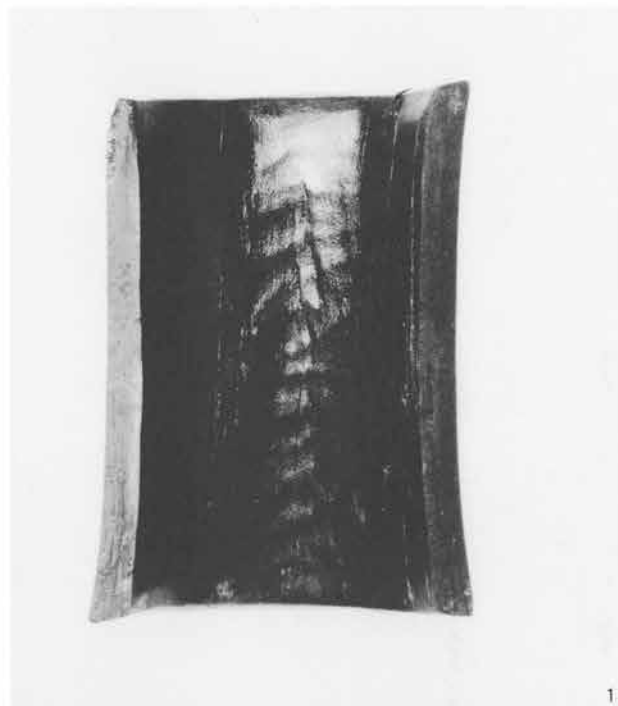
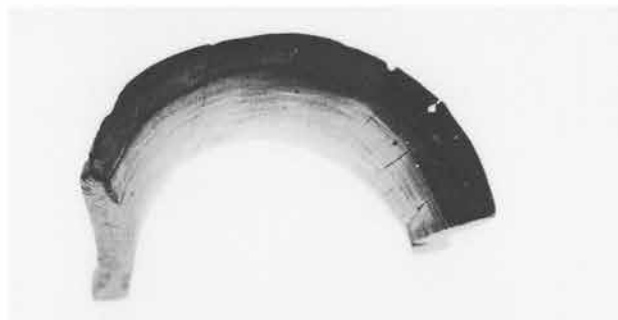


6



8

G区6号溝の遺物 (3 杭と材)



G区6号溝 (4 筒形木製品1/2)



10



35



31



38



30



1

H区20号溝出土遺物

H区36号溝勾玉 (1/1)



1



4



26



23



21



27



29



30



40



31



41



36

I区48号溝出土遺物 (1)



45



55



81



83



78



82



85



84



89

I区48号沟出土遗物 (2)



J区河川跡出土遺物 (1)



76



79



96



80



97



101



102



108



128



103



129



135



137



137



133



136



134



138



139



149



142



140



146



143



147



148

J区河川跡出土遺物 (3 木製品)



J区河川跡出土ヒョウタン



151



8



9



13

J区河川跡2号河道出土遺物



12



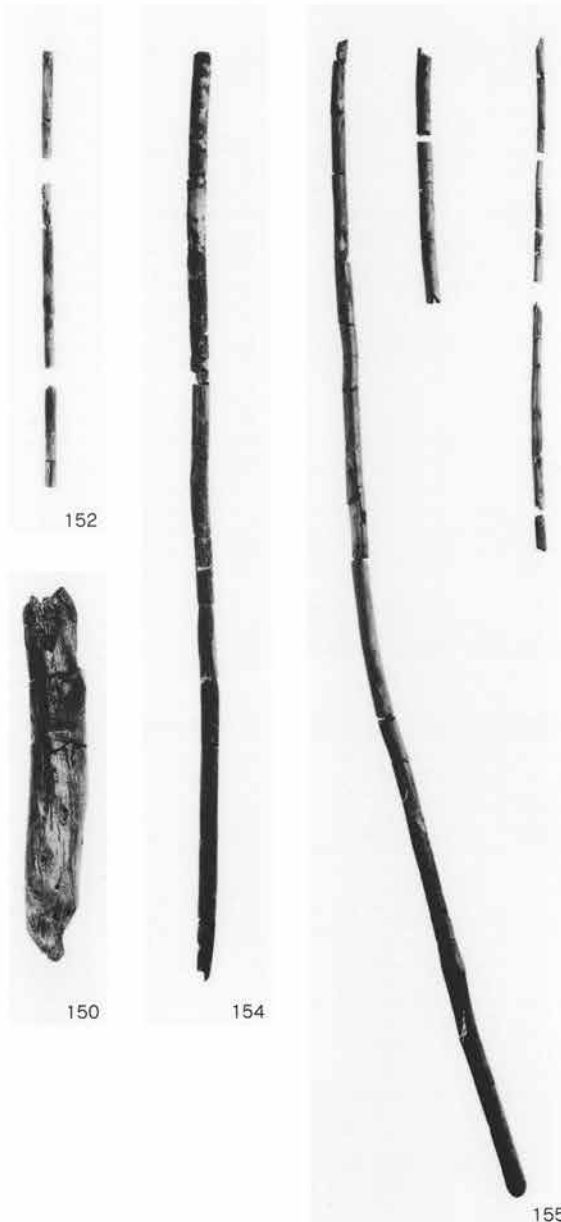
13

J区河川跡出土遺物



37

J区遺構外出土遺物



152

150

154

155

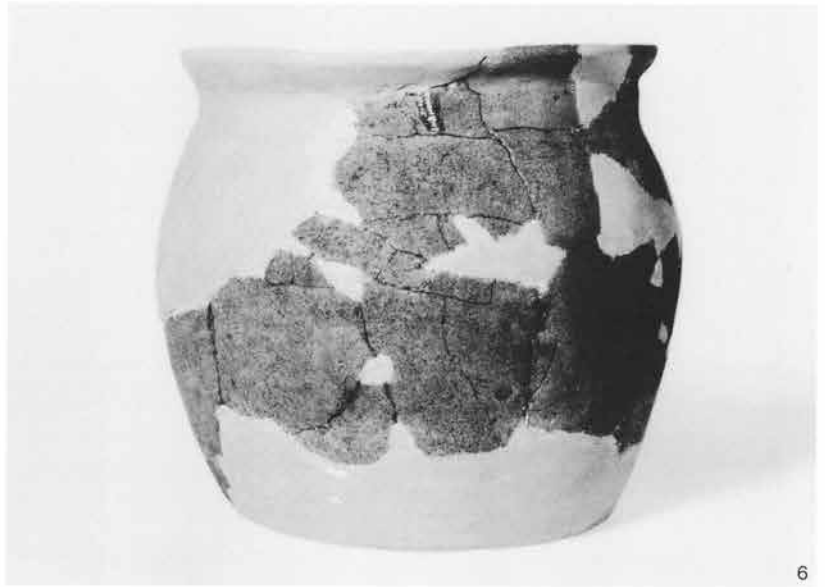
J区河川跡1号河道出土遺物（木製品）



2



1



6

H区1号住居跡出土遺物



1

H区11号住居跡出土遺物



1

I区6号住居跡出土遺物



3



1

I区2号住居跡出土遺物



1



2



15

J区32号住居跡出土遺物



4

J区2号住居跡出土遺物



4

J区3号住居跡出土遺物



15

J区8号住居跡出土遺物



7

J区7号住居跡出土遺物



4

J区20号住居跡出土遺物 (1)



2



5

J区20号住居跡出土遺物 (2)



2



4

J区21号住居跡出土遺物



2



7



2

J区24号住居跡出土遺物



5



4



3



1



6

J区22号住居跡出土遺物



2

3

J区25号住居跡出土遺物



7



8



4

J区29号住居跡出土遺物



14

J区32号住居跡出土遺物



4



5



7



11



1



2

J区35号住居跡出土遺物

J区36号住居跡出土遺物



1



3



4



5



6



7

J区37号住居跡出土遺物



2



3



6

J区38号住居跡出土遺物

J区40号住居跡出土遺物



1



2



3



4

I区1号塚出土遺物



1



2



3

I区1号竖穴出土遺物



1



2



3



4



5

H区34号土坑出土遺物



2

J区25号土坑出土遺物



1

J区11号土坑出土遺物



2



1



2

J区59号土坑出土遺物 (1)



3



J区59号土坑出土遺物 (2)



1



2

J区181号土坑出土遺物



1

J区41号土坑出土遺物



1

E区5号溝出土遺物



1



6



4

H区5号溝出土遺物



4

J区18号溝出土遺物



2



3



4



5



6



8

J区19溝出土遺物 (1)



10



11



12



13



14



15



24



16



17

J区19号溝出土遺物 (2)



15



16



17

I区遺構外出土遺物 (古代土器)



3



4



6

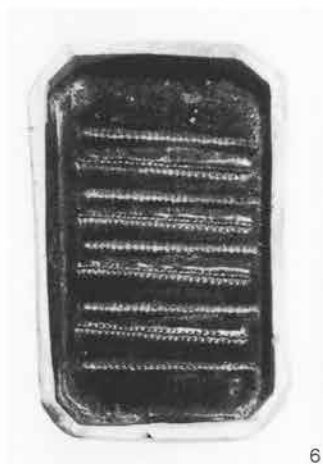
I区17号井戸出土遺物 (1 木製品)



5



7



6



5

E区1号溝出土遺物

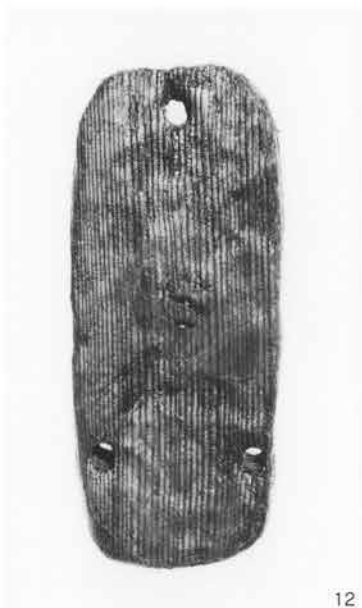


9

I区17号井戸出土遺物 (2 木製品)

G区2号溝出土遺物

J区5号溝出土遺物



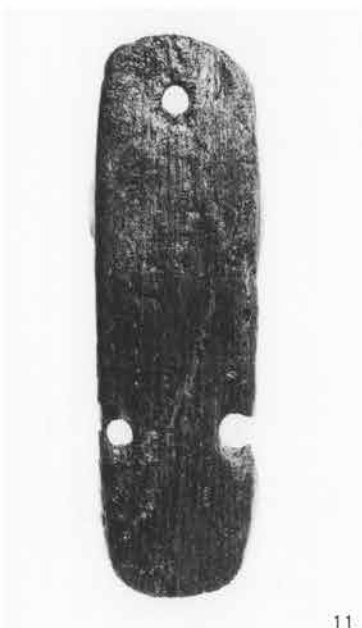
12



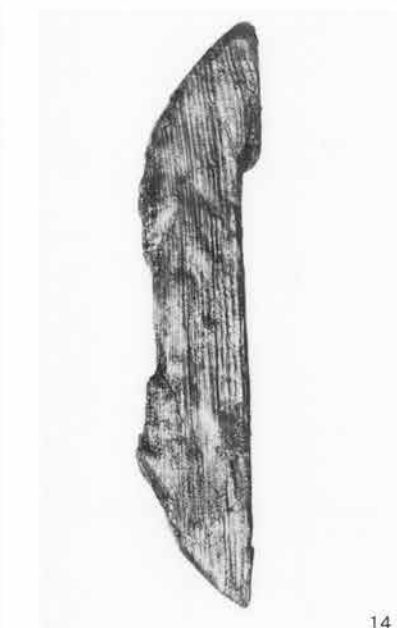
15



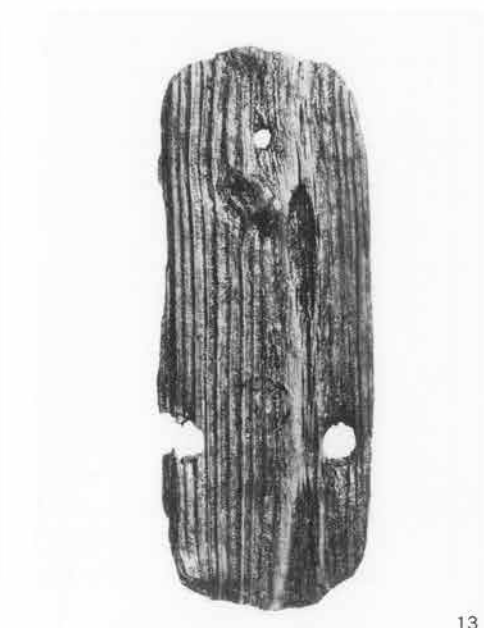
16



11



14



13

B区2号溝出土遺物 (木製品)

H区3号溝出土遺物 (木製品)

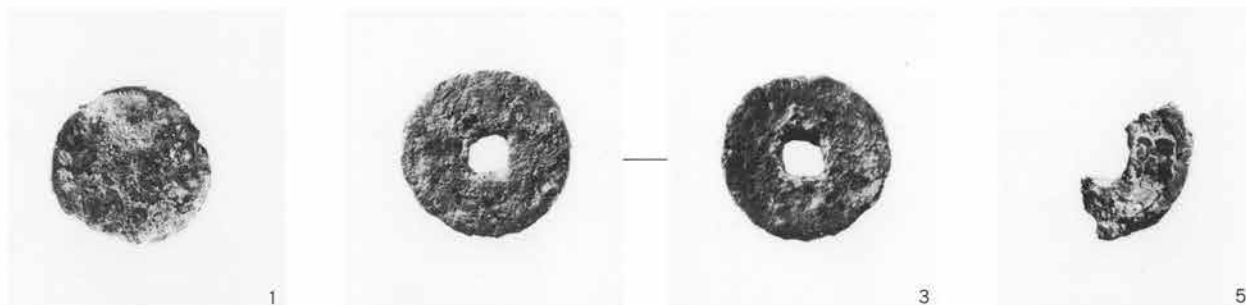


J区78号土坑出土遺物 (煙管)

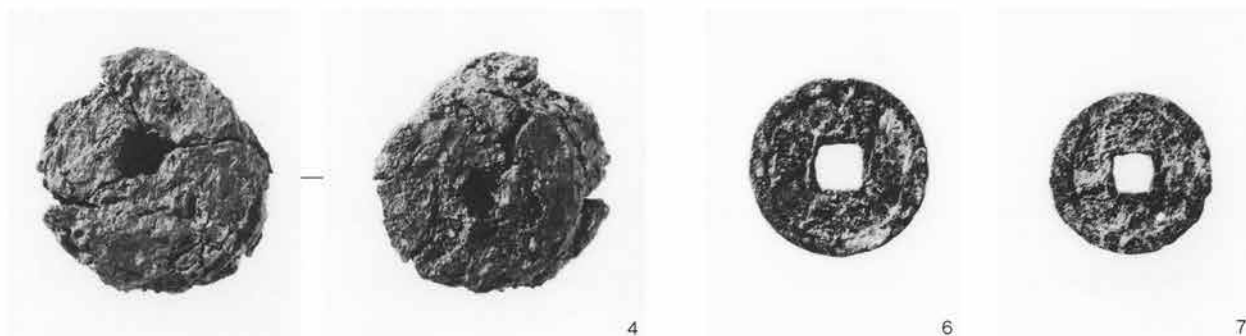


J区102号土坑出土遺物 (煙管)

J区101号土坑出土眼鏡



J区60号土坑出土錢貨



J区77号土坑出土錢貨

J区80号土坑出土錢貨 (1)



8



9



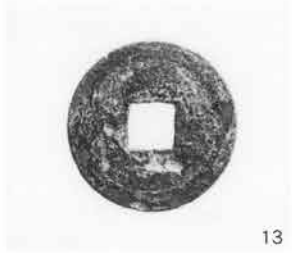
10



11



12



13



14



15



16



17

J区80号土坑出土钱货 (2)



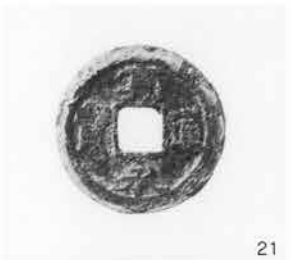
18



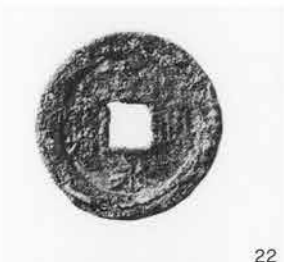
19



20



21



22



23



24



25



26



27



28

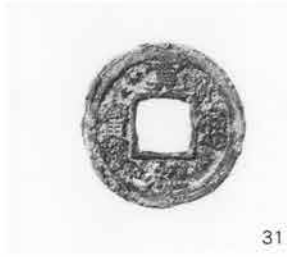


29

J区85号土坑出土钱货 (1)



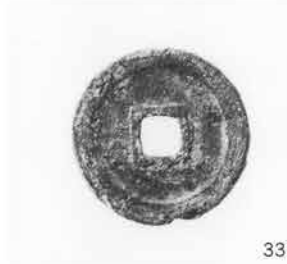
30



31



32



33



34



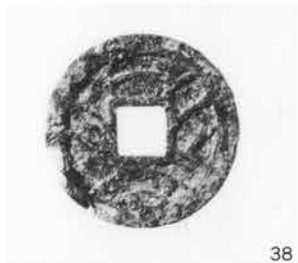
35



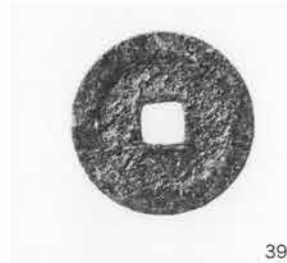
36



37



38



39



40



41

J区85号土坑出土錢貨 (2)



44



45



46



47

J区102号土坑出土錢貨 (1)



48



49



50

J区102号土坑出土钱货 (2)



51



52

J区150号土坑出土钱货



53



54



55



56



57



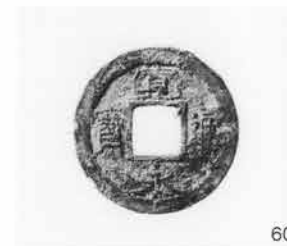
58



58



59



60



61



62



63



64

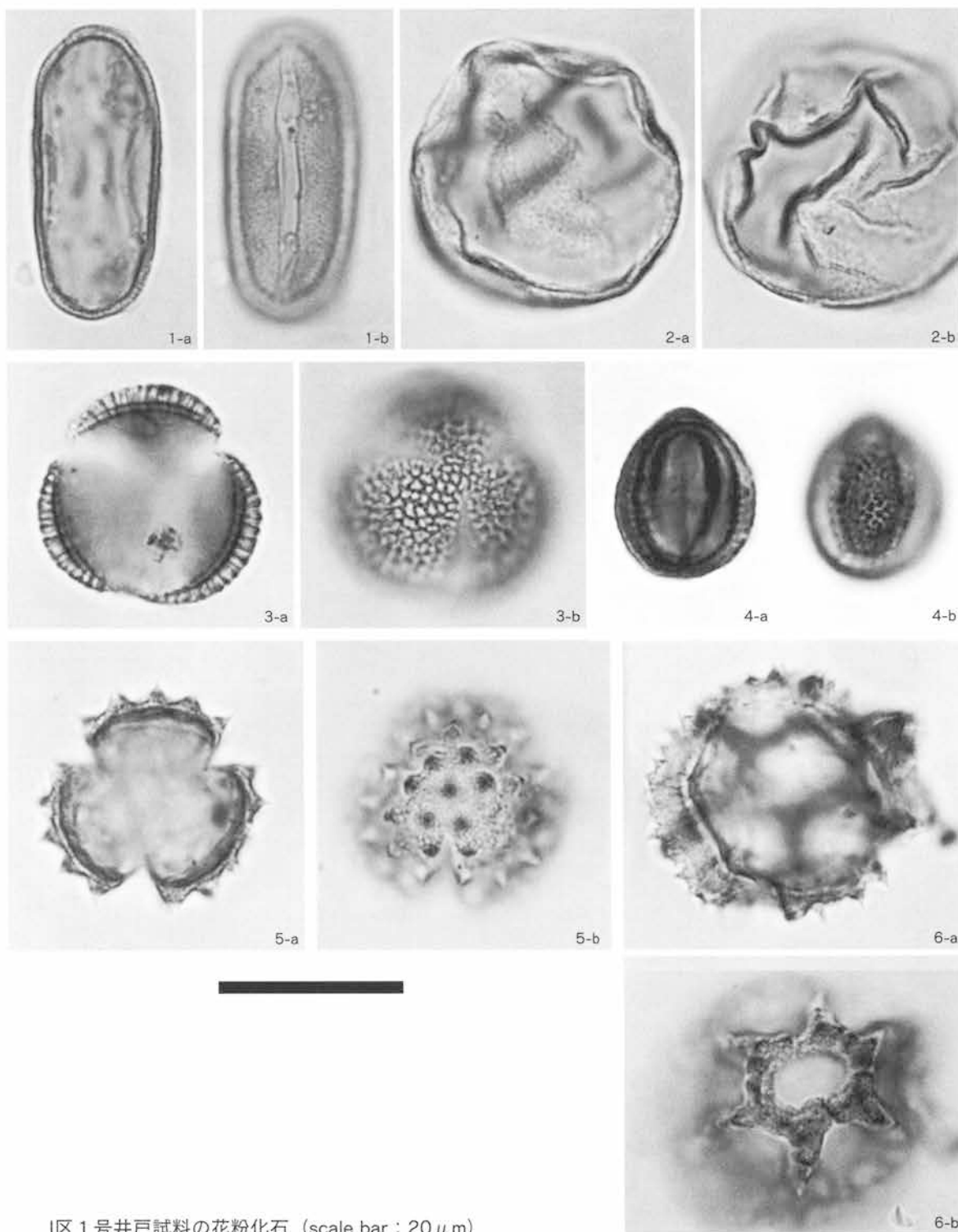


65



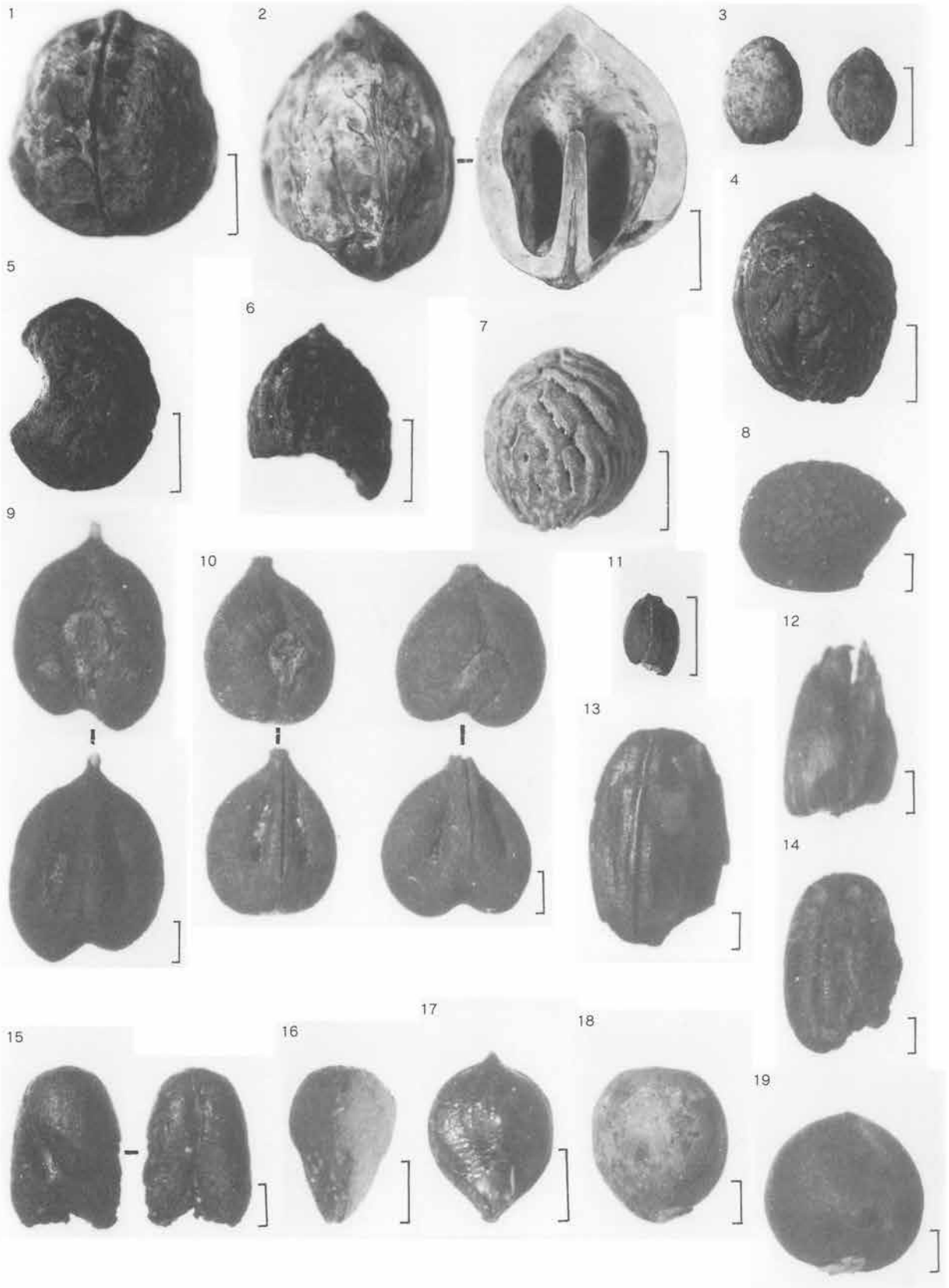
65

J区173·174号土坑出土钱货



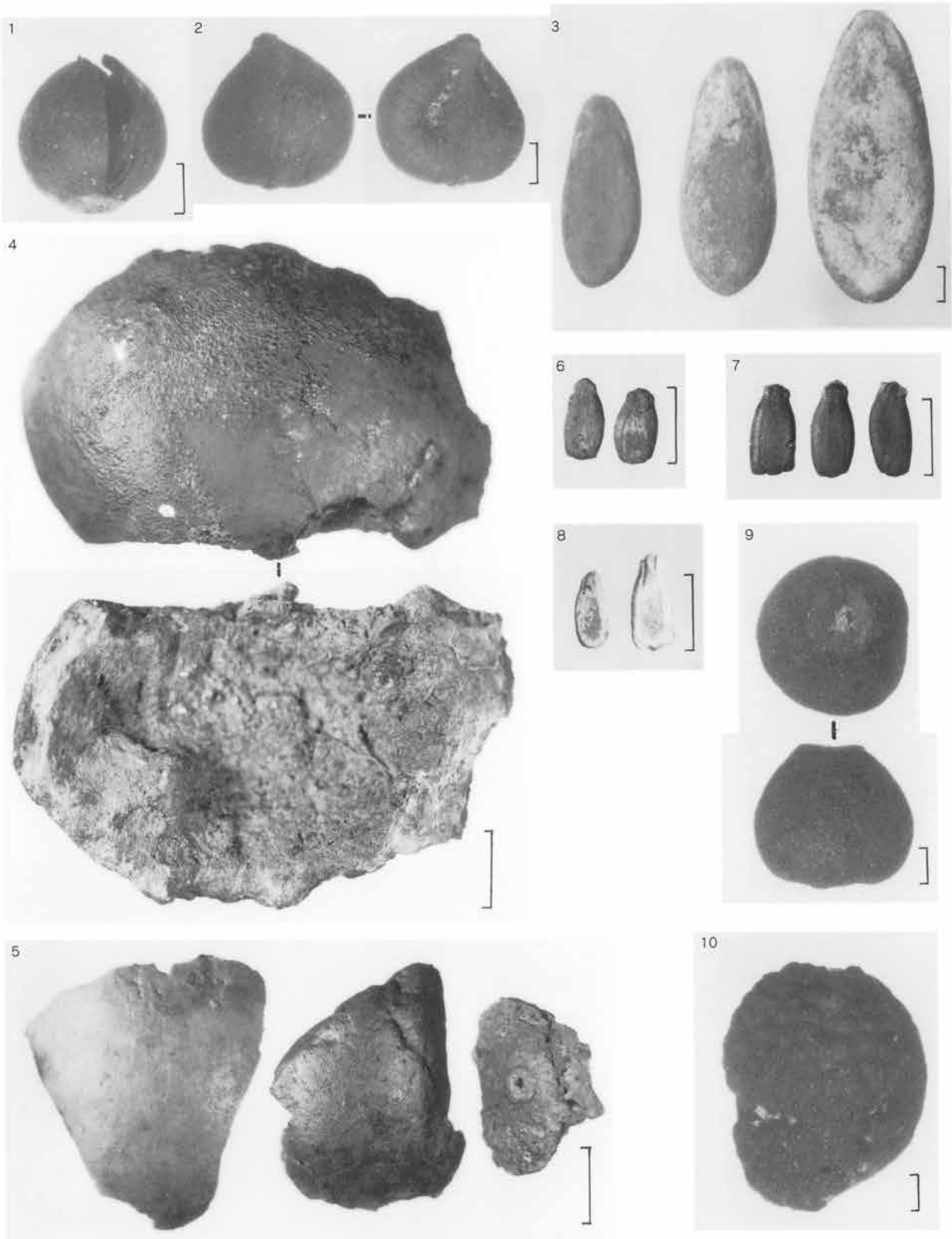
I区1号井戸試料の花粉化石 (scale bar : 20 μm)

- 1 : トチノキ属 PLC.SS 3240
- 2 : イネ科 PLC.SS 3243
- 3 : アブラナ科 PLC.SS 3242
- 4 : ヨモギ属 PLC.SS 3241
- 5 : ヨモギ属を除く他のキク亜科 PLC.SS 3244
- 6 : タンポポ亜科 PLC.SS 3239



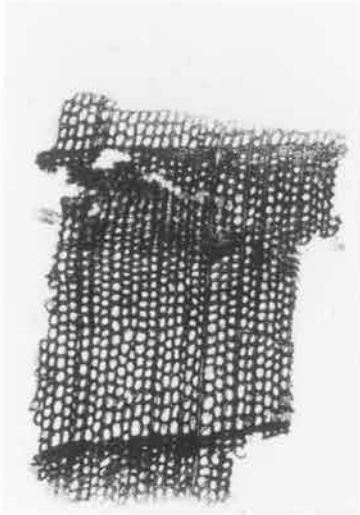
出土した大型植物化石（スケールは1～7、11が1cm、8～10、12～19が1mm）

1. オニグルミ、核、試料4 2. オニグルミ、核、試料27 3. スモモ、核、試料7
 4～6. モモ、核、試料9 7. モモ、核、試料26 8. サンショウ、種子、試料11
 9. ヤマブドウ、種子、試料24 10. ブドウ属、種子、試料11 11. エゴノキ、種子、試料7
 12. 不明、芽、試料11 13. イネ、炭化胚乳、試料12 14. イネ、炭化胚乳、試料11
 15. コムギ、炭化胚乳、試料11 16. ウキヤガラ、果実、試料11
 17. ホタルイ属、果実、試料11 18. アサ、種子、試料11 19. カナムグラ、種子、試料11



出土した大型植物化石（スケールは1～3、9、10が1mm、4～8が1cm）

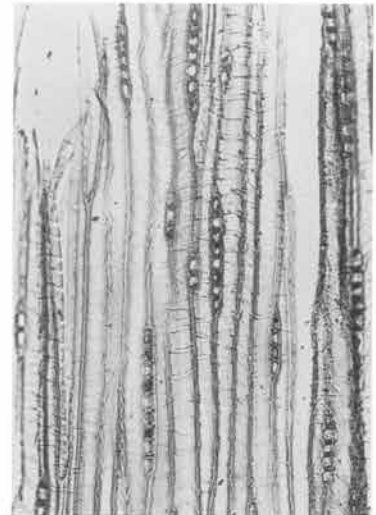
1. イシミカワ、果実、試料11 2. ノブドウ、種子、試料11 3. メロン仲間、種子、試料10
 4. ヒョウタン仲間、果実、試料1 5. ヒョウタン仲間、果実、試料5 6. ヒョウタン仲間、種子、試料2
 7. ヒョウタン仲間、果実、試料5 8. ヒョウタン仲間、種子、試料6 9. 虫えい、試料14
 10. 菌核、試料14



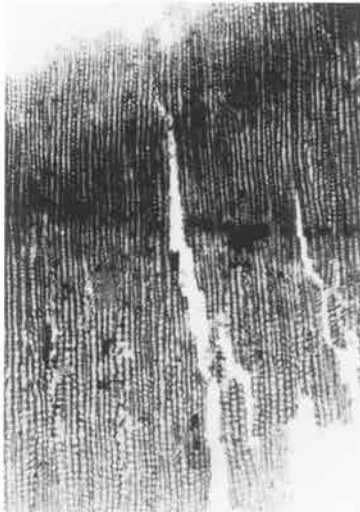
1a.カヤ(no.43) bar : 1mm



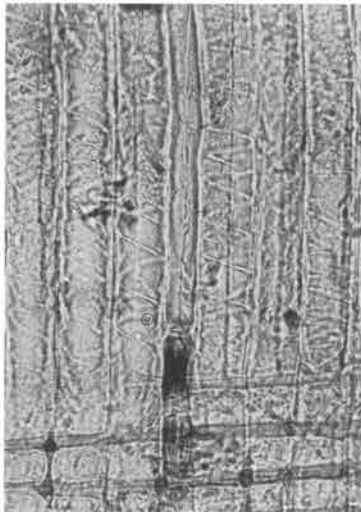
1b.同 bar : 0.1mm



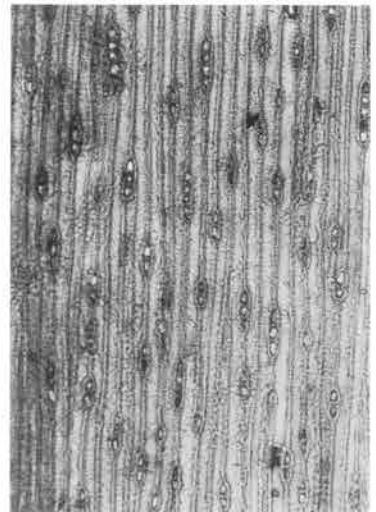
1c.同 bar : 0.4mm



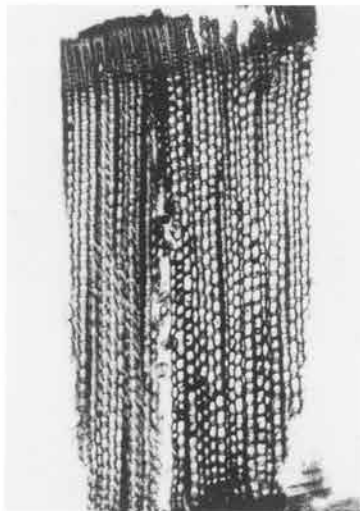
2a.イヌガヤ(no.1) bar : 1mm



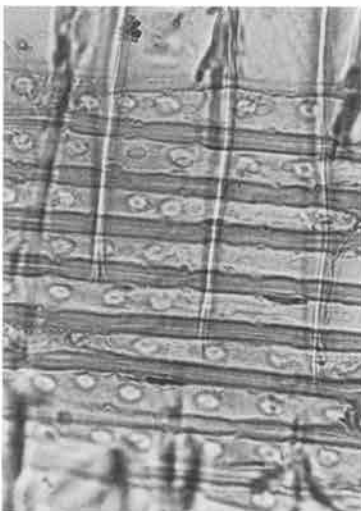
2b.同 bar : 0.1mm



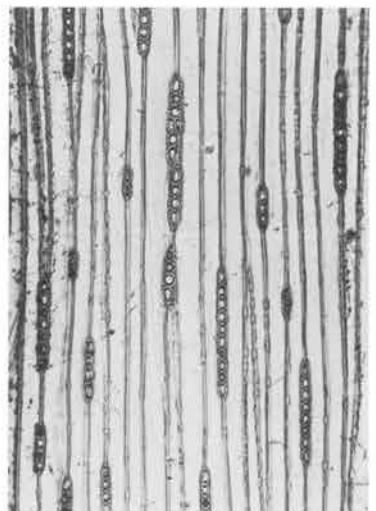
2c.同 bar : 0.4mm



3a.スギ(no.6) bar : 1mm

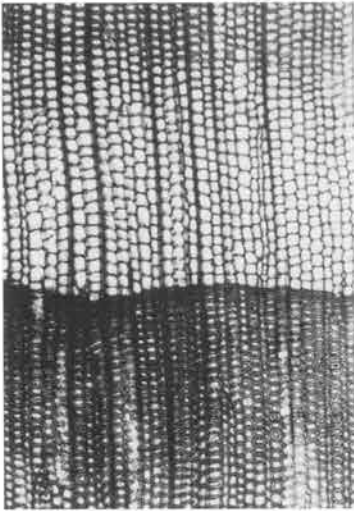


3b.同 bar : 0.1mm

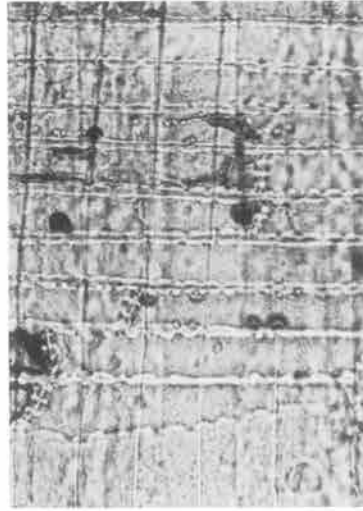


3c.同 bar : 0.4mm

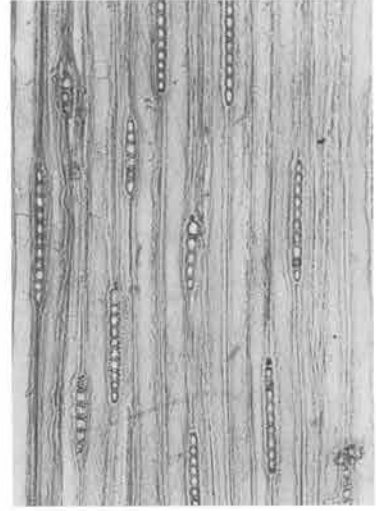
a : 横断面、b : 放射断面、c : 接線断面



4a.モミ属(no.117-1) bar : 1mm



4b.同 bar : 0.1mm



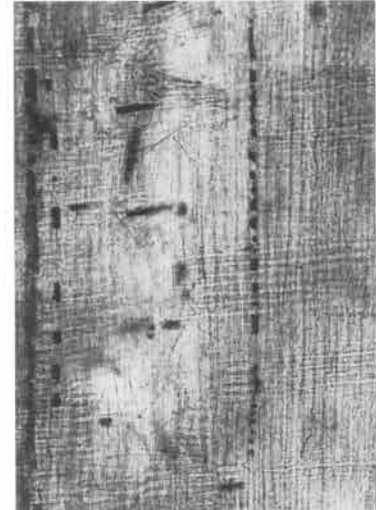
4c.同 bar : 0.4mm



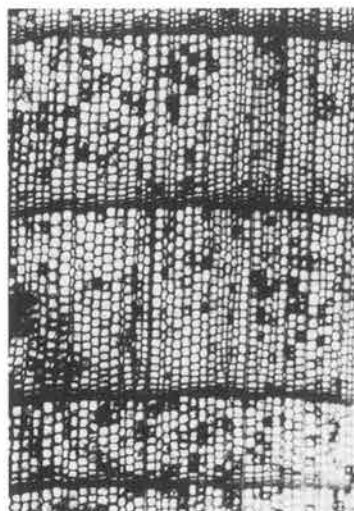
5a.ツガ属(no.7) bar : 1mm



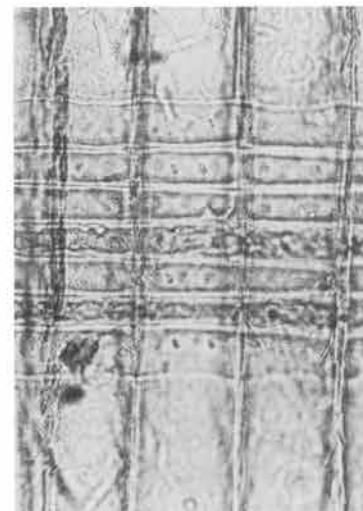
5b.同 bar : 0.1mm



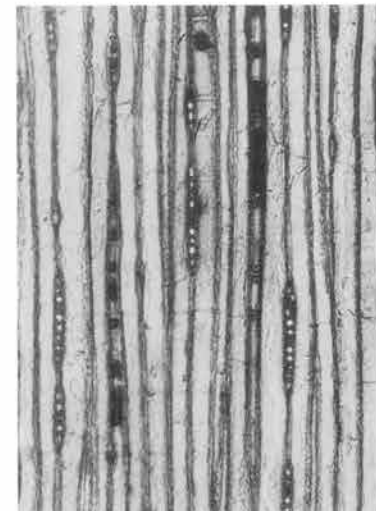
5c.同 bar : 0.4mm



6a.ヒノキ(no.196) bar : 1mm



6b.同 bar : 0.1mm

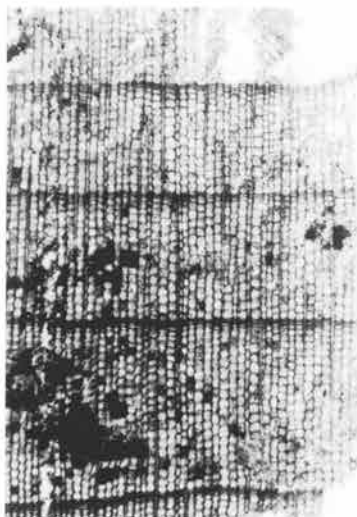


6c.同 bar : 0.4mm

a : 横断面、b : 放射断面、c : 接線断面

(*) ただし、ツガ属のプレパラートは放射断面を欠くため、5cには接線断面を掲げた。

出土材組織断面 (2)



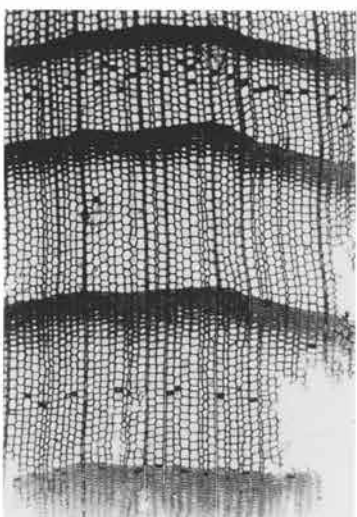
7a.サワラ (no.195) bar : 1mm



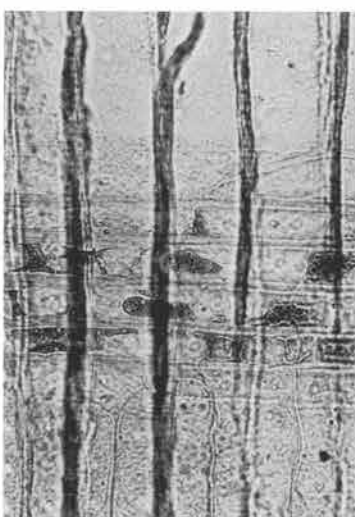
7b.同 bar : 0.1mm



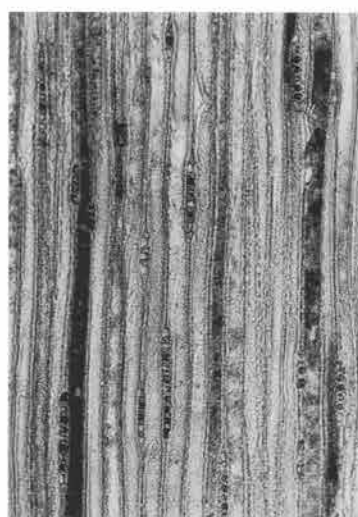
7c.同 bar : 0.4mm



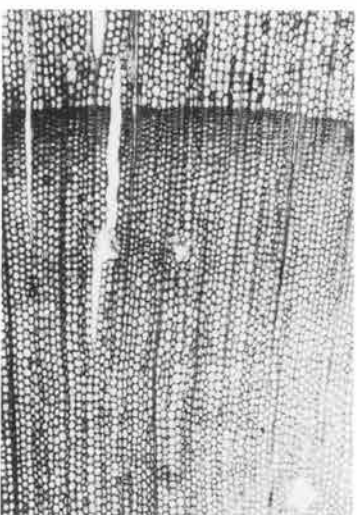
8a.アスナロ (no.150) bar : 1mm



8b.同 bar : 0.1mm



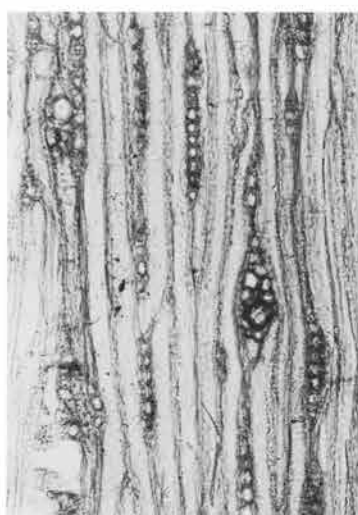
8c.同 bar : 0.4mm



9a.マツ属複維管束亜属 (no.116)
bar : 1mm



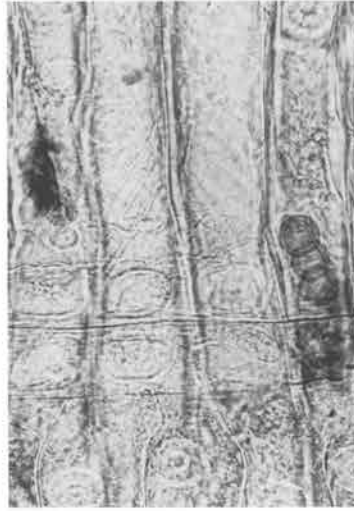
9b.同 bar : 0.1mm
a : 横断面、b : 放射断面、c : 接線断面



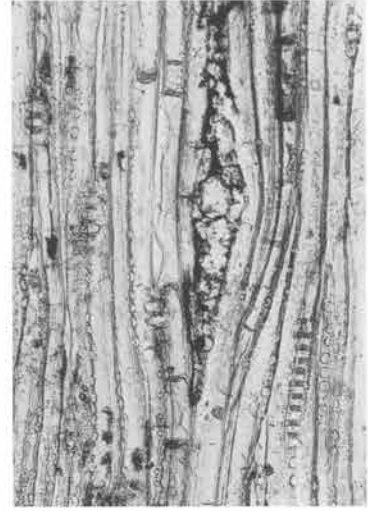
9c.同 bar : 0.4mm



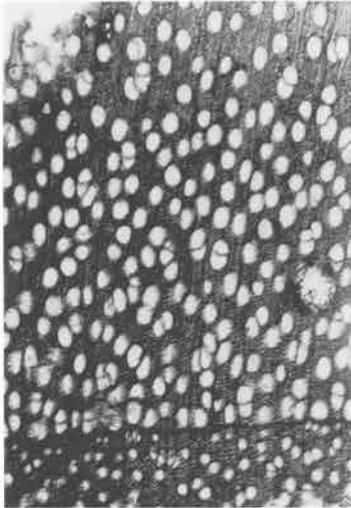
10a. マツ属単維管束亜属 (no.103)
bar : 1mm



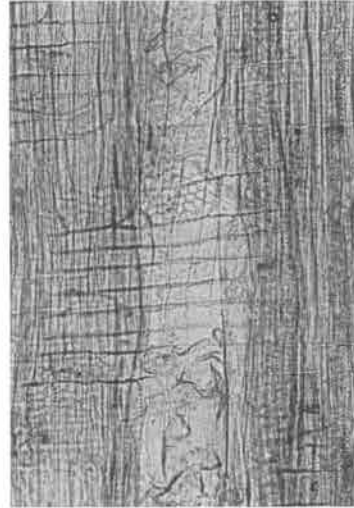
10b. 同 bar : 0.1mm



10c. 同 bar : 0.4mm



11a. ヤナギ属 (no.83) bar : 1mm



11b. 同 bar : 0.2mm



11c. 同 bar : 0.4mm



12a. カバノキ属 (no.11-1)
bar : 1mm



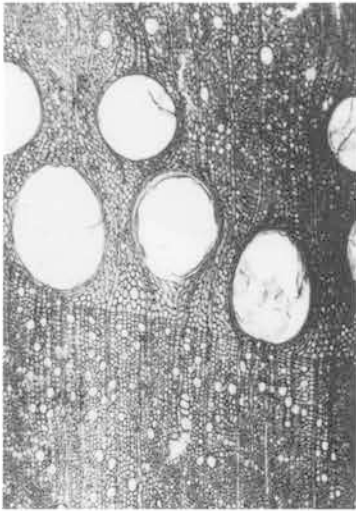
12b. 同 bar : 0.2mm



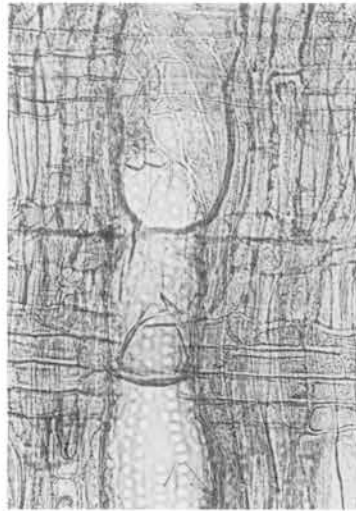
12c. 同 bar : 0.4mm

a : 横断面、b : 放射断面、c : 接線断面

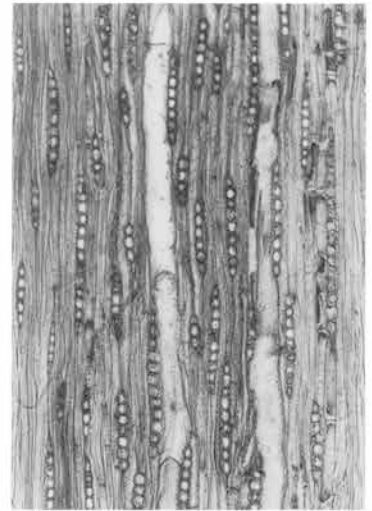
出土材組織断面 (4)



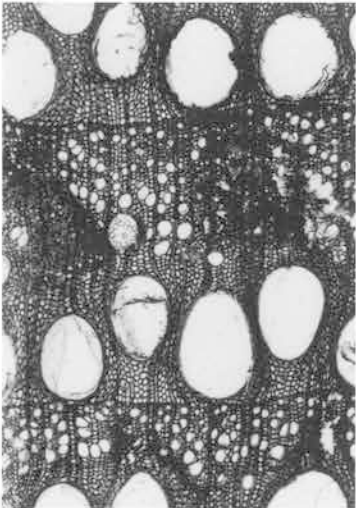
13a. クリ (no.133) bar : 1mm



13b. 同 bar : 0.2mm



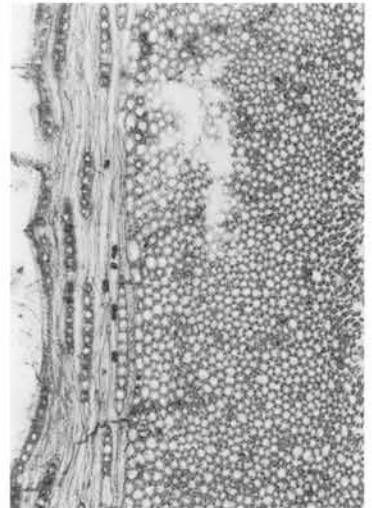
13c. 同 bar : 0.4mm



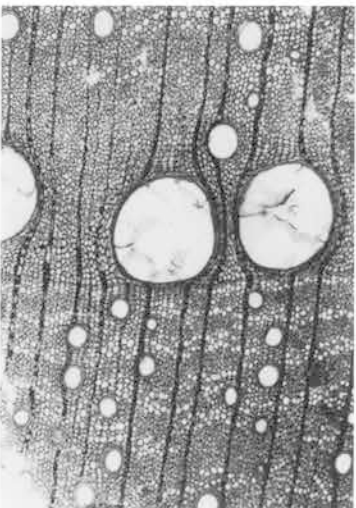
14a. コナラ節 (no.54) bar : 1mm



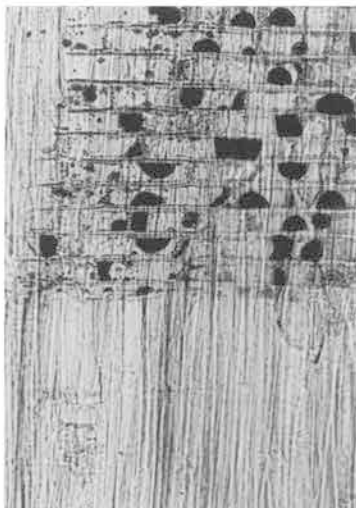
14b. 同 bar : 0.2mm



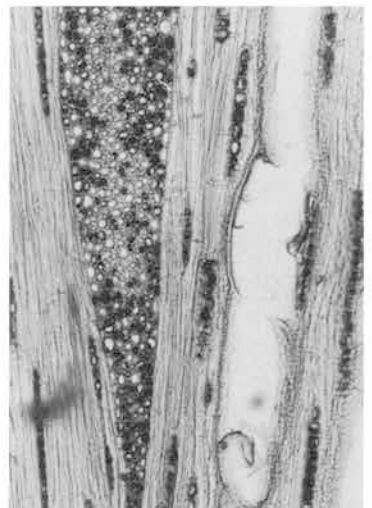
14c. 同 bar : 0.4mm



15a. クヌギ節 (no.183) bar : 1mm

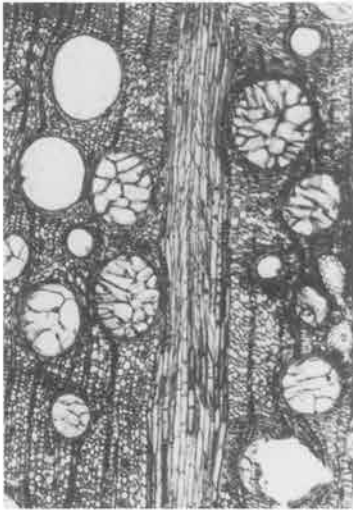


15b. 同 bar : 0.2mm



15c. 同 bar : 0.4mm

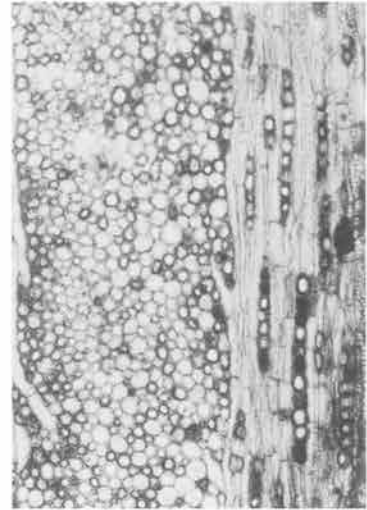
a : 横断面、b : 放射断面、c : 接線断面



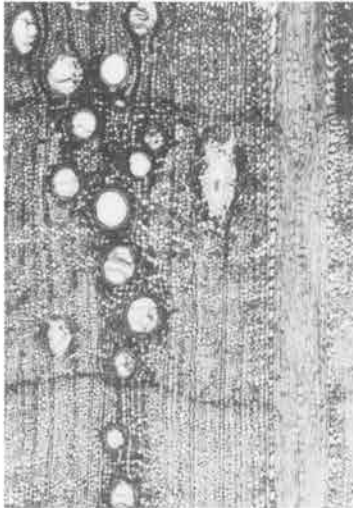
15a.クヌギ節《根材》(no.140)
bar : 1mm



15b.同 bar : 0.2mm



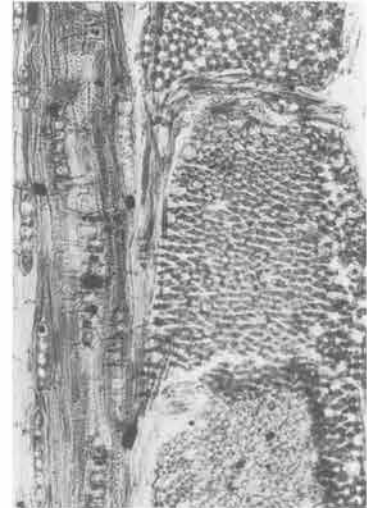
15c.同 bar : 0.4mm



16a.アカガシ垂属 (no.12)
bar : 1mm



16b.同 bar : 0.2mm



16c.同 bar : 0.4mm



17a.ムクノキ (no.30-2) bar : 1mm

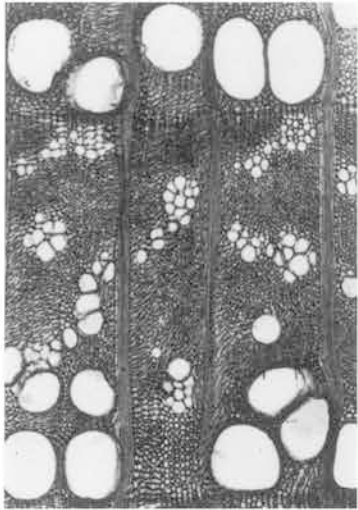


17b.同 bar : 0.2mm



17c.同 bar : 0.4mm

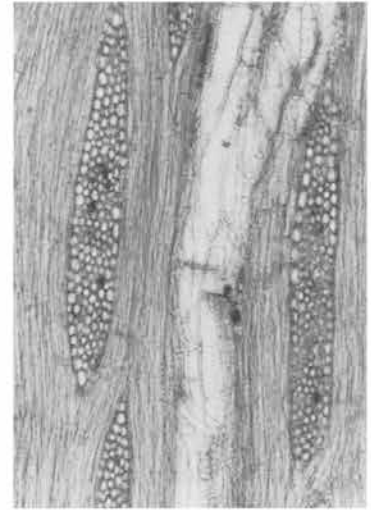
a : 横断面、b : 放射断面、c : 接線断面



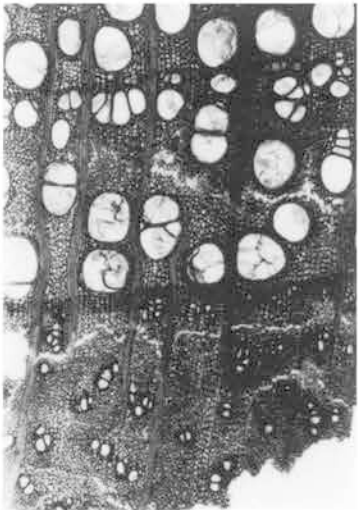
18a.エノキ属 (no.58) bar : 1mm



18b.同 bar : 0.2mm



18c.同 bar : 0.4mm



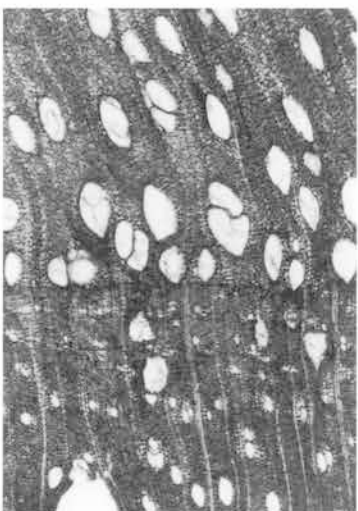
19a.ケヤキ (no.132) bar : 1mm



19b.同 bar : 0.2mm



19c.同 bar : 0.4mm



20a.ヤマグワ (no.95) bar : 1mm

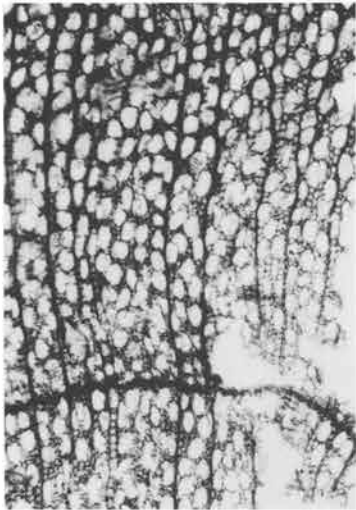


20b.同 bar : 0.2mm



20c.同 bar : 0.4mm

a : 横断面、b : 放射断面、c : 接線断面



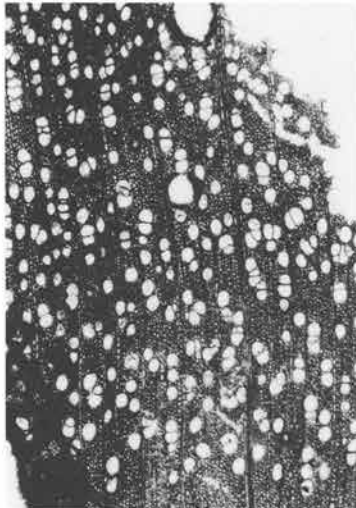
21a.カツラ (no.117-3) bar : 1mm



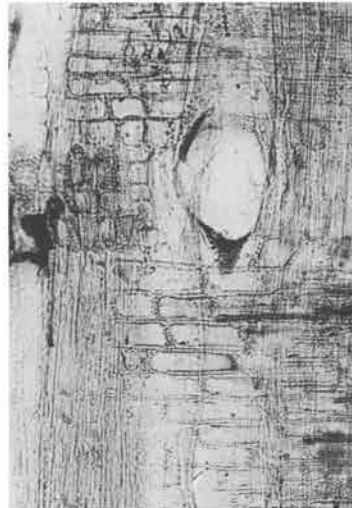
21b.同 bar : 0.2mm



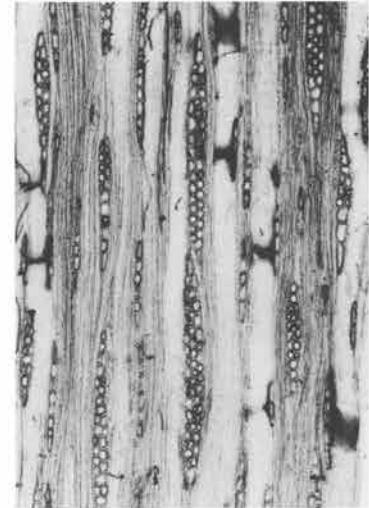
21c.同 bar : 0.4mm



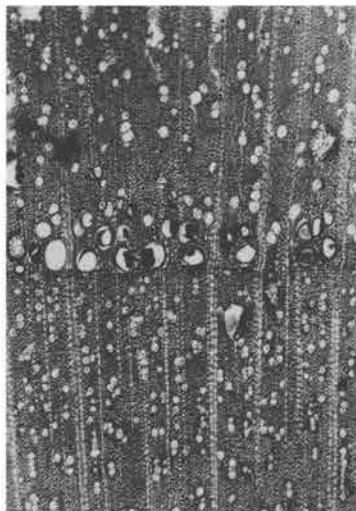
22a.サクラ属 (no.142) bar : 1mm



22b.同 bar : 0.2mm



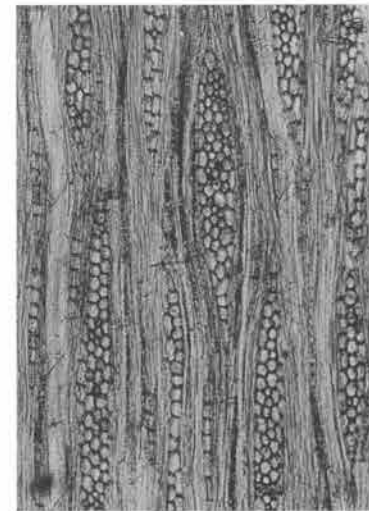
22c.同 bar : 0.4mm



23a.モモ (no.193) bar : 1mm

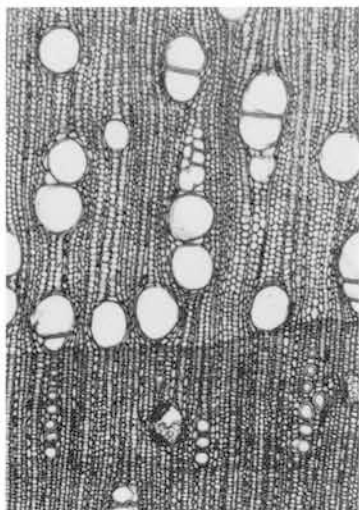


23b.同 bar : 0.2mm

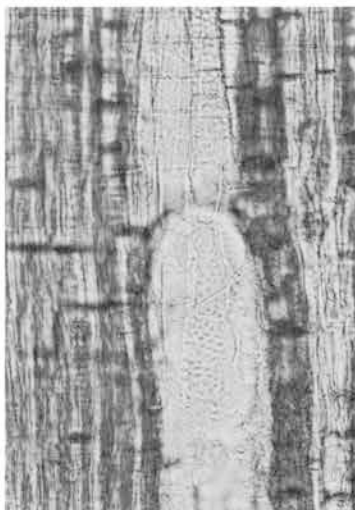


23c.同 bar : 0.4mm

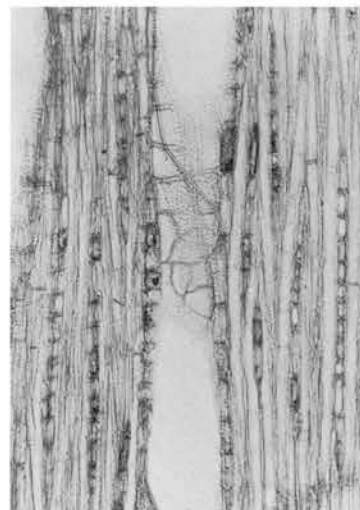
a : 横断面、b : 放射断面、c : 接線断面



24a.アカメガシワ (no.187)
bar : 1mm



24b.同 bar : 0.2mm



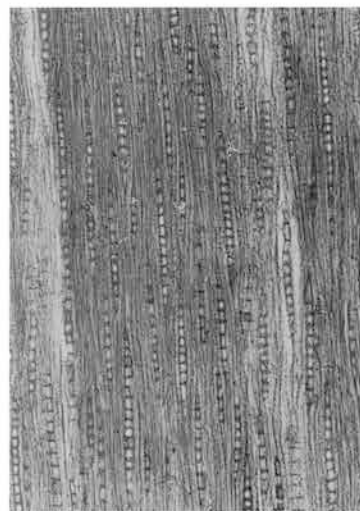
24c.同 bar : 0.4mm



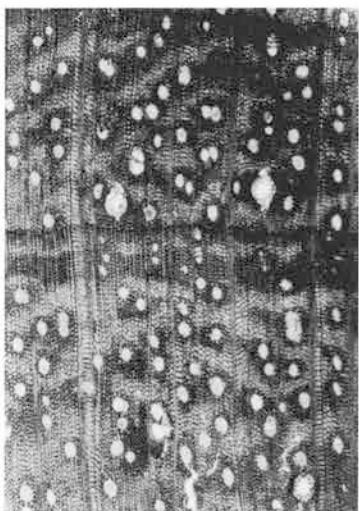
25a.コクサギ (no.131) bar : 1mm



25b.同 bar : 0.2mm



25c.同 bar : 0.4mm



26a.カエデ属 (no.134) bar : 1mm

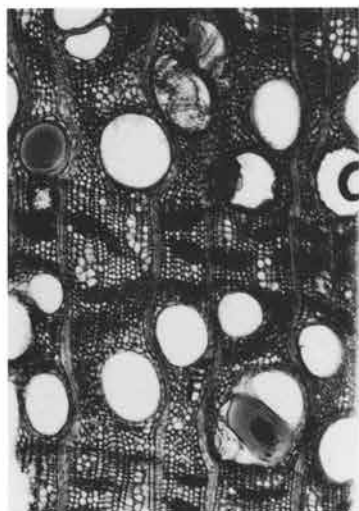


26b.同 bar : 0.2mm



26c.同 bar : 0.4mm

a : 横断面、b : 放射断面、c : 接線断面



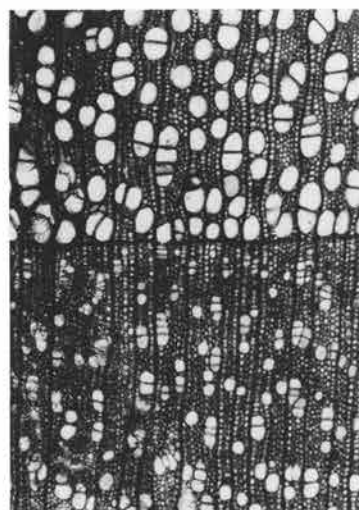
27a.ムクロジ (no.61) bar : 1mm



27b.同 bar : 0.2mm



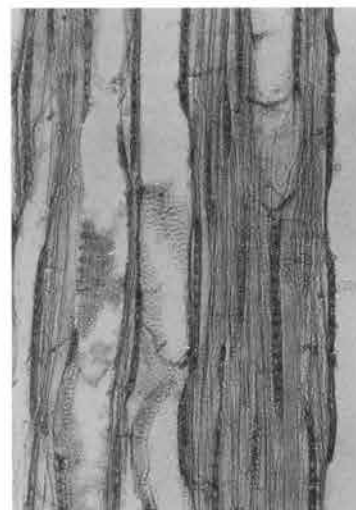
27c.同 bar : 0.4mm



28a.トチノキ (no.76) bar : 1mm



28b.同 bar : 0.2mm



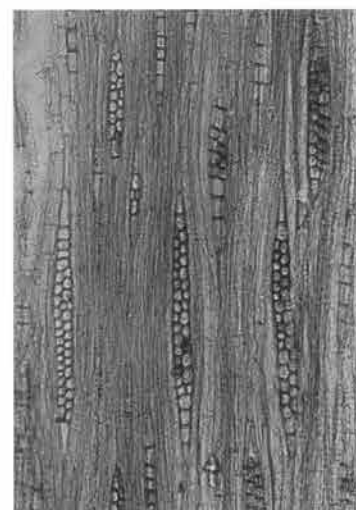
28c.同 bar : 0.4mm



29a.ケンボナシ属 (no.25)
bar : 1mm



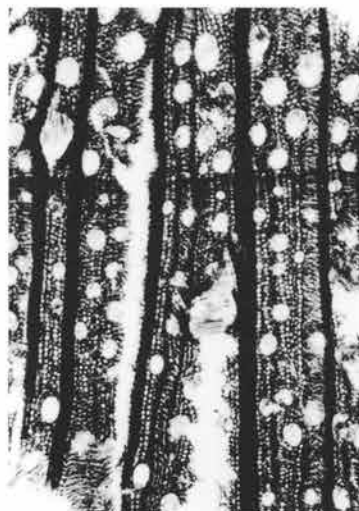
29b.同 bar : 0.2mm



29c.同 bar : 0.4mm

a : 横断面、b : 放射断面、c : 接線断面

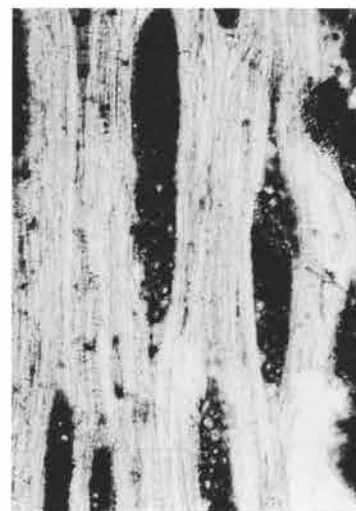
出土材組織断面 (10)



30a.クマノミズキ類 (no.48)
bar : 1mm



30b.同 bar : 0.2mm



30c.同 bar : 0.4mm

a : 横断面、b : 放射断面、c : 接線断面

出土材組織断面 (11)



重機による表土掘削作業



軽石を除去する水田検出作業



F区古代水田耕土下面の耕作痕



水田畦部分の精査



水田畦部分の精査



As-C除去によるB区河川跡の検出



重機と一体となった水田検出作業



発掘作業員の皆さん

報告書抄録

ふりがな	とくまるなかだいせきに
書名	徳丸仲田遺跡(2)
副書名	北関東自動車道(高崎-伊勢崎)地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第18集
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第311集
編著者名	大木紳一郎
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字784-2 TEL0279(52)2511
発行年月日	平成15年3月25日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とくまるなかだ 徳丸仲田	ぐんまけん 群馬県 まえはしし 前橋市 とくまるまち 徳丸町	10201	10005一 00467	36° 19' 59"	139 7' 9"	19970401～ 19981231	49,460m ²	北関東自動車道 建設工事に伴う 事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
徳丸仲田	遺物包含層など	縄文時代前～ 後期 弥生時代中～ 後期	陥穴状遺構1 溝5、河川跡2	縄文土器、石器 弥生土器	弥生時代中期後半の御 新田式
	集落跡	古墳時代前期 及び後期	住居跡19 掘立柱建物跡6 井戸、溝、柵 水田跡2面	土器、木製品、 玉類、ヒョウタ ン、魚形土製品 他	古墳時代前期の大規模 水路、堰・橋状遺構、掘 立柱建物跡の検出。
	生産跡	古代(7～11 世紀)	住居跡51 掘立柱建物跡6 井戸、溝、柱列 水田跡1面	土器、灰釉陶器 鉄器 他	
	城館 墓地	中～近世	環濠屋敷3 井戸、墓	陶磁器類、木製 品、石臼 他	現存する屋敷掘の外堀 とその初源的な姿を明 らかにした。

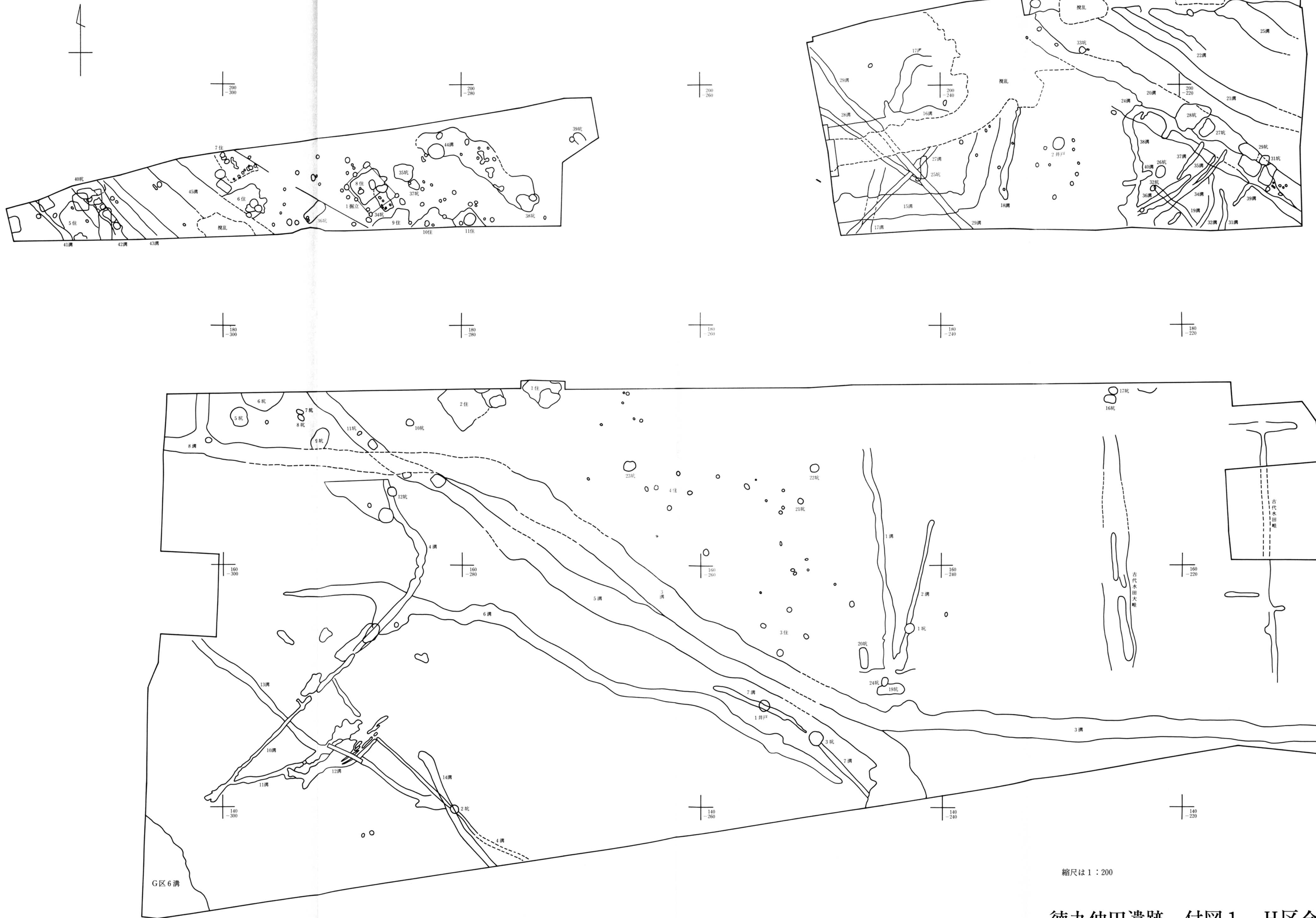


(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第311集

徳丸仲田遺跡(2) 北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域
埋蔵文化財発掘調査報告書第18集

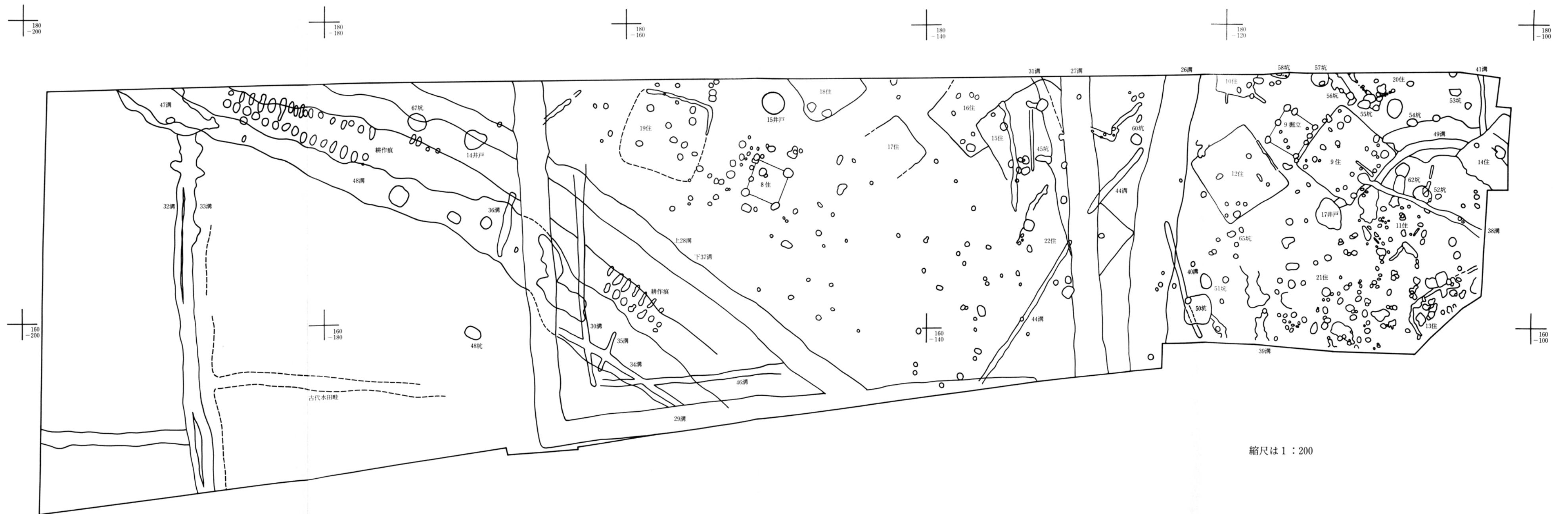
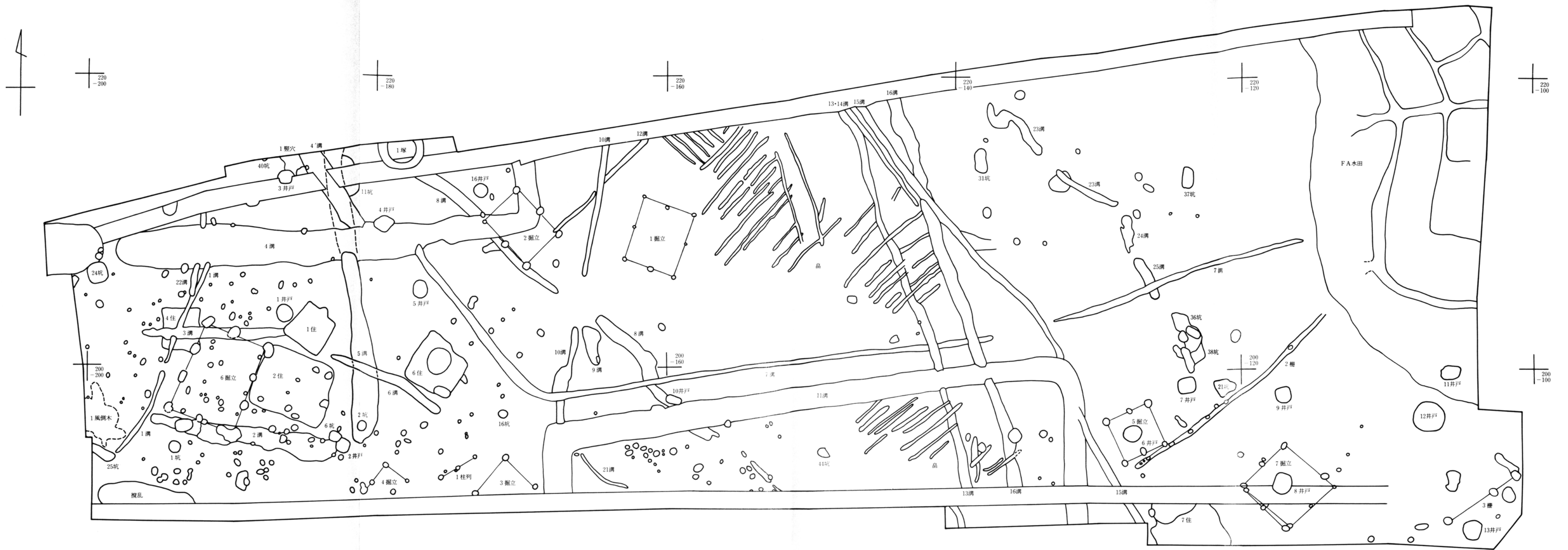
平成15年3月24日 印刷
平成15年3月25日 発行

編集／発行 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377-8555 勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話0279 (52) 2511 (代表)
印刷／上毎印刷工業株式会社



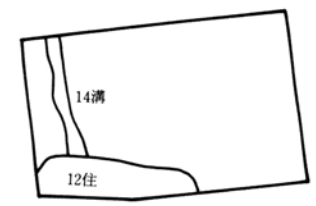
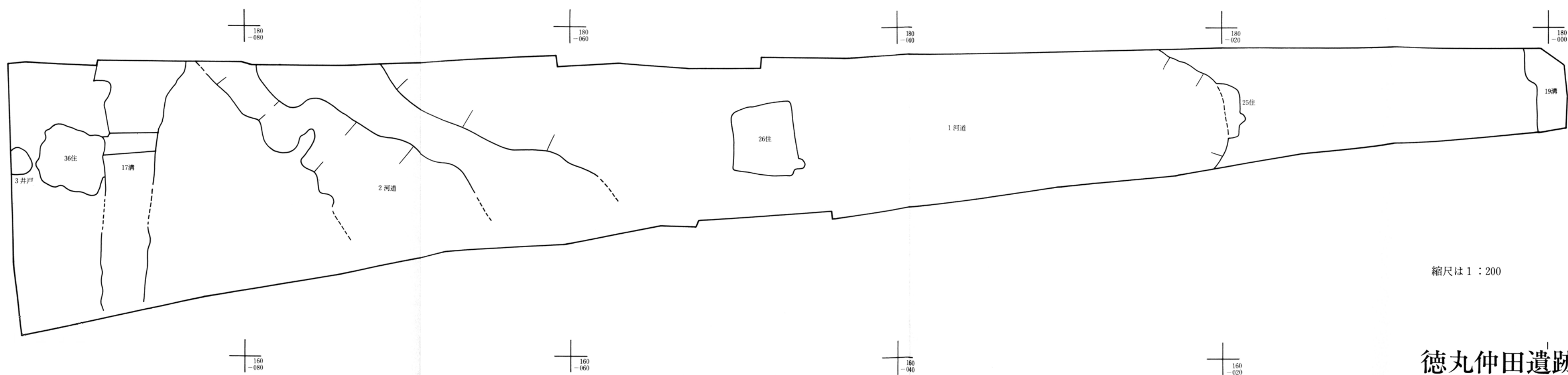
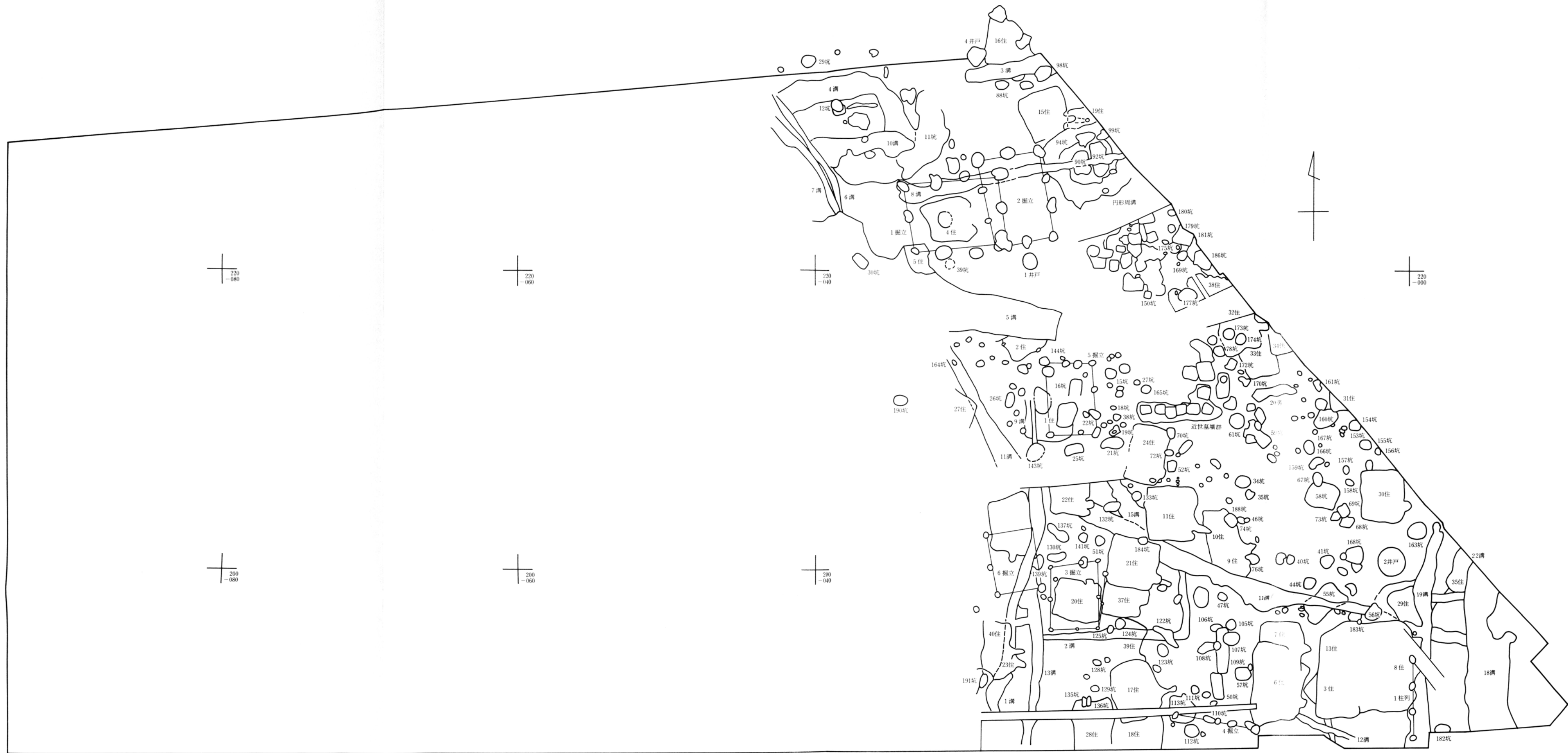
縮尺は 1 : 200

徳丸仲田遺跡 付図1 H区全体図



縮尺は 1 : 200

徳丸仲田遺跡 付図2 I区全体図



縮尺は 1 : 200